

平成31年度
市町村支援技術者養成事業委託事業
報告書

令和2年2月

一般社団法人 全国林業改良普及協会

目 次

事業のあらまし	1
I. 事業の目的	2
II. 事業の概要	2
1. 森林管理円滑化対策研修の実施	2
2. 技術力維持・向上対策研修(実践研修)の実施	2
3. 情報共有ネットワーク化の実施	2
III. 事業の年間スケジュール	3
1. 森林管理円滑化対策研修	4
2. 技術力維持・向上対策研修(実践研修)、情報共有ネットワーク化の実施	5
森林管理円滑化対策研修の実施	7
I. 森林管理円滑化研修の目的	8
II. 研修カリキュラムの構築	8
1. カリキュラム構築にあたっての考え方	8
2. カリキュラムと個別研修項目の内容	10
III. 研修の実施方法	14
1. 運営体制	14
2. 研修の事前打合せの実施概要	14
3. 事前視察を踏まえた研修日程の調整	14
4. 受講生への連絡	15
5. 事前課題の受取	15
IV. 研修実施結果	17
1. 研修の実施概要	17
V. 森林管理円滑化対策研修の実施状況	24
①北海道東北ブロック	25
②関東ブロック	31
③中部ブロック	37
④近畿ブロック	43
⑤中国ブロック	49
⑥四国ブロック	55
⑦九州ブロック	61
VI. アンケートからみる研修の成果	67
1. アンケート結果の概要	67
VII. 研修の実施における課題と改善点	73
1. カリキュラムの実施方法	73
森林管理円滑化対策研修・参考資料	75
1-1 森林管理円滑化対策研修アンケート調査票	76
1-2 森林管理円滑化対策研修ふりかえりシートの様式	78
1-3 各ブロックの評価アンケート調査票	81
1-4 ブロック事務局名簿	125

技術力維持・向上対策研修(実践研修)の実施	127
I. 研修の実施概要	128
1. 運営体制	128
2. 技術力維持・向上対策研修(実践研修)の実施概要	128
II. 各ブロックの研修実施状況	145
1. 北海道ブロック	146
2. 東北ブロック	151
3. 関東ブロック	156
4. 中部ブロック	161
5. 近畿中国ブロック	166
6. 四国ブロック	171
III. 主な意見と課題の整理及び総括	176
1. 外部講師の主な意見	176
2. アンケート結果の概要(ブロック別)	180
3. アンケート結果の概要(全体)	186
4. 運営改善報告書の概要	188
5. 実践研修の課題の整理	190
6. 総括	192
情報共有ネットワーク化の実施	195
I. サイトの開設状況	196
1. 市町村支援技術者養成事業ポータルサイト	196
2. 実践研修受講生向けサイト	197
3. 森林総合監理士PRサイト	199
4. 森林総合監理士ネットワークサイト	201
II. 総括	205
技術力維持・向上対策研修(実践研修)・参考資料	207
1-1 実践研修講師リスト(外部講師、林野庁講師)	208
1-2 実践研修修了者名簿	212
1-3 実践研修ふりかえりシートの様式例	215
1-4 実践研修アンケート調査票	217
1-5 実践研修タイムスケジュールの事例	219
2-1 安全管理マニュアル	222
2-2 本事業で使用している研修関係用語の説明	233
2-3 事務担当、事務局名簿(統括事務局、ブロック事務局)	235

事業のあらまし

事業のあらまし

I. 事業の目的

森林経営管理法の施行に伴う新たな森林管理システムの円滑な運営をはじめとした市町村による森林・林業行政の円滑な実施を図るため、市町村の森林・林業担当職員に対し適切な指導・助言等の支援ができる都道府県等の技術者の養成・確保が目的である。

II. 事業の概要

市町村に対し適切な指導・助言等の支援ができる都道府県等の技術者を養成・確保するため、新たな森林管理システムに対応した研修カリキュラムの検討及び技術者養成のための研修の運営並びに技術者(森林総合監理士等を含む)の技術力の維持・向上を図るための実践的な継続教育の実施等を行った。

1. 森林管理円滑化対策研修の実施

市町村が森林経営管理制度を実施していく際に、適切な指導・助言等ができる都道府県等の技術者を養成することを目的として、市町村による森林経営管理制度の着実な運営を支援できる都道府県等の人材を育成するためのカリキュラムの作成、ブロック単位で座学及び民有林フィールドを活用した現地検討等により研修を実施し、実施結果を踏まえ、運営方法を改善するための課題の整理を行った。

課題については、受講生アンケートを実施するとともに、事務局の運営改善報告等から抽出して整理した。

2. 技術力維持・向上対策研修(実践研修)の実施

市町村への指導・助言の役割を担うべき森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的として、各森林管理局が企画したテーマに沿ったカリキュラム、日程等に基づき、全国6ブロックにおいて技術力維持・向上対策研修(実践研修)を実施し、実施結果を踏まえたテーマの設定、運営方法等の改善点及び課題の整理を行った。

課題については、受講生アンケートを実施するとともに、外部講師の助言、事務局の運営改善報告等から抽出して整理した。

3. 情報共有ネットワーク化の実施

新たな森林管理システムを運営していく上での課題への対応や先進的な地域活動を支援するため、森林総合監理士等相互間の情報共有や連携のためホームページを運営し、森林総合監理士を広く一般にPRするための一般向けのサイトと、森林総合監理士相互間の情報提供に供するようにパスワード等を設定した森林総合監理士のみサイトの運営等による森林総合監理士等のネットワーク構築を行った。

Ⅲ. 事業の年間スケジュール

次頁図のとおりである。

Ⅲ. 事業の年間スケジュール

1. 森林管理円滑化対策研修

月	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月	1月	2月																				
	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週																							
事業の内容	3~7	10~14	17~21	24~28	1~5	8~12	15~19	22~26	29~8/2	5~9	12~16	19~23	26~30	2~6	9~13	16~20	23~27	30~10/4	7~11	14~18	21~25	28~11/1	4~8	11~15	18~22	25~29													
					祝:15				祝:12						祝:16	祝:23	祝:25	祝:16	祝:22	祝:14	祝:18		祝:4																
北海道・東北ブロック																																							
関東ブロック																																							
中部ブロック																																							
近畿ブロック																																							
中国ブロック																																							
四国ブロック																																							
九州ブロック																																							
その他																																							

研修準備期間

受講者照会
・受講生や関係者への連絡及び調整
・受講生への課題・依頼
・受講生への課題・依頼
・研修の準備
・研修の実施・報告・アレケー・集計等、研修の課題抽出

講師照会、依頼

研修の課題等の整理

事業報告書作成

森林管理円滑化対策研修
 ←→ 本研修
 ▲ 事前打合せ

2. 技術力維持・向上対策研修(実践研修)、情報共有ネットワーク化の実施

月	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月	1月	2月			
	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週				
事業の内容	3~7	10~14	17~21	24~28	1~5	8~12	15~19	22~26	29~8/2	5~9	12~16	19~23	26~30	2~6	9~13	16~20	23~27	30~10/4	7~11	14~18	21~25	28~11/1	4~8	11~15	18~22	25~29				
技術力維持・向上対策研修(実践研修)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">実践研修の実施に係る担当者会議</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 10px;">10~11</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 10px;">23</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 10px;">24</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 10px;">9</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 10px;">18~20</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 10px;">2~4</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 10px;">16~18</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 10px;">16~18</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 10px;">29~31</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 10px;">13~15</div>																													
研修準備期間	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">研修準備期間</div>																													
受講者照会	<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; display: inline-block;">受講者照会</div>																													
講師照会、依頼	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; display: inline-block;">講師照会、依頼</div>																													
実践研修外講師へ要請照会	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">実践研修外講師へ要請照会</div>																													
研修の課題等の整理、事業報告書作成	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">研修の課題等の整理、事業報告書作成</div>																													
森林総合監理士PRサイト、森林総合監理士ネットワークサイト	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">森林総合監理士PRサイト、森林総合監理士ネットワークサイト</div>																													
森林総合監理士等技術者活動支援事業ポータルサイト、受講生サイト	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">森林総合監理士等技術者活動支援事業ポータルサイト、受講生サイト</div>																													
森林総合監理士のサイト開設	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">森林総合監理士のサイト開設</div>																													
情報共有ネットワーク化の実施	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">情報共有ネットワーク化の実施</div>																													

森林管理円滑化対策研修の実施

森林管理円滑化研修の実施

I. 森林管理円滑化研修の目的

本研修は平成 31 年度に新たに創設された「市町村支援技術者養成事業委託事業」において行われる研修事業のうちのひとつである。事業の目的は、事業の応募要領において、「森林経営管理法の施行に伴う新たな森林管理システムの円滑な運営をはじめとした市町村による森林・林業行政の円滑な実施を図るため、市町村の森林・林業担当職員に対し適切な指導・助言等の支援ができる都道府県等の技術者の養成・確保を目的とした人材育成事業です。」とされている。このため、「森林管理円滑化研修」の目的は、新たな森林経営管理制度の円滑な実施のため、本制度の実施主体である市町村の職員に対する支援ができる都道府県職員等の人材育成を行うことである。

II. 研修カリキュラムの構築

1. カリキュラム構築にあたっての考え方

ア 基本的な考え方

本研修は平成 31 年 4 月に施行された「森林経営管理法」に基づく森林経営管理制度の円滑な導入と運用を図るため、市町村の森林・林業担当者に対し適切な指導・助言等ができる都道府県等の技術者育成を目的として実施されるものであった。

しかしながら、新たな制度は導入されたばかりであり、多くの事例を有する既存の制度とは異なることから、蓄積された運用のノウハウ等を学べる状況にないため、本研修では新たな制度の導入にあたって、適切な運用方法を検討し、市町村に対して指導・助言等ができるよう、特に応用力を養うことを主たる目的としてカリキュラムの作成を行った。

イ 研修内容の検討

新たな森林経営管理制度の導入・運営を円滑に進めるために、上記の基本的な考え方も念頭に、研修においてどのような内容を理解させることが効果的かの検討を行った。

研修全体の流れとしては、まず、基本的なものとして、①森林経営管理制度そのものに係る理解をさらに深めること、その上で、②現状における他の都道府県や市町村の取組に対する理解を通じて、研修生自身の今後の対応にあたっての応用力の強化を図ることとした。

さらに制度における個別の手続きに関連して必要との観点から、③市町村が森林の再委託を行う民間事業者の選定などのための優れた民間事業者についての理解の促進と、④「経営管理権集積計画」の模擬的作成を通じた仕組みの理解と疑問点の解消、⑤市町村が行う「市町村森林経営管理事業」における適切な森林施業に対する理解の促進を図ることとした。④については発表、質問、意見交換などの手法に応用力を養うこととした。

そして、研修生が市町村に対して効果的な支援・指導を行えるとの観点から、⑥制度の実施主体である市町村の制度に対する考え方や抱える課題に対する理解の促進を図ることとした。個々の詳細については以下のとおりである。

①森林経営管理制度そのものに係る理解の促進

新たな森林経営管理制度については、これまで林野庁が各都道府県において制度に関する説明会を開催していることや林野庁が「森林経営管理制度に係る事務の手引」を作成していることから、研修生は制度の概要については一定の理解をしていると思われたが、この制度が生まれた背景や制度の目的を十分理解することで市町村支援にあたって応用の幅を広げること、制度全体や市町村が作成する「経営管理権集積計画」の仕組や作成手順などについて、これまでの理解の中で生まれた疑問の解消を図ることのため、研修項目「森林経営管理制度の概要と現状」及び「経営管理権集積計画の作成」を行う。

②研修生の他の都道府県や市町村の取組に対する理解と今後の自らの対応における応用力の強化

研修生の属する都道府県やその域内の市町村における森林経営管理制度の取組について、研修生が相互に発表・紹介を行い、それに対して質問や意見交換を行うことで、他都道府県等の取組の詳細や背景、課題についての理解を促すとともに、これらを通じて研修生が自らの地域への応用を考えることなどにより、今後の市町村支援における応用力を養うため、研修項目「都道府県における制度取組の現状と課題」を行う。

③市町村が森林の再委託を行う民間事業者の選定などのための優れた民間事業者についての理解の促進

森林経営管理制度では、市町村は森林所有者から管理経営の委託を受けた森林のうち、林業経営に直した森林については民間事業者に再委託をすることができるが、この民間事業者について、法律（第36条第2項）では、市町村が経営管理を再委託できる民間事業者、すなわち経営管理実施権の設定を受けることができる民間事業者は、①経営管理を効率的かつ安定的に行う能力を有すると認められること、②経営管理を確実にを行うに足りる経理的な基礎を有すると認められることの2つの要件に適合するものとされている。

また、その基準については「森林経営管理法の運用について」（長官通知平成30年12月21日付け）において「法36条第2項に規定する要件に適合するか否かを判断する項目とその基準の考え方」に示されている。

このような基準を満たす優良な民間事業者の経営や事業実行に対する考え方を知り、その考え方の下で行われている現場の状況を視察し、その特徴を把握させるため、研修項目「制度運用のための優良民間事業者との意見交換」を行う。

④「経営管理権集積計画」の模擬的作成を通じた仕組みの理解と疑問点の解消

「経営管理権集積計画」とは、森林所有者が行うべき経営管理を市町村が所有者に代わって行うことが必要かつ適当と認める場合に森林の経営管理を行う権利を市町村が取得するために定める計画である。

「経営管理権集積計画」の模擬的作成を事前課題として研修生に課し、計画作成プロセスの体験を通じて疑問点等を明らかにし、研修においてこれらの疑問点を解消することなどにより、計画の仕組みや作成手順の理解を促進させるため、研修項目「経営管理権集積計画演習」を行う。

⑤市町村が行う「市町村森林経営管理事業」における適切な森林施業に対する理解

経営管理権集積計画により市町村が森林所有者から委託を受けた森林は、林業経営が成り立つかどうかにより、①民間事業者に再委託されるものと、②市町村自らが管理するものとに区分される。

このうち、市町村自らが森林所有者から委託を受けて管理経営を行う「市町村森林経営管理事

業」について法律では、「事業の対象となる森林の状況を踏まえて、複層林化その他の方法により、その森林について経営管理を行うものとする」（第33条第2項）となっている。

このため、複層林化を含めた森林づくりの考え方や手法についての理解を促進するため、研修項目「市町村森林経営管理事業のための森林施業」を行う。

⑥制度の実施主体である市町村の制度に対する考え方や抱える課題に対する理解の促進

都道府県職員が市町村に対して支援・指導をする際に、市町村が森林経営管理制度に対してどのような考えを持っているか、何が課題と考えているかなどについて予め承知していることは、支援・指導を円滑に行う上でも重要である。このため、本制度に対して先進的あるいは積極的に対応している市町村からの説明を通じた、市町村の考え方等を理解するため、研修項目「先進市町村の取組事例」を行う。

ウ 研修効果を高める研修手法の採用

応用力については、研修生間での発表（報告）や意見交換、林野庁からのコメントやアドバイスなどを受けることを通じて養うこととし、このため、研修方法は講師から講義を受ける方法のみならず、研修生に事前に課した課題である、森林経営管理制度に対する質問、経営管理制度に係る都道府県・市町村等の取組状況、模擬的に作成した経営管理権集積計画などを研修資料として活用し、研修生による発表（報告）や意見交換等が活発に行われる方法を採用した。

また、発表（報告）や意見交換といった方法ではこのような取組に対する研修生の積極的な参加が必要であることから、研修においては、進行役（コーディネーター）が研修生の積極的参加を促すための運営に努めた。

このような方法を採用することで、他の研修生や林野庁に対する質問や意見交換を通じて、森林経営管理制度への理解を深めることができるとともに、他の都道府県や市町村での経営管理制度についての取組状況や抱える課題、そして対応などについても知ることができ、研修生それぞれが今後直面する課題等に対応するための貴重な知見となり応用力を広げることができると考えられた。

森林経営管理制度そのものについては、林野庁は都道府県単位で市町村に対する説明会を行っており、また、平成30年12月には、制度及びその運用に関する詳細な解説書である「森林経営管理制度に係る事務の手引」が作成・公表されていたことから、研修生には説明会での説明や手引を精読してもらった上で生じた質問や意見を提出してもらい、制度に係る講義の中でこれに対する回答も行うことで、制度に係る理解を深めてもらう方法とした。

また、新たな制度についての市町村への支援は基本的に都道府県を単位として実施されること、また、都道府県の実情はそれぞれ異なることから、研修においては、同一都道府県の研修生をグループ化し、そのグループ内で質問の整理等を行ってもらう方法も採用した。

例えば、各都道府県の森林経営管理制度の取組の発表に対して研修生が質問や意見を行う場合には、同一県の研修生同士で、当該都道府県にとって関心のある発表に対する質問を整理してもらった上で、質問や意見を行うことで、当該都道府県にとって有用な情報を得てもらうこととした。これにより、限られた時間の中で効率的に必要な質問・意見交換を可能とすることもできた。

2. カリキュラムと個別研修項目の内容

研修期間は研修生の業務を念頭に比較的参加が容易と考えられる3日間（実質の研修期間2日間）とし、上記1. イの研修内容の考え方を踏まえ、3日間の研修の研修項目のねらい、概要及び進め方については以下を基本とした。

しかしながら、視察現場も行う「制度運用のための優良民間事業者との意見交換」については現場までの距離が遠距離となる場合は他の研修項目の時間の確保が困難となる場合などがあったことから、民間事業者の現場視察をビデオ画像などによる説明に変更したり、現場滞在時間の変更を行うなど、研修ブロックの実情を踏まえ、研修の質を低下させないように調整を行った。

1日目午後

【講義】「森林経営管理制度の概要と現状」(13:30～15:00)

ねらい：森林経営管理制度の意義や概要と新制度に関連する都道府県や市町村の動きについての理解を深めること目的とする。

研修概要：教材に基づき説明した後、受講生が予め提出する制度に関する質問への回答や意見交換を行いながら講義を進め、都道府県や市町村の動きについては全国的な動向や特徴のある事例を紹介する。

進め方：研修にあたって、これまでの林野庁の説明会などで十分理解できなかった点などをクリアにしてもらうため、予め研修生から事前課題（1）「森林経営管理制度に対する質問等」（様式A）を提出してもらい、この点にも触れながら講義を行う。さらに、制度の取組は全国的にどのような状況であるのか、特徴のある市町村の事例等についても紹介する。

なお、2日目に経営管理権集積計画に関する詳細な講義（「経営管理権集積計画の作成」）を行うこととなっているので、経営管理権集積計画については、本講義では大枠の説明にとどめ、事前課題の関連質問等についても主として2日目の講義の中で行うこととする。

【発表及び意見交換】「都道府県における制度取組の現状と課題」(15:10～17:00)

ねらい：他の都道府県や市町村の取組の考え方や内容、進め方、課題等を理解し、受講生が市町村を支援するための知見を広げ、応用力を養うことを目指す。

研修概要：事前課題をもとに、研修生（都道府県別グループ）が都道府県の市町村に対する支援と市町村の取組状況等について発表（報告）し、研修生間でこれに対する質問や意見交換を行う。また、林野庁がコメントやアドバイスを行う。

進め方：事前課題（2）の提出資料「森林経営管理制度に関する都道府県等の取組状況」（様式B）により、①都道府県が取り組んでいる市町村支援等の取組、②当該都道府県の市町村が行っている取組、③都道府県が市町村に指導・助言等を行う中で把握された課題や要望について、都道府県毎に研修生の代表あるいは研修生が分担して発表する。

それらに対して、他都道府県の研修生からの質問や意見交換を行ってもらいが、各都道府県で新たな制度を取り巻く環境が異なり、また対応も異なると想定されることから、質問を各都道府県単位（同一都道府県の研修生のグループ）で整理して、都道府県の関心のある発表について質問をしてもらうこととする。この際、質問については各都道府県の研修生の代表により行い、その後の意見交換は質問を行う都道府県の全ての研修生が参加できるようにする。また、適宜林野庁からコメント等をもたらす。

2日目午前

【現場視察・意見交換】「制度運用のための優良民間事業者との意見交換」

ねらい：新たな制度において都道府県は、経営管理実施権の設定を希望するとともに一定の要件を満たす民間事業者を公表することとなっており、この際、市町村は、都道府県が公表するにふさわしい者を推薦することができることとなっている。また、市町村は経営管理実施権配分計画を定める場合、都道府県が公表した民間事業者の中から、経営管理実施権の設定を受ける民間事業者を選定することとなっている。

このため、優れた民間事業者の経営姿勢や現場の活動を理解することで、市町村が民間事業者を選定事務を行う際の助言や民間事業者育成方法の検討に必要な能力を養う。

研修概要：民間事業者の活動や取組について、民間事業者から説明を受けるとともに、現場視察や質疑、意見交換を行い、優れた民間事業者の特徴を整理する。

進め方：現場視察も含め民間事業者からの説明を受けて、意見交換等を行い、研修生は優良な民間事業者の特徴のポイントを整理する。これに対して民間事業者から正しく特徴を捉えているかどうかの観点でコメントをもらう。

2日目午後

【講義】「経営管理権集積計画の作成」(13:00～14:30)

ねらい：経営管理権集積計画の作成までの基本的な流れや計画に記載すべき内容を理解する。

研修概要：標準的な方法等について説明した後、研修生に予め提出してもらった経営管理権集積計画に関する質問への回答や意見交換を行いながら講義を進める。

進め方：事前課題（1）「森林経営管理制度に対する質問等」（様式A）などで予め提出された関連質問の回答も含めて講義を行う。

【演習】「経営管理権集積計画演習」(14:30～17:00)

ねらい：事前課題としての模擬的な経営管理権集積計画の作成を通じて、計画作成の方法を理解する。

研修方法：予め課題として作成し提出した模擬的な経営管理権集積計画について、作成にあたって生じた疑問点や課題なども含めて研修生が発表を行った後、これに対する質疑や意見交換を行う。

進め方：研修生より提出のあった模擬的な経営管理権集積計画（様式C）について、各県少なくとも1名は発表してもらおう。発表にあたっては事前課題（3）模擬的「経営管理権集積計画」の作成（様式D）により、当該地域の森林を計画の対象とした理由や経営管理権集積計画の共通事項あるいは別添1～3について修正を行った場合はその理由も説明してもらおう。

発表に対して他の研修生から、例えば、自分が作成にあたって困難と思ったことを発表者がどのようにクリアしたかなどの質問等をしてもらい、計画の作成方法について理解を深めてもらう。また、研修生の発表、質問等に対して、必要に応じて林野庁からコメントをもらう。

3日目午前

【講義】「市町村森林経営管理事業のための森林施業」(9:00～10:30)

ねらい：市町村森林経営管理事業に関連し、森づくり全般について、最新の知見により理解を深める。

研修方法：針広混交林化等に向け、自然的条件等の状況に応じた施業方法を選択できるように、森づくり全般に関する講義を行う。

進め方：講義終了に質問時間を十分に確保する。

【講義・意見交換】「先進市町村の取組事例」(10:30～11:30)

ねらい：森林経営管理制度の実施主体である市町村がどのような考えで制度に対する取組を行い、どのような課題を有しているかの理解を深める。

研修方法：積極的に取り組んでいる（取り組もうとしている）市町村から取組内容や課題についての説明を受け、研修生からの質問や意見交換を行う。

進め方：市町村による説明終了後に質問及び意見交換の時間を十分に確保する。

Ⅲ. 研修の実施方法

1. 運営体制

別図のとおり研修運営を行った。

2. 研修の事前打合せの実施概要

研修の実施に際し、事前に研修運営上必要な進行・役割分担の確認、諸準備を行うことを目的に、研修を実施した7ブロックのうち5ブロックで事前打ち合わせを行った（下記）。

①実施日・実施場所・打ち合わせ対象

○北海道・東北ブロック

- ・実施日時： 令和元年9月25日
- ・打合せ場所：北日本索道株式会社（秋田県湯沢市）、現地視察予定地（秋田県羽後町）、秋田県林業研究研修センター（秋田市）ほか

○関東ブロック

- ・実施日時： 令和元年8月21日
- ・打合せ場所：飯能市林業センター（埼玉県飯能市）、現地視察予定地（埼玉県飯能市）

○中部ブロック

- ・実施日時： 令和元年10月30日
- ・打合せ場所：岐阜県庁（岐阜市）、郡上森林組合（岐阜県郡上市）

○近畿ブロック

- ・実施日時： 令和元年9月4日
- ・打合せ場所：きのくに中津荘（和歌山県日高川町）、日高川町役場

○四国ブロック

- ・実施日時： 令和元年10月7日
- ・打合せ場所：やましごと工房（徳島県美馬市）、つるぎ木材加工協同組合（徳島県つるぎ町）、徳島森林づくり推進機構（徳島市）

②各ブロックの打合せ内容

- ・外部講師（優良民間事業者）への研修の趣旨説明。事業体の取組の把握。研修のポイントの共有
- ・研修会場の確認と受講生の座席位置の検討等
- ・ブロック事務局との役割分担、研修の流れの確認。必要な機材や課題等を確認
- ・県庁への情報提供と協力依頼

3. 事前視察を踏まえた研修日程の調整

現地で優良民間事業者と事前打ち合わせを行い、現地視察の現場を確認し、研修2日目午前の「制度運用のための優良民間事業者との意見交換」の研修日程の調整を行った（北海道・東北ブロック、四国ブロック）。現場視察ではバス移動が長時間となり、講義の目的である優良民間事業者との意見交換の時間が十分に確保できないことが明らかになったためである。代案として、優良民間事業者に研修会場に来ていただき、当初の「現場視察・意見交換」から、「講義・意見交換」に講義形

式を変更して対応した。

4. 受講生への連絡

○受講案内

各都道府県の受講生と研修窓口（森林経営管理制度）に向けて、各ブロックごとに研修の案内の第一報「受講の手引き」とともに事前課題の作成要領等を送付した。

- ・受講の手引き
- ・研修の概要
- ・カリキュラム
- ・事前課題について（受講生に研修前に作成・提出いただく資料）
- ・模擬的「経営管理権集積計画」の作成要領
- ・受講生名簿（各ブロックごと）

○問い合わせ先

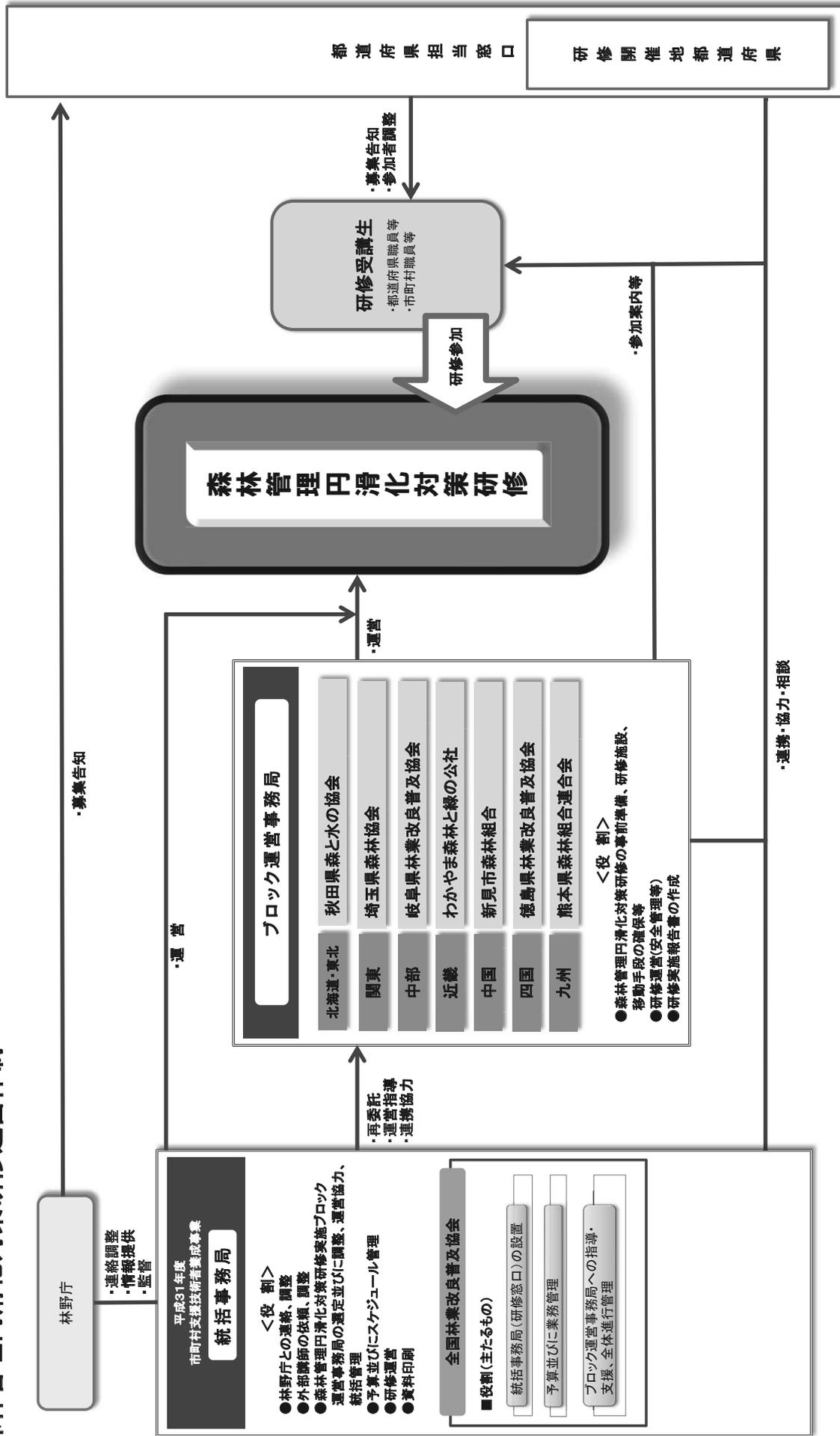
研修会場等、研修運営についての問い合わせ先は、各ブロック事務局とし、研修内容、事前課題内容についての問合せ先は、事務局・全国林業改良普及協会とした。

5. 事前課題の受取

受講生からの事前課題の受け取りは各ブロック事務局が行い、事前課題の締め切り日を目途に未提出者に督促を行った。ブロック事務局は取りまとめた事前課題を事務局・全国林業改良普及協会へ送付した。事務局では課題内容を確認し、内容に不足があった場合には各受講生に直接連絡して対応を行った。おおよその事前課題を事務局が受け取った段階で、林野庁と課題の共有を行った。

事前課題の提出については、課題作成に必要なデータを入手できない立場にいる受講生以外の全員が課題を作成・提出し研修本番に臨んだ。

1. 森林管理円滑化対策研修運営体制



IV. 研修実施結果

1. 研修の実施概要

(1) 研修実施場所・研修日程

研修は全国7ブロック（北海道・東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州）において9月から11月にかけて実施した。

ブロック名	日程	研修会場		現地実習箇所(所在地)
		施設名	所在地	
北海道 ・東北	10月16日 ～18日	秋田県林業研究研修センター	秋田市河辺戸島字井戸尻台 47-2	
関東	9月17日 ～19日	飯能市林業センター	埼玉県飯能市阿須343-1	間伐施業(飯能市井上地内)
中部	11月20日 ～22日	<1日目、3日目> ホテルグランヴェール岐山 <2日目> 郡上森林組合	岐阜市柳ヶ瀬通6丁目14番 地 岐阜県郡上市八幡町稲成 525-7	郡上森林組合 郡上木材センター (郡上市美並町) 主伐再造林一貫施業システム(郡 上市八幡町)
近畿	10月2日 ～4日	きのくに中津荘	和歌山県日高郡日高川町高 津尾1049番地	主伐再造林一貫施業システム(日 高川町上越方) 原木ストックヤード(日高川町小釜 本)
中国	11月27日 ～29日	新見商工会館	岡山県新見市高尾2475-7	主伐再造林一貫施業システム(新 見市哲西町)
四国	11月6日 ～8日	<1日目> 徳島県東部農林水産局 <2日目> とくぎんトモニプラザ <3日目> ホテルグランドパレス徳島	徳島市新蔵町1丁目67 徳島市徳島町城内2番地 徳島市寺島本町西1-60-1	
九州	10月23日 ～25日	熊本市民会館シアーズホーム	熊本市中央区桜町1番3号	

(2)カリキュラム

①2日目に現地視察を実施した場合のカリキュラム例(関東ブロック)

【日 時】令和元年9月17日(火)～19日(木)		【開催場所】飯能市林業センター(埼玉県)								
1日目	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:15	
					開講・オリエンテーション 13:00～13:20	【講義】 森林経営管理制度の概要と現状 13:20～14:45 (85分)	質疑10分 休憩15分	【発表及び意見交換】 都道府県における制度取組の現状と課題 15:00～16:45 (105分) ①発表(60分程度) ②質問整理(15分)、 ③質疑・アドバイス(30分)	ふりかえり20分 事務連絡10分	終了 *飯能駅行バス、17:35発
					事務局(全林協)	講師:林野庁		受講生による制度の取組報告と意見交換 アドバイス:林野庁		
2日目	9:10	10:00	11:00	11:30	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:15
	日程説明等 9:10～	【現場視察・意見交換】 制度運用のための優良民間事業者との意見交換 9:15～12:00 (165分程度) ①事業者からの説明(30分)、②質問(10分)、 ③現場に移動(30分)、視察(30分)、センターへ移動(30分)、 ④意見交換(35分) *現場へは借り上げバスで移動			昼食 12:00～13:00 (研修会場にて)	【講義】 経営管理権集積計画の作成 13:00～14:20 (80分)	質疑10分 休憩15分	【演習】 経営管理権集積計画演習 14:35～16:45 (130分) ①発表・質疑(20～30分)×県数 ②全体を通じてのコメント(10分)	ふりかえり20分 事務連絡10分	終了 *飯能駅行バス、17:35発
		優良民間事業者との意見交換				講師:林野庁		受講生による計画作成の発表と質疑 アドバイス:林野庁		
3日目	9:10	10:00	11:00	12:00	～12:20終了					
	日程説明等 9:10～	【講義】 市町村森林経営管理事業のための森林施策 9:15～10:30 (75分)	質疑10分 休憩10分	【講義・意見交換】 先進市町村の取組事例 10:40～11:40(60分)	総括・留意事項 11:40～12:00 (20分)	3日間のふりかえり・閉講 12:00～12:20	*飯能駅行バス、13:29発			
		外部講師:佐藤 保 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 森林植生研究領域長)		外部講師:秩父市担当者	林野庁	事務局				

②2日目に現地視察を実施しなかった場合のカリキュラム例(北海道・東北ブロック)

【日 時】令和元年10月16日(水)～18日(金)		【開催場所】秋田県林業研究研修センター(秋田県秋田市)									
1日目	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:15		
					開講・オリエンテーション 13:00～13:20	【講義】 森林経営管理制度の概要と現状 13:20～14:45 (85分)	質疑10分 休憩15分	【発表及び意見交換】 都道府県における制度取組の現状と課題 15:00～16:45 (105分) ①発表(60分程度) ②質問整理(15分)、 ③質疑・アドバイス(30分)	ふりかえり20分 事務連絡10分	終了	
					事務局(全林協)	講師:林野庁		受講生による制度の取組報告と意見交換 アドバイス:林野庁			
2日目	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:15	
	日程説明等 8:50～	【講義・意見交換】 制度運用のための優良民間事業者との意見交換 9:00～11:30 (120分程度) ①民間事業者による経営の考え方、活動、現場の状況の説明(ビデオ、パワー資料など)(60分)、②民間事業者に対する質問・意見交換(30分)、③民間事業者のポイントを記載			休憩15分	【講義】 経営管理権集積計画の作成 11:15～12:35 (80分)	質疑10分 休憩15分	【演習】 経営管理権集積計画演習(前半) 13:35～15:00 (85分) ①発表・質疑・林野庁コメント(20分程度)×県数 *事務局が非当を 手配します	【演習】 経営管理権集積計画演習(後半) 15:15～16:45 (90分) ①発表・質疑・林野庁コメント(20分程度)×県数、②全体を通じてのコメント	ふりかえり20分 事務連絡10分	終了
		優良民間事業者との意見交換				講師:林野庁		受講生による計画作成の発表と質疑 アドバイス:林野庁	受講生による計画作成の発表と質疑 アドバイス:林野庁		
3日目	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	～12:00終了					
	日程説明等 8:30～	【講義】 市町村森林経営管理事業のための森林施策 8:35～10:00(85分)	質疑15分 休憩10分	【講義・意見交換】 先進市町村の取組事例 10:10～11:10(60分)	質疑10分 休憩10分	総括・留意事項 11:10～11:40 (30分)	3日間のふりかえり・閉講 11:40～12:00	閉講後、 12:30 秋田県林業研究研修センターを 送迎バスで出発 13:00 JR秋田駅着			
		外部講師:佐藤 保(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林業研究部門森林植生研究領域長)		外部講師:大館市担当者	林野庁	事務局					

※進行役:全国林業改良普及協会

(3) 研修講師

北海道・東北ブロック

講義・演習名	講師等	所属
【講義】森林経営管理制度の概要と現状	大石貴久	林野庁森林利用課
【発表及び意見交換】都道府県における制度取組の現状と課題	受講生の発表 ・意見交換	
【講義・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換	兼子富市 仙道一吉	北日本索道株式会社(秋田県)
【講義】経営管理権集積計画の作成	山口雄大	林野庁森林利用課
【演習】経営管理権集積計画演習		
【講義】市町村森林経営管理事業のための森林施業	佐藤 保	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
【講義・意見交換】先進市町村の取組事例	杉山利久	大館市農林課(秋田県)

関東ブロック

講義・演習名	講師等	所属
【講義】森林経営管理制度の概要と現状	三間知也	林野庁森林利用課
【発表及び意見交換】都道府県における制度取組の現状と課題	受講生の発表 ・意見交換	
【現場視察・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換	萩原信一	株式会社フォレスト萩原(埼玉県)
【講義】経営管理権集積計画の作成	三間知也	林野庁森林利用課
【演習】経営管理権集積計画演習		
【講義】市町村森林経営管理事業のための森林施業	佐藤 保	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
【講義・意見交換】先進市町村の取組事例	大澤太郎	秩父市環境部(埼玉県)

中部ブロック

講義・演習名	講師等	所属
【講義】森林経営管理制度の概要と現状	安高志穂	林野庁森林利用課
【発表及び意見交換】都道府県における制度取組の現状と課題	受講生の発表 ・意見交換	
【現場視察・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換	笠野和幸 笹原浩樹 此島栄作	郡上森林組合(岐阜県)
【講義】経営管理権集積計画の作成	山口雄大	林野庁森林利用課

【演習】経営管理権集積計画演習		
【講義】市町村森林経営管理事業のための森林施業	酒井 武	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
【講義・意見交換】先進市町村の取組事例	内木宏人	中津川市農林部(岐阜県)

近畿ブロック

講義・演習名	講師等	所属
【講義】森林経営管理制度の概要と現状	大石貴久	林野庁森林利用課
【発表及び意見交換】都道府県における制度取組の現状と課題	受講生の発表 ・意見交換	
【現場視察・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換	中本 毅	紀中森林組合(和歌山県)
【講義】経営管理権集積計画の作成	室木直樹	林野庁森林利用課
【演習】経営管理権集積計画演習		
【講義】市町村森林経営管理事業のための森林施業	八木橋勉	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
【講義・意見交換】先進市町村の取組事例	高川敬一 小山幸司	日高川町役場林業振興課(和歌山県) 和歌山県日高振興局林務課

中国ブロック

講義・演習名	講師等	所属
【講義】森林経営管理制度の概要と現状	大石貴久	林野庁森林利用課
【発表及び意見交換】都道府県における制度取組の現状と課題	受講生の発表 ・意見交換	
【現場視察・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換	溝上宏治	新見市森林組合(岡山県)
【講義】経営管理権集積計画の作成	山口雄大	林野庁森林利用課
【演習】経営管理権集積計画演習		
【講義】市町村森林経営管理事業のための森林施業	佐藤 保	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
【講義・意見交換】先進市町村の取組事例	豊福靖宏	西粟倉役場産業観光課(岡山県)

四国ブロック

講義・演習名	講師等	所属
【講義】森林経営管理制度の概要と現状	三間知也	林野庁森林利用課
【発表及び意見交換】都道府県における制度取組の現状と課題	受講生の発表 ・意見交換	
【講義・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換	伊庭雅俊	つるぎ木材加工協同組合(徳島県)
【講義】経営管理権集積計画の作成	三間知也	林野庁森林利用課
【演習】経営管理権集積計画演習		
【講義】市町村森林経営管理事業のための森林施業	佐藤 保	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
【講義・意見交換】先進市町村の取組事例	橋本浩志 工藤剛生	那賀町林業振興課(徳島県) 徳島県西部総合県民局農林水産部

九州ブロック

講義・演習名	講師等	所属
【講義】森林経営管理制度の概要と現状	中山昌弘	林野庁森林利用課
【発表及び意見交換】都道府県における制度取組の現状と課題	受講生の発表 ・意見交換	
【講義・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換	那須健二 永井賢吾 井手拓郎	上球磨森林組合(熊本県)
【講義】経営管理権集積計画の作成	室木直樹	林野庁森林利用課
【演習】経営管理権集積計画演習		
【講義】市町村森林経営管理事業のための森林施業	佐藤 保	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
【講義・意見交換】先進市町村の取組事例	生山敬之 田代 秀一郎	玉名地域森林施業集約化促進協議会(熊本県)

(4) 研修受講者

ブロック	都道府県名	都道府県別受講者内訳				ブロック別受講者内訳			
		計	都道府県	市町村	団体	計	都道府県	市町村	団体
北海道 東北	北海道	5	5	0	0	19	17	1	1
	青森県	5	5	0	0				
	岩手県	2	2	0	0				
	宮城県	3	2	0	1				
	秋田県	3	2	1	0				
	山形県	1	1	0	0				
	福島県	0	0	0	0				
関東	茨城県	0	0	0	0	17	9	7	1
	栃木県	5	1	4	0				
	群馬県	3	3	0	0				
	埼玉県	6	3	3	0				
	千葉県	2	2	0	0				
	東京都	0	0	0	0				
	神奈川県	0	0	0	0				
	山梨県	1	0	0	1				
中部	福島県	1	1	0	0	19	11	6	2
	新潟県	0	0	0	0				
	富山県	0	0	0	0				
	石川県	1	0	0	1				
	福井県	1	1	0	0				
	山梨県	1	1	0	0				
	長野県	1	1	0	0				
	岐阜県	5	3	2	0				
	静岡県	5	2	3	0				
	愛知県	3	1	1	1				
	三重県	1	1	0	0				
	滋賀県	0	0	0	0				
近畿	京都府	1	1	0	0	16	11	2	3
	大阪府	1	0	0	1				
	兵庫県	1	0	0	1				
	奈良県	3	1	1	1				
	和歌山県	9	8	1	0				
	広島県	0	0	0	0				
	山口県	1	1	0	0				
中国	兵庫県	1	1	0	0	13	6	5	2
	鳥取県	5	3	2	0				
	島根県	3	1	0	2				
	岡山県	3	0	3	0				
	広島県	1	1	0	0				
四国	山口県	0	0	0	0	22	13	8	1
	奈良県	1	1	0	0				
	徳島県	9	1	8	0				
	香川県	1	1	0	0				
	愛媛県	7	6	0	1				
九州	高知県	4	4	0	0	22	12	3	7
	福岡県	3	3	0	0				
	佐賀県	0	0	0	0				
	長崎県	3	3	0	0				
	熊本県	6	3	0	3				
	大分県	6	1	2	3				
	宮崎県	1	1	0	0				
	鹿児島県	3	1	1	1				
沖縄県	0	0	0	0					
合計		128	79	32	17	128	79	32	17

(5) 研修受講者の年齢構成、男女比

① 年齢構成

表 受講生の所属ごとの参加者数

		20代	30代	40代	50代	60代	計	全体平均年齢(歳)
全受講生		14	25	46	34	9	128	44.3歳
所属	都道府県	4	15	28	29	3	79	
	市町村	9	10	11	1	1	32	
	団体	1	0	7	4	5	17	

(単位:人)

表 受講生の所属ごとの年代別割合

(各属性を100%としたときの割合)

		20代	30代	40代	50代	60代
全受講生		10.9	19.5	35.9	26.6	7.0
属性	都道府県	5.1	19.0	35.4	36.7	3.8
	市町村	28.1	31.3	34.4	3.1	3.1
	団体	5.9	0	41.2	23.5	29.4

(単位:%)

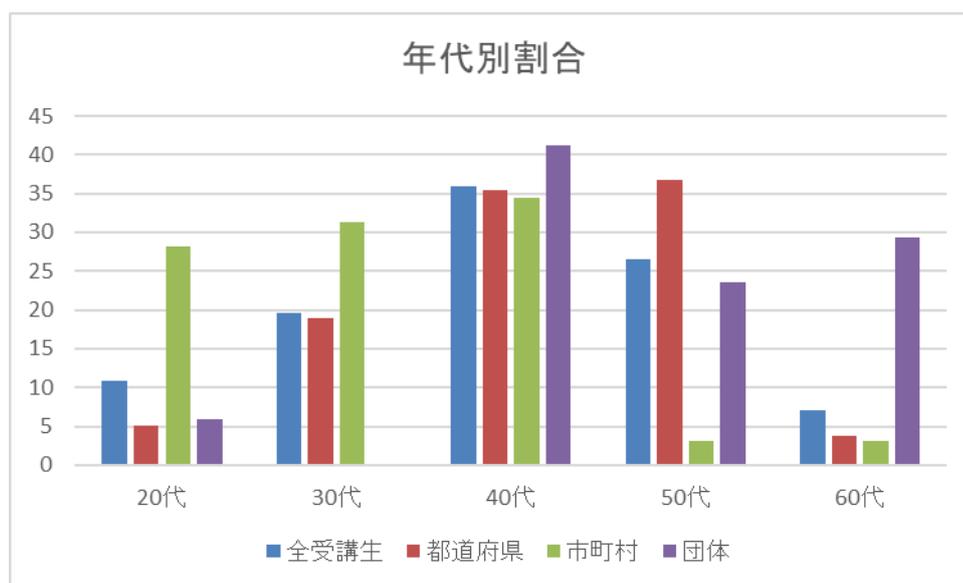


表 受講生の属性ごとの年代別割合

(各属性を100%としたときの割合)

② 男女比

	総数	男性	女性
人数(人)	128	119	9
比率(%)	100	93.0	7.0

V. 森林管理円滑化対策研修の実施状況

森林管理円滑化対策研修の実施状況を共有する資料として、各ブロックでの研修の概要をまとめた「実施報告書」、受講生のアンケートを集計した「アンケート結果」を作成した。

①森林管理円滑化対策研修 北海道東北ブロック実施報告書

1 日程・研修場所 令和元年10月16日(水)～10月18日(金)
研修会場 秋田県林業研究研修センター(秋田県秋田市)

2 研修受講者数:19名 [男性:19名 女性:0名]
(道県職員17名、市町村職員1名、団体1名)

北海道	5名	青森県	5名	岩手県	2名	宮城県	3名
秋田県	3名	山形県	1名				

途中欠席者数:0名

3 研修実施概要

○予定どおり全カリキュラムを修了

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は、開講式・オリエンテーションにおいて、研修の成果と目標を全体で共有した。
・「森林経営管理制度の概要と現状」について、林野庁の担当者からの講義後、各道県から当該制度への取組の現状と課題について発表があり、その後、質疑が行われた。

・2日目は、午前中に実施した「制度運用のための優良民間事業者との意見交換」では、民間事業者の社長自らが50年に及ぶ会社の歴史と経営理念を述べたほか、事業者が作成したビデオで会社の概要を説明した。会社が実施している森林整備等の取組状況(施業実施現場)については、パワーポイントを使用して研修生に紹介した。講義終了後、民間事業者との質疑・意見交換が行われた。終了後は、「経営管理権集積計画の作成」に関する講義を実施後、当該計画策定に係る演習が行われ、発表や質疑があった。

・最終日は、森林総合研究所の外部講師による「市町村森林経営管理事業のための森林施業」の講義が行われ、目標とすべき林型、更新方法、複層林・混交林等に関する技術や、その問題点・課題について説明があった。その後、先進市町村の取組事例として秋田県大館市の職員から「森林整備公社」設立の経緯、ビジョン等について説明があったほか、研修全体を通じた制度に関する留意事項が示され、質疑応答がなされた。

・各日の最後には、受講生がその日一日に実施した内容をふりかえる時間を設けたが、熱心にふりかえりシートに書き込む姿が見受けられた。

・早退、欠席者はなく、質問や意見も積極的に行われ、19名全員が本研修を無事修了することができた。

○今回の研修で工夫したこと

[工夫点]

・座席はスクール形式としたが、道県単位で協議しやすいように、同じ道県の研修生が隣接するように配置した。

・2日目午前中の「制度運用のための優良民間事業者との意見交換」の研修は、当初、会社を訪問し作業現場を視察する予定であったが、事前調査の結果、移動時間だけで往復3時間程度を要することから、民間事業者と協議し、効率的な研修を実施する観点から、講師の方に研修会場に来ていただいて意見交換する方法に変更した。

・名札は、それぞれの役割が分かるように、研修生、講師、事務局の3種類で色を変えて作成した。

4 記録写真



林野庁開講挨拶



【講義】「森林経営管理制度の概要と現状」:1日目



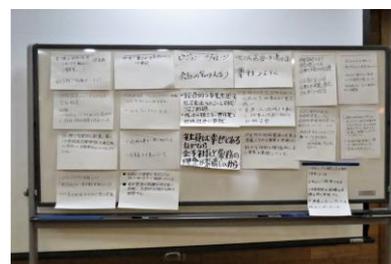
【発表及び意見交換】道県における制度取組の現状と課題:1日目



【発表及び意見交換】道県における制度取組の現状と課題:1日目
道県毎に協議したうえで、他県事例の発表に対して質問を行った



民間事業者による【講義・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換。(外部講師/北日本索道株式会社(秋田県)):2日目



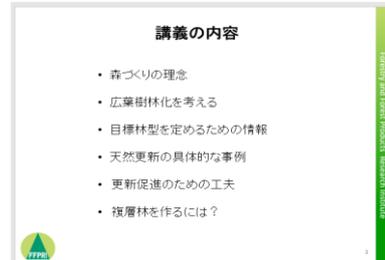
【講義・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換:2日目
受講生が民間事業者の特徴のポイントを把握して、記載。共有した



林野庁講師による【講義】「経営管理権集積計画の作成」:2日目



【演習】「経営管理権集積計画演習」における発表と質疑:2日目



【講義】「市町村森林経営管理事業のための森林施業」(外部講師/佐藤保・森林総合研究所林業研究部門森林植生研究領域長):3日目



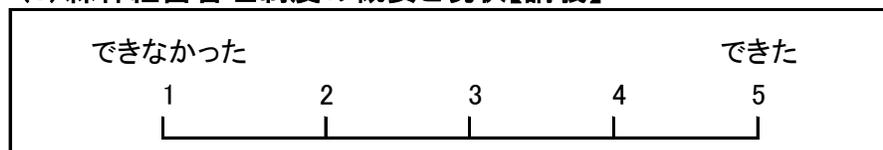
【講義・意見交換】「先進市町村の取組事例」の講義と意見交換(外部講師/杉山利久・秋田県大館市産業部農林課):3日目

森林管理円滑化対策研修(ブロック研修) 北海道東北ブロック アンケート集計結果

回収率： 19名 / 19名 (100%)

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

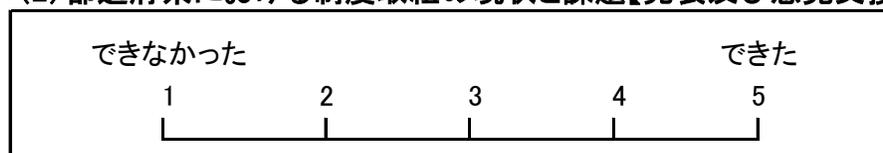
(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】



平均： 4.1

- 1 (0名)
- 2 (1名) 業務で直接担当していないため、専門用語の言葉が難しかった
- 3 (1名) 再確認できて為になった
- 4 (12名) 復習として有意義だった／疑問に思っていた点を具体的に答えていただけて良かった
- 5 (5名) 他縣市町の事例で詳細版を提示してほしかった／分かりやすい説明で良かった

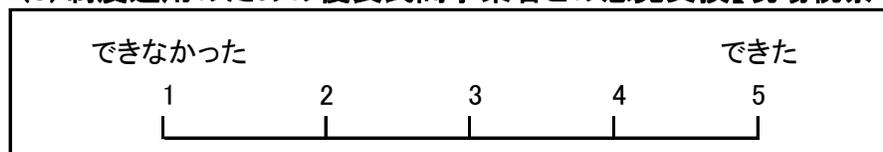
(2) 都道府県における制度取組の現状と課題【発表及び意見交換】



平均： 4.0

- 1 (0名)
- 2 (1名) 道県のため、話しの内容は理解できている
- 3 (3名) 取り組んでいる課題に違いを感じられた
- 4 (10名) サポートセンター等、市町村の支援体制が進んでいて参考になった
- 5 (5名) 質問の回答集は帰庁次第、地元で共有したい／細かい点まで情報収集できて良かった

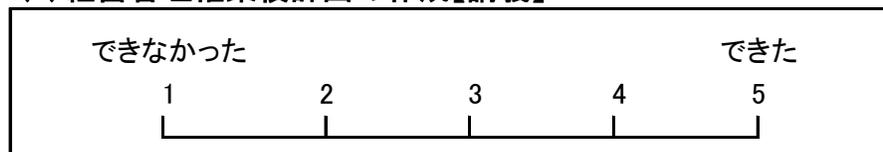
(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【現場視察・意見交換】



平均： 4.6

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (0名)
- 4 (7名) 管内の事業者を育成指導していく中でとても参考となった
- 5 (12名) 優良民間事業者の新制度に対する意向も聞けて良かった／先導的取組に感銘した

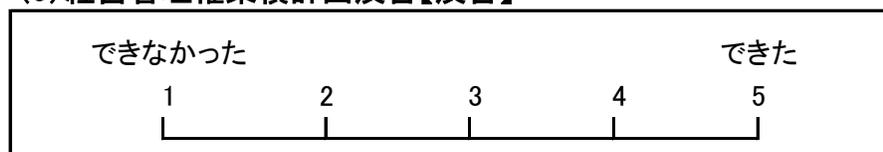
(4) 経営管理権集積計画の作成【講義】



平均: 3.9

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (6 名) 何となく理解できたような気はするが、もう少し勉強する必要がある
- 4 (9 名) 集積計画作成の一連の流れとポイントを詳しく説明いただきほぼ理解できた
- 5 (4 名) 疑問に思っていた項目も詳しく説明いただき理解できた

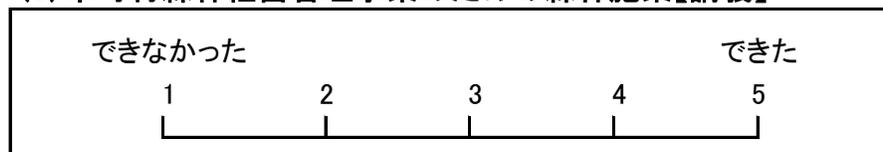
(5) 経営管理権集積計画演習【演習】



平均: 3.9

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (7 名) 自身で集積計画を作成し、他の方の演習を見ることで分かったことが多かった
- 4 (7 名) 色々な集積計画を聞け、仕組みが分かり始めた／今後の計画書作成の参考となった
- 5 (5 名) 質問等に参考になるものがたくさんあって良かった／実際の作成指導に役立つ

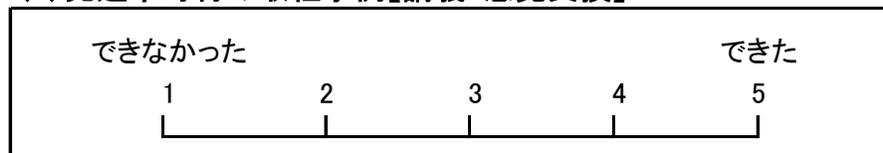
(6) 市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】



平均: 4.4

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 広葉樹林化は難しいと分かった
- 4 (8 名) 天然更新に対するこれまで以上の知識を得ることができた
- 5 (9 名) とても分かりやすく、早速実行できそうなことがたくさんあった

(7) 先進市町村の取組事例【講義・意見交換】



平均: 4.4

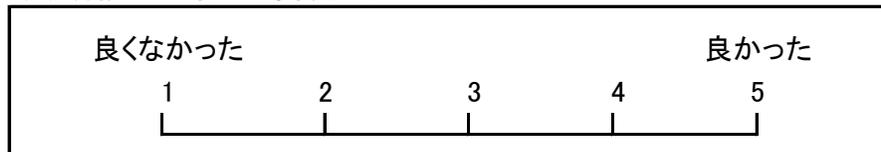
- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 積極的な制度活用のため、公社まで設立し推進していることが参考となった
- 4 (7 名) 実務面で今後業務を進めるのにとても役に立った／市町村指導に生かしていきたい
- 5 (8 名) 担当者の明確なビジョンと行動力が良かった／進め方のイメージが沸いてきた

IV 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

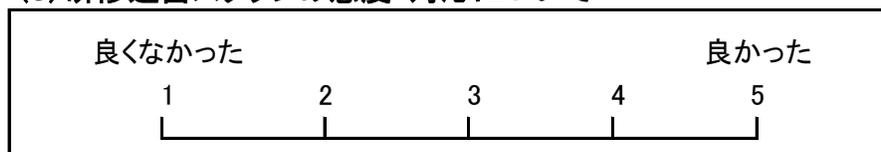
- 1：できていた（16名）
 2：できていない（3名） 現地視察が無くなった旨の連絡が分かりにくかった

(2) 研修の進行・運営流れについて



- 1（0名）
 2（0名）
 3（1名） カリキュラムの時間がずれてばかりだった
 4（10名） 各道県への質問・意見等は、順番でなく各道県別に聞くと良かった／スムーズだった
 5（8名） 進行者が受講者からの質問と回答をうまく整理され素晴らしかった

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について



- 1（0名）
 2（0名）
 3（1名） 少し堅苦しい感じがした
 4（6名） 色々とお気遣いいただき有難かった
 5（12名） 丁寧にサポートしていただき過ぎやすかった

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・ 譲与税の使い方に関する研修
- ・ 譲与税の使い方、何がダメで何がOKか、林野庁・総務省等、質問に答えられる分野の担当者の講師がいれば有難い
- ・ 本研修を市町村担当者を対象に開催
- ・ 市町村担当者の研修を強化してほしい
- ・ 市町村事例の発表会（講演）等
- ・ 市町村職員を対象として集積（配分）計画を作成する実務研修
- ・ 取り組みが進行している市町村の具体的事例を地元の市町村担当者に紹介できる機会があれば参考になると感じた。特に今後、市町村が自ら管理する場合の事例を多く抱える自治体の考え方、体制を紹介する機会がほしい
- ・ 意向調査のやり方について特化した研修
- ・ この研修の内容で良い
- ・ このような研修機会（量・回数）自体を増やしてほしい
- ・ 全国の様々な取組事例等の集積及び情報発信（研修受講者へのフォローアップ）
- ・ 効率的な森林経営に関する技術

- ・意欲と能力のある事業体の育成、後進市町への積極性を出してもらう方法を教えてほしい。東北の東部・西部で分けて再度行っても良いと思う

(5)その他、自由に感想をお聞かせ下さい。

(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・全ての講義が良かった。自分の理解をさらに深めていきたいと思う
- ・良い研修だった
- ・優良事業体についてが印象的であった
- ・北日本索道（株）の兼子社長のお人柄が良く、仙道常務の思考に感銘した。説明が分かりやすかった
- ・北日本索道（株）の社長、常務の森林林業に対する想いが印象的であった
- ・市町村森林経営管理事業のための森林施業（佐藤保領域長）の講義が大変分かりやすかった
- ・先進市町村の取組事例
- ・各県の考えが違って参考になった
- ・林野庁の方に直接お伺いできる機会が多かった点が良かった
- ・国の基本的見解、スタンスを掘り下げて聞く貴重な機会であった
- ・当ブロックの開催時期は暑くもなく寒くもなく良かった。講師も良かった
- ・事前課題で集積計画を作り、研修会で発表した方が研修会でポイント等を聞きながら皆で作成していく方法の方が良かったと思う
- ・事前課題が重かった
- ・他ブロックでの意見、質疑等も共有してほしい
- ・当研修資料をPDFで良いので、メール等で送付いただきたい
- ・宿泊施設を限定する研修はやめていただきたい

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

40点未満	(0 名)	
40点台	(0 名)	
50点台	(0 名)	
60点台	(0 名)	
70点台	(0 名)	
80点台	(9 名)	事前提出物が多く、業務に支障あった
90点台	(6 名)	グループ討議等をやっても良いと思った
100点	(4 名)	研修開催地の設定変更を早く周知してほしい

平均： 88 点

②森林管理円滑化対策研修 関東ブロック実施報告書

- 1 日程・研修場所 令和元年9月17日(火)～9月19日(木)
研修会場 飯能市林業センター(埼玉県飯能市)
現地実習 埼玉県飯能市井上 地内

- 2 研修受講者数:17名 [男性:15名 女性:2名]

(県職員9名、市職員7名、団体1名)

栃木県	5名	群馬県	3名	千葉県	2名	山梨県	1名
埼玉県	6名						

途中欠席者数:3名(1日目:2名、2日目:1名、3日目:2名)

3 研修実施概要

○予定どおりカリキュラムを修了

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は受講生が研修会場に集合して、午後より研修を開始した。事務局より研修全体のオリエンテーションの後、さっそく林野庁職員の三間知也氏を講師に講義・質疑応答が行われた。演習では事前課題を用いて受講生による発表・質疑・講師によるコメントを各県毎に行った。最後は研修の「ふりかえりシート」を活用し、講義と演習の内容を客観的に把握することが出来ていたようだ。

・2日目は現地実習を行ったが、まず外部講師として地元優良林業事業者(株)フォレスト萩原の萩原信一氏より事業者の概要や経営状況などの説明を受けてから現地の見学となった。現地実習は、昨年度一昨年度2年にわたり搬出及び切り捨て間伐を実施した山林で行った。特に境界確認に対する関心が高く、それに対して多くの質問が出た。

午後は再び研修会場にて、講義と質疑応答、演習として受講生が事前課題で提出した各県・市町村の実際の森林を対象とした計画を発表し、質疑応答・意見交換と講師のコメントを受講生がそれぞれ行った。

・3日目は、外部講師として森林総研・佐藤保氏に昨今問われている人工林の広葉樹林化について講義を受け、受講生からの質疑は大変活発に行われた。さらに埼玉県秩父市職員の大澤太郎氏より、秩父市及び周辺市町の森林経営管理への先進的な取り組みが解説され、受講生の今後への刺激となっていたようだ。また林野庁職員室木直樹氏より、森林経営管理制度を運用するにあたり民法上の注意点などについて実践的な解説があり受講生は真剣に耳を傾けていた。

・全体としては、事前に課題を作成提出して研修に臨むことにより、この森林経営管理制度に対する理解がより深まったのではないかと見られる。また同じように取り組む近隣縣市町村の実情を知る機会でもあったので、受講生同士の情報交換の場となっていたのが見て取れた。

○今回の研修で工夫点

[工夫点]

・事前課題の発表では、議論が白熱し時間が無くなることも予想されたため、事前に内容を精査し計画内容、地域が偏らないよう順番を決めておいた。時間に余裕があったため結果的には全員に発表していただいた。

4 記録写真



林野庁開講挨拶



【講義】森林経営管理制度の概要と現状：1日目



【発表および意見交換】都道府県における制度取組の現状と課題：1日目



【発表および意見交換】県単位で発表に対する質問整理：1日目



【現場視察・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換(外部講師/株式会社フォレスト萩原(埼玉県))：2日目



【現場視察】優良民間事業者からの説明：2日目



【意見交換】優良民間事業者との意見交換：2日目



【演習】経営管理権集積計画演習：2日目



【講義】市町村森林経営管理集積のための森林施業(外部講師/佐藤保・国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)：3日目



【講義・意見交換】先進市町村の取組事例(外部講師/大澤太郎・秩父市環境部(埼玉県))：3日目



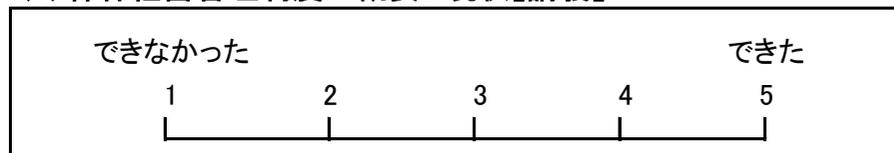
【3日間のふりかえり】振り返りシートの記入：3日目

森林管理円滑化対策研修(ブロック研修) 関東ブロック アンケート集計結果

回収率： 17名 / 17名 (100%)

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

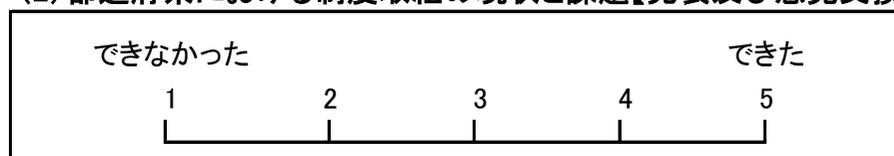
(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】



平均：4.3

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (1名) 質問の答えになっていないものがあると感じた
- 4 (8名) 制度内容の再確認ができた／林野庁からの制度説明を聞ける機会が貴重だった
- 5 (6名) 踏み込んだ話が聞けた／最新の取組状況の紹介もあり参考になった

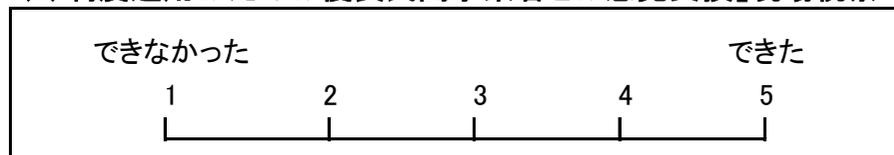
(2) 都道府県における制度取組の現状と課題【発表及び意見交換】



平均：4.1

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (2名) 他の県市町の状況が参考になった
- 4 (9名) 質疑応答に時間を多く取り様々な話を聞くことができた／有意義だった
- 5 (4名) 他の県市町の進捗状況や抱える課題などが分かった

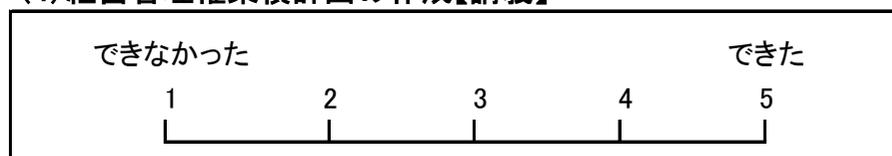
(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【現場視察・意見交換】



平均：4.1

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (3名) 現場に行かず、写真や動画で対応できたら話す時間が増えたのではと感じた
- 4 (8名) 事業者の意欲と能力が聞いて参考になった／管理制度の展望があり良かった
- 5 (5名) 集約の方法、再委託先の条件について理解できた

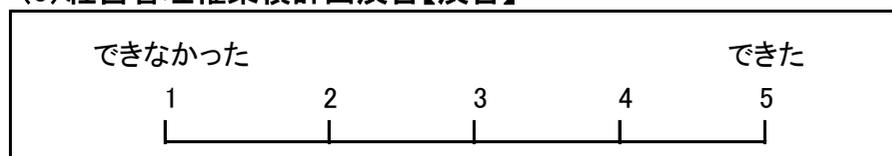
(4) 経営管理権集積計画の作成【講義】



平均：4.1

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (3 名) 市町村が負うリスク管理の説明は丁寧だが、実際の業務では悩む面が懸念される
- 4 (8 名) リスク管理の部分が難しく勉強したい／計画作成の理解が深まった
- 5 (5 名) 森林保険のメリット・デメリットを考え今後に生かしたい／制度の根幹を理解できた

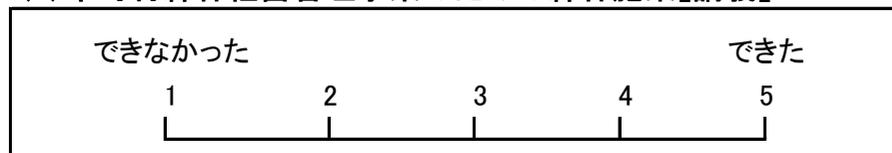
(5) 経営管理権集積計画演習【演習】



平均：4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (3 名) 時間をかけてほしい／複数県で班編成し課題を検討して発表する方が良かった
- 4 (7 名) 基本的事項の記載方法について参考になった／森林保険の取扱等参考になった
- 5 (6 名) 各市町村の事例や考えが参考になった

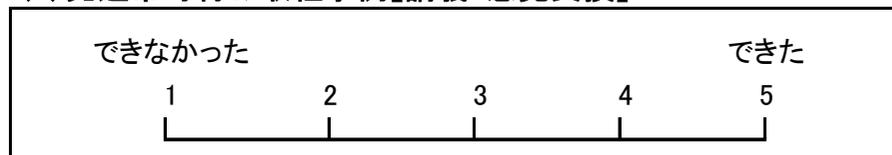
(6) 市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】



平均：4.0

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (4 名) 今後施業していく上でより深い知識が必要だと感じた
- 4 (9 名) 具体的に広葉樹を導入した事例が欲しい／森林施業の難しさを再確認した
- 5 (4 名) 広葉樹の天然更新の難しさを知った／新しい知見も得られた

(7) 先進市町村の取組事例【講義・意見交換】



平均：4.4

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名)
- 4 (8 名) 取組が素晴らしい／今後の業務に大変参考になる
- 5 (8 名) 協議会の設立、下流との連携が参考になった／取り入れられる部分は取り入れたい

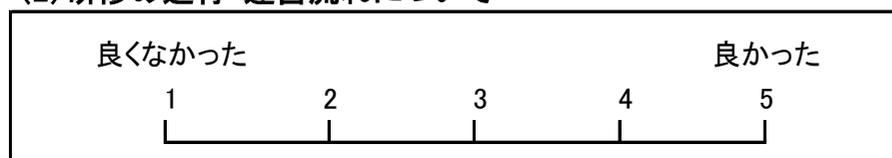
IV 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

1：できていた（15名）

2：できていない（2名） 課題の数をいくつ用意するのか分かりにくいところがあった

(2) 研修の進行・運営流れについて



平均：4.2

1（0名）

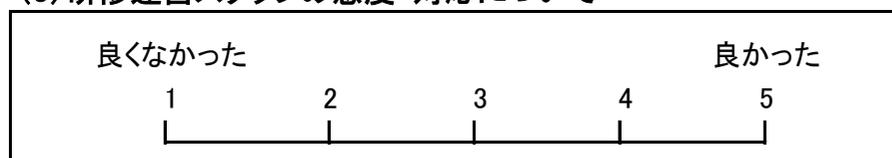
2（0名）

3（5名） もう少しざっくばらんな意見交換ができると良いと感じた

4（4名） ヘルメットは事務局で準備してもらいたい／全体としては良かった

5（8名） 資料を整理しやすいように配慮されていた／スムーズな研修を受けられた

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について



平均：4.8

1（0名）

2（0名）

3（1名）

4（2名）

5（14名） 不安に感じていた部分を補ってくれた／研修の円滑な実施に尽力されていた

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・ 全国の先進事例の情報を共有する研修があったら良いと思う
- ・ 事業が進んでいく中で、良かった・悪かった点等の意見交換ができる場を作ってほしい
- ・ 森林経営管理制度の取組ではなく、実際の運用方法についての研修をお願いしたい
- ・ 全国的に共通作業となる部分の単価（歩掛）作成
- ・ 研修を企画する方の立場でのサポートがあると助かる
- ・ 業務で発生した課題や不明点にその都度対応するサポート体制がほしい
- ・ 担当者だけでなく上層部にも説明してもらおう機会があると良い

(5)その他、自由に感想をお聞かせ下さい。

(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・ 民法の説明が分かりやすく参考になった
- ・ 林野庁からの話は今後の業務を進める上で大変貴重であった
- ・ 研修を通して本事業の目的を理解できた
- ・ 研修が長いと参加しにくいいため、短期間の研修を企画してほしい

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

40点未満 (0 名)

40点台 (0 名)

50点台 (0 名)

60点台 (0 名)

70点台 (3 名) 他県と課題についてグループディスカッションする時間がもう少しほしい

80点台 (5 名) 事前課題は全員がやる必要はない／説明が早い

90点台 (4 名) もう少し時間がほしい／タイムスケジュール管理に甘いところがあった

100点 (3 名) 民法の追加資料を配布したのが良かった

平均： 86 点

③森林管理円滑化対策研修 中部ブロック実施報告書

- 1 日程・研修場所 令和元年11月20日(水)～11月22日(金)
研修会場(20日、22日) ホテル グランヴェール岐山(岐阜市柳ヶ瀬通)
研修会場(21日) 郡上森林組合(郡上市八幡町稲成)
現地実習

- 2 研修受講者数:19名 [男性:19名 女性:0名]

(県職員11名、市町村職員6名、団体2名)

福島県	1名	石川県	1名	福井県	1名	山梨県	1名
長野県	1名	岐阜県	5名	静岡県	5名	愛知県	3名
三重県	1名						

途中欠席者数:1名(2日目:1名)

3 研修実施概要

○予定どおりカリキュラムを修了

○研修運営状況、研修生の様子など

【1日目】

安高志穂 林野庁森林整備部森林利用課森林集積推進室室長が開講式の挨拶を行い、カリキュラムに沿って研修が行われた。はじめに『森林経営管理制度の概要と現状』について、安高室長の講義が行われ、休憩をはさみ各都道府県における制度の取り組みの現状と課題について発表が行われた。

【2日目】

岐阜市からバスで移動し、優良民間事業者である郡上森林組合の木材センターを視察、そのあと、主伐再造林一貫施業の現場を視察し、郡上森林組合 笠野専務より『組合の概要や取組状況』について講義が行われ、活発な質疑があり郡上森林組合4名の担当者がそれぞれ返答。午後からは『経営管理権集積計画の作成』と『森林環境税及び森林環境譲与税』について、山口雄大 林野庁森林整備部森林利用課森林集積推進室企画係から作成についてや本税についてのこれまでの流れ、事例の紹介など説明。その後、事前課題として提出した集積計画の演習資料を使い各県代表1名ずつ発表し、意見交換を行った。

【3日目】

酒井 武 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 森林植生研究領域チーム長が『市町村森林経営管理事業のための森林施業』に関し森づくりの理念や広葉樹林化についてなどの考え方などについて講義が行われた。

次に、先進市町村の事例として中津川市について、内木宏人 中津川市農林部 統括主幹(兼)林業振興対策官が概要説明を行い、現在までに実施してきた意向調査での苦労話や問題点などについて説明し、質疑応答が行われた。

○今回の研修で工夫したこと

- ・2日目の現地研修と座学を実施するために、視察先事業体の会議室を借用し実施可能にした。
- ・岐阜県のサポートセンターを活用し、現場視察で利用するヘルメットを借用し準備した。

4 記録写真



林野庁開講挨拶



【講義】「森林経営管理制度の概要と現状」:1日目



【発表及び意見交換】都道府県における制度取組の現状と課題:1日目



【発表及び意見交換】道県における制度取組の現状と課題:1日目
・質疑応答



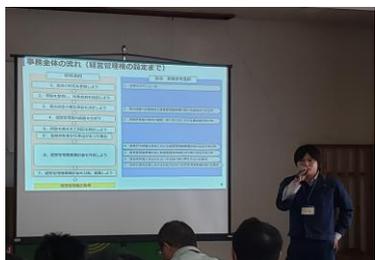
【現場視察・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換(外部講師/郡上森林組合(岐阜県)):2日目
現場視察(木材センター)



【講義・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換:2日目
現場視察(主伐再造林一環施業)
受講生が民間事業者の特徴のポイントを把握して、記載。共有した



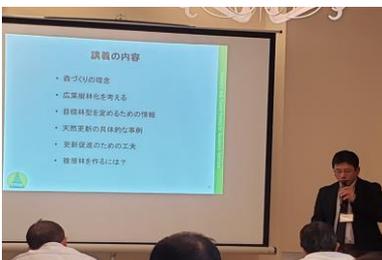
【講義・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換:2日目
・民間事業者との意見交換



林野庁講師による【講義】「経営管理権集積計画の作成」:2日目



【演習】「経営管理権集積計画演習」における発表と質疑:2日目



【講義】市町村森林経営管理事業のための森林施業(外部講師/酒井 武・国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所):3日目



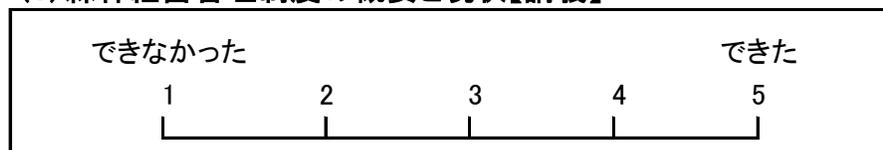
【講義・意見交換】先進市町村の取組事例(外部講師/内木宏人・中津川市農林部(岐阜県)):3日目

森林管理円滑化対策研修(ブロック研修) 中部ブロック アンケート集計結果

回収率： 18名 / 19名 (95%)

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

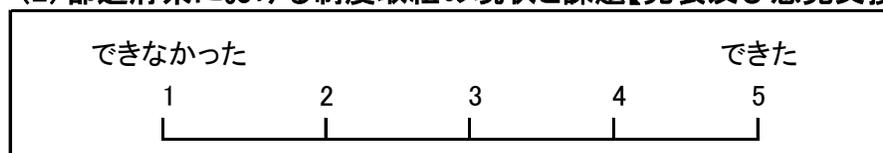
(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】



平均： 4.1

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (3名) 質問への回答についてももう少し時間がほしかった
- 4 (10名) 質問への回答は時間をかけて説明し、用紙にまとめてほしい／制度概要が理解できた
- 5 (5名) 全国の事例が増えてきており大変参考になる／内容がわかりやすい

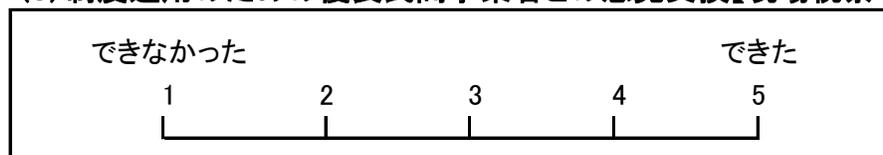
(2) 都道府県における制度取組の現状と課題【発表及び意見交換】



平均： 4.3

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (2名) 全体的に時間不足と感じた／本市の取り組みと似ている事例が多々あり参考になった
- 4 (9名) 質問時間を増やしてほしい／同じ悩みの県の方と情報共有できた
- 5 (7名) 長期的視点で構想を立てるために準備している市町が多いと感じた

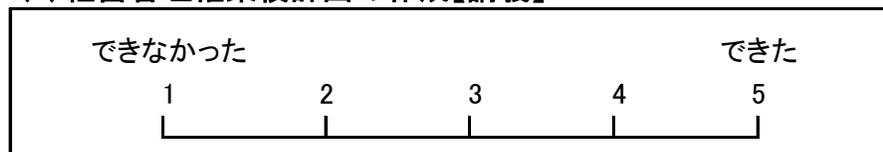
(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【現場視察・意見交換】



平均： 4.1

- 1 (0名)
- 2 (1名) 専門用語が多く、難しかった
- 3 (2名) 木材センターの現地において、仕分検知や品質判断技術を具体的に聞いたかった
- 4 (7名) 組織の考え方、施業方法が分かって良かった／管内の事業者の模範となる
- 5 (6名) 川上～川下の連携が図られており、優良事業者ということが確信(確認)できた

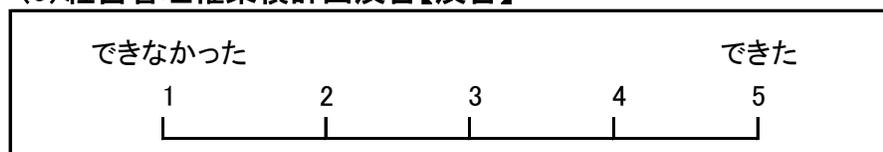
(4) 経営管理権集積計画の作成【講義】



平均: 4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 内容は理解できたが、市町村職員が理解できなければ制度を進められないと感じた
- 4 (10 名) ポイントを押さえた講義で分かりやすかった／不明点がある程度理解できた
- 5 (5 名) 実際に集積計画を作ることで理解を深められた／具体的な実習であった

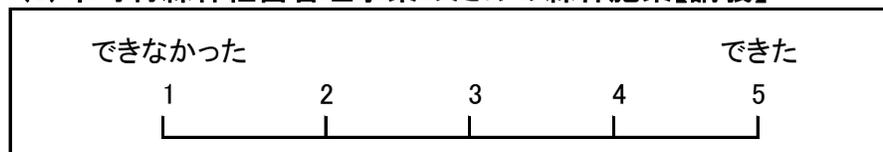
(5) 経営管理権集積計画演習【演習】



平均: 3.6

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (6 名) 「事務の手引き」を良く理解する必要があると感じた／各市町の計画が勉強になった
- 4 (10 名) 実際に計画するには相当の労力がかかることが分かった／ためになる実習であった
- 5 (0 名)

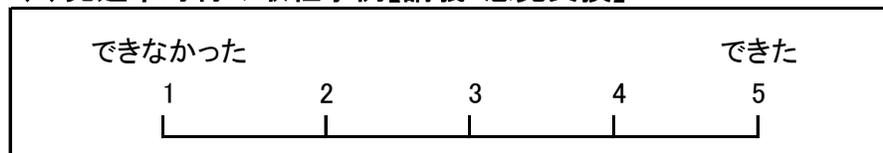
(6) 市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】



平均: 4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (3 名) 現在の森林の現状を学ぶことができた／現実的な質問があり、ためになった
- 4 (8 名) 広葉樹林化がいかに難しいかを知ることができ、大変参考になった
- 5 (6 名) 市町村向けに資料を使いたい／すぐに結果を求めてはダメだと感じた

(7) 先進市町村の取組事例【講義・意見交換】



平均: 4.5

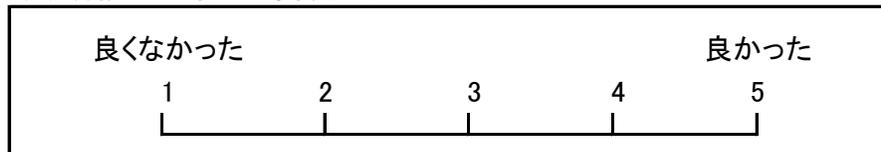
- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名)
- 4 (7 名) 林地台帳の登記情報が大切、精度を上げる必要があると感じた／指導の参考としたい
- 5 (9 名) 先進市町村の取り組みの中での問題点を教えていただき有難かった

IV 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

- 1 : できていた (18 名)
2 : できていない (0 名)

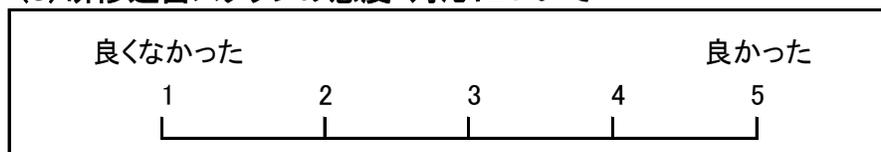
(2) 研修の進行・運営流れについて



平均: 4.1

- 1 (0 名)
2 (2 名) 全体的に時間不足。可能なら全ての講義に全県から意見させる時間がほしかった
3 (1 名) 問題なかった
4 (8 名) 概ね時間通りだったが、人数が多くて時間配分が難しかった
5 (7 名) 限られた時間の中で臨機応変に対応していただいた／スムーズな運営だった

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について



平均: 4.7

- 1 (0 名)
2 (0 名)
3 (1 名)
4 (3 名) 親切な対応だった
5 (14 名) 細かいところまで気配りが行き届いてた／親切・丁寧に対応いただき有難かった

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・ 実践的な研修はどうしても必要となってくるので、このような研修は継続していただきたい
- ・ 都道府県も困っていると思うが、実際この制度に直面している市町村にはもっと困っている方がいると思うので、できれば市町村レベルでの当研修を開催していただきたい
- ・ 市町村担当者向け（特に取り組みが遅れている市町村）の今回のような研修
- ・ 市町村によって取り組み方や進行段階が違うので、各段階の研修を当県でやってほしい
- ・ 市町や林政アドバイザー等、実務担当者に向けた研修の拡充
- ・ 集積計画の実技演習、またはそれに対する指導
- ・ 現地のモデル地区を利用した例題による集積計画の作成があれば良い
- ・ 集積計画のケーススタディ
- ・ 今回は集積計画作成までだったので、それ以降の手続き等についても知る機会があると良い
- ・ 今後の集約化計画作成から事業実施状況等の先進地の事例をまた教えてほしい
- ・ 今後、市町が関わる様々な状況の森林とその対応方法を検討する場がほしい
- ・ 広葉樹林化、混交林化についての技術研修、事例研究、設計研修
- ・ 針広混交林化や人工林の広葉樹林と天然林の混交林化に関わる研修があると良い
- ・ 森林整備以外の環境税の使い方、各県・各市町の先進事例、報告会等

- ・所有者探索の方法
- ・行政書や法律に関する研修

(5)その他、自由に感想をお聞かせ下さい。

(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・新たな制度に置き換えるのではなく、あくまで「追加」であるということが印象に残った
- ・郡上森林組合から直接話を聞く貴重な時間が得られ有意義であった
- ・先進事例や広葉樹林化の難しさ等、実際に聞いてみないと分からないことを知ることができてとても良かった
- ・各県で苦労されているところが共感できた
- ・「市町村森林経営管理事業のための森林施業」が大変参考になった
- ・質疑応答の時間がもっとあっても良い
- ・各県1名の発表では発言する機会がない人もいるので配慮して欲しい(グループ討議等)
- ・グループワークを用いた討議がほしい
- ・来年も同様の研修を実施するのであれば、研修期間を3日間から4日間にしてほしい
- ・市の集積計画が作成されるであろう、R2、R3年度に事例研修を希望したい
- ・現地の研修をもっと充実させてほしい
- ・ブロック単位のメリットとして、他県事例を知り、ネットワーク構築ができる。その反面、自分の市に即時当てはまる内容が全てではないことの考慮が必要だと感じた
- ・意見交換等で現場の意見を聞けたので良かった
- ・「四日夜の意見交換会」。あのような場でこそその話し合いができた
- ・意見交換の時間がもっとあった方が良かった
- ・会議室が寒かった

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

40点未満	(0名)	
40点台	(0名)	
50点台	(0名)	
60点台	(1名)	各講義での時間不足
70点台	(1名)	意向調査についてもっと詳しく知りたかった
80点台	(7名)	各県の発表時間が足りなかった/研修期間が短かった
90点台	(7名)	集約化計画から施業について状況が分からなかった
100点	(2名)	

平均: 86 点

④森林管理円滑化対策研修 近畿ブロック実施報告書

- 1 日程・研修場所 令和元年10月2日(水)～令和元年10月4日(金)
研修会場 きのくに中津荘(和歌山県日高郡日高川町高津尾1049)
現地実習 日高川町上越方地内山林及び日高川町小釜本地内集積土場

- 2 研修受講者数:16名 [男性:14名 女性:2名]
(府県職員:11名、市町村職員:2名、団体:3名)

京都府	1名	大阪府	1名	兵庫県	1名	奈良県	3名
和歌山県	9名	山口県	1名				

途中欠席者数:1名(1日目:1名)

3 研修実施概要

○予定どおりカリキュラムを修了

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は、「森林経営管理制度の概要と現状」の講義、「都道府県における制度取組の現状と課題」について発表及び意見交換を行った。質疑応答は活発で、特に取組事例では、サポートセンターに関する質問が多かった。

・2日目は、午前中は「制度運用のための優良民間事業者との意見交換」で現場視察と意見交換を行った。『紀中地域林業躍進プロジェクト』において川上から川下まで連携した一貫作業により素材生産量の増大に取り組んでいる紀中森林組合が現地を説明。当組合は一時期主伐から離れていたことを踏まえ、再び主伐に取り組むことになった経緯について質問や意見交換がなされた。木材集積土場では、モデル的に取り組んでいる直送・システム販売の考え方について説明があった。午後からは「経営管理集積計画の作成」の講義と「経営管理集積計画演習」の発表及び意見交換を行った。演習では受講者が作成した集積計画で、特に多かった記載ミスについて林野庁から指摘がなされ、今後注意していくべき点を情報共有した。

・3日目は、「市町村森林経営管理事業のための森林施業」の講義、「先進市町村の取組事例」の講義及び「森林環境税及び森林環境譲与税について」の講義を行った。広葉樹林の天然更新はあまり期待できないこと、日高川町は意向調査を行う前に相続関係や現地調査を丁寧に調べ上げて慎重に進めていることなどを伺い、意見交換をした。

・全体として、受講者からの質問や意見が多く、講師役の林野庁からも法律や政省令に基づく見解を体系的に学ぶことができ、有意義な研修であったと考える。

○今回の研修の工夫点

[工夫点]

・現地研修は林野庁の「スマート林業構築実践事業」を実施している施業地とし、研修受講者の見識拡大を図った。また、研修会場を現地視察の場所の近接に設定し、移動による時間のロスを極力減らした。

4 記録写真



林野庁開講挨拶



【講義】森林経営管理制度の概要と現状：1日目
・林野庁講師による講義



【発表および意見交換】都道府県における制度取組の現状と課題：1日目
・受講生による発表



【発表および意見交換】都道府県における制度取組の現状と課題：1日目
・県単位で発表に対する質問整理



【現場視察・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換紀(外部講師／中森林組合(和歌山県))：2日目
紀中森林組合の現場で、伐倒など一連の作業を見学



【現場視察・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換：2日目
・紀中森林組合の木材集積場で仕分け方法を説明



【現場視察・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換：2日目
・紀中森林組合との意見交換



【講義】経営管理権集積計画の作成
・林野庁による講義



【演習】経営管理権集積計画演習：2日目
・受講生が作成した集積計画を発表



【講義】市町村森林経営管理集積のための森林施業(外部講師／八木橋勉・国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)：3日目



【講義・意見交換】先進市町村の取組事例(外部講師／高川敬一・日高川町役場(和歌山県))：3日目



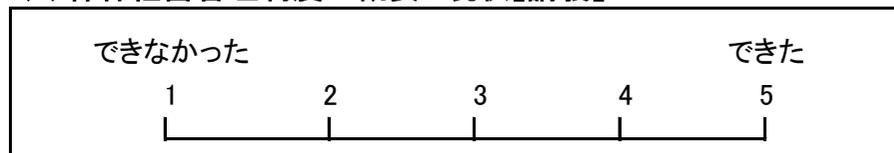
【3日間のふりかえり】振り返りシートの記入：3日目

森林管理円滑化対策研修(ブロック研修) 近畿ブロック アンケート集計結果

回収率： 16名 / 16名 (100%)

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

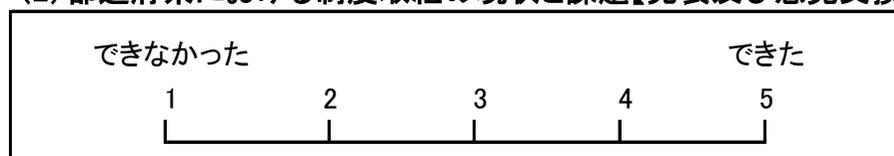
(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】



平均：4.0

- 1 (0名)
- 2 (1名) 法律の知識が乏しく、行政手続法関連の話が難しかった
- 3 (1名) 市町村等の取組事例が確認できて良かった
- 4 (10名) Q&Aについてより詳しく知りたかった／詳しい内容を短時間で聞くことができた
- 5 (3名) 制度の概要が理解できた

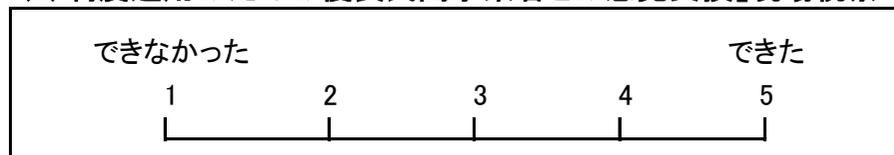
(2) 都道府県における制度取組の現状と課題【発表及び意見交換】



平均：4.0

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (4名) 他府県の取り組みをもう少し聞きたかった／有益な情報が得られた
- 4 (7名) 各府県の取組発表が参考になった／質疑によって理解が深まった
- 5 (4名) 各府県の取組状況が良く分かった／今後、情報交換の必要性を感じた

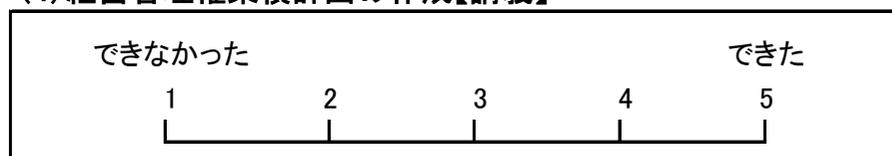
(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【現場視察・意見交換】



平均：4.2

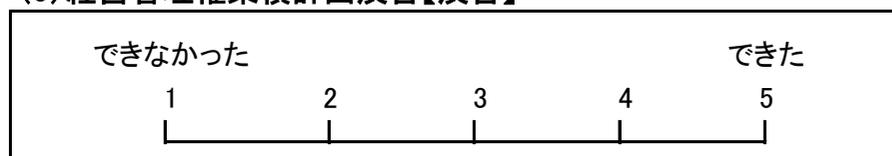
- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (3名) 地元業者と普段からコミュニケーションをとり理解しておくことが大切だと思った
- 4 (7名) 持ち帰って活用できるかは疑問に思った／現場とセットの解説で理解が深まった
- 5 (6名) 意欲的な事業者の考えや姿勢を知ることができた／生産～販売の流れが参考になった

(4) 経営管理権集積計画の作成【講義】



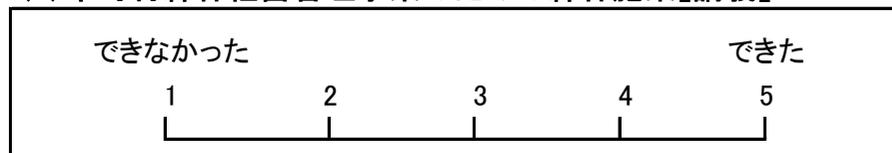
- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 難しく、計画制度自体に疑問を感じる
- 3 (3 名) 理解不足の部分があったので整理したい／質問に対するコメントにより理解できた
- 4 (7 名) 当初思っていた制度と若干違った／意向調査の重要性を再確認できた
- 5 (5 名) 作成時の注意点が良く分かった／ポイントが絞ってあり分かりやすかった

(5) 経営管理権集積計画演習【演習】



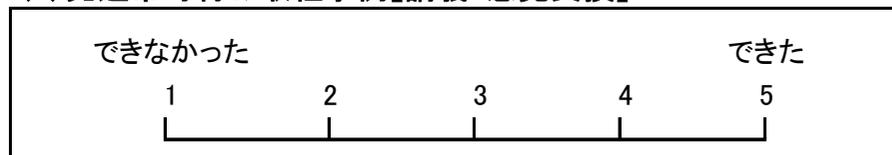
- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (5 名) 事前作成で一部認識が違っていた点を確認できた／具体的な演習で理解が深まった
- 4 (4 名) 実際にやることで疑問点が明らかになり良かった
- 5 (7 名) 対話形式で疑問が解消され有意義であった／他の方の計画や考えが大変参考になった

(6) 市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】



- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (3 名) 生物多様性の観点から森林整備について考えるきっかけになった
- 4 (8 名) 施業方針も簡単には決めにくいと思った／針広混交林化の困難が良く分かった
- 5 (4 名) 広葉樹林の仕立て方法・技術の普及が必要だと感じた／非常に分かりやすかった

(7) 先進市町村の取組事例【講義・意見交換】



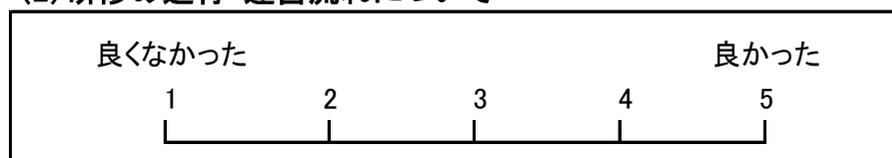
- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) 先進的に取り組んでいる町の状況を確認することができた
- 4 (9 名) 市町村が抱える課題や問題点、実態を把握できた／先進的な事例で参考になった
- 5 (6 名) 市町村の苦勞を改めて感じた／サポートが必要な箇所も分かって良かった

IV 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

- 1：できていた（15名）
2：できていない（1名） 事前課題が分かりづらかった

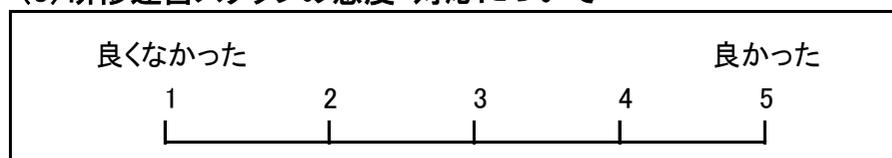
(2) 研修の進行・運営流れについて



平均：4.3

- 1（0名）
2（0名）
3（3名） 現地研修時に持参してない資料を使って説明があり、スタッフの連絡不足を感じた
4（6名） 休憩時間を多めにしてほしい／意見交換が十分にできる構成となっていた
5（7名） 最後に制度に関する質問タイムを設けた方がより良かった／スマートな進行だった

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について



平均：4.6

- 1（0名）
2（0名）
3（2名）
4（2名） 運営スタッフの対応が良かった
5（12名） 様々なフォローがあり良かった／気軽に声をかけられる雰囲気で大変助かった

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・ 森林経営管理制度の各段階の実践的な研修を順次実施してほしい
- ・ 集積計画の作成についてももう少し詳しい内容の演習を実施してほしい
- ・ 経営管理実施権配分計画に関する研修をお願いしたい
- ・ 針広混交林にする誘導のポイント等の現場があれば良いと思った
- ・ 業務補助プログラム（地域内の森林情報・施業履歴等をまとめる）の開発・整備
- ・ スイスフォレスターによる地域の森林管理構想の実現について学ぶ研修があったら良いと思う
- ・ 法律関係のサポートがほしい
- ・ 市町村対象の同様の研修があれば参加したい
- ・ 市町村と県と一緒に参加して演習等に取り組む研修があったら良いと思う
- ・ 他の都道府県職員や市町村職員と意見交換をするスタイルの研修が良い
- ・ 都道府県の市町村に対する支援・相談窓口部署で定期的に情報交換ができる場があれば良いと思う
- ・ 意向調査が進み、集積計画を作成していく中で出てきた課題等の情報提供の場がほしい
- ・ 今まで通り林野庁において常時相談に対応してもらえるとありがたい
- ・ Q&Aにひたすら答える研修でも良いと思う
- ・ 森林環境税の周知が必要だと感じた

(5)その他、自由に感想をお聞かせ下さい。

(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・ 非常に有意義な研修だった
- ・ 集積計画演習は色々な考え方があるということを再認識した
- ・ 集積計画演習で色々な方の意見ややり方を拝見でき、今後の自分の取り組みに反映していきたい
- ・ 優良民間事業者との意見交換会で発表された事業者の現場は「日本の林業の補助政策の縮図」として印象深かった
- ・ Q&A実施してくれるのは大変ありがたかった
- ・ 自身でかなり勘違いしていた部分が改善された
- ・ 講義や現地視察だけではなく研修生間の交流も含めて有益な知識情報を共有することができた
- ・ 意見交換会が良かった
- ・ だ手探りな部分も多い制度だが、少しずつ進めることが大事だと感じた
- ・ 今後このような研修を企画される場合は、林野庁 F a c e b o o k など外向への情報発信を行っていただければ嬉しい
- ・ 後のブロック会議の資料依頼については賛同しかねる
- ・ 別館の宿泊面倒だった

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

40点未満	(0 名)	
40点台	(0 名)	
50点台	(0 名)	
60点台	(0 名)	
70点台	(0 名)	
80点台	(3 名)	研修の時間配分に余裕がほしい／もう少し意見交換ができれば良かった
90点台	(7 名)	集積計画は講義を聞いた上で再検討したい／現地はなくても良かった
100点	(6 名)	

平均： 93 点

⑤森林管理円滑化対策研修 中国ブロック実施報告書

- 1 日程・研修場所 令和元年11月27日(水)～11月29日(金)
研修会場:新見商工会館(岡山県新見市)
現場視察:皆伐再造林一貫施業システムの現地(新見市哲西町)

- 2 研修受講者数:13名 [男性:11名 女性:2名]

(県職員6名、市町村職員5名、団体2名)

兵庫県	1名	鳥取県	5名	島根県	3名	岡山県	3名
広島県	1名						

途中欠席者数:1名(1日目:1名、2日目:1名)

3 研修実施概要

○予定どおり全カリキュラムを修了

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は、開講式・オリエンテーションにおいて、研修の成果と目標を全体で共有した。
・「森林経営管理制度の概要と現状」について、林野庁の担当者からの講義後、各道県から当該制度への取組の現状と課題について発表があり、その後、質疑が行われた。

・2日目は、「制度運用のための優良民間事業者との意見交換」では、最初に岡山県新見市森林組合職員からパワーポイントにより事業体の概要、事業への取り組みについて説明があった。その後、一貫施業、森林整備を行った現地へ移動し現地で施業の説明を受けた。研修会場に帰り、質疑応答が行われた。また、施業で使われたコンテナ苗(ヒノキ)について実物を見ながら新見市森林組合から説明を受けた。

・午後から、「経営管理権集積計画の作成」について、林野庁担当者からの講義が行われ、質疑が行われた。

「経営管理権集積計画演習」では各県に分かれて発表し、その後、質疑が行われた。

・最終日は、森林総合研究所の外部講師による「市町村森林経営管理事業のための森林施業」の講義が行われ、目標とすべき林型、更新方法、複層林・混交林等に関する技術や、その問題点・課題について説明があった。その後、先進市町村の取組事例として岡山県西粟倉村の職員から「百年の森構想」のビジョン、10年間の取り組みについて説明があったほか、研修全体を通じた制度に関する留意事項が示され、質疑応答がなされた。

・各日の最後には、受講生がその日一日に実施した内容をふりかえる時間を設けたが、熱心にふりかえりシートに書き込む姿が見受けられた。

・質問や意見も積極的に行われ、本研修を無事修了することができた。

○今回の研修で工夫したこと

[工夫点]

・座席はスクール形式としたが、県単位で協議しやすいように、同じ道県の研修生が隣接するように配置した。

・2日目午前中の「制度運用のための優良民間事業者との意見交換」の研修は、片道30分程度で移動が出来る一貫施業による植栽地、間伐地が隣接する施業地にした。また、コンテナ苗の実物を受講生に見てもらい、実際の根張りなど直接触れて見てもらった。

・名札は、それぞれの役割が分かるように、研修生、講師、事務局の3種類で色を変えて作成した。

4 記録写真



林野庁開講挨拶



【講義】森林経営管理制度の概要と現状：1日目
・林野庁による講義



【発表及び意見交換】都道府県における制度取組の現状と課題：1日目
・受講生の発表



【現場視察・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換（外部講師／新見市森林組合（岡山県））：2日目
・新見市森林組合の取り組みの説明



【現場視察・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換：2日目
・皆伐再造林一貫作業システムを実施した現場において説明



【現場視察・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換：2日目
・一貫作業で用いられるコンテナ苗（ヒノキ）の説明



【講義・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換：2日目
・事業者との質疑応答



【講義】「経営管理権集積計画の作成」の講義：2日目
・林野庁による講義



【講義】市町村森林経営管理事業のための森林施業（外部講師／佐藤保・森林総合研究所林業研究部門森林植生研究領域長）：3日目



【講義・意見交換】先進市町村の取組事例（外部講師／豊福靖宏・西粟倉村役場産業観光課）：3日目



総括・留意事項の時間での質疑応答：3日目



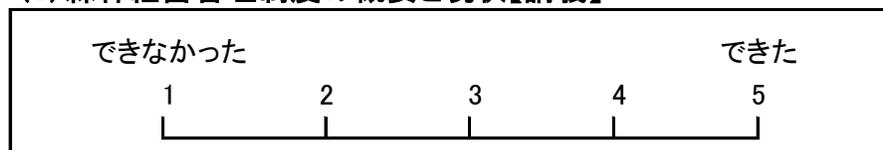
ふりかえり：3日目

森林管理円滑化対策研修(ブロック研修) 中国ブロック アンケート集計結果

回収率： 13名 / 13名 (100%)

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

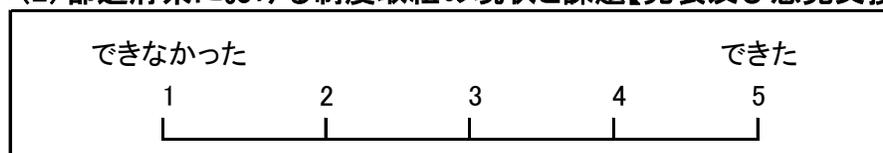
(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】



平均： 4.3

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (1名)
- 4 (6名) 意向調査方法や所有者への説明会内容を提示していただけるとより分かりやすい
- 5 (5名) Q&Aの解説時間がしっかりとられていて分かりやすかった／疑問も参考になった

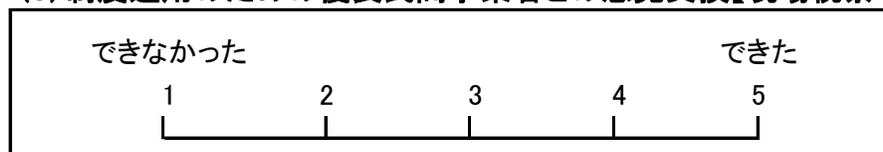
(2) 都道府県における制度取組の現状と課題【発表及び意見交換】



平均： 4.3

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (2名) 他市町村と足並みを揃えて制度を進めて行きたい
- 4 (5名) 新しい繋がりができ、これから意向調査を行うにあたり助けになると思う
- 5 (5名) 他県や他市町村の現状や課題を聞くことができ参考になった

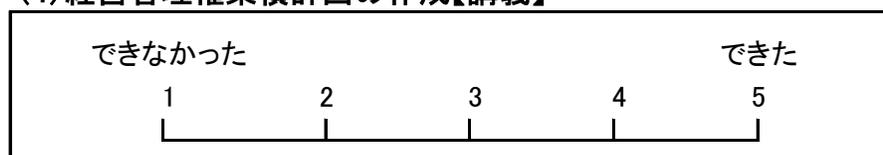
(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【現場視察・意見交換】



平均： 4.5

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (1名) 林業を持続的に進めていくには、地元で根を張ることが必要だと感じた
- 4 (4名) 森林組合が地域貢献を考えていることが理解できた
- 5 (7名) 事業者と現場で意見交換をすることで、大変勉強になった

(4) 経営管理権集積計画の作成【講義】



平均: 4.6

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (5 名) 集積計画作成の流れを復習できた／作成時に疑問に思った記入方法等を理解できた
- 5 (7 名) 手引きについてポイントを説明してもらい分かりやすかった

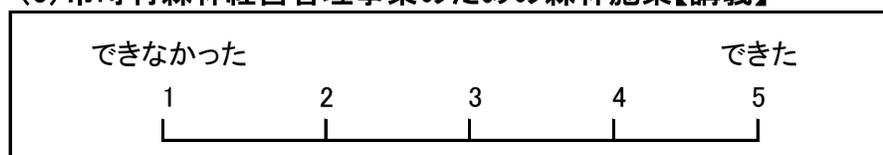
(5) 経営管理権集積計画演習【演習】



平均: 4.3

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (8 名) 各県の制度進捗状況も踏まえて理解することができた
- 5 (4 名) 課題と問題を整理し、修正する方向が分かった

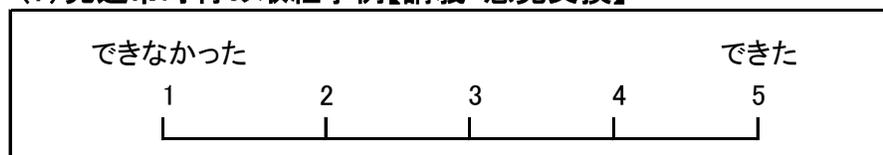
(6) 市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】



平均: 4.4

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名)
- 4 (4 名) 市町村管理の手法として広葉樹林化に必要な考え、手法を知ることができた
- 5 (7 名) 広葉樹林化施業を行う上で、注意するポイントを知ることができたので良かった

(7) 先進市町村の取組事例【講義・意見交換】



平均: 4.4

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名)
- 4 (5 名) 県内の市町村でも考え方等参考可能な部分があったと思った
- 5 (6 名) 制度の向かうべき方向を実感することができた

IV 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

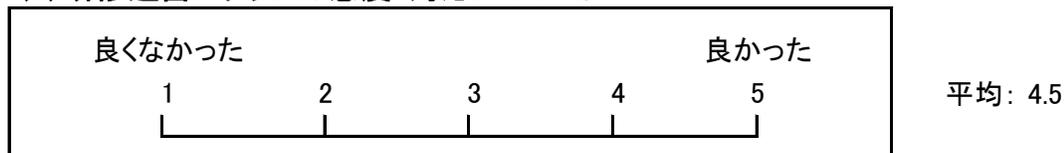
- 1：できていた（10名）
2：できていない（2名） 研修参加の連絡や事前課題への周知が遅かった

(2) 研修の進行・運営流れについて



- 1（0名）
2（0名）
3（2名）
4（7名） 時間配分を考え、スムーズな進行・運営をしていただけた
5（4名） 時間通り進められて良かった

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について



- 1（0名）
2（0名）
3（0名）
4（7名） 丁寧に対応頂いたと思う／色々な心遣いをしていただき感謝
5（6名） 適切なタイミングでフォローがあり助かった

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・ 今回のような研修を継続していただければと思う
- ・ 意向調査手法についての講義があると良い
- ・ 集約化の実務を深めた内容の研修
- ・ 集積後の実施権の作成方法
- ・ 進捗に合った段階毎の研修があると有難い
- ・ 制度の進捗に合わせて、各自治体の取組状況を紹介
- ・ 市町村担当者は次々と変わっていくので、市町村向けの研修を毎年開催してほしい
- ・ 市町村職員は数年で異動し、林務について全く知識の無い職員も担当する。各市町村で引継ぎをすべきと思うが、難しい状況のため、初任者研修があれば助かる（都道府県主催でも良い）と思う
- ・ 森林初心者（林業資格のない人）が理解しやすい研修
- ・ GISを使用して対象森林の絞り込み方の講義をしてほしい
- ・ 事業を加速化していく施業の提案
- ・ 他会場も含めたQ&A
- ・ 簡単なQにも電話やメールで教えてくれる総合的なサポートがほしい

(5)その他、自由に感想をお聞かせ下さい。

(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・ 良く考えられた研修内容だったと思う
- ・ 3日間、少人数でこれぐらいの規模の研修が丁度良い
- ・ 新見市森林組合の現場視察と講義
- ・ 組合の取組状況を聞けたので、他事業体からの話も聞いてみたい
- ・ 現場の声が聞けたことが良かった
- ・ 針広混交林化を安易に考えていたので担当部署でもう一度協議したいと思う
- ・ 演習の時間がもう少しあればもっと良いと思った

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

40点未満	(0 名)	
40点台	(0 名)	
50点台	(0 名)	
60点台	(0 名)	
70点台	(1 名)	制度内容は中央研修でも講義されていたので講義時間を調整しても良い
80点台	(4 名)	事前課題の準備にもう少し時間がほしかい
90点台	(3 名)	現地が物足りない、意向調査に関する内容もほしい
100点	(4 名)	

平均： 89 点

⑥森林管理円滑化対策研修 四国ブロック実施報告書

- 1 日程・研修場所 令和元年11月6日(水)～11月8日(金)
研修会場 徳島県東部農林水産局(徳島県徳島市)
とくぎんトモニプラザ(徳島県徳島市)
ホテルグランドパレス(徳島県徳島市)

- 2 研修受講者数:22名 [男性:20名 女性:2名]
(県職員13名、市町村職員8名、団体1名)

徳島県	9名	香川県	1名	愛媛県	7名	高知県	4名
奈良県	1名						

途中欠席者数:4名(2日目:2名、3日目:4名)

3 研修実施概要

○予定どおり全カリキュラムを修了

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は、開講式・オリエンテーションにおいて、研修の成果と目標を全体で共有した。
・「森林経営管理制度の概要と現状」について、林野庁の担当者からの講義後、各県から当該制度への取組の現状と課題について発表があり、その後、質疑や意見交換が行われた。

・2日目は、午前中に実施した「制度運用のための優良民間事業者との意見交換」では、民間事業者の代表理事が木質チップ生産事業やペレット生産事業の概要・エコサイクルへの取組状況について、パワーポイントを使用して研修生に紹介した。講義終了後、人員確保や雇用形態などについて民間事業者への質疑・意見交換が行われた。終了後は、「経営管理権集積計画の作成」に関する講義を実施後、当該計画策定に係る演習が行われ、発表や質疑があった。

・最終日は、森林総合研究所の外部講師による「市町村森林経営管理事業のための森林施業」の講義が行われ、目標とすべき林型、更新方法、複層林・混交林等に関する技術や、その問題点・課題について説明があった。その後、先進市町村の取組事例として那賀郡那賀町、美馬市やましごと工場の両職員から「森林経営管理制度」の取り組みやサポートセンター・団体設立の経緯、ビジョン等について説明があったほか、意向調査業務の現状等、研修全体を通じた制度に関する留意事項が示され、質疑応答がなされた。

・各日の最後には、受講生がその日一日に実施した内容をふりかえる時間を設けたが、熱心にふりかえりシートに書き込む姿が見受けられた。

・質問や意見も積極的に行われ、本研修を無事修了することができた。

○今回の研修で工夫したこと

[工夫点]

・座席はスクール形式としたが、県単位で協議しやすいように、同じ県の研修生が隣接するように配置した。

・2日目午前中の「制度運用のための優良民間事業者との意見交換」の研修は、当初、会社を訪問し作業現場を視察する予定であったが、事前調査の結果、移動時間だけで往復2時間程度を要することから、民間事業者と協議し、効率的な研修を実施する観点から、講師の方に研修会場に来ていただいて意見交換する方法に変更した。

4 記録写真



林野庁開講挨拶と【講義】森林経営管理制度の概要と現状: 1日目



【発表及び意見交換】県における制度取組の現状と課題: 1日目
・受講生による発表



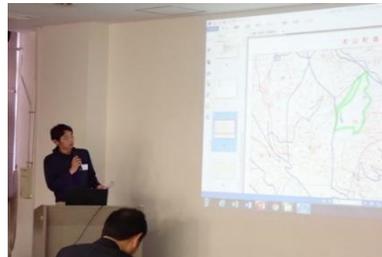
【発表及び意見交換】県における制度取組の現状と課題: 1日目
・発表に対して質問する受講生



【講義・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換(外部講師/つるぎ木材加工協同組合(徳島県)): 2日目



【講義】経営管理権集積計画の作成: 2日目
・林野庁講師による講義



【演習】経営管理権集積計画演習: 2日目
・受講生による課題の発表



【講義】市町村森林経営管理事業のための森林施業(外部講師/佐藤保・森林総合研究所林業研究部門森林植生研究領域長): 3日目



【講義・意見交換】先進市町村の取組事例①(外部講師/橋本浩志・那賀町(徳島県)): 3日目



【講義・意見交換】先進市町村の取組事例②(外部講師/工藤剛生・徳島県西部総合県民局(美馬)やましごと工房担当者): 3日目



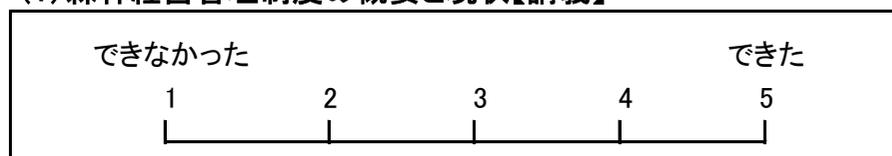
総括・留意事項の時間での質疑応答: 3日目

森林管理円滑化対策研修(ブロック研修) 四国ブロック アンケート集計結果

回収率： 18名 / 22名 (82%)

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

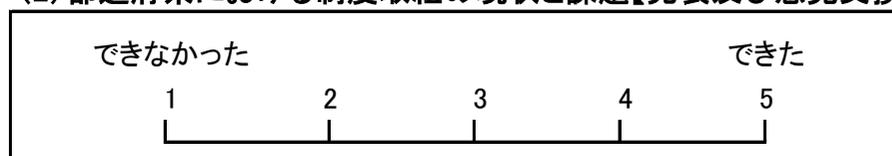
(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】



平均：4.3

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (1名) 改めて復習となった
- 4 (10名) 大まかな概要と現状を理解・認識できた／他の自治体の事例は参考になった
- 5 (7名) 質問へ一つ一つ答えていただき、非常に分かりやすかった

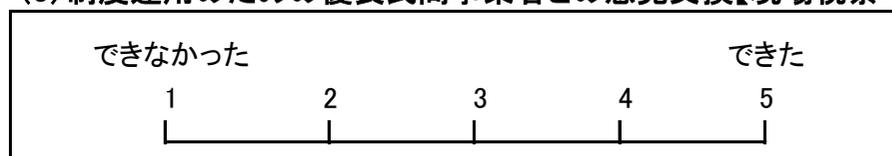
(2) 都道府県における制度取組の現状と課題【発表及び意見交換】



平均：4.1

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (4名) 各県で取り組みの進展に差があることが分かった
- 4 (9名) 全国の自治体の事例集等があると業務の参考になると思われる
- 5 (5名) 各市町の取組内容やどのような課題を抱えているのかを知り大変参考になった

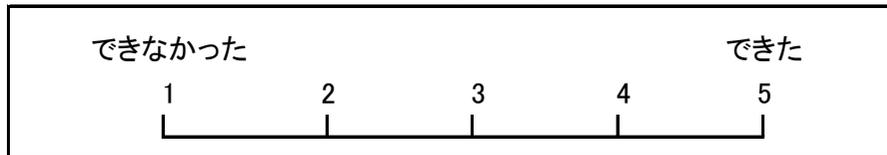
(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【現場視察・意見交換】



平均：4.4

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (1名) 思いが伝わってきた
- 4 (8名) 一貫施業での工夫、取り組みの経緯・意識を聞いて参考になった
- 5 (9名) 取組事例には参考とすべき点が大いにあった

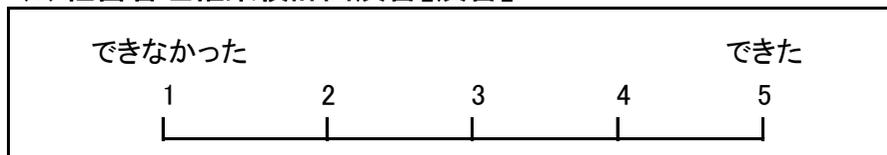
(4) 経営管理権集積計画の作成【講義】



平均: 3.9

- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 多くのパターンで試行を繰り返す必要があると感じた
- 3 (4 名) 実際にやってみないと分からないことが多かった
- 4 (8 名) 配分計画等の先の内容にも触れてほしかった／要点がまとまっていて良かった
- 5 (5 名) 細かい説明をいただけて理解が深まった／計画作成の留意事項が再認識できた

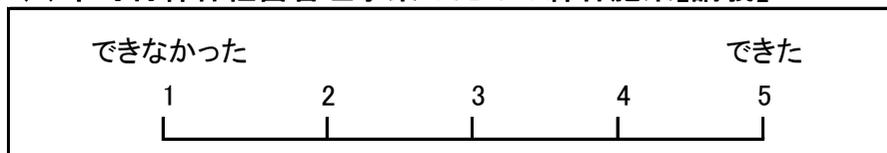
(5) 経営管理権集積計画演習【演習】



平均: 3.8

- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 情報が多く、まだ整理できていない
- 3 (5 名) モデル的に同じ場所を受講生同士で作成してみても良いのではないかと思った
- 4 (7 名) アンケート調査の段階からを想定して作成すると良いと思う／より理解が進んだ
- 5 (4 名) 色々な考えで取り組みながら集積計画を作っており参考となった

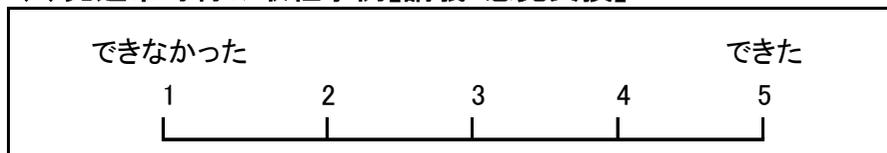
(6) 市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】



平均: 4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (3 名) 天然更新により混交複層林に誘導することの難しさは理解した
- 4 (9 名) 前生稚樹の重要性を感じ、地域の特性に合わせた取り組みが必要だと思う
- 5 (6 名) 広葉樹林化への理解が深まったが、天然更新完了基準の運用について疑問が残る

(7) 先進市町村の取組事例【講義・意見交換】



平均: 4.4

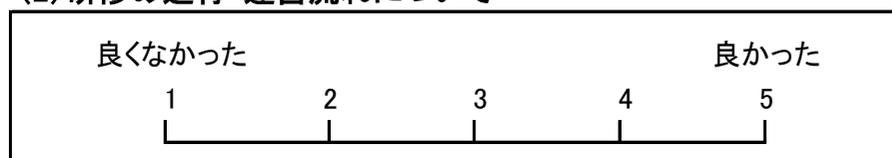
- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 制度を現場に落とし込み、将来に向けての課題を洗い出していることを知れた
- 4 (7 名) 意向調査や計画策定を実際の施業に繋げていけるか課題であることを改めて感じた
- 5 (9 名) 今やっていることなので実感が沸いた。帰って地元市に参考として情報提供したい

IV 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

- 1：できていた（16名）
2：できていない（2名） 会場やカリキュラムの急な変更が多かったため

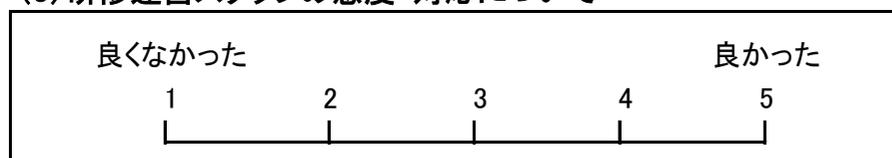
(2) 研修の進行・運営流れについて



平均：4.1

- 1（0名）
2（0名）
3（4名） 時間管理は厳格な方が良いと思う
4（9名） 少しトイレ休憩が欲しいコマがあった／プログラム毎の内容は問題なかった
5（5名） 進行・運営等スムーズにできていた／目的に合った運営となっていた

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について



平均：4.5

- 1（0名）
2（0名）
3（1名） 概ね良いと思う
4（7名） 丁寧で良かった
5（10名） 隅々までケアしていただき助かった

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・ 制度が活用され進んでいけば、事例も増えるので色々と聞いてみたい
- ・ 制度がもう少し進み問題が多く出てきた頃に、同じ目的の研修をするとより実感がわき、分かりやすいと思う
- ・ 今後、制度の運用を進めるにあたって発生した課題や問題点等を取りまとめ、実際にどのような対処をしているのか、どう対処すべきか等の研修をしていただきたい
- ・ 他県や他市町村の事例の情報提供、運用後の定期的なQ&Aの研修
- ・ 実際に進めてトラブル等のあった県市町村の事例も聞かせてほしい
- ・ 経営管理制度の事例等をまとめて、内容等を説明していただけるような研修
- ・ 市町村職員対象の実務研修
- ・ 実際に運用していく市町村担当者に積極的にご参加いただき、事例も踏まえた研修に参加したい
- ・ 県ごとに進み具合も違うため難しいが、自県としては、まだ集積計画の段階ではなく、意向調査に向けた市町担当者向けの研修が必要と感じた
- ・ 各ブロックでの市町村職員向けの研修を開催してほしい。東京で開催されているが、遠方まで向かう必要があるため、市町村は前向きに検討できない

- ・ 新たな森林管理システムの運用において、実際に集積～施業まで至った団体の講演
- ・ 現地視察
- ・ 集積計画作成以後のプランニングや配分計画に至るまでの演習等
- ・ その後の配分計画などの実務研修
- ・ 譲与税の使道・判断基準に関する情報共有で、オンライン会議でできると良い

(5)その他、自由に感想をお聞かせ下さい。

(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・ 目的に合った良い研修であったと思う。引き続き、情報の提供をお願いしたい
- ・ 担当が1名の町村職員には大変参考になり、安心もできた
- ・ 2日目の民間事業体の講義が印象に残った。現場で働く人の意見をもっと聞きたい
- ・ 事業体の講義
- ・ 全体講義を通して、森づくりは100年の話であり、理想とする目標を掲げ、次世代につながる。そして、担当者で取り組む、また、所有者・地域を巻き込んで行う必要があると感じた
- ・ 三間先生が我々の立場に立って対応していただいたことに感謝
- ・ 疑問、不安、課題の共有という点で、次回開催を期待したい
- ・ 経営管理集積計画を手引き等だけで課題を考えたり、作成したりするのは難しかった
- ・ 研修時、出席者の名刺のコピーをいただければ良かった

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

40点未満	(0 名)	
40点台	(0 名)	
50点台	(0 名)	
60点台	(0 名)	
70点台	(3 名)	内容が盛りだくさん、論点を絞って集中、実務研修にした方が良い
80点台	(4 名)	時間管理と研修場所の統一
90点台	(5 名)	先進地市町村の取組について、市町村担当者の声も聞きたかった
100点	(5 名)	

平均: 88 点

⑦森林管理円滑化対策研修 九州ブロック実施報告書

- 1 日程・研修場所 令和元年10月23日(水)～10月25日(金)
研修会場 熊本市民会館シアーズホーム夢ホール(熊本県熊本市中央区)

- 2 研修受講者数:22名 [男性:21名 女性:1名]
(県職員12名、市町村職員3名、団体7名)

福岡県	3名	長崎県	3名	熊本県	6名	大分県	6名
宮崎県	1名	鹿児島県	3名				

途中欠席者数:1名(2日目:1名)

3 研修実施概要

○予定どおりカリキュラムを修了

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は、中山昌弘 林野庁森林整備部森林利用課森林集積推進室課長補佐が開校式の挨拶を行い、カリキュラムに沿って研修が行われた。まずは、「森林経営管理制度の概要と現状」について、室木直樹 企画係長の講義が行われ、10分の休憩をはさみ各都道府県における制度の取り組みの現状と課題について発表が行われた。

・2日目は、優良民間事業者である上球磨森林組合による「組合の概要や取り組み状況」について講義が行われ、活発な質疑応答があった。午後からは、「経営管理集積計画の作成」について室木係長から説明があった。さらには、「森林環境税及び森林環境譲与税」について中山課長補佐が、本税についてのこれまでの流れや取り組み事例の紹介などを説明。その後、事前課題として提出した集積計画の演習資料を使い各県代表1名ずつ発表させ、意見交換を行う。

・3日目は、外部講師:農学博士の佐藤保 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林業研究部門 森林植生研究領域長が「市町村森林経営管理事業のための森林施業」と題し、森づくりの理念や広葉樹林の考え方、複層林を作る場合の考え方などについて講義が行われた。

次に、市町村の事例として南関町について、町担当者に代わり中田靖彦 熊本県農林水産部 森林局 森林整備課主任技師が概要説明を行い、引き続き、同町及び和水町の森林集約を担当した、田代秀一郎、生山敬之、玉名地域森林施業集約化促進協議会が4年前から実施してきた意向調査での苦労話や、問題点、などのついて説明し、活発な質疑応答が行われた。

○今回の研修で工夫したこと

・研修生の不安点や、想定される問題点、疑問点を、いかに引き出すか。また、それに対する改善策をいかに見出せるかを検討してもらう。

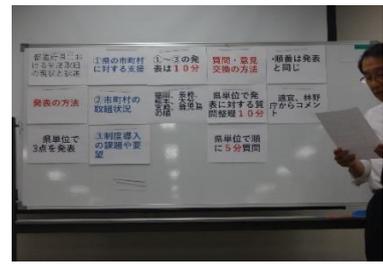
4 記録写真



林野庁開講挨拶



【講義】森林経営管理制度の概要と現状:
1日目
・林野庁講師による講義



【発表および意見交換】都道府県における制度取組の現状と課題:1日目
・研修概要と進め方の説明



【発表および意見交換】都道府県における制度取組の現状と課題:1日目
・受講生による発表



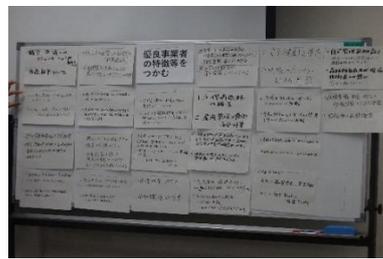
【発表および意見交換】都道府県における制度取組の現状と課題:1日目
・県単位で発表に対する質問整理



【講義・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換(外部講師/上球磨森林組合(熊本県)):2日目



【講義・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換:2日目
・受講生からの質問



【講義・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換:2日目
・受講生が抱いた事業体の印象



【講義】市町村森林経営管理集積のための森林施業(外部講師/佐藤保・国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所森林植生研究領域長):3日目



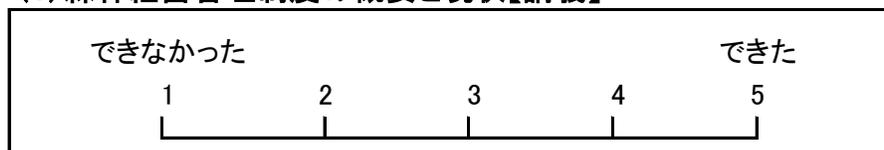
【講義・意見交換】先進市町村の取組事例
(外部講師/玉名地域森林施業集約化促進協議会(熊本県)):3日目

森林管理円滑化対策研修(ブロック研修) 九州ブロック アンケート集計結果

回収率： 21 名 / 22 名 (95%)

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

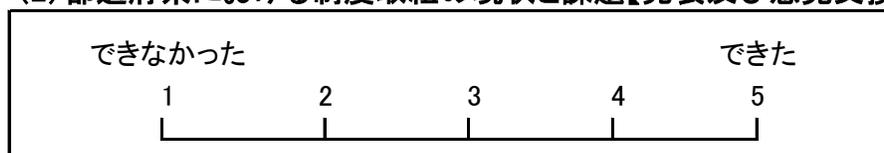
(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】



平均： 4.3

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) 分かりやすかった
- 4 (12 名) 全体の流れを掴めた／事例と質問に対する回答は参考になった
- 5 (8 名) 所有者不明土地等の問題の検討状況が伺えて良かった／疑問な部分が解決できた

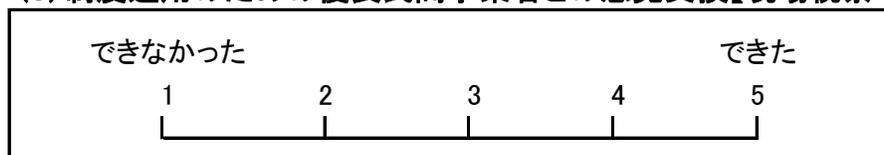
(2) 都道府県における制度取組の現状と課題【発表及び意見交換】



平均： 4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (4 名) 意見交換の時間がもう少し欲しかった／各県、課題は共通していることが分かった
- 4 (8 名) 他県の取組例や各県の質疑応答が大変参考になった
- 5 (9 名) 他県のアドバイザーの状況を知ることができた

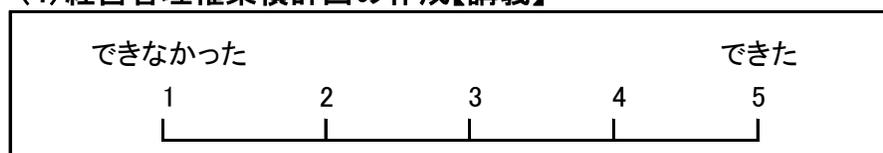
(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【現場視察・意見交換】



平均： 4.5

- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 自県の森林組合も同様に取り組んでいる内容であった
- 3 (2 名) 地域における組合の役割等をもう少し深く説明して欲しかった
- 4 (3 名) 作業工程の見直しや再生林の取組等、とても参考になった
- 5 (14 名) 「意欲」と「能力」のある事業者の実例で非常に参考になった

(4) 経営管理権集積計画の作成【講義】



平均: 3.9

- 1 (0 名)
- 2 (2 名) 難しく、経験が必要と感じた／事例を参考として取り組んで行きたい
- 3 (5 名) 集積計画について深く理解していなかったことに気付いた
- 4 (7 名) まだまだ手引きを読み込む必要があると感じた／詳細が理解できた
- 5 (6 名) 勘違い、理解不足の部分を改めることができた／計画作成の実務のヒントになった

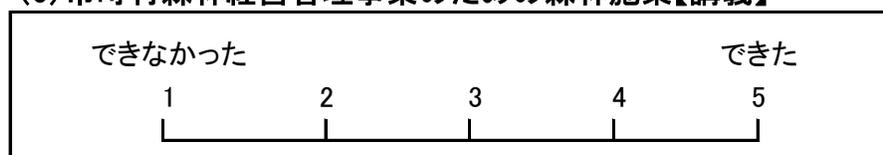
(5) 経営管理権集積計画演習【演習】



平均: 3.6

- 1 (1 名) 立場上、使用できる情報に制約が多く、実務ができず残念であった
- 2 (2 名) 取組内容を地域の実情に合わせてどのように記載すべきか難しい部分がある
- 3 (6 名) まだ計画立案に対して実感がわからない／各県の取組状況が分かり、勉強になった
- 4 (4 名) 実際作成でき参考になった／自分が作成した事例の不備を教えていただき良かった
- 5 (6 名) 各県の考えを知る良い機会となった／実践演習で課題が見えてきて良かった

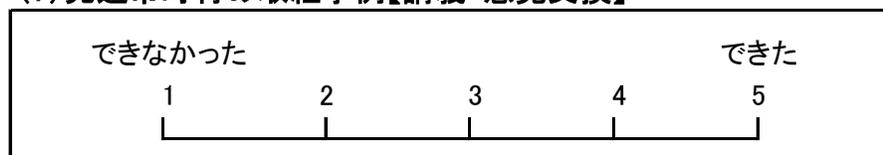
(6) 市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】



平均: 4.4

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (3 名) 大変分かりやすかった
- 4 (6 名) 針広混交林への誘導の難しさが理解できた
- 5 (11 名) 森づくりの考え方、広葉樹林化について理解することができた／分かりやすかった

(7) 先進市町村の取組事例【講義・意見交換】



平均: 4.3

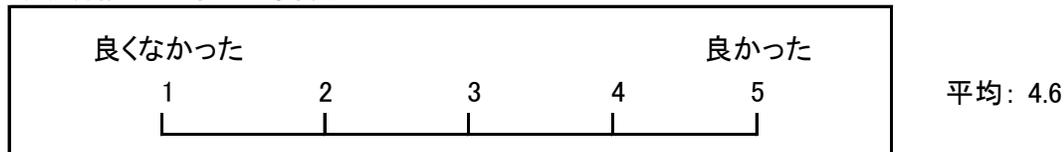
- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (4 名) 具体例を整理しておけばより良かった／苦労話を聞くことができ今後の参考になった
- 4 (7 名) 意向調査と集約化の難しさが伝わってきた
- 5 (10 名) 意向調査実施の際のポイント等を伺えて非常に参考になった／早速指導に活かしたい

IV 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

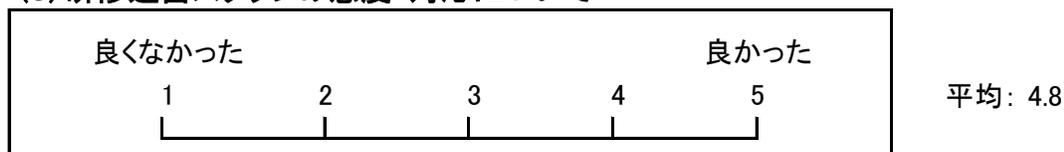
- 1：できていた（18名）
 2：できていない（3名） 意見交換会の連絡をもう少し早くお願いしたい

(2) 研修の進行・運営流れについて



- 1（0名）
 2（0名）
 3（1名） 演習の課題の出し方をもう少し工夫した方が良かった
 4（7名） 進行が分かりやすかった
 5（13名） 運営側からも質問や補足があり、理解の役に立った／スムーズな運営だった

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について



- 1（0名）
 2（0名）
 3（0名）
 4（5名）
 5（16名） 親切・丁寧で、アットホームな雰囲気で良かった

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・ 本研修を継続的に実施していただければ有難い
- ・ 同様な内容でも繰り返し研修してほしい
- ・ 意向調査や計画作成の模擬演習をその場で行う研修
- ・ 意向調査の事例（成功・失敗・工夫すべき点等）
- ・ 意向調査の回答の利用方法の研修
- ・ 市町村職員への継続的な研修
- ・ 市町職員向けの森林経営管理制度、事例共有の研修
- ・ 地域課題の質問が出てくるため、市町村職員を対象とした研修
- ・ 各市町村を対象とした、県単位でのフォローアップ研修
- ・ 国県の職員も含めて、各市町村の課題に対して解決方法等を話し合う等研修
- ・ 今年度の各県の取組結果を受けて、来年度の実践後の課題を出し合い、互いに検討する機会があったら良い
- ・ 年度ごとの実績がでてきた時点での検討する機会があれば良い
- ・ 各種様式（アンケート・結果等も含む）が盛り込まれた先進の実例集が欲しい
- ・ 経営管理集積計画の演習・実地調査

- ・ 実施権を結んだ後の事務処理についてまだ見えてないため、その点の研修内容が欲しい
- ・ 岩下氏のQGISの活用術の研修
- ・ 環境税を使った事業の内容（具体的な仕様書）が知りたい
- ・ 立木評価に関する研修
- ・ 法律相談

(5)その他、自由に感想をお聞かせ下さい。

(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・ 全体的に大変有意義な内容の研修だった
- ・ 国の考え、方針が直接聞くことが有益だった
- ・ 他県の先進事例がすごい、自習性がありレベルが高い
- ・ 実際に先進的に取り組んでいる事例が参考になった
- ・ 上球磨森林組合の講義が一番驚きがあった。林業が成立していた
- ・ 経営管理集積計画演習は、担当者の声が聞けて問題点が分かった
- ・ 市町村森林経営管理事業のための森林施業
- ・ 広葉樹林化に関する講義
- ・ 玉名協議会の講義
- ・ 他ブロックの演習や回答集等も参考にいただきたい
- ・ 他ブロックの事例、情報も可能な範囲で提供いただきたい
- ・ 少し時間的余裕が欲しい
- ・ 今回は林野庁の方が現場のことを理解していただいているようなので嬉しかったが、その他、「～してほしい」とった林野庁の思いが語られることがあるが、その部分に本当の問題を抱いていてなかなか現場の本当の声が伝わらない。制度運用に無理があると感じた時は適切な対処をしてほしい

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

40点未満	(0 名)	
40点台	(0 名)	
50点台	(0 名)	
60点台	(0 名)	
70点台	(1 名)	時期を考慮してほしい／演習はその時作成するのでも良いと思った
80点台	(6 名)	グループ討議も入れた方が良い
90点台	(7 名)	休み時間がもう少しほしい／集積計画の演習を拡充してほしい
100点	(7 名)	

平均： 90 点

VI. アンケートからみる研修の成果

1. アンケート結果の概要

(1) 評価アンケート調査結果

アンケートは受講生全員を対象とし、研修成果の確認と今後のカリキュラムの検討・研修運営に役立てることを目的に実施した（76頁／アンケートの雛形）。主に各科目の理解度、研修の進行・運営、設備等に対する評価、研修の評価について、集計結果を取りまとめた。アンケートの回収率は、95%（受講者数128名、回答総数は122名*）。

*研修の一部を欠席した受講者がいるため、回答総数とアンケート各項目の回答者数とは異なる。

(2) 本研修のねらい・内容の理解度

アンケートは、1（理解できなかった）から5（理解できた）までの5段階評価で実施した。

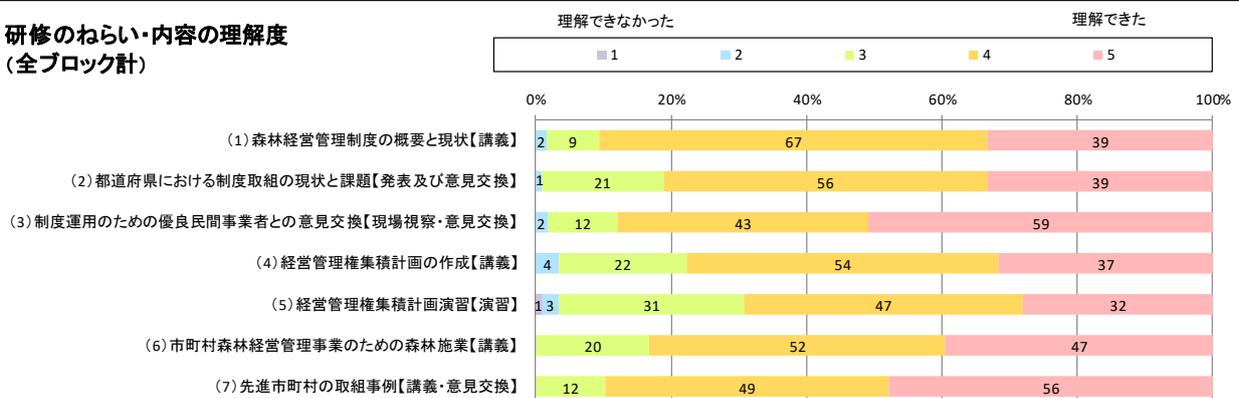
各講義の内容の理解度では4（おおむね理解できた）が最も多く、次いで5（理解できた）の評価で、受講生の理解度は高く、研修のねらいや目的に応じた成果が得られたと考えられる。

各コマの理解度5と4の割合は、69～91%と総じて高い結果となった。

研修のねらい・内容の理解度 （全ブロック計）

	理解度の評価					平均	回答者数	4、5の割合(%)	5の割合(%)
	1	2	3	4	5				
(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】	0	2	9	68	39	4.2	118	91	33
(2) 都道府県における制度取組の現状と課題【発表及び意見交換】	0	1	21	57	39	4.1	118	81	33
(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【現場視察・意見交換】	0	2	12	44	59	4.4	117	88	50
(4) 経営管理権集積計画の作成【講義】	0	4	23	54	37	4.1	118	77	31
(5) 経営管理権集積計画演習【演習】	1	3	32	47	32	3.9	115	69	28
(6) 市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】	0	0	20	52	47	4.2	119	83	39
(7) 先進市町村の取組事例【講義・意見交換】	0	0	12	50	56	4.4	118	90	47

研修のねらい・内容の理解度 （全ブロック計）



「森林経営管理制度の概要と現状」【講義】

初日に実施した「森林経営管理制度の概要と現状」【講義】は、理解度5と4の割合が91%と最も高くなった。「事例と質問に対する回答は参考になった」、「疑問な部分が解決できた」といった制度の不明点が解消されたというコメントと、「復習として有意義だった」、「制度内容の再確認ができた」といった制度について再確認できたというコメントが見られた。このことは、受講生が事前課題として提出した、森林経営管理制度に係る全体的な質問や本制度に係る事務や経営管理権集積計画の記載内容など個別具体の事項についての質問等について、講義の中で回答したことや意見交換も交えながら講義を進めたことが、理解度評価の高さにつながった要因の一つと考えられる。

「都道府県における制度取組の現状と課題」【発表及び意見交換】

初日の2コマ目「都道府県における制度取組の現状と課題」【発表及び意見交換】は、理解度5と4の割合が81%となった。「他の県市町の進捗状況や抱える課題などが分かった」、「他県の取組例や各県の質疑応答が大変参考になった」、「細かい点まで情報収集できて良かった」などのコメントから、市町村を支援するための知見を広げ、応用力を養うという本講義のねらいに沿った講義であったと考えられる。

「制度運用のための優良民間事業者との意見交換」【現場視察・意見交換】

2日目「制度運用のための優良民間事業者との意見交換」【現場視察・意見交換】については、理解度5と4の割合が88%、5の割合については50%と研修の講義の中で最も高い理解度となった。「管内の事業体を育成指導していく中でとても参考となった」、「優良民間事業者の新制度に対する意向も聞いて良かった」などのコメントから、制度に適合する民間事業者のイメージを掴むという講義目的にかなった講義となったことが伺える。また、「一貫施業での工夫、取り組みの経緯・意識を聞いて参考になった」、「作業工程の見直しや再造林の取組等、とても参考になった」などのコメントからは、優良民間事業者の実践事例を聞くことが最前線の現場の取組を知る機会ともなったようだ。

「経営管理権集積計画の作成」【講義】

2日目「経営管理権集積計画の作成」【講義】については、理解度5と4の割合が77%となった。「作成時に疑問に思った記入方法等を理解できた」、「計画作成の留意事項が再認識できた」、「計画作成の実務のヒントになった」という一方で、理解度3、2という低い評価を記した受講生からは「内容は理解できたが、市町村職員が理解できなければ制度を進められないと感じた」、「多くのパターンで試行を繰り返す必要があると感じた」、「難しく、経験が必要と感じた」のコメントが見られた。

「経営管理権集積計画演習」【演習】

2日目「経営管理権集積計画演習」【演習】については、理解度5と4の割合が69%、理解度の平均も3.9と研修の講義の中で最も低い数値となった。コメントには「自身で集積計画を作成し、他の方の演習を見ることで分かったことが多かった」、「各市町の計画が勉強になった」、「実際の作成指導に役立つ」といった記載が見られた。このことは受講生が事前課題を作成し、講義中に発表した模擬的な経営管理権集積計画について対して行った質疑、アドバイスが、受講生が抱える個別の不明事項の解消の一助になったと考えられる。

「市町村森林経営管理事業のための森林施業」【講義】

3日目「市町村森林経営管理事業のための森林施業」【講義】については、理解度5と4の割合が83%となった。「森林施業の難しさを再確認した」、「広葉樹の天然更新の難しさを知った」等の

天然更新の難しさを改めて認識したというコメントや、「市町村管理の手法として広葉樹林化に必要な考え、手法を知ることができた」等の市町村自らが経営管理の進め方に言及するコメントも見られた。

「先進市町村の取組事例」【講義・意見交換】

3日目「先進市町村の取組事例」【講義・意見交換】については、理解度5と4の割合が90%、5の割合については47%と高い理解度となった。コメントには、「協議会の設立、下流との連携が参考になった」「林地台帳の登記情報が大切、精度を上げる必要があると感じた」「意向調査実施の際のポイント等を伺って非常に参考になった」等が記載され、受講生が制度を推し進める上での具体的なイメージづくりの参考となったことが伺えた。

(3)全体評価

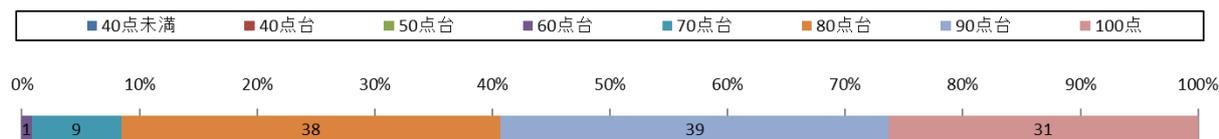
研修全体の評価については、100点満点での評価を実施した。

研修の評価は、平均点が100点満点中89点で、全体の9割が80点台以上をつけ、高評価と見て良いと考える。しかしながら「事前提出物が多く、業務に支障あった」、「他県と課題についてグループディスカッションする時間がもう少しほしい」、「集積計画の演習を拡充してほしい」という意見が寄せられ、カリキュラム内容と各コマの時間配分について検討・調整が必要である。

森林管理円滑化対策研修の評価(100点満点で記載)

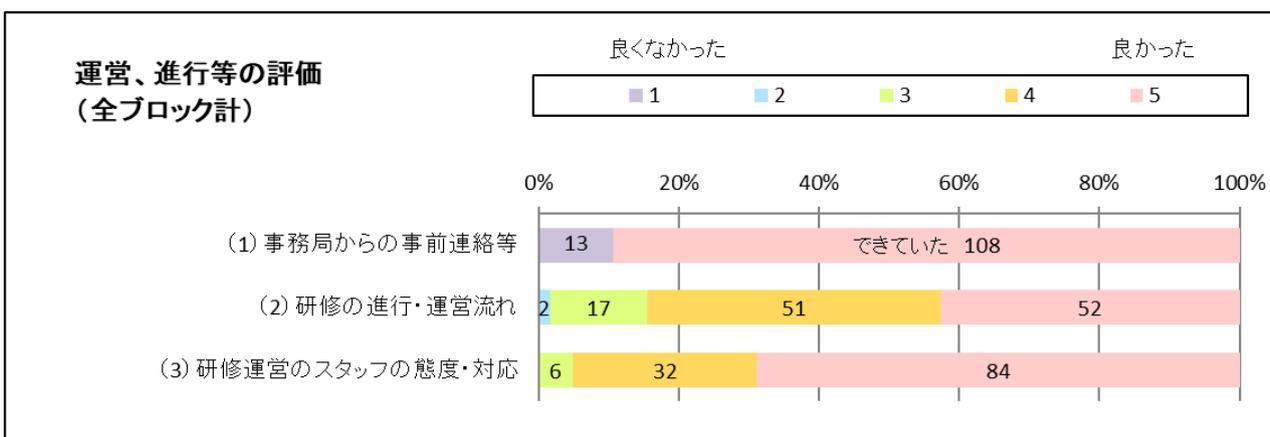
	北海道 東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
40点未満	0	0	0	0	0	0	0
40点台	0	0	0	0	0	0	0
50点台	0	0	0	0	0	0	0
60点台	0	0	1	0	0	0	0
70点台	0	3	1	0	1	3	1
80点台	9	5	7	3	4	4	6
90点台	6	4	7	7	3	5	7
100点	4	3	2	6	4	5	7
各ブロック平均点	88	86	86	93	89	88	90
全ブロックの平均点	89						

森林管理円滑化対策研修の評価



(4) 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

運営、進行等の評価 (全ブロック計)		理解度の評価					平均	回答者数	4、5の割合(%)	5の割合(%)
		1	2	3	4	5				
(1) 事務局からの事前連絡等					13	108	4.9	121	—	—
(2) 研修の進行・運営流れ		0	2	17	51	52	4.3	122	84	43
(3) 研修運営のスタッフの態度・対応		0	0	6	32	84	4.6	122	95	69



研修の事前連絡

研修の事前連絡は、全回を通し、概ねできていたという評価であった。できていないという評価へのコメントは、「現地視察が無くなった旨の連絡が分かりにくかった」、「課題の数をいくつ用意するのか分かりにくいところがあった」等、2日目の現地視察の変更とそれに伴う会場の変更、事前課題に係る事項についての指摘であり、受講生への研修開催の周知方法等を改善していくことが必要である。

進行・運営の流れ

進行・運営の流れについては、5(良かった)と4(おおむね良かった)の評価が全体の84%となった。「運営側からも質問や補足があり、理解の役に立った」、「目的に合った運営となっていた」といったコメントの一方で、「全体的に時間不足。可能なら全ての講義に全県から意見させる時間がほしかった」、「概ね時間通りだったが、人数が多くて時間配分が難しかった」等のコメントが見られ、講義時間と質疑の時間配分についての検討・調整が必要である。

研修運営のスタッフの態度・対応

研修運営のスタッフの態度・対応については、5と4の評価が全体の95%となり、評価が非常に高かった。運営スタッフの丁寧な対応等が評価されたことが受講生のコメントからもうかがえた。

(5) 今後の必要なサポートや研修等について

今後、必要なサポートや研修等への要望については、全ブロックにおいて多くコメントが寄せられた。市町村担当者への研修の強化を望む記載が多く見られた。それ以外の要望等について、研修、講義内容、サポートに分けて次に記載する。

(研修)

- ・意向調査のやり方について特化した研修
- ・市町村の取り組み方や進行段階に応じた、各段階の研修
- ・行政書や法律に関する研修
- ・広葉樹林化、混交林化についての技術研修、事例研究、設計研修
- ・針広混交林化や人工林の広葉樹林と天然林の混交林化に関わる研修
- ・森林初心者（林業資格のない人）が理解しやすい研修
- ・制度の運用に当たって発生した課題や問題点等への対処事例、対処法についての研修
- ・制度運用後の定期的なQ & Aの研修
- ・立木評価に関する研修

(講義内容)

- ・制度の実際の運用方法
- ・制度の事例等のまとめ、内容等の紹介
- ・制度の進捗ごとの各自治体の取組状況の紹介
- ・制度運用でトラブル等があった県市町村の事例紹介
- ・各市町村の課題に対して解決方法等を話し合う等
- ・意欲と能力のある事業者の育成、後進市町への積極性を出してもらう方法
- ・意向調査手法についての講義
- ・意向調査や計画作成の模擬演習をその場で行う模擬演習
- ・意向調査の事例（成功・失敗・工夫すべき点等）
- ・意向調査の回答の利用方法
- ・所有者探索の方法
- ・経営管理権集積計画の実技演習、またはそれに対する指導
- ・現地のモデル地区を利用した例題による経営管理権集積計画の作成
- ・経営管理権集積計画のケーススタディ
- ・経営管理権集積計画の作成以降の手続き等
- ・経営管理権集積計画の作成から事業実施状況等の先進地の事例紹介
- ・森林整備以外の環境税の使い方、各県・各市町の先進事例、報告会等
- ・経営管理集積計画の演習・実地調査
- ・経営管理権集積計画作成以後のプランニングや配分計画に至るまでの演習
- ・集約化の実務を深めた内容の研修
- ・集積後の経営管理実施権の作成方法
- ・経営管理実施権を結んだ後の事務処理
- ・GISを使用した対象森林の絞り込み方の講義
- ・効率的な森林経営に関する技術習得
- ・事業を加速化していく施業の提案

(サポート)

- ・市町村事例の発表会（講演）等
- ・市町村が自ら管理する場合の事例を多く抱える自治体の考え方、体制を紹介する機会
- ・他県や他市町村の事例の情報提供
- ・制度運用で実際に集積～施業まで至った団体の講演
- ・全国の様々な取組事例等の集積及び情報発信（研修受講者へのフォローアップ）
- ・事業が進んでいく中で、良かった・悪かった点等の意見交換ができる場
- ・市町が関わる様々な状況の森林とその対応方法を検討する場
- ・全国的に共通作業となる部分の単価（歩掛）
- ・作成研修を企画する方の立場でのサポート
- ・業務で発生した課題や不明点にその都度対応するサポート体制
- ・簡単なQにも電話やメールで教えてくれる総合的なサポート
- ・森林環境譲与税の使途・判断基準に関する情報共有のためのオンライン会議
- ・森林環境譲与税を使った事業の内容（具体的な仕様書）
- ・各種様式（アンケート・結果等も含む）が盛り込まれた先進の実例集
- ・法律相談
- ・上層部への制度説明の機会

(6)その他、感想(研修の中で特に印象に残った講義)

印象に残った講義として、各ブロックともに実践者が講師となった「制度運用のための優良民間事業者との意見交換」【現場視察・意見交換】、「先進市町村の取組事例」【講義・意見交換】が多く上げられた。いずれも当事者からの直接の説明が受講生に講義内容を強く印象づけたようだ。また「市町村森林経営管理事業のための森林施業」【講義】についても印象に残った講義として各ブロックで上げられた。

研修全体を通じた感想として、「林野庁からの話は今後の業務を進める上で大変貴重であった」、「国の基本的見解、スタンスを掘り下げて聞く貴重な機会であった」等のコメントや、「他ブロックの事例、情報も可能な範囲で提供いただきたい」等のコメントが見られた。

Ⅶ. 研修の実施における課題と改善点

1. カリキュラムの実施方法

ア 「制度運用のための優良民間事業者との意見交換」について

2日目の1コマ目に実施された本研修項目は、優良民間事業者の活動や取組について、説明を受けるとともに、現場視察を行った上で、質疑や意見交換を通じて優れた民間事業者の特徴を整理するというものである。

この研修内容の現場視察については、視察現場が研修会場から遠方とならざるを得ない場合があり、①移動時間が長くなること、②他の研修の研修時間に影響を与えることとなったことから、現場視察をやめて研修会場での民間事業者からの説明の中で現場の状況について説明を行うこととしたケースが7ブロックのうち3ブロック（北海道・東北、四国、九州）あったが、研修生から現場視察が必要であるとの指摘はなく、民間事業者からの写真やビデオや使った説明により、現場の状況についても理解を得られ、全く問題はなかった。

現場視察の実施については以下のような課題が考えられた。

①現場における民間事業者の特徴は現場に行かなければ分からないものではなく、写真やビデオを使うことで十分伝えることが可能であること

②当該民間事業者の特徴が必ずしも現場に現れているとも限らないこと

③限られた研修時間（15時間程度）の中で移動に2～3時間を使うことは、研修全体の研修効果に影響を与える可能性があること（移動のためのバスの中で有効な研修を行うことは困難）

④移動が長時間となる場合はその後の研修の研修時間に影響を与える場合があること

⑤移動時間が長くなることにより他の研修項目の時間調整を行うなどの対応が必要となり、研修内容にブロック間の差を生じさせる可能性があること

また、以下のような研修生のコメントがみられる。

・現場へ行く時間少しもったいない気がした。写真や動画で対応できたらもっと話す時間が増やせる。（関東）

このため、基本的に本研修項目については現場視察は行わず、現場情報を提供する必要がある場合には、写真やビデオによって講師である民間事業者より説明を行ってもらうことが適切と考えられる。

イ 「経営管理権集積計画演習」について

2日目の3コマ目に実施された本研修項目は、予め課題として作成し提出した模擬的な経営管理権集積計画について、作成するにあたって生じた疑問点や課題なども含めて研修生が発表を行った後、これに対する質疑や意見交換を行うものである。

この研修内容の模擬的な経営管理権集積計画についての発表については、研修生のうち実際に当該計画を作成する市町村所属の研修生、計画作成に関する周辺業務を受託する可能性のある森林組合や団体所属の研修生を中心に、可能な限り多くの研修生から課題の発表を行ってもらえる

ように進行を行ってきたところであり、場合によってはこのような対応に加え、予め課題として提出してもらった質問に対して林野庁が回答を行うこともあった。

しかしながら、研修生の発表の中には、発表時間が短時間で説明内容も乏しいというものがみられ、他の研修生からの質問も意見交換もないというものが散見された。このような状況は、研修生が経営管理権集積計画の作成方法を十分に理解していないため、作成した計画の内容について十分な説明ができないのではないかと考えられた。

このことについては、以下のような研修生のコメントがみられる。

- ・「勉強していない人の発表が多く、林野庁との質疑を増やした方がいい。」（北海道・東北）

手引きなどを十分読み込んで対応した研修生については説明内容も充実した発表が行われており、そのためそのような研修生にとっては手引きなどの読み込みの足りない（勉強していない）研修生の発表は研修に有効ではなく、林野庁との質疑に替えた方がいいとの意見であったと想定できる。

研修生の多くは事前課題として経営管理権集積計画の作成を体験したことで、経営管理権集積計画がどのようなものであるかを理解（理解の濃淡には違いがあると思われるが）したと思われ、またそのように評価している研修生が多いが、日常業務の中での事前課題の作成であり、十分な時間が確保できず、その結果十分な理解をしないままでの課題対応となった研修生もいたと思われる。

このため、研修の中で事前課題（模擬的な森林経営管理権集積計画）の発表は一部の研修生に留め、その後、復習という意味合いで同じ条件の下で経営管理権集積計画を作成するという演習を行うことも効果的かと思われる。このことに関しては、以下のような研修生のコメントがみられる。

- ・研修生発表ではなく、その場で各自計画書を作成してみる演習にしてほしかった。（北海道・東北）
- ・複数県でグループを作って、1，2課題を検討して発表というやり方がいいのでは？（関東）
- ・演習であるなら、実際にモデル的に同じ場所を研修生同士で作成してみても良いのではないかと思った。（四国）

森林管理円滑化対策研修・参考資料

平成31年度 市町村支援技術者養成事業委託事業
森林管理円滑化対策研修 評価アンケート調査票(●●ブロック)

今後の研修を効果的に実施するための参考資料としますので、率直なご意見・ご要望等をご記入下さい。
ボールペン等で濃くご記入くださいますようお願いいたします。

所属組織名: _____ 氏名: _____ 受講生No: _____

1 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？
 該当欄の数字に○を付け、理由等を【コメント】欄にご記入下さい。

(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】(1日目午後)

できなかった					できた
1	2	3	4	5	

【コメント】

(2) 都道府県における制度取組の現状と課題【発表及び意見交換】(1日目午後)

できなかった					できた
1	2	3	4	5	

【コメント】

(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【現場視察・意見交換】(2日目)

できなかった					できた
1	2	3	4	5	

【コメント】

(4) 経営管理権集積計画の作成【講義】(2日目)

できなかった					できた
1	2	3	4	5	

【コメント】

(5) 経営管理権集積計画演習【演習】(2日目)

できなかった					できた
1	2	3	4	5	

【コメント】

(6) 市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】(3日目)

できなかった					できた
1	2	3	4	5	

【コメント】

※裏面に続きます。

(7)先進市町村の取組事例【講義・意見交換】(3日目)

できなかった					できた
1	2	3	4	5	

【コメント】

II 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

該当欄の数字に○を付け、理由等をコメント欄にご記入下さい。

(1)研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

できていた	できていない
1	2

※「2」できていないとしたのは何故ですか。理由をご記入下さい。

【コメント】

(2)研修の進行・運営の流れについて

良くなかった					良かった
1	2	3	4	5	

【コメント】

(3)研修運営スタッフの態度・対応について

良くなかった					良かった
1	2	3	4	5	

【コメント】

(4)今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

【コメント】

(5)その他、自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

【コメント】

III 森林管理円滑化対策研修の評価

(1)森林管理円滑化対策研修を100点満点で評価するとしたら何点ですか？減点した理由等もお書き下さい。

(成果や達成感ではなく、研修の内容等全体を客観的に評価して下さい。)

【ブロック研修】

【減点した理由等】

____ / 100 点

ご協力ありがとうございました。

1日目のふりかえりシート

所属組織名:

氏名:

受講生No.:

<p>講義や演習で学んだことのポイントや キーワード、印象に残った講師や 他の受講者の言葉</p>	
<p>研修後、職場(現場)でさっそく調べたいこと、 確認したいこと・取り組みたいこと</p>	
<p>自分の知見を高めるために、もっと詳しく 知りたい・学びたいこと。 難しかったこと・わからなかったこと</p>	

2日目のふりかえりシート

所属組織名:

氏名:

受講生No.:

<p>講義や演習で学んだことのポイントや キーワード、印象に残った講師や 他の受講者の言葉</p>	
<p>研修後、職場(現場)でさっそく調べたいこと、 確認したいこと・取り組みたいこと</p>	
<p>自分の知見を高めるために、もっと詳しく 知りたい・学びたいこと。 難しかったこと・わからなかったこと</p>	

令和元年度 森林管理円滑化対策研修
最終日のふりかえりシート

所属組織名:

氏名:

受講生No.:

1. 3日間の研修を終えて、新たに獲得したこと、得た知識・情報、ポイント等

2. 3日間の研修を終えて、新たに見えてきた課題等

各ブロックの評価アンケート調査票

「Ⅰ 本研修のねらい・内容（各講義についての理解度）」のアンケートは、1（理解できなかった）から5（理解できた）までの5段階評価で実施した。「Ⅱ 研修の進行・運営、研修設備等についての評価」は、1（良くなかった）から5（良かった）までの5段階評価で実施した。資料では、評価点数ごとのコメントを集めて掲載した。

■北海道・東北ブロック

Ⅰ 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】

2点

- ・業務で直接担当していないため、専門用語の言葉が難しかった

3点

- ・再確認できて為になった

4点

- ・質問ではないことにも丁寧にご回答いただき有難い
- ・他都府県の事例を学びたい
- ・丁寧な説明で制度の概要について理解できた
- ・各地域での事例が参考になった
- ・制度の概要について理解できた
- ・これまでも説明を受けていたため、復習として有意義だった
- ・以前から疑問に思っていた点を具体的に答えていただけてとても良かった
- ・制度概要のポイント説明により再認識できた
- ・市町村の取組事例があつて良かった
- ・制度について分かりやすく説明をいただけた

5点

- ・事前質問に対する回答について詳しく説明がほしかった
- ・他県市町村の事例紹介は有難いが、詳細版も提示してほしかった
- ・分かりやすい説明で良かった
- ・これまでに林野庁研修等で学習した内容通り理解できた

(2) 都道府県における制度取組の現状と課題【発表及び意見交換】

2点

- ・道県のため、参加なし、話しの内容は理解できている

3点

- ・各道県の発表を聞いて様々な取り組みをし対策を講じており参考になった。また、課長については同じようなことを思っていた
- ・取り組んでいる課題に違いを感じられた

- ・他県の情報を得られて参考になった

4点

- ・県主導で色々と進めていることが分かったので参考にしたい
- ・各県の取り組みについて詳しいことが良く分かり、とてもためになった
- ・各県では色々な取り組みが行われていることが分かり参考になった
- ・他道県の取組内容が色々と聞けて有意義だった
- ・質疑応答の時間がもう少しあった方が良かった
- ・他の道県ではサポートセンター等、市町村の支援体制が進んでいて参考になった
- ・現時点における担当管内の市町村の立ち位置が観客視でき有意義
- ・各道県の現状を生で聞けてよかった。本県は遅れていると実感
- ・実のある内容にしようという運営側の姿勢が伝わった
- ・他県の状況が良く分かり、課題の共通点が多いと感じた

5点

- ・北海道も含め、他県（〇市〇町〇村）等、市町村数、振興局数が資料で分かれば、数的な把握ができる
- ・質問の回答集は帰庁次第、地元で共有したい
- ・道県の取組内容で参考になるものが多くあり、有意義であった
- ・受講者からの生の説明・補足等は有意義であった
- ・細かい点まで情報収集できて良かった

(3)制度運用のための優良民間事業者との意見交換【現場視察・意見交換】

4点

- ・経営的には厳しい意見があったと思う
- ・内容が分かりやすく、森林整備に対する思いが伝わり、有意義であった
- ・優良な事業体は人を中心とした体制と理念がしっかりしていると思った。今後、管内の事業体を育成指導していく中でとても参考となった
- ・岩手の確保がうまくいっている
- ・企業理念がしっかりとした事業体だったので感心した
- ・事業者の制度への参入の考えを知れて良かった
- ・優良民間事業者の特徴が掴めた

5点

- ・まさに地域のニーズに応える事業体
- ・社長と常務の「人は宝」という考えが心に響いた
- ・大変良い事業体の話を聞いて良かった。北日本索道（株）のような会社がたくさんあると日本の山も良くなると思った
- ・会社の理念通り進められており、このような会社こそ意欲と能力のある会社にふさわしい
- ・地域林業のニーズに合わせた経営感覚が素晴らしいと思った
- ・相当にありのまま語ってもらい、大変有意義だった
- ・適切な事業体を選定していただき参考になった。個人的には生産管理手法について興味があった
- ・経営者の姿勢が大切と再認識した

- ・優良民間事業者の新制度に対する意向も聞いて良かった
- ・企業の先導的取組に感銘した
- ・企業理念と風通し、一体感＝利益よりも大事なもの

(4) 経営管理権集積計画の作成【講義】

3点

- ・「経営管理によって発生する金銭の会計処理」が難しかった。時間をかけて理解する必要がある
- ・何となく理解できたような気はするが、もう少し勉強する必要がある
- ・作成方法の概要について理解できた
- ・再委託の入札に参加するのはほぼ森林組合だけと考えられ、森林組合も従来の業務で精一杯であり、そのような地域性も考慮してほしかった
- ・手間がとてらかかるということを認識し、市町村議員の支援の重要性を痛感した
- ・林野庁の方の回答が以前聞いた他の林野庁の方（三間氏）の話と若干違うと思った。まだ意向調査までもいっていないので、後半の講義が難しかった

4点

- ・アウトラインは良く分かった
- ・集積計画作成の一連の流れとポイントを詳しく説明いただきほぼ理解できた
- ・これまでの研修等で受けた説明の復習となった
- ・従前の計画の作成内容をさらに深掘りして確認できたので良かった
- ・概況について概ね理解した。演習と併せることでより理解が促進されると思われる
- ・譲与税の使途に係わるくだりは参考になった
- ・分かりやすく説明をいただけた
- ・軽微な変更の対応

5点

- ・意向調査票の内容を再度見直したい
- ・疑問に思っていた項目も詳しく説明いただき理解できた
- ・理解できた
- ・事前学習の理解と一致

(5) 経営管理権集積計画演習【演習】

3点

- ・何となく理解できたような気はするが、もう少し勉強する必要がある
- ・再委託の入札に参加するのはほぼ森林組合だけと考えられ、森林組合も従来の業務で精一杯であり、そのような地域性も考慮してほしかった
- ・大して勉強していない人の発表が多く、これなら林野庁との質疑をもっと増やした方が良かった
- ・図面の作成誤り
- ・個人発表ではなく、その場で各自計画書を作成してみる演習にしてほしかった
- ・作成し、他の方の演習を見ることで分かったことが多かった。林野庁の回答が以前聞いた他の林野庁の方（三間氏）の話と若干違うと思った（事業体から市町へ、市町から所有者への受益権のところ）

4点

- ・各県各者様々な考え方で作成しており参考になった
- ・各道県の色々な集積計画を聞いてその仕組みが分かり始めた
- ・各種パターンの事例発表が参考になった
- ・研修参加者の作成の考え方を聞くことができ、今後の計画書作成の参考となった
- ・事例作成による演習で雛形を確認し、概ね理解はできた。いずれ事業体や所有者との状況確認を必要と感じた
- ・色々な考え方で地域性の高い計画を皆さんに立てておられ勉強になった
- ・法律上の定めがないグレーゾーンの部分を指導する難しさを感じた

5点

- ・質問等に参考になるものがたくさんあって良かった。林野庁から気になった課題の代表的なコメントがあると良かった
- ・具体的な演習において発表させていただき、また皆様の内容を聞かせていただき実際の作成指導に役立つ
- ・他の方の作成した計画と考え方が共有できて身になった
- ・手間がとてかかるということを認識し、市町村議員の支援の重要性を痛感した
- ・現実のもので説明したが、概ね受け入れられたと思う

(6)市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】

3点

- ・制度の中で考えると現実的な内容ではなかった。しかしながら、多様性の考えなど将来に向けた施業としては良かった
- ・広葉樹林化は難しいと分かった

4点

- ・分かりやすかった
- ・仕方ないと思うが、学者的説明であった
- ・分かりやすい説明で天然更新に対するこれまで以上の知識を得ることができた
- ・天然更新可能な箇所を明確にする必要性を感じた
- ・広葉樹施業の難しさを実感した。その一方で再生林の低下による放置林の広葉樹化があり、こうした林の管理をどうするか今後大きな問題になると思った
- ・広葉樹林化はとても難しいことを再認識した
- ・「針広混交林化」はそもそも簡単に書けることではないのでは？
- ・市町村を指導する上で参考としたい

5点

- ・とても分かりやすい講義。N-L化は安易には考えてはいけないことが分かった
- ・天然更新の理解が進んだ。ササ処理を考慮に入れて考えたい
- ・とても分かりやすく、早速実行できそうなことがたくさんあった
- ・分かりやすい講義で広葉樹更新の難しさを学んだ
- ・針広混交林化について様々な知見を得ることができ、非常に有意義であった
- ・目標林型への誘導方法を理論的に教えていただけた

- ・スパンの長い広葉樹施業の難しさ、情報継承の重要性を理解できた
- ・大変勉強になった。もっと聞きたかった

(7)先進市町村の取組事例【講義・意見交換】

1点

- ・講師として参加のため

3点

- ・積極的な制度活用のため、公社まで設立し、推進していることが参考となった
- ・積極的な展開が印象的であった。ネガティブリストはいらぬということも分かった

4点

- ・とても良い話が聞けた
- ・簡単に真似できないと思った
- ・実務面で今後業務を進めるのにとっても役に立った
- ・最後は人材によるものということを理解できた。優良事例として水平展開できることを期待したい
- ・すごいとは思ったが、我が管内でここまでスペシャルな人はいない
- ・市町村指導に生かしていきたい

5点

- ・やる気のある担当者による明確なビジョンと行動力が良かった
- ・参考になった。当地区では難しいかもしれないが、頭に置いて指導したいと思う
- ・どのように進めていけばいいのかのイメージが沸いてきた
- ・杉山主査のバイタリティーに感服した。大館市の首長の理解ある行動も素晴らしい
- ・大変有意義な講義で参考になった
- ・大変参考になった。市町村幹部の意識が重要。どのようにしむけるか。
- ・一般市民全体を対象にした座談会開催の発想は驚いた
- ・制度取組への熱意が伝わってきて非常に良かった

II 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1)研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

1. できていた

- ・現地視察が無くなった連絡は受けていない

2. できていない

- ・初日の秋田駅前の集合場所が最初良く分からず、迷って右往左往してしまった
- ・これはあくまでも印象だが、地元（ブロック）の事務局の配慮が足りないような気がする。やつつけ仕事のように感じた。（たとえば、連絡が無いところはどこなのか、メールが届いているのかの連絡状況等の確認）
- ・現地視察が無くなったことをその他の事務連絡メールの中に埋没させていただいたので気付かない

(2)研修の進行・運営流れについて

3点

- ・カリキュラムの時間がずれてばかりだった

4点

- ・各道県への質問・意見等を順に聞くならば、順番にではなく、各道県に対する質問・意見を聞くようにしていただきたい

- ・初回の「各県への質問コーナー」以外は良かった

・不慣れな受講生に発表させるより、講師が代表的な事例を選び説明した方が良かったのではない
か

- ・司会の方の進行がスムーズで良かった
- ・受講者の疑問に答える臨機応変な進め方が良かった
- ・集積計画演習に時間を使いたかった
- ・問題なし
- ・スムーズな進行有難かった

5点

- ・大変良かった
- ・進行がスムーズで、また受講者からの質問と回答をうまく整理され素晴らしかった
- ・要所要所で進行を総括していただいた中山氏の進行管理が良かった
- ・研修を意味のあるものにしようという姿勢が伝わってきた
- ・ファシリテーターの熱い想いが伝わってきた
- ・親切・丁寧な対応に感謝する

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について

3点

- ・少し堅苦しい感じがした

4点

- ・色々とお気遣いいただき有難かった
- ・ありがとうございました
- ・丁寧な対応が有難かった

5点

- ・お世話になった。ありがとうございます
- ・大変良かった
- ・丁寧にサポートしていただき過ぎやすかった
- ・お疲れ様でした
- ・良い意味で普通
- ・皆さん丁寧に対応いただけた
- ・気を使っていた
- ・ノーストレス

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・譲与税の使い方に関する研修
- ・譲与税の使い方、何がダメで何がOKか、林野庁・総務省等、質問に答えられる分野の担当者の

講師がいればありがたい

- ・本研修を市町村担当者を対象に開催
- ・市町村担当者の研修を強化してほしい
- ・市町村事例の発表会（講演）等
- ・市町村職員を対象として集積（配分）計画を作成する実務研修
- ・取り組みが進行している市町村の具体的事例を地元の市町村担当者に紹介できる機会があれば参考になると感じた。特に今後、市町村が自ら管理する場合の事例を多く抱える自治体の考え方、体制を紹介する機会がほしい
- ・意向調査のやり方について特化した研修
- ・この研修の内容で良い
- ・このような研修機会（量・回数）自体を増やしてほしい
- ・全国の様々な取組事例等の集積及び情報発信（研修受講者へのフォローアップ）
- ・効率的な森林経営に関する技術
- ・意欲と能力のある事業体の育成、後進市町への積極性を出してもらう方法を教えてほしい。東北の東部・西部で分けて再度行っても良いと思う。

(5) その他、自由に感想をお書き下さい。（研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。）

- ・全ての講義が良かった。自分の理解をさらに深めていきたいと思う
- ・良い研修だった
- ・優良事業体についてが印象的であった
- ・北日本索道（株）の兼子社長のお人柄が良く、仙道常務の思考に感銘し、説明が分かりやすかった
- ・北日本索道（株）の社長、常務の森林林業に対する想いが印象的であった
- ・市町村森林経営管理事業のための森林施業（佐藤保領域長）の講義が大変分かりやすかった
- ・先進市町村の取組事例
- ・各県の考えが違って参考になった
- ・林野庁の方に直接お伺いできる機会が多かった点が良かった
- ・国の基本的見解、スタンスを掘り下げて聞く貴重な機会であった
- ・当ブロックの開催時期は暑くもなく寒くもなく良かった。講師も良かった
- ・事前課題で集積計画を作り、研修会で発表した方が研修会でポイント等を聞きながら皆で作成していく方法の方が良かったと思う
- ・事前課題が重かった
- ・他ブロックでの意見、質疑等も共有してほしい
- ・当研修資料をPDFで良いので、メール等で送付いただきたい
- ・宿泊施設を限定する研修はやめていただきたい

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

(1) 森林管理円滑化対策研修を 100 点満点で評価するとしたら何点ですか？減点した理由等もお書き下さい。

80 点

- ・グループディスカッションがあっても良かった。受講生発表時間が長いと感じた
- ・大変勉強になった。減点理由は、事前課題で集積計画を作り、研修会で発表の方が研修会でポイント等を聞きながら皆で作成していく方法の方が良かったと思う
- ・事前提出物が多かった。業務に支障あり。ふりかえりシートを無くしてほしい
- ・現地研修をやった方が良かった
- ・演習についてもう少し時間をとってほしい
- ・ホテルが相部屋だったこと（風邪をひいていたので相手の方に迷惑をかけてしまった）
- ・計画作成演習がやや散漫だった。他県の人から学ぶものが少なかった。各県1人は県庁担当がきてほしかった
- ・林野庁の講義資料に新しい情報が少なかった
- ・もう少し細かな部分まで入った研修でも良かった

90 点

- ・研修生を何班かに分け（各道県をバラバラに編成）、グループ討議等をやっても良いと思った
- ・制度が進行中であり、まだ見解がでていないところ多数あるということを理解できた
- ・地元の事務局の対応が今一つだった
- ・事前課題のウェイトが重く、対応が大変だった
- ・研修生同士のディスカッション機会が少なかった
- ・資料2-2-2、2-2-3ができなかった。前の研修でもここまでいかなかった

100 点

- ・研修開催地の設定変更を早く周知してほしい
- ・当初予定にはなかった「税」の講義を入れる等工夫があったため

■関東ブロック

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】

3 点

- ・質問の答えになっていないものもあると感じた

4 点

- ・既存制度を残しつつ、新たな制度を取り入れることで少しでも山を整備していきたいという自主認識ができた
- ・林野庁から制度の説明・事前の質問への回答等ていねいにお話いただいた
- ・林野から直接話を聞ける機会として貴重
- ・制度内容の再認識ができた

5 点

- ・最新の取組状況の紹介もあり参考になった
- ・質問に対する回答が早すぎて書ききれませんでした。文書になるとありがたい
- ・制度の基本的な考え方について改めて考えた
- ・説明会のときよりもざっくばらんに踏み込んだ話が聞けた

- ・これまでの経営計画や支援補助等で補助できる部分で補えなかった森林を「誰か」に手を入れてもらうという管理制度の本質を知ることができた

(2)都道府県における制度取組の現状と課題【発表及び意見交換】

3点

- ・他県の取組を聞くことは参考になった
- ・他県の状況が参考になった

4点

- ・考え方は県によって様々ではあるが、市町村に事業を推進させるために苦慮されていることが分かった
- ・各県の状況の説明、質疑応答に時間を多くとり様々な話を聞くことができた
- ・他県の状況を聞くと管理制度に対して慎重になっていることが多いように感じた
- ・他県の状況を質問することもでき、とても有意義。

5点

- ・各県の取組状況について参考になったまた市町の協議会方式について有効な方法であることを再認識できた
- ・各県市町村の進捗状況が抱える課題などが分かった
- ・他県の状況について参考になった

(3)制度運用のための優良民間事業者との意見交換【現場視察・意見交換】

3点

- ・(現場) 状況の違う林分を比較できたことが良かった
(事業体) 事業体の立場での経営管理制度への期待を知ることが出来た
- ・現場で何か優良なのか理解できなかった
- ・現場へ行く時間少しもったいない気がした写真や動画で対応できたらもっと話す時間が増やせる。

4点

- ・本制度の肝となるべき担い手について事業者側の意見を聞くことができ参考になった
- ・数値で意欲と能力が見えた
- ・できればフォレスト萩原さんの現地も見かけた
- ・事業者の生の声を聞くことができ、管理制度の展望等あり良かった
- ・事業体は何を考えどういう事業体になりたいのかを聞いた
- ・事業体の考える「意欲」と「能力」が聞けて参考になった

5点

- ・再委託各の事業体の条件について理解できた
- ・集約の方法について参考になった
- ・「所有者と行政に信頼してもらう」この信頼関係を築くというこの重要性を強く感じた。管理制度に対して期待しているとの声があったのは制度を運用していくうえで気合が入った

(4)経営管理権集積計画の作成【講義】

3点

- ・市町村の責めに期すべき内容については留意が必要
- ・市町村が負うリスク管理についてはていねいな説明があり参考となったが、実際の業務では悩む面が生じることが懸念される

4点

- ・計画作成の理解が深まった
- ・リスク管理の部分は難しく、再度勉強したい
- ・事前課題に合せて計画作成のチェックポイント等を押さえられた
- ・集約ではなく集積という所、認識違いをしていた。流れに沿いながら議論でもよかった
- ・森林保険の記載については多くの方が検討事項としていることが分かった

5点

- ・制度の根幹は誰かが一定期間その森林を管理することということが理解できた
- ・他県も森林保険について悩んでいることが分かった。所有者に保険料の負担をさせることのメリット、デメリットを考え、今後の活動に生かしたい

(5) 経営管理権集積計画演習【演習】

3点

- ・複数県でグループを作って、1, 2課題を検討して発表というやり方の方が良かったのでは？
- ・もっと時間をかけて実施してほしかった
- ・実際に集積計画とする予定のものを発表してくれた市町村の事例はリアルで有り、大変参考になった

4点

- ・森林保険の取り扱い等参考になった
- ・各市町村の考え方の違いが理解できた
- ・基本的事項等の記載方法について参考になる意見が多かった

5点

- ・各自治体の考え方が聞けて参考になった
- ・内容について各地の状況に応じて変更している点について参考になった
- ・市町村の実例（これから計画設定予定のものなど）を説明していただけた

(6) 市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】

3点

- ・今後、施行していく上でより深い知識が必要だと感じた
- ・制度で見直される手遅れ林分における間伐（天然林化、複層林化）の具体的な作業に特化して話していただけると良かったか
- ・施業方法、選択しづらい

4点

- ・森林施業の難しさを再認識した
- ・具体的に広葉樹を導入した事例がほしい
- ・広葉樹林化は難しい／針広混交林に転換する厳しさ
- ・市町村の事業として複層林施業の注意点など専門的な話をいただけた

・フォレスターのテキストで見たが、先生に話を聞き、改めて難しさを身にしみて感じた。時間が短くて非常にもったいない講義だった

・天然更新のハードルが高いことが分かった

5点

・広葉樹が難しいことの再認識

・広葉樹の天然更新の難しさを知った

・本県も針広混交林化をうたった事業が多いが、天然林、混交林化にも理論があり、安易にできるものではないのが分かった

・知識の整理ができた。新しい知見も得られた

(7)先進市町村の取組事例【講義・意見交換】

4点

・体制・計画性・取組状況おそれいます。こういった組織のなかで学べればすぐ現場に生かせるだろうと感じた

・取組すばらしいと思った

・今後の業務に大変参考になる。

5点

・秩父市の取組はとても参考になった。特に協議会を作るなどの取組が必要。下流との連携も必要であることが参考になった

・先進事例を参考に、本市にも取り入れる部分は取り入れたい

・林業振興の取り組みが参考になった

・事例の内容は事前に知っていたところではあるが、実際に担当者から話を聞いて良かった

・すでに参考にさせていただいているが、新しい情報もあり参考になりそう。

・H30年度からの動きを詳しく知ることができた。今後の構想のために、より深く大澤技監と話をしようと思った

II 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1)研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

2. できていない

・課題について県で1つのものと複数いるものとの差が分かりにくかった。2日目の日程変更について1日目欠席者に連絡してほしい

(2)研修の進行・運営流れについて

3点

・初回ということも有り、探り探りな部分もあったかと思うが、我々が気になっている部分を解決していただけて良かった

・もっとぎっくばらんな意見交換ができると良いかもしれない

4点

・ヘルメットは事務局で用意してもらいたい

・全体としてとても良かったが、受講生の意見交換ができる場面をもう少し増やすと良いと思った

5点

- ・進行で質問等がない時に質問をしていただきありがとうございました。議論が終わらずさらなる話が聞けて良かった
- ・基礎の部分を研修したい自分にとっては説明が早く感じた。応用を求めるレベルの人は問題ないと思うが。
- ・3日間勉強になった

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について

5点

- ・資料を整理しやすいよう配慮されている。
- ・スムーズに研修を受けられた
- ・不安に感じていた部分を補ってくれた
- ・研修の円滑な実施に尽力されていると感じられた

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・市の上層部の人に事業体と係る手間や負担についてご説明いただきたい
- ・法施行されたばかりであるので、事業推進にあたり、多くの課題が出てくると思われるので、来年度も事例や意見交換の場を作ってほしい
- ・業務で発生した課題や不明点に都度回答をいただけるサポート体制
- ・研修を企画する方の立場でのサポートがあると助かる
- ・先進事例の情報交換
- ・森林経営管理制度の運用方法について（取組→運用へ）
- ・今後進んでいく中で良かった点、悪かった点等の事例を話し合うような研修
- ・新しい制度説明は県向けではやっているようだが、市町村向けにもお願いしたい。これから事例も増えていくと思うが市町村が具体的にどのようなことをしていけば良いのか
- ・全国の事例紹介
- ・全国的に共通作業となる部分の単価（歩掛）作成

(5) その他、自由に感想をお書き下さい。（研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。）

- ・短期間の研修を計画してほしい。長いと参加しにくい
- ・法律や手引き等だけを見ていると強制的な強い法律のような気がしていた。研修を通して、目的が何なのかも分かり、固まったものでないことも分かった
- ・民法の追加説明があり良かった
- ・民法の説明が分かりやすく参考になった
- ・林野庁からの話は今後業務を進める上で大変貴重だった。萩原氏の話も参考になった

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

(1) 森林管理円滑化対策研修を100点満点で評価するとしたら何点ですか？減点した理由等もお書き下さい。

70 点

- ・手探りの中での研修で大変だったと思う。他県との課題等についてのグループディスカッションがもう少しできると良かった

80 点

- ・現場見学で目的を達していない
- ・現地実習での説明が早い
- ・事前課題や当日発表の進め方についてももう少し詳しく説明を事前に確認したかった
- ・講義の内容等はよく分かって良い研修だった。ただ課題を全員やってくるのはいかなものか
- ・事前課題についてはみんながやる必要はなかったと感じた。各県で協同して2事例程が良いのではないか

90 点

- ・タイムスケジュール管理に甘いところがあった
- ・もう少し時間があっても良いと感じた

100 点

- ・民法も追加で資料いただきありがとうございました

■中部ブロック

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】

3 点

- ・質問への回答についてももう少し時間がほしかった
- ・制度と目的については理解できた

4 点

- ・研修資料としてはこれまで通り理解できた
- ・他県の市町村の取り組みを把握することができた
- ・概要と現状が理解でき参考となった
- ・制度の概要・取り組みの先進事例を知り、理解が深まった
- ・まだ始まったばかりの制度で、理解が十分でない部分も多かったのですが、講義を受けて基本的な部分の理解を深めることができた
- ・制度の概要が理解できた
- ・制度の流れの再確認や事例を知ることができとても良かった
- ・質問への回答は時間をかけて説明し、Q&Aにまとめてほしい
- ・職員が少ないまま、制度はできたけどなかなか進まない現状だと感じた

5 点

- ・全国の事例が増えてきており大変参考になる
- ・意向調査が全国で進んできているので当県も努力したい
- ・内容がわかりやすい
- ・本制度は既存制度への追加という点を再認識した
- ・先進事例を知ることができた

- ・制度の概要を復習することができた

(2) 都道府県における制度取組の現状と課題【発表及び意見交換】

3点

- ・本市の取り組みと似ている事例が多々あり、参考になった
- ・全体的に時間不足

4点

- ・同じ悩みの県の方と情報共有できた
- ・もう少し質問の時間をかけていただき、他県の取り組みを把握したい
- ・他県の取組状況が理解できた
- ・質問内容が多いので時間設定を増やした方が良かった
- ・どの都道府県等も新しい制度に対し、色々と考えながら取り組まれていることを知ることができて良かった
- ・各県の現状が理解でき、問題点が良く分かった
- ・各県の取り組みや課題を知ることができてとても良かった
- ・各県の取り組みが分かった。その中で森林組合の役割があることに對し、今後当組合の対応の参考になった

5点

- ・皆さん森林整備を少しでも進めたいという意欲を感じるとともにどこの都道府県（市町村）もそれぞれに悩みがあり、大変さを感じた
- ・他県の取組状況は参考になった
- ・長期的視点で構想を立てるために準備している市町が多いと感じた
- ・他県の取り組みを知ることができた
- ・各県における取り組みについて知見を深めることができた
- ・各県の取り組みや課題等、生の声を聞くことができた

(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【現場視察・意見交換】

2点

- ・専門用語が多く、難しかった

3点

- ・制度運用の参考になる現場視察であったが、疑問と思う。森林組合の取組自体は素晴らしかった
- ・木材センターの現地において、仕分検知や品質判断技術を現場で具体的に聞いたかった

4点

- ・郡上森林組合の事例は管内の事業者の模範となる
- ・組合の前向きな取り組みが参考になった
- ・当市内に森林組合も事業者も無いため、より良い制度運用ができる郡上市が羨ましく思う
- ・組合員ファーストで森づくりに對し、しっかりとした構想を持って取り組まれていることを感じた
- ・郡上森林組合の考え方や取り組みを知ることができたのでとても良かった
- ・組織の考え方、施業方法が分かって良かった

5点

- ・川上～川下の連携が図られていた。優良事業者ということが確信（確認）できた
- ・組合が向上しようとする姿が良く分かった
- ・郡上市で活動している森林組合での実状の説明を受け参考となった
- ・5万m³瀬山稜、8m³／人・日の生産性はすごい
- ・郡上森林組合の取り組みについて知ることができた

(4)経営管理権集積計画の作成【講義】

3点

- ・内容は理解できた。市町村職員が理解できなければ制度を進められない
- ・「手引き」により講義をしてほしい

4点

- ・研修資料の中で不明な点がある程度理解できた
- ・細かい点でもう少し詳しく聞いてみたい所があった
- ・経営管理権集積計画作成の基本的な流れが理解できた
- ・ポイントを押さえた講義となっており分かりやすかった
- ・具体的な作成手順について学ぶことができた
- ・制度の流れを再確認することができたので良かった
- ・考え方は分かった

5点

- ・初めての集積計画を作成でき、具体的な実習であった
- ・具体的なケースを想定しながら聞くことで理解が深まった
- ・実際に集積計画を作ることで理解を深めた
- ・勘違いしていた部分もあったことに気付いた
- ・これから集積計画を作成していくため、とても参考となった

(5)経営管理権集積計画演習【演習】

3点

- ・各市町村、色々な計画のパターンがあり、勉強になった
- ・「事務の手引き」を良く理解する必要がある
- ・他の受講生の発表を聞き、より理解が深まった
- ・山林所有者、データ確認が必要
- ・集積計画の作成例を理由も含めて入手することができた

4点

- ・実際に策定した計画での実践であり、為になった
- ・初めての集積計画を作成でき、具体的な実習であった
- ・他市の状況が様々なことが良く分かった
- ・既に実施しているところの話聞いたが、実際に計画するには相当の労力がかかることが分かった。最初はやりやすいところから行う
- ・再委託しない場合の事例もあると気付けた

- ・今回初めて集積計画を作った方が多いと思われるが、皆さんが試行錯誤しながら作られており大変勉強になった
- ・色々な事例について学ぶことができた
- ・各県（市）の考えを知ることができ、正解がない中で、苦勞したことにより実務を経験できたのでとても良かった
- ・実際に集積計画を作成してみると様々な疑問点が生じた

(6)市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】

3点

- ・現在の森林の現状を学ぶことができた
- ・教科書通り、現実的な質問があり、ためになった

4点

- ・広葉樹施業の難しさが実感できた
- ・もう少し長く説明していただき細かい点まで知りたかった
- ・天然更新の不確実性について理解したが、市が具体的にどのように混交林化を行うのか検討が必要。具体事例も収集中とのことため、不安が残る
- ・広葉樹（混交林化へ）の手入れの仕方が難しいことが分かった
- ・広葉樹林化がいかに難しいかを知ることができた
- ・広葉樹林化の難しさが良く分かった
- ・基本的な内容であったが、大変参考になった

5点

- ・天然更新させるためのシステムが難しい。獣害対策にお金がかかる
- ・市町村向けに資料を使いたい
- ・針広混交林への施業はとても難しいことが分かった
- ・森づくりの概念から具体的な手法まで紹介いただいたが、結論として針広混交林化や広葉樹への転換は極めて困難であるということが分かった
- ・町管理地（森林経営管理制度）は針広混交林化や広葉樹林化を想定していく方が現実的に難しいことが分かった
- ・針広混交林づくりは難しいと感じた。すぐに結果を求めてはダメだと感じた

(7)先進市町村の取組事例【講義・意見交換】

4点

- ・市の林地台帳整備の更新を行う必要がある
- ・今後の市町村への指導の参考としたい
- ・制度を進めるにあたり、かなり苦慮されていることを実感した
- ・林地台帳の登記情報が大切、精度を上げる必要があると感じた
- ・意向調査に至るまでの情報整理のご苦勞が伝わってきた

5点

- ・当県でも同じ状況であり、意向調査には時間がかかる
- ・所有者情報の探索や境界明確化が課題である

- ・意向調査に至るまでの事前調査が大変必要である
- ・先進事例を聞くことができ、とても参考になった
- ・中津川市には森林担当課があり、山林労働者にも恵まれ譲与税を活用した意向調査の事前準備も着々と進められていることが分かった
- ・市町村の取組事例であり、今後の業務においてとても参考になった
- ・先進市町村の取り組みの中での問題点を教えていただき有難かった
- ・時間をかけて本例を聞いたので良かった

II 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

2. できていない

- ・一部事前連絡は直前となっていた
- ・今回の現地なら長靴等は不要

(2) 研修の進行・運営流れについて

2点

- ・全体的に時間不足。可能なら全ての講義に全県から意見させる時間がほしかった

3点

- ・問題なかった

4点

- ・概ね時間通りだったが、人数が多くて時間配分が難しかった
- ・各県との情報交換の時間をもっととってほしい
- ・スクリーンのポインター、もしくは指棒があると良い
- ・進行の方がうまく進行していただけたと思う
- ・程良い時間配分であった

5点

- ・テーブルを口の字にできたらしてほしい（皆の顔が見えて発言しやすくなる）
- ・一切の不満なし
- ・ヘルメット不要は助かった
- ・限られた時間の中で臨機応変に対応していただいた
- ・丁寧に対応いただき有難かった
- ・スムーズな運営だった

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について

4点

- ・親切な対応だった

5点

- ・大変満足している。お疲れ様でした
- ・ありがとうございました
- ・親切に対応していただき有難かった

- ・大変お世話になった。今後ともお願いしたい
- ・一切の不満なし
- ・カメムシの駆除までしていただき有難かった
- ・細かいところまで気配りが行き届いていた
- ・丁寧に対応いただき有難かった
- ・研修としては十分な対応であった

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・実践的な研修はどうしても必要となってくるので、このような研修は継続していただきたい
- ・都道府県も困っていると思うが、実際この制度に直面している市町村にはもっと困っている方がいると思うので、できれば市町村レベルでの当研修を開催していただきたい
- ・市町村担当者向け（特に取り組みが遅れている市町村）の今回のような研修
- ・市町村によって取り組み方や進行段階が違うので、各段階の研修を当県でやってほしい
- ・市町や林政アドバイザー等、実務担当者に向けた研修の拡充
- ・集積計画の実技演習、またはそれに対する指導
- ・現地のモデル地区を利用した例題による集積計画の作成があれば良い
- ・集積計画のケーススタディ
- ・今回は集積計画作成までだったので、それ以降の手続き等についても知る機会があると良い
- ・今後の集約化計画作成から事業実施状況等の先進地の事例をまた教えてほしい
- ・今後、市町が関わる様々な状況の森林とその対応方法を検討する場がほしい
- ・広葉樹林化、混交林化についての技術研修、事例研究、設計研修
- ・針広混交林化や人工林の広葉樹林と天然林の混交林化に関わる研修があると良い
- ・森林整備以外の環境税の使い方、各県・各市町の先進事例、報告会等
- ・所有者探索の方法
- ・行政書や法律に関する研修

(5) その他、自由に感想をお書き下さい。（研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。）

- ・新たな制度に置き換えるのではなく、あくまで「追加」であるということが印象に残った
- ・郡上森林組合から直接話を聞く貴重な時間が得られ有意義であった
- ・先進事例や広葉樹林化の難しさ等、実際に聞いてみないと分からないことを知ることができてとても良かった
- ・各県で苦勞されているところが共感できた
- ・「市町村森林経営管理事業のための森林施業」が大変参考になった
- ・質疑応答の時間がもっとあっても良い
- ・各県1名の発表では発言する機会がない人もいるので配慮して欲しい（グループ討議等）
- ・グループワークを用いた討議がほしい
- ・来年も同様の研修を実施するのであれば、研修期間を3日間から4日間にしてほしい
- ・市の集積計画が作成されるであろう、R2、R3年度に事例研修を希望したい
- ・現地の研修をもっと充実させてほしい

- ・ブロック単位のメリットとして、他県事例を知り、ネットワーク構築ができる。その反面自分の市に即時当てはまる内容が全てではないことの考慮が必要だと感じた
- ・意見交換等で現場の意見を聞いたので良かった
- ・「四日夜の意見交換会」。あのような場でこそその話し合いができた
- ・意見交換の時間がもっとあった方が良かった
- ・会議室が寒かった

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

(1) 森林管理円滑化対策研修を 100 点満点で評価するとしたら何点ですか？減点した理由等もお書き下さい。

60 点

- ・各講義での時間不足。資料（紙）が多すぎる。なるべく少ない方が後からの見直しをするときに楽で良い

70 点

- ・本市はまだ意向調査に至っていないので、その点についてもっと詳しく知りたかった

80 点

- ・各県の発表時間が足りなかった
- ・集積計画のケーススタディ（今後の要望として）【←今後のどのようなサポート&研修（4）に反映】
- ・現地のモデル地区を利用した例題による集積計画の作成があれば良い【←今後のどのようなサポート&研修（4）に反映】
- ・研修期間が短かったため
- ・時間配分にもう少し余裕があったら良い
- ・内容が濃く、もう少し時間がほしい
- ・実際にやってみて苦労した所が知りたかった
- ・まだまだ伸びしろがあると思うため

90 点

- ・時間が短い
- ・グループワークを用いた討議がほしい【←その他ご自由に（5）に反映】
- ・集積計画の作成はできるが、市森林経営管理事業のための施業について施業方法の選択ができるとは言えない
- ・予定時刻を過ぎることが多かった
- ・他県等の事例が大変参考になったが、これといった答えを持ち帰るまでには至らなかったため
- ・集約化計画から施業について状況が分からなかったため
- ・現場視察の内容が研修テーマにより 1 足したものであると良い

100 点

- ・仕事を 3 日間休んでまで参加して良かった

■近畿ブロック

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】

2点

- ・法律の知識が乏しく、行政手続法関連の話しが難しかった

3点

- ・各地域での市町村等の取組事例が確認でき良かった

4点

- ・制度を進めていく上であやふやな所が一応解消できた
- ・質問番号を解説いただく前に読み上げていただければなお良かった
- ・大変詳しい内容を短時間で聞くことができた
- ・全国の市町村取組事例が聞けて良かった
- ・概要は理解しているつもりであったが細かいところで思い違いをしているところもあり修正できた。先進事例の紹介も良かった
- ・制度の基本的な流れやポイントを理解できた
- ・制度の内容はおおむね理解できた。Q&Aについて、より詳しく知りたかった
- ・自分自身、林野庁からの説明を聞くのは初めてだったので、全体的に説明して欲しかった
- ・全国の先進事例やQ&Aを中心に丁寧に説明いただいたので大変勉強になった。自分自身がまだ不勉強のため、十分理解できなかつた部分もあつたのが残念であり反省。

5点

- ・制度の概要が理解できた
- ・様々な先進事例があることが分かった
- ・Q&Aを深く掘り下げて欲しかった

(2) 都道府県における制度取組の現状と課題【発表及び意見交換】

3点

- ・県がガイドラインを作成している等、有益な情報が得られた
- ・各地で状況が違い、幅広く取組状況と課題を知ることが出来た
- ・他県の取組をもう少し聞きたかった
- ・市町村の立場として、他府県（市町村）の考え方を知ることが出来た

4点

- ・他府県の取組の考え方を知ることができた
- ・各県の取組発表とその後の質疑によって理解が深まった
- ・他府県の取り組み事例が聞けて良かった
- ・他府県の様々な取組を知ることができ参考になった
- ・他府県の取組が参考になった
- ・他府県の取組状況がよく分かった。森林情報整備から取り組み始めているところが多く参考になった

5点

- ・奈良県のこの制度への取組の遅れを実感した
- ・各都道府県の取組内容が分かった

・各府県の取り組み状況がよく分かったし、今後サポートセンター間での情報交換の必要性を感じた

(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【現場視察・意見交換】

3点

- ・民間事業者との連携状況がよく分かりました
- ・森林組合と民間事業者との優位な関係について学べた
- ・視察だけではやはり良い面しか見られなかったので、地元の業者に対しては普段からコミュニケーションを積極的にとり、悪い面についても理解しておくことが大切であると思った

4点

- ・現地とセットの解説で理解が深まった
- ・伐倒～運搬までの一連が見えて、また、意欲ある事業者の話聞かせていただき、大変参考になった
- ・事業者の取組や作業道作設や流通方法など所有者へ返す金額が少しでも多くなるように工夫されていた
- ・改めて紀中森林組合担当者の思いが聞けて良かった
- ・優良な森林組合の取組を見ることができて良かった。ただ、経営管理制度の研修の中に取り込むことには少し疑問。
- ・森林組合と地元事業者がうまく連携してシステム販売を行っている事例を学ぶことができたが、持ち帰って活用できるかは疑問。

5点

- ・意欲のある事業者の考え方や姿勢を知ることができた
- ・優良民間事業者の熱心な現場を視察することができた
- ・この制度で皆伐や事業者の経済活動の支援を含むことがはじめて理解できた
- ・民間事業者との連携により紀中が意欲的に取り組まれていることが分かった
- ・生産から販売までつながった取組を知ることができ参考になった

(4) 経営管理権集積計画の作成【講義】

2点

- ・やっぱり何回聞いても難しい。計画制度自体に疑問を感じる

3点

- ・ポイントを絞って説明していただき、分かりやすかったです
- ・各質問に対するコメントがあり、良く理解できた
- ・これについては分かっていないことが本当にたくさんあった。テキストを読み直して整理したいと思う

4点

- ・とりあえず意向調査をやってみる気持ちになった
- ・計画のポイントを理解できた。意向調査の重要性を再認識できた
- ・事前質問にも回答いただき大変理解できたが、実際に計画をたてる際には様々な課題が出てくるだろうと予想している。

- ・非常に難解。当初思っていた制度と若干違った
- ・分かりやすかった

5点

- ・国の本制度に関する考え方などがよく分かった
- ・ポイントを絞ってもらい大変分かりやすい説明だった
- ・集積計画に事業地開拓のイメージを受けた
- ・作成時の注意点がよく分かった
- ・特に重要な点だけをピンポイントで簡潔に説明いただいたと思う。

(5)経営管理権集積計画演習【演習】

3点

- ・具体的な演習で非常に理解が深まった
- ・様々な優先順位の付け方が有り、参考になった
- ・林野庁からのコメントを参考に管内市町への指導に役立てたい
- ・他県の考え方が聞け、大変参考になりました
- ・事前作成した中で、一部認識が違っていた点を確認できた

4点

- ・対話形式で疑問が解消され有意義であった
- ・様々な考え方に基づいている計画を見せていただき自分にない視点が多数あり大変参考になった
- ・実際やってみることで疑問点が明らかになり良かった。他の方の計画にも参考になることがたくさんあった
- ・自身の勘違いが訂正されて良かった。理解が進んだ。

5点

- ・様々な視点の計画に対する考え方を知ることができた
- ・各地の集積計画の取組を知ることができ良い機会になった
- ・他の人の計画の考え方も大変参考になった
- ・様々な視点からの意見やそれに対する林野庁のコメントを知ることができて参考になった
- ・色々な考え方について学び、広い視野をもって取り組むことができた
- ・林野庁のコメントもあり、非常に参考になった
- ・事前課題の作成を通じて集積計画のポイント、間違いやすい点、留意すべき点等が共有でき、今後の参考になった

(6)市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】

3点

- ・生物多様性の観点からの森林整備について考えるきっかけになった
- ・広葉樹林化を考える上で最も重要なこととして前生稚樹の確認が重要であることが学べた

4点

- ・簡単に広葉樹林化ができるものではないと分かった
- ・広葉樹林化が難しいのに何ですのか？とまだ思う。
- ・針広混合林化や広葉樹林化は大変難しい施業であると再認識した。市町村森林経営管理事業によ

る施業方針も簡単には決めにくいと思った

- ・混交林化の困難さが根拠をもってよく分かった
- ・広葉樹林化の難しさを改めて実感した
- ・天然更新を成功させるのが非常に困難であることが分かった
- ・天然林育成を行っていくにあたり、大変参考になった
- ・簡単に混交林化等言えないけど、施策上、誘導していかなければいけない気がするので、すごく簡単なマニュアルがあれば良いと思った

5点

- ・植栽による広葉樹林の仕立て方法・技術の普及が早急に必要だと感じる。現場でも広葉樹の育成は難しいという声が多く、普及員の技術・知識がおいついていない
- ・伐採届の内容を精査する際の天然更新のあり方。
- ・非常に分かりやすかった

(7)先進市町村の取組事例【講義・意見交換】

3点

- ・先進的に取り組んでいる町の状況を確認することができた

4点

- ・町の考え方と自分（府）の考え方が同じ所、異なる所があるということを認識できた
- ・プロジェクトは所有者に残るお金のために重要
- ・便途は法律の主旨に立ちかえることが重要
- ・実情の話が聞けて参考になった
- ・先進的な事例で参考になった
- ・町の実情がよく分かった
- ・町役場課長の臨場感あふれる話が良かった
- ・あじのある説明で苦勞がよく分かった
- ・市町村がかかえる課題や問題点、実態を把握できた
- ・日高川町の現在の具体的な取組状況を聞くことができ、大阪府内での支援の参考になった

5点

- ・状況が異なるがよく頑張っておられると感じた
- ・日高川町が実際に取り組むうえで課題や問題点、また工夫などが分かった
- ・日高川町のリアルな意見や課題を聞くことができて良かった
- ・役場が抱える具体的な問題や立場について話が伺えて良かった。サポートが必要な箇所も分かって良かった
- ・田辺市では他市町村の事例を集めているので、非常に参考になった
- ・市町村の苦勞を改めて感じた

II 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1)研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

2. できていない

- ・事前課題が分かりづらかった

(2) 研修の進行・運営流れについて

3点

- ・現地研修の際、研修生が持っていない資料（現地に持参するように言われていない資料）を使って説明される場面があり、事務局と現地スタッフとの連絡不足を感じた

4点

- ・良かった。ただ、宿泊が別館だったのが面倒だった
- ・休憩を少し入れてほしかった
- ・とてもスムーズであったが、もっと休憩を多めに
- ・意見交換が十分できる構成となっていた
- ・初めに研修のねらいを伝えてもらえるのは大変良いことだと思う。時間オーバーで減点した

5点

- ・休憩時間も充分とっていただきありがたかった
- ・最後に制度に関する質問タイムを設けた方が良かった（初日にいきなりあったので戸惑った）

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について

4点

- ・良かった
- ・運営スタッフの対応は良かった。ご苦労様でした

5点

- ・3日間研修だけではなくお世話になりました
- ・気軽に声をかけられる雰囲気で大変助かった
- ・スマートな進行や様々なフォローがあり良かった（追加の情報提供を盛り込むなど）
- ・運営ご苦労様でした。ありがとうございました

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・質問した県や問題はリアルタイムで発生するので今まで通り林野庁において常に電話したら対応していただければ良い
- ・フォレスターによる地域の森林管理構想の実現について学ぶ
- ・業務補助プログラム（地区内の森林情報（施業履歴など）をまとめるなど）の開発・整備
- ・他の都道府県職員や市町村職員と意見交換するスタイルの研修
- ・実施権配分計画に関する研修
- ・市町村と県と一緒に参加して演習等に取り組む研修
- ・集積計画の作成についてもう少しつっこんだ内容の演習と法律関係のサポートがほしいと感じている。あと、森林環境税とはこういうものだという周知がもっと必要だと思う
- ・意向調査が進み、集積計画を作成していく中で出てきた課題などの情報提供
- ・市町村向けの同様の研修があればまた是非参加したいと思う
- ・Q&Aにひたすら答えるものでも良い（そこから広がりができると思う）
- ・現場を入れるのであれば針広混交林に誘導のポイントなどの現場があれば良いと思った（難しいとは思いますが）

- ・お話は伺ったが、Q & Aを出していただくのは大変ありがたい
- ・森林経営管理制度の各段階ごとの実践的な研修を今後順次やってほしい
- ・各都道府県のサポートセンター（市町村に対する支援、相談窓口部署）が定期的に情報交換等ができる場があれば良いと思う

(5) その他、自由に感想をお書き下さい。（研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。）

- ・集積計画の演習は色々な考え方があるということを再確認させられた
- ・2日目の意見交換が良かった（企画として）
- ・紀中森林組合の現場は「日本の林業の補助政策の縮図」として印象深かった
- ・今回無理をお願いし研修に参加させていただいたが、今後このような研修を企画される場合、県の担当宛だけでなく（県や市町村で情報が止まる）、林野庁 Facebook など外向けへの情報発信を行っていただければうれしい
- ・研修にあたり色々準備等ありがとうございました
- ・まだまだ手探りな部分も多い制度。少しずつでも進めることが大事だと思う
- ・自身でかなり勘違いしていた部分が改善された
- ・大変有意義な研修だった。ありがとうございました。ただし、最後のブロック会議の資料依頼についてはちょっといただけない
- ・講義や現場視察だけでなく、受講生間の交流等も含めて有益な知識情報を共有することができた

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

(1) 森林管理円滑化対策研修を 100 点満点で評価するとしたら何点ですか？減点した理由等もお書き下さい。

80 点

- ・集積計画策定に至る手順をもう少し踏み込んだものとなるよう期待していた
- ・現在取り組んでいる現場の視察も良かったが、もう少し意見交換ができれば良かった
- ・研修全般を通しての時間配分、もう少し余裕があり、意見交換等ができる時間があれば良かったと思う

90 点

- ・地元の取り組みを説明していただいたが、少しオーバーな対応だったのではないかと
- ・開催県に参加者が偏っていた点
- ・もう少しグループでのフリートーキング的な時間があればより情報交換ができたのでは
- ・内容を少しつめこみすぎのように感じた。現地はなくても良かったのではないのでしょうか
- ・集積計画の演習について、みなさんの発表はとても興味深かったが、1つ正解の事例を示していただく、または、全員で講義を聞いた上で再度作成してみる演習等があればより良かったと感じた
- ・普及向けの研修であれば一貫施業現場があっても良かったと思うが、今回研修についてはあまり必要性が感じられなかった

■中国ブロック

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】

4点

- ・質問事項に丁寧に回答頂き有難かった
- ・制度の説明は何度か受けたことがあるが、改めて知る機会となった
- ・取組事例として具体的な意向調査方法や所有者への説明会の内容を提示していただけるとより分かりやすいと思った
- ・林野庁の説明時間が足りなかった

5点

- ・集積計画を立てる場合、誰と話をすべきか難しい所が理解できた
- ・疑問を解消できて良かった
- ・林野庁担当者からの説明により、制度内容の再認識をすることができ、かつ、他組織の方々の日々の疑問を知ることも参考になった
- ・Q&Aの解説時間がしっかりとられていたので分かりやすかった
- ・1-1-1回答集についてA以外もポイント説明がほしかった

(2) 都道府県における制度取組の現状と課題【発表及び意見交換】

3点

- ・他県の取り組みの内容を聞き、鳥取西部についても他市町村と足並みを揃えて制度を進めて行きたい

4点

- ・対応が様々であった
- ・県ごとの実情の違いが分かり参考にしようと思った
- ・県によって市町村へのフォローが違い、制度への理解度が違うことにも驚いた。新しい繋がりができ、これから意向調査を行うにあたり、助けになると思う。

5点

- ・各県の取り組みが良く分かり、参考となる所があった
- ・各県の取り組みについて具体的に知ることができ、今後の業務の参考とすることができた
- ・各県で工夫して取り組んでいることが分かったので今後参考にしていきたい
- ・他県や他市町村の現状や課題を聞くことができて参考になった
- ・他所での取り組みが参考になった

(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【現場視察・意見交換】

3点

- ・林業を持続的に進めていくには、地元で根を張ることが必要だと感じた

4点

- ・森林組合が地域貢献を考えていることが理解できた

5点

- ・施業地の管理についてもう少し時間をかけて研修してほしい
- ・地域と密着し、地道に活動されて素晴らしいと思う。もう1カ所ぐらい現場に行きたかった

- ・他県の意欲ある事業者の状況はとても参考になった
- ・森林組合が意欲的に活動していくことが地域の林業振興で重要になることが良く分かった
- ・実際に現場を見て説明を聞くことができて良かった
- ・実際に事業をしている事業者と現場や意見交換をすることで、書面では分からない内容や新しく疑問もできて大変勉強になった。こんな研修が増えたら良い
- ・取り組み状況、現場の声が分かり参考になった

(4) 経営管理権集積計画の作成【講義】

4点

- ・集積計画作成の流れを復習できた
- ・作成時に疑問に思った所有者（死亡していた時はどうするの）の記入方法等を理解できた

5点

- ・林小班が最小単位ということで良く分かった
- ・集積計画の記載内容について良く理解できた
- ・良い復習となった
- ・県内の状況として、集積計画の作成の段階に入りつつあるため、内容理解に努めた
- ・記載内容の注意点を理解できた
- ・手引きについてポイントを説明してもらい分かりやすかった
- ・「公告することで公平性が確保される」ことが分かった

(5) 経営管理権集積計画演習【演習】

4点

- ・集積計画の作成について不明点が多かったが、ある程度の疑問が解消された
- ・各地域のアプローチの方法が異なり、考えさせられた
- ・各県の制度進捗状況も踏まえて理解することができた
- ・受講生が作成した案をもとに意見交換やアドバイスをもらうことができて良かった
- ・経営管理集積計画をする側の思いによって集積計画が違ってくる

5点

- ・課題と問題を整理し、修正する方向が分かった
- ・他県、他町の内容を見て広葉樹の取り扱いが実感できた
- ・各地域の実情を踏まえ得た内容であったので、参考になった
- ・様式を変えてはいけないこと、基本、ひな型通りとすることが分かった

(6) 市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】

4点

- ・市町村管理の手法として広葉樹林化に必要な考え、手法を知ることができた。キーワードとしては、埋土種子、針葉樹の複層林
- ・広葉樹の天然更新は難しい施業であり、前生稚樹が重要であることが分かった
- ・人が頑張っても自然環境や動物等の影響で大変難しく、コストや時間がかかることが良く分かった

5点

- ・前生稚樹の大切さを理解できた
- ・これから向かうべき方向の指標とすることができた
- ・素晴らしい取り組みで、自身の林業に向ける情熱が遠いなと感じた
- ・シカが多いので悩みどころが多い
- ・広葉樹林化施業を行う上で、注意するポイントを知ることができたので良かった
- ・民有林での実施をしてみたい
- ・人工林の面積が少なく、積極的に経営管理をするというよりかは針広混交林にしていきたいという考えをもっていたが、大変さが良く分かった
- ・シカ対策、広葉樹林化の難しさを改めて感じた

(7)先進市町村の取組事例【講義・意見交換】

4点

- ・先進過ぎる成功事例であったが、県内の市町村でも考え方等参考可能な部分があると思った
- ・先存取組事例として話を聞くことができて良かった
- ・森林資源の有効活用のリサイクルが素晴らしい
- ・資料、説明は大変良かったが、大まかには分かるが色々あって頭がついていけなかった

5点

- ・百森の役割が理解できた
- ・制度の向かうべき方向を実感することができた
- ・まねのできる場所は真似したい
- ・市町村の独自の森づくりの構想を設定することが重要であると思った
- ・状況が違うので同じに組みはできないが、方向性が明確である点、村の活性化に繋がっている点は参考にしたい

II 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1)研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

1. できていた

- ・宿題の依頼はもう少し早くしてもらえると助かる
- ・3日目しか参加せずにすみません

2. できていない

- ・事務局側の要因ではなく、県内部の連絡体制
- ・メールが届かない状況のものがあった
- ・研修参加の連絡や事前課題への周知が遅かったため、調整必要となった

(2)研修の進行・運営流れについて

4点

- ・現場時間が限られていたので森林総研の先生の現場時間が望まれた（森林総研の先生の現場同行があれば良かった？）
- ・ホワイトボードへの進行、運営の流れが示され分かりやすかった

- ・予定スケジュール通り進めて頂いたと思う
- ・時間配分を考え、スムーズな進行・運営をして頂いた

5点

- ・時間通り進められて良かった
- ・最終日の閉講後の連絡は事前にいただきたい（電車時刻の調整があるため）
- ・3日目のみの参加を認めて頂き有難い

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について

4点

- ・新見市森林組合には大変お世話になった
- ・丁寧に対応頂いたと思う
- ・色々な心遣いをして頂き感謝。お世話になりありがとうございました。お疲れ様でした

5点

- ・丁寧であった
- ・大変お世話になった
- ・適切なタイミングでフォローがあり助かった
- ・研修を運営される姿勢は良かったと思う
- ・3日目のみの参加を認めて頂き有難い

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・今回のような研修を継続して頂ければと思う
- ・意向調査手法についての講義があると良い
- ・集約化の実務を深めた内容の研修
- ・集積後の実施権の作成方法
- ・進捗に合った段階毎の研修があると有難い
- ・制度の進捗に合わせて、各自治体の取組状況を紹介
- ・市町村担当者は次々と変わっていくので、市町村向けの研修を毎年開催してほしい
- ・市町村職員は数年で異動し、林務について全く知識の無い職員も担当する。各市町村で引継ぎをすべきとは思いますが、難しい状況のため、初任者研修があれば助かる（都道府県主催でも良い）と思う
- ・森林初心者（林業資格のない人）が理解しやすい研修
- ・GISを使用して対象森林の絞り込み方の講義をしてほしい
- ・事業を加速化していく施業の提案
- ・他会場も含めたQ&A
- ・簡単なQにも電話やメールで教えてくれる総合的なサポートがほしい

(5) その他、自由に感想をお書き下さい。（研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。）

- ・良く考えられた研修内容だったと思う
- ・3日間、少人数でこれぐらいの規模の研修が丁度良い

- ・新見市森林組合の現場視察と講義
- ・組合の取組状況を聞いたので、他事業体からの話も聞いてみたい
- ・現場の声が聞いたことが良かった
- ・針広混交林化を安易に考えていたので担当部署でもう一度協議したいと思う
- ・演習の時間がもう少しあればもっと良いと思った

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

(1) 森林管理円滑化対策研修を 100 点満点で評価するとしたら何点ですか？減点した理由等もお書き下さい。

70 点

- ・制度の内容については中央研修でも講義されていたので講義時間を調整しても良いと思う

80 点

- ・1つ知ってはどんどん疑問が出てくるが、解決しきれなかった
- ・事前課題の準備にもう少し時間はほしかった
- ・集約化の実務を深めてもらいたい
- ・1泊2日でできたらもっと良かった

90 点

- ・現地が物足りない、意向調査に関する内容もほしい
- ・重要な研修であり、もっと多くの県、市町が参加すべき
- ・現場を見る時間がもう少しあると良いと思った

■四国ブロック

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】

3 点

- ・改めて復習となった

4 点

- ・復習ができた
- ・民有林全てをカバーする制度でなく、その課題解決のための1つのツールである。経営権を受け取るための調査ではなく、きっかけ
- ・他の自治体の事例は参考になった。来年度のデータベースと相談窓口に期待したい
- ・他県の独自の取り組みについて、今まであまり知る機会がなかったのでとても参考になった
- ・皆不安を抱えているのが分かり、ある意味安心した。市町村は地域の揉め事の矢面に立っている。揉め事が起こらないように勧めるため、いろんな取組事例（失敗事例）の情報提供を積極的にお願いしたい

- ・制度の主旨を理解できた
- ・大まかな概要と現状を理解・認識できた
- ・改めて何点か確認することができた

5 点

- ・改めて制度について気づきがあった
- ・制度に関する理解がより深まった
- ・制度の基本について理解できた
- ・再度制度の周知を復習できた。質問・回答が特に今後の参考となった
- ・概要説明で、改めて制度の内容を把握できた。質問へ一つ一つ答えていただき、非常に分かりやすかった
- ・林野庁の担当者の声を聞いてとても参考になった
- ・日頃より運用について促している立場だが、逆に振り返ることにより、大変復習になり、安心した

(2) 都道府県における制度取組の現状と課題【発表及び意見交換】

3点

- ・拙い説明になったが、実際発表してみて自分のまとまりにもなったので良かった
- ・率直な意見を聞いて良かったが、メモしきれないところも多かった
- ・各県がそれぞれ工夫しながらやっているのが良く分かるが、どう市町村をフォローしていけるのかこれからの課題
- ・各県で取り組みの進展に差があることが分かった

4点

- ・参考になった
- ・市町村に向けてのフォロー体制、仕組み作りについて試行錯誤していると感じた
- ・全国の自治体の事例集等があると業務の参考になると思われる
- ・市町の取り組みの足並みが揃っていない等、市町村が抱える問題を通じて今後どうサポートしていくのかが重要だと思う
- ・各地域の取り組みの概要だけではなく、詳細もあれば助かる。
- ・各県の状況（進捗）と課題が少し認識できた
- ・分かりやすい資料を用意した方が良かった

5点

- ・各県の市町村の意見・取組が聞いて良かった
- ・各県市町の取り組みが良く分かった。質疑・応答が特に今後の参考となった
- ・各市町がどのような取り組みをし、どのような課題を抱えているのかを知り大変参考になった
- ・各県と問題点等の意見の共有が図られた

(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【現場視察・意見交換】

3点

- ・思いが伝わってきた

4点

- ・林業の情報が多く参考になった
- ・伐採から造林まで一貫施業に取り組み、獣害対策等の結果が得られないこともあるが、「循環型林業」に挑戦する熱意を強く感じた
- ・機械の多用による省力化で担い手不足の問題をカバーし、作業効率の向上にも繋げており、林業

における問題を踏まえた取り組みをしていると感じた

- ・森林組合の状態についても知っておくべきと思う
- ・皆伐から再生林まで工夫されており、資源も効率良く加工販売されている
- ・優良事業者の取り組みの経緯・意識を聞いて参考になった
- ・最後の取りまとめのポイント、視点が不明確。「単に事業者への事なのか?」「制度運用のための事業者の事なのか?」
- ・徳島県の優良な事業者の状況は分かった

5点

- ・各県の状況が良く分かって参考になった
- ・事業者の声が聞いて良かった
- ・建設業から林業へ参入した事業者の話が聞いて参考になった
- ・優良民間事業者だけあって、取組事例には大いに参考となることがあった。感動した
- ・主伐、再生林の一貫施業を行う事業者は当地域には事例がなく参考になった
- ・急進的な事業者の話を知ることができて参考になった
- ・とても優良な事例があり参考になった。立木買取でなく、自社有林として管理していく道を選んだ点が良い。これからの保育班が課題
- ・自県にもこのような企業があれば良いと思った。山ごと買取は魅力的。
- ・自県では、認定林業事業者の運用が必要とされる中で、参考とすべき点が大いにあった
- ・とても優良な事業者だと感じた

(4) 経営管理権集積計画の作成【講義】

2点

- ・情報量が多く、まだ整理できていない。多くのパターンで試行を繰り返す必要があると感じた

3点

- ・意向調査、再委起業バランスも考えて行うことも大切であることが分かった
- ・実際にやってみないと分からないことが多かった
- ・一部完全に理解できない部分もあったので整理したい

4点

- ・より理解が進んだ
- ・計画の作成にかかる問題点について理解が深まった
- ・制度の概要について理解を乏しい部分もあったが、今回の講義で理解が深まった
- ・今まで勉強してきた中で、思い込みや誤解もあったが、是正されて良かった
- ・要点がまとまっていて良かった。配分計画等の先の内容にも触れても良かったと思う

5点

- ・細かい説明をいただけて理解が深まった
- ・計画作成の留意事項が再認識できた。手引きを読み解くことができた
- ・手引きやマニュアル等を深く読み込む時間がないため、細かな説明がとても勉強になった
- ・作成の流れについて自分で勉強した内容との照らし合わせができた

(5) 経営管理権集積計画演習【演習】

2点

- ・情報量が多く、まだ整理できていない。多くのパターンで試行を繰り返す必要があると感じた

3点

- ・他の方の選出方法が参考になった
- ・手引きに沿って集積計画を作成し、流れは理解できたが、様々なケースが想定されることから、実際に計画策定してみないと分からないと感じた
- ・ただ発表を聴講する内容ではなかったのが良かったが、演習とするなら、実際にモデル的に同じ場所を受講生同士で作成してみても良いのではないかと思った
- ・研修内で勉強や意見交換を行いたいポイントを絞って、課題の様式に明記してもらおうようにしてはどうか。(作業の流れ(フロー)を簡単に記入するなど)
- ・初めて作成したが、理解不足の部分があると分かった

4点

- ・より理解が進んだ
- ・他の方々の計画を見て参考になった
- ・具体的に集積計画を作成した上での演習だったが、理解が不足していたところを理解できた
- ・それぞれの地域の事情を考慮した上で計画を作成しているものも多く、大変参考になった
- ・アンケート調査の段階からを想定しているのもっとリアルで良かったと思う。
- ・契約内容の記述方法について理解を深められていた

5点

- ・色々な考えで取り組み、集積計画を作っており参考となった
- ・いろんな考えで対応できることが分かった

(6)市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】

3点

- ・長期的な視点がやはり必要だと思った
- ・天然更新により混交複層林に誘導することの難しさは理解したが、実際に切り捨て間伐を進めた時にどう複層林化していくか考えていけないと思った

4点

- ・より理解が進んだ
- ・林業生産だけの視点だけではなく、目標を掲げながら実行することの難しさ、100年森づくりを引き継ぐことをしていく必要を感じられた
- ・広葉樹林化の難しさ、前生稚樹の重要性を感じ、地域の特性に合わせた取り組みが必要だと思う
- ・混交林化について譲与税の活用を検討すべきではあるが、各関係機関との調整や地域特性に対する調整は必至だ
- ・混交林化等の知見が聞けて参考となった
- ・針広混交林が難しいということが確認できた

5点

- ・広葉樹林化への理解が深まった
- ・とても工夫しなければ、複層林、混交林を目指すことが難しいと再確認できた
- ・広葉樹林化が難しいことが分かった。一定の条件の上に成り立つことを皆で認識することが必要

- ・広葉樹林化について、天然更新完了期間との整合性が気になる
- ・広葉樹林化の難しさが改めて理解できた
- ・天然更新完了基準の運用については疑問点も多い
- ・理想とする森林のイメージはできたが、所有者にまで浸透できるのか

(7) 先進市町村の取組事例【講義・意見交換】

3点

・制度を現場に落とし込み、工夫をされ、また、将来に向けての課題を洗い出していることを知れた

・改めて整理ができた

4点

・意向調査や計画策定は事務的にできても、実際の施業に繋げていけるか課題であることを改めて感じた

・「本当に必要なのは意向調査後の森林整備事業である」ことは同感。受け皿となる担い手の育成が課題。仕事ができれば、将来担い手も増えてくると思った

・意向調査実施時には、その後の施業等にも十分注視し、見据えた上で取り組むことが重要だと思う

・先進市町村と苦労等を感じることで参考となった

・純粋な市町村職員の方から話を聞きたかった（説明者が県職員だったため）

・現在すでに進んでいる事例を聞いて良かった

5点

・良く理解できた

・まだ開始できていないので参考になった

・市町村ごとにそれぞれ色々な意見や方向があり、また、他の地域の意見等聞いてみたいと思った

・まさに今やっていることなので実感があつた。同じ内容、参考になる内容であつたので、帰って地元市に参考として情報提供したい

・とても参考になった

・リアルに参考になった

・当県支援センターは各2団体に追従する点も多くある

・意向調査を実施してく参考になった

II 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

2. できていない

・メールが不達だったのと、会場やカリキュラムの急な変更が多かったため

・宿泊の手配ができていないのかの連絡がなく不安だった

「3日目の会場案内が2Fになっていたが、実際は3Fだった」等、事前連絡が不十分なところがあった

(2) 研修の進行・運営流れについて

3点

- ・時間管理は厳格な方が良いと思う
- ・概ね良いと思う
- ・受講生が行う作業の趣旨が今一つ不明

4点

- ・少しトイレ休憩が欲しいコマがあった
- ・運営側から質問等の積極的な発言があったのでより理解が深まったと思う
- ・各プログラム毎の内容は問題なかった。充実していた。質疑の時間や発表の進め方などはさらにブラッシュアップできるのではないか
- ・大変お世話になった。雰囲気も重くなく良かった
- ・今回現地に行けなかったのは残念だった

5点

- ・進行・運営等スムーズにできていたと思う
- ・よく考えられ、目的に合った運営となっていた

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について

3点

- ・概ね良いと思う

4点

- ・丁寧で良かった
- ・研修概要やスケジュールについては、事前の資料通りなので不要だったのではないか

5点

- ・よく考えられ、コメントもタイミング良く出され良くできた運営となっていた
- ・事前のメール等の問い合わせも丁寧に対応していただき大変助かった
- ・隅々までケアしていただき助かった
- ・何も不満はない
- ・丁寧に対応していただいた

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・制度が活用され進んでいけば、事例も増えるので色々と聞いてみたい
- ・制度がもう少し進み問題が多く出てきた頃に、同じ目的の研修をするとより実感がわき、分かりやすいと思う
- ・今後、制度の運用を進めるにあたって発生した課題や問題点等を取りまとめ、実際にどのような対処をしているのか、どう対処すべきか等の研修をしていただきたい
- ・他県や他市町村の事例の情報提供、運用後の定期的なQ&Aの研修
- ・実際に進めてトラブル等のあった県市町村の事例も聞かせてほしい
- ・経営管理制度の事例等をまとめて、内容等を説明していただけるような研修
- ・市町村職員対象の実務研修
- ・実際に運用していく市町村担当者積極的にご参加いただき、事例も踏まえた研修に参加したい
- ・県ごとに進み具合も違うため難しいが、自県としては、まだ集積計画の段階ではなく、意向調査

に向けた市町担当者向けの研修が必要と感じた

- ・各ブロックでの市町村職員向けの研修を開催してほしい。東京で開催されているが、遠方まで向かう必要があるため、市町村は前向きに検討できない
- ・新たな森林管理システムの運用において、実際に集積～施業まで至った団体の講演
- ・現地視察
- ・集積計画作成以後のプランニングや配分計画に至るまでの演習等
- ・その後の配分計画などの実務研修
- ・譲与税の使道・判断基準に関する情報共有で、オンライン会議でできると良い

(5) その他、自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・目的に合った良い研修であったと思う。引き続き、情報の提供をお願いしたい
- ・担当が1名の町村職員には大変参考になり、安心もできた
- ・2日目の民間事業者の講義が印象に残った。現場で働く人の意見をもっと聞きたい
- ・事業者の講義
- ・全体講義を通して、森づくりは100年の話であり、理想とする目標を掲げ、次世代につなぐこと。そして、担当者で取り組む、また、所有者・地域を巻き込んで行う必要があると感じた
- ・三間先生が我々の立場に立って対応していただいたことに感謝
- ・疑問、不安、課題の共有という点で、次回開催を期待したい
- ・経営管理集積計画を手引き等だけで課題を考えたり、作成したりするのは難しかった
- ・研修時、出席者の名刺のコピーをいただければ良かった

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

(1) 森林管理円滑化対策研修を100点満点で評価するとしたら何点ですか？減点した理由等もお書き下さい。

70点

- ・内容が盛りだくさん過ぎる。論点を絞って集中、実務研修にした方が良いと思う
- ・事前課題で考えるべきポイントを示しておくとお互いに実習が盛り上がり良くなったのではないかと思う
- ・森林経営管理制度の運用や実務に重点を置いた研修にしてほしい。所々、単なる事例発表や意見交換会になっている場面があった
- ・細かい部分だが、「3日目の会場案内が2Fになっていたが、実際は3Fだった」等、事前連絡が不十分なところがあった

80点

- ・時間管理と研修場所の統一
- ・経営管理集計計画の実例が少ない中で難しいと思うが、算定にあたっての課題をもう少し示してもらいたかった
- ・現地実習ができなかった点
- ・当方の都合で四国ブロックに参加したのでこれまでに聞けなかった意見を聞くことができたので良かったが、自県とは異なる部分がありその部分を減点とした

90点

- ・林野庁の方とお話しできて良かった。大変有意義であった
- ・先進地市町村の取組について、市町村担当者の声も併せて頂ければ良かった
- ・集積計画の課題について、地域の事情を考慮した計画内容を作成している人が多かったので、そうした点について記入する項目があるとより良い
- ・市町が主体となることから参加の枠組は広げても良いのではないかと思う

■九州ブロック

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】

3点

- ・分かりやすかった

4点

- ・今の法案関連の動きについて詳しく聞きたかった
- ・最新の状況が話題となった。県・市町村で共有したい
- ・制度の概要や考え方が理解できた
- ・全国的な現状を知ることができて良かった。特に令和2年度の新規事業について、国交省、法務省の動きを知ることができて良かった
- ・全体の流れを掴めた。林野庁の考え、本音も聞くことができた
- ・林野庁の本音を聞いて良かった
- ・所有者不明土地の対策を進めてもらうことが、制度の推進に必要なので順次情報をいただきたい
- ・事例と質問に対する回答は参考になった
- ・分かりやすく、事前の質問にも丁寧に回答していただき大変参考になった
- ・室木係長の説明が上手で良く理解できた

5点

- ・日頃疑問に思っていたこと等が講義の中で一部解決できた
- ・大変分かりやすい解説で理解が進んだ
- ・制度の復習と各地域の取組事例を聞くことができ、とても参考になった
- ・所有者不明土地等の問題の検討状況が伺えて良かった
- ・共有者、所有者不明森林の探索と公告については最も望まれた制度と思う。是非、前倒しができればと考えている。分かりやすい説明であった
- ・森林経営管理事業は、行政計画であるため、申請との調整が可能
- ・各市町等の取り組みや事前質問に対する解答等、分かりやすく講義を聞くことができた
- ・分かりやすい説明で理解できた

(2) 都道府県における制度取組の現状と課題【発表及び意見交換】

3点

- ・どこも先進的な取り組みは難しい様子。課題は共通している
- ・各県の進捗はまちまちと感じた。年百万円程の譲与税額の市町村もあり、実行は難しそうと思った

・まだスタートしたばかりで、手探りの状況からどういう形で一歩進めるかということと、どこを目指すかと両方が大事である

・意見交換の時間がもう少し欲しかった

4点

- ・各県の質疑応答が参考になった
- ・各県の課題等が把握できた
- ・時間の余裕がなく、もっと聞きたいことがあった
- ・他県の取組例は大変参考になった
- ・各県の取組状況が分かり参考になった
- ・他県の取組が参考になった
- ・各県の状況が分かり良かった

5点

- ・各県の実際の取り組みが聞けて大変参考になった
- ・他県の取組例を知ることができて大変参考になった
- ・各県の取組状況を知ることができた
- ・九州管内の事例を共有できて良かった
- ・他県のアドバイザーの状況を知ることができた
- ・近隣自治体の取組、動向を資料とともに説明いただき、理解することができた
- ・各県の状況が違うが、同じ悩みを持っていることが分かった
- ・各県の取組が非常に参考になった

(3)制度運用のための優良民間事業者との意見交換【現場視察・意見交換】

2点

- ・本県の耳川広域森林組合が全て取り組んでいる内容である。17千haで職員17名、羨ましい

3点

- ・本県の事業者のため知識はあった
- ・組合の概要は理解できたが、地域における組合の役割等をもう少し深く説明して欲しかった

4点

- ・作業工程の見直しや再生林の取組等、とても参考になった
- ・上球磨森林組合を通して意欲と能力のある林業経営者がどうあるべきかということが分かった

5点

- ・まさに、「意欲」と「能力」のある事業体の事例で非常に参考になった
- ・まさに「意欲」と「能力」を兼ね備えた事例を聞くことができ大変参考になった
- ・以前にも視察させていただいたが、その頃より更に発展している様子。また話しを伺いたい
- ・明確なビジョン、継続的な取り組みが大変参考になった
- ・優良な森林組合の事例を聞くことができ、管理能力の高さが大変参考になった。森林組合指導の参考にしたい

・上球磨森林組合のさらなる発展を願う

・日々、別の森林組合内にて働いているが、大変驚いた。理念、方針を掲げ、数値で経営者が判断している点はまさにビジネスパーソンとして信頼ができる

- ・現場の生の声として説得力の高い内容であった
- ・日頃伺えない貴重なお話を聞いて良かった
- ・優良民間事業者としてふさわしい発表であった
- ・再造林が100%としっかりできている。労働環境も素晴らしい
- ・他の事業者が入ってこない環境は羨ましい
- ・上球磨森林組合の前向きな取り組みが参考になった

(4) 経営管理権集積計画の作成【講義】

2点

- ・大変難しい。意向調査からどの林分を計画立案すべきかの判断は個別に要素が絡み、経験必須と感じた
- ・発表者の事例を参考としていきたい

3点

- ・実際にやってみないと分からない部分が多いと思った
- ・今まで集積計画については深く理解していなかったことに気付いた
- ・計画立案に対して実感がわからない
- ・あまり予習ができていなかったため難しかった

4点

- ・詳細が理解できた
- ・計画の記載項目の考えを確認したい部分が残った。費用・収益の明示ができるのかどうか
- ・まだまだ手引きを読み込む必要性があると感じた
- ・受託者の義務として管理簿を作成したり、施業方法の適切さ等、市町村が記録を残す必要があるが、マンパワーがそこまでできるのかが疑問
- ・資料も分かりやすく、読み直して理解したい
- ・林野庁の説明が良かった

5点

- ・計画作成の実務のヒントになった
- ・集積計画の記載事項について細かな解説をいただき、モヤモヤしていた部分が明らかになった。勘違い、理解が足りなかった部分を改めることができた
- ・集積計画の進め方、考え方が自分の中で整理できた
- ・これを市町村に分かりやすく伝える努力が必要。まず自分達が覚えられないといけないうい訳すると時間が足りない
- ・必要に応じた間伐等の書き方は具体的に記載する。経営管理実施枠が設定される部分とされない場合のバランスをとることに注意したい
- ・具体的な解説で参考になった

(5) 経営管理権集積計画演習【演習】

1点

- ・私の立場が公務員ではないため、使用できる情報に制約が多く、実務ができず残念であった

2点

・取組内容を地域の実情に合わせてどのように記載すべきか、訴訟リスク等も考慮すると難しい面がある

・発表者の事例を参考としていきたい

3点

・いろんなことに気付かされた

・計画立案に対して実感がわからない

・各県とも同じような内容で、計画の独自性が少し足りなかったように感じた

・各県の取組状況が分かり、勉強になった

4点

・実際作成したことは参考になった。所有者よりのものを作成したい。柔軟にできることが理解できた

・経済性に重点が置かれすぎる視点を改める点で、とても大切な講義だと感じた

・自分が作成した事例の不備を教えていただき良かった

・図の作り方は参考となるものがあった

・林野庁の人に褒められた、良かった

5点

・各県の考えを知る良い機会となった

・様々な視点で取り組まれた計画を見ることができ参考になった

・実践演習で課題が見えてきて良かった

・経営管理集積計画の整理番号等、管理方法も検討したい

・具体的な作成内容が体感できて参考になった

無点

・各県での地域の実情に沿った計画だと思った

(6)市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】

3点

・大変分かりやすかった

4点

・針葉樹林の広葉樹林化について漠然としか考えたことが無かったため、非常に参考になった

・針広混交林への誘導の難しさが理解できた。森づくりの理念と目標林型の考えについて今後取り組みたい。100～200年の長期を考えることの重要性

・天然更新の難しさが分かった

・もう少し詳細の説明が欲しかった

・大変参考になった

5点

・新しい知見を得られて非常に参考になった

・天然更新を安易に考える市町、森林所有者が多いため、指導する上で大変参考になった

・とても分かりやすかった。広葉樹林化の困難さは理解したが、モヤッとしていたものを確認できた。大変参考になった

・針広混交林、広葉樹林化は難しい

- ・目標林型を定め、広葉樹林化、複層林化を進めるにあたって考え方が整理できた。更新の難しさを改めて感じた
- ・広葉樹返還の難しさ、あえてそのまま壊さない
- ・大いに期待したいし、賛同できる天然林化
- ・天然更新を確実に行うには条件があり、ハードルが高い。今ある森林の維持を行うのが良い
- ・現状では主伐の複層林や天然更新は検討していなかったが、生物多様性も考慮する現場もありえることから参考となった
- ・森づくりの考え方、広葉樹林化について理解することができた
- ・思っていたより複層林化は難しい。天然更新はほぼ無理

(7)先進市町村の取組事例【講義・意見交換】

3点

- ・本県と状況は似ている。継続的な取り組みが必要
- ・大変恥ずかしかった
- ・具体例を整理しておけばより良かった
- ・苦労話を聞くことができ今後の参考になった

4点

- ・活発でない地域でもやれることがある。電話番号は重要
- ・林業に専従する人ではないのに、4年間で得られた成果は大きい。細かい気遣いが所有者に信頼されると思われる
- ・実際実施して見えてきたことを聞き参考となった
- ・林業への関心が低い地域の部分の場合の苦労が聞け参考となった
- ・意向調査と集約化の難しさが伝わってきた
- ・制度ができる前に先行してやられているということで大変参考になった

5点

- ・具体的な事例を知ることができて非常に参考になった
- ・アンケート調査の事例、苦労を紹介いただき参考になった。早速市町の指導に活かしたい
- ・興味あり過ぎ。視察に行きたい。一番良かった
- ・実践的な取り組みのご苦労を知り、工夫されている内容は本県の今後の調査に取り入れたい
- ・意向調査実施の際のポイント等を伺って非常に参考になった
- ・制度が始まる前に取り組んでおり、失敗事例や改善の内容を意向調査に活かしていきたい
- ・具体的な取り組みを説明いただき理解できた
- ・苦労した部分が理解できた
- ・大変参考になった

II 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1)研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

1. できていた

- ・研修前より制度の取り組み方が分かった

2. できていない

- ・意見交換会の連絡をもう少し早くお願いしたい
- ・所有者不明の場合について十分な理解をしていなく、事前に研修に向けて勉強が必要と感じた(ので詳細なプログラムの連絡が欲しい?)
- ・自分のメールアドレスを自宅にしたため、直前になってからしか連絡が取れなかった(自分のミス)

(2) 研修の進行・運営流れについて

3点

- ・演習の課題の出し方をもう少し工夫した方が良かった

4点

- ・全体としてはとても良かった。ただ、進行者の気持ちは理解できるが、講師への質問は不用なものが多かった。時間が短く済むのは良い、待ち時間が長い
- ・進行が分かりやすかった
- ・進行・時間、運営が良かった
- ・準備からスムーズな進行ありがとうございました

5点

- ・運営側からも質問や補足があり、理解の役に立った
- ・雨や会場の時間制限がある中、ありがとうございました
- ・進行がスムーズで有難かった
- ・進行役がスムーズに研修を進められたと思う
- ・細かな点まで行き渡っていた
- ・当初は発表等、重たい研修と思っていたが、参考となる情報を知ることができた
- ・時間配分通り、スムーズであった
- ・実践的で良かった
- ・スムーズな運営だった
- ・細やかな配慮が有難かった
- ・何も問題なく良かった
- ・スムーズに行っていた

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について

5点

- ・ありがとうございました
- ・親切・丁寧
- ・アットホームな雰囲気良かった
- ・お疲れ様でした
- ・細やかな配慮が有難かった
- ・とても良かった

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・本研修を継続的に実施していただければ有難い

- ・同様な内容でも繰り返し研修してほしい
- ・意向調査や計画作成の模擬演習をその場で行う研修
- ・意向調査の事例（成功・失敗・工夫すべき点等）
- ・意向調査の回答の利用方法の研修
- ・市町村職員への継続的な研修
- ・市町職員向けの森林経営管理制度、事例共有の研修
- ・地域課題の質問が出てくるため、市町村職員を対象とした研修
- ・各市町村を対象とした、県単位でのフォローアップ研修
- ・国県の職員も含めて、各市町村の課題に対して解決方法等を話し合う等研修
- ・今年度の各県の取組結果を受けて、来年度の実践後の課題を出し合い、互いに検討する機会があったら良い
- ・年度ごとの実績がでてきた時点での検討する機会があれば良い
- ・各種様式（アンケート・結果等も含む）が盛り込まれた先進の実例集が欲しい
- ・経営管理集積計画の演習・実地調査
- ・実施権を結んだ後の事務処理についてまだ見えてないため、その点の研修内容が欲しい
- ・岩下氏のQGISの活用術の研修
- ・環境税を使った事業の内容（具体的な仕様書）が知りたい
- ・立木評価に関する研修
- ・法律相談

(5) その他、自由に感想をお書き下さい。（研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。）

- ・全体的に大変有意義な内容の研修だった
- ・国の考え、方針が直接聞くことが有益だった
- ・他県の先進事例がすごい、自習性がありレベルが高い
- ・実際に先進的に取り組んでいる事例が参考になった
- ・上球磨森林組合の講義が一番驚きがあった。林業が成立していた
- ・経営管理集積計画演習は、担当者の声が聞けて問題点が分かった
- ・市町村森林経営管理事業のための森林施業
- ・広葉樹林化に関する講義
- ・玉名協議会の講義
- ・他ブロックの演習や回答集等も参考にいただきたい
- ・他ブロックの事例、情報も可能な範囲で提供いただきたい
- ・少し時間的余裕が欲しい
- ・今回は林野庁の方が現場のことを理解していただいているようなので嬉しかったが、その他、「～してほしい」とった林野庁の思いが語られることがあるが、その部分に本当の問題を抱いていてなかなか現場の本当の声が伝わらない。制度運用に無理があると感じた時は適切な対処をしてほしい

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

(1) 森林管理円滑化対策研修を 100 点満点で評価するとしたら何点ですか？減点した理由等もお

書き下さい。

70 点

- ・時期的なもの。今後は他県開催が良い。演習はその時作成するのでも良いと思った

80 点

- ・グループ討議も入れた方が良い
- ・私の発表が拙くてすみません。集積計画の演習はもっと長くしても良いと思った
- ・意見交換の場が十分に設けられていたが、曖昧なニュアンスの解答が多い気がした
- ・市町村が現在直面している課題（意向調査用リスト作成、意向調査実施）の部分を今後詳しく研修していただきたい
- ・民間事業者が譲与税含むこの制度にどのように携わりたいか等、もう少し本音が聞きたかった

90 点

- ・現状の課題は意向調査の方法が第一。もっとアンケートの情報が欲しかった。全般的に早口。
- ・集積計画の演習を拡充してほしい
- ・時間の余裕がなかった。意向調査の手法について研修時間をとってほしかった
- ・休み時間をもう少しとってもらいたい
- ・市町村の先導事例をいくつか聞きたかった
- ・現場にも行きたかった
- ・複数回（年）続けてほしい

100 点

- ・各講義でポイントが見えたので、今後の事務作業をする順序が分かった

参考資料1-4

ブロック事務局名簿

*運営スタッフは主な者である。

北海道・東北ブロック事務局

名称	一般社団法人 秋田県森と水の協会	
所在地	〒010-0941 秋田県秋田市川尻町字大川反170-169 森林環境会館3F	
電話番号	018-883-1252	
運営スタッフ	事務局長	高田清晃
	スタッフ	織山博英

関東ブロック事務局

名称	埼玉県森林協会	
所在地	〒357-0212 埼玉県飯野市井上138(有)創林内	
電話番号	042-970-2007	
運営スタッフ	事務局長	井上淳治
	スタッフ	高畑知子

中部ブロック事務局

名称	岐阜県林業改良普及協会	
所在地	〒500-8356 岐阜県岐阜市六条江東2-5-6 ぎふ森林文化センター3F 一般社団法人 岐阜県森林施業協会内	
電話番号	058-215-0681	
運営スタッフ	事務局長	永井由美子

近畿ブロック事務局

名称	一般社団法人 わかやま森林と緑の公社	
所在地	〒641-0024 和歌山県和歌山市和歌浦西2-1-22	
電話番号	073-448-0505	
運営スタッフ	事務局長	間所高史
	スタッフ	谷口卓生 大澤篤弘

中国ブロック事務局

名称	新見市森林組合	
所在地	〒718-0002 岡山県新見市下熊谷407-2	
電話番号	0867-72-2179	
運営スタッフ	事務局長	小山正明
	スタッフ	黒田里美 溝上宏治

四国ブロック事務局

名称	一般社団法人 徳島県林業改良普及協会	
所在地	〒7771-0134 徳島県徳島市川内町平石住吉209-5 徳島健康科学総合センター2F (公社)徳島県森林づくり推進機構内	
電話番号	088-679-8558	
運営スタッフ	事務局長	東口公宏
	スタッフ	中田幸代

九州ブロック事務局

名称	熊本県森林組合連合会	
所在地	〒861-8041 熊本県熊本市東区戸島2-3-35	
電話番号	096-285-8688	
運営スタッフ	事務局長	佐藤善之
	スタッフ	田上博輝 山本希美代

技術力維持・向上対策研修(実践研修)の実施

技術力維持・向上対策研修(実践研修)の実施

I. 研修の実施概要

1. 運営体制

別図(132 頁参照)のとおり研修運営を行った。

2. 技術力維持・向上対策研修(実践研修)の実施概要

(1)研修の目的

市町村への指導・助言の役割を担うべき森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的として、森林経営管理制度、地域の森林・林業の再生、林業の成長産業化等の課題をテーマに、現地検討及び討議等を通じて現場レベルでの課題解決策を共有する研修(以下「実践研修」という)を実施する。

(2)対象者

森林総合監理士、都道府県職員、森林管理局署職員、民間職員等

(3)研修内容

研修は全国を6ブロック(北海道、東北、関東、中部、近畿中国、四国)に区分し、各ブロックでテーマ及びカリキュラムを設定。2泊3日の日程で研修を実施した。なお、九州では実施していない。

各ブロックの研修テーマ一覧

ブロック	テーマ
北海道	成熟した高齢級人工林における森林づくり～天然力の活用等の手法を考える～
東北	路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査
関東	主伐・再造林に向けた、ニホンジカ被害対策全体構想の作成と実行について
中部	伐採・造林一貫作業システム(架線+路網)と木材流通
近畿中国	一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業
四国	地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について

①北海道ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)(133 頁参照)

②東北ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)(135 頁参照)

③関東ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)(137 頁参照)

④中部ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)(139 頁参照)

⑤近畿中国ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)(141 頁参照)

⑥四国ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)(143 頁参照)

(4)研修実施場所・研修日程

全国6ブロックにおいて9月から11月に実施した。

ブロック	開催場所	研修会場	現地実習箇所	日程
北海道	北海道釧路市	釧路市交流プラザさいわい	北海道標茶町雷別国有林295は林班	10月16日～18日
東北	岩手県盛岡市	アイーナ いわて県民情報交流センター	岩手県雫石町御明神荒沢山国有林外	9月2日～4日
関東	群馬県沼田市	関東森林管理局 利根沼田森林管理署	群馬県利根郡昭和村 赤城山第2国有林159い4林小班外	10月16日～18日
中部	岐阜県中津川市	中津川市にぎわいプラザ	岐阜県中津川市 湯舟沢国有林2201ろ林小班外	9月18日～20日
近畿中国	岡山県新見市	近畿中国森林管理局 森林技術・支援センター	岡山県新見市 古谷国有林527林班	10月29日～31日
四国	高知県高知市	四国森林管理局	高知県須崎市 朴ノ川山国有林3208林班外	11月13日～15日

(5)研修受講者

都道府県別修了者数(全区分)

ブロック別修了者数(全区分)

ブロック	都道府県名	修了者				修了者											
		都道府県	市町村	国有林	民間	都道府県	市町村	国有林	民間								
北海道	北海道	16	10	1	5	0	16	10	1	5	0						
東北	青森県	0	0	0	0	0	10	3	0	4	3						
	岩手県	5	2	0	3	0											
	宮城県	3	0	0	0	3											
	秋田県	0	0	0	0	0											
	山形県	2	1	0	1	0											
関東	福島県	0	0	0	0	0	12	3	0	9	0						
	茨城県	0	0	0	0	0											
	栃木県	0	0	0	0	0											
	群馬県	5	1	0	4	0											
	埼玉県	0	0	0	0	0											
	千葉県	0	0	0	0	0											
	東京都	0	0	0	0	0											
	神奈川県	1	0	0	1	0											
	新潟県	2	1	0	1	0											
	静岡県	3	0	0	3	0											
	京都府	1	1	0	0	0											
	中部	富山県	1	1	0	0						0	18	13	0	5	0
		石川県	2	2	0	0						0					
山梨県		1	1	0	0	0											
長野県		2	0	0	2	0											
岐阜県		2	1	0	1	0											
静岡県		1	1	0	0	0											
愛知県		3	1	0	2	0											
三重県		1	1	0	0	0											
滋賀県		1	1	0	0	0											
兵庫県		1	1	0	0	0											
奈良県		1	1	0	0	0											
鳥取県		2	2	0	0	0											
近畿中国	福井県	1	0	0	1	0	15	7	0	6	2						
	滋賀県	1	0	0	1	0											
	京都府	1	0	0	1	0											
	大阪府	1	0	0	1	0											
	兵庫県	3	2	0	1	0											
	奈良県	2	1	0	1	0											
	和歌山県	1	1	0	0	0											
	島根県	1	1	0	0	0											
	岡山県	2	0	0	0	2											
	広島県	1	1	0	0	0											
大分県	1	1	0	0	0												
四国	山口県	1	1	0	0	0	12	8	0	4	0						
	徳島県	1	1	0	0	0											
	香川県	1	1	0	0	0											
	愛媛県	2	1	0	1	0											
	高知県	4	1	0	3	0											
	福岡県	1	1	0	0	0											
	佐賀県	0	0	0	0	0											
	長崎県	0	0	0	0	0											
	熊本県	2	2	0	0	0											
	宮崎県	0	0	0	0	0											
	鹿児島県	0	0	0	0	0											
沖縄県	0	0	0	0	0												
合計		83	44	1	33	5	83	44	1	33	5						

(6)研修修了者の年齢構成、男女比

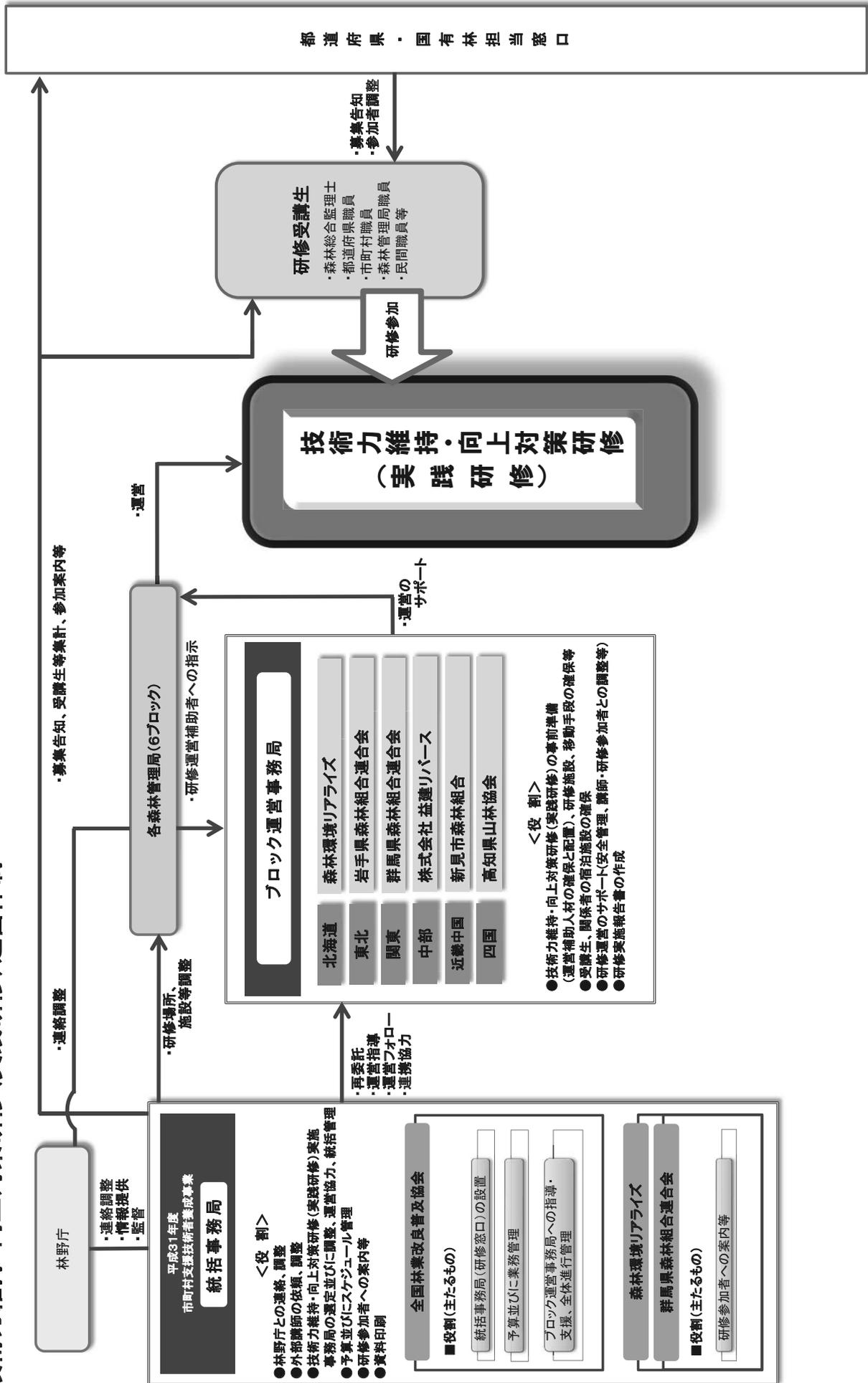
○年齢構成

年代	総数	20代	30代	40代	50代	全体平均年齢 (歳)
人数(人)	83	7	23	31	22	43.0
比率(%)	100.0	8.4	27.7	37.4	26.5	

○男女比

	総数	男性	女性
人数(人)	83	73	10
比率(%)	100.0	88.0	12.0

1. 技術力維持・向上対策研修(実践研修)運営体制



①北海道ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ:成熟した高齢級人工林における森林づくり ～天然力の活用等の手法を考える～】

		午 後						
		13:00～ 13:25 (25分)	13:25～13:55 (30分)	13:55～ 14:10 (15分)	14:20～15:20 (60分)	15:30～ 15:45 (15分)	15:45～16:45 (60分)	16:45～ 17:00 (5分)
10月 16日 (水)	集合	オリエン テーショ ン・研修 の目的 (担当: 局研修 担当官)	地域の施業の 低コスト化につ いて意見交換 (担当:局研修 担当官)	【講義】 背景・現 状に関 する基 礎知識 (担当: 局講師)	【講義】 北海道における天然力 を活用した施業について (担当:外部講師)	【講義】 低コスト 施業の 事例に ついて (担当: 局講師)	【机上演習】 グループ演習① 施業を机上作 成 (担当:局研修担 当官)	まとめと 翌日の 現地検 討の進 め方説 明 (担当:局 研修担 当官)
10月 17日 (木)	昼食	8:30～12:30 (バス移動含む) 【現地視察】 天然力を活用した森林施業を実施した箇所の視察 (担当:外部講師、内部講師(根釧西部森林管理署)) 【現地演習】 グループ演習② 現地に於て林況等を踏まえた机上案の確認・検討 (担当:局研修担当官、外部講師、局講師)	12:30～13:30	13:30～15:00 (バス移動含む) 【現地演習】 グループ演習② 現地に於て林況等を踏まえた 机上案の確認・検討 (担当:局研修担当官、外部講師、局講 師)	15:00～17:00 【机上演習】 グループ演習③ 机上案の修正 (担当:局研修担当官)	15:00～17:00		
10月 18日 (金)	解散	9:00～9:30 (30分) 【机上演習】 グループ演習 ④ 机上案の発表 準備 (担当:局研修 担当官)	9:30～10:30 (60分) 【発表】 検討結果の発表⑤ 質疑応答 (担当:局研修担当官、外部講師、局 講師) 15分(発8、PKT2、質5)×4班 60分	10:45～12:00 (75分) 【講評等】 検討結果に対する講師講評 (外部講師/内部講師)				

実践研修の概要

北海道ブロック

テーマ	成熟した高齢級人工林における森林づくり ～天然力の活用等の手法を考える～				
研修場所	釧路市	実施日	10月16日～18日	該当する大目標	施業コスト低減の戦略を描ける能力の習得
【研修のねらい・目標】					
「天然力を活用した森林施業」等を実践的に学ぶことにより、低コストな更新技術を習得する。					
【本研修の必要性】					
人工林資源が利用期を迎えていることから、森林資源の循環利用が課題であり、公益的機能を発揮しつつ資源の年齢構成の平準化も見据えた森林造成が重要である。このためには、中長期的かつ面的広がり視点を持ち、適時適切な施業を行う他、自然条件等に応じて多様な森林へ誘導する必要がある。					
【講義のポイント】					
【講義】					
①「背景・現状に関する基礎知識」 ②「北海道の森林における天然更新力を活かした施業」 ③「北海道森林管理局における低コスト施業の取組事例」					
【グループ演習】					
演習地とするトドマツ人工林における伐採・更新計画を考える。					
<ul style="list-style-type: none"> ・机上案作成:各グループ内で検討。グループの伐採・更新計画の机上案を作成する。(初日) ・現地演習:演習の現地において、机上案の実現性・妥当性等を確認・再検討し、伐採・更新計画案を確定する。(2日目) ・発表・講評:各グループの伐採・更新計画案をプレゼンテーションし、全員で共有し講師から講評を受ける。(3日目) 					
【現地見学】					
トドマツ人工林更新技術実証事業地を見学する。(2日目)					
【まとめ】					
技術の普及に向けた、今後の取り組みについて。					
地域における伐採・再造林の現状(問題点等)について、把握しておく。					
【研修講師】					
石橋 聡((研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 北海道支所 地域研究監)					

実践研修の概要

東北ブロック

テーマ	路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査				
研修場所	盛岡市	実施日	9月2日～9月4日	該当する大目標	循環的な木材生産の戦略を描ける能力の習得
【研修のねらい・目標】					
<p>情報化技術を活用し、地形・地質及び立木の資源状況に応じた適切な森林作業道の配置計画を考えることができ、実践的な指導・助言ができるようにする。</p>					
【本研修の必要性】					
<p>地域の森林を整備・管理し、木材を搬出して森林・林業を再生していくためには、路網が適切に整備されていることが重要である。しかしながら、地域における森林作業道の計画を立案できる技術を有する者は少ない状況にある。</p> <p>そのため、情報化技術を活用した森林作業道の路網配置計画を有するとともに、現地の林況に応じた効率的な森林作業道の配置を計画できる者を育成していくことが必要不可欠である。</p> <p>本研修によって、既設の森林作業道を検証するとともに新たな森林作業道の計画及び現地における検討を通じて、実践的な指導・助言ができるようになる。</p>					
【講義のポイント】					
【講義：外部講師】					
<p>現地検討を深めるため、テーマに関連した技術的な最新の知見、現地検討のポイント等についての講義を実施する。</p>					
【グループ演習】					
<p>講義の実施後に机上で、1/5,000図面(白図)および、CS立体図に森林作業道を計画する。</p>					
【現地演習】					
<p>現地の既設森林作業道を確認・検証する。 机上の森林作業道計画図面により現地踏査を行い、図面と実際の現地の違いを確認する。 情報化技術によって表現された情報と現地での実態を理解する</p>					
【グループ演習・発表・意見交換】					
<p>机上の森林作業道計画図面に基づいて、現地を確認した上で、班ごとに地形・地質等により森林作業道の計画位置変更等、効率的な森林作業道作設に向けた検討・発表・意見交換を行う。</p>					
【研修講師】					
齋藤仁志(岩手大学農学部 准教授)					

③関東ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ:主伐・再造林に向けた、ニホンジカ被害対策全体構想の作成と実行について】

期間10月16日(水)～18日(金)

		午 前				午 後				
1日目 (10/16)										
研修の ねらい										
担当 講師等										
2日目 (10/17)		【現地実習】 ①シカ被害の調査法と 行動特性の観察 (現地検討)	【現地実習】 ②くわわな設置方法の実習 及びシカ柵設置の留意事項 (現地検討)	【グループワーク】 ③シカ被害対策 全体構想の検討 (現地踏査)	(移動)	屋食	【グループワーク】 ①シカの生態と 被害の現状 (14:00～14:45)	【講義】 ②捕獲と密度管理 (14:45～15:45)	【講義】 ③防除対策事例と コスト (15:45～16:45)	現地実習 内容説明 及び 【ふり かえり】 (16:45～ 17:15)
研修の ねらい		実習地周辺の被害状況とシカ の行動特性を示す痕跡等を観 察し、被害調査手法や捕獲方 法別の留意点等を学ぶ。	わな設置における、シカ道の見 分け方、設置ポイント、設置方 法等について、実習実習を行 う。	シカの被害状況に応じた、主伐 再造林計画と生息調査、捕獲 手法、防除対策までの構想を 企画・立案するための現地調 査・検討を行う。	研修 担当	研修室	生熊(行動特性)等の 基礎及び被害の変遷 と現状を学ぶ 密度管理の手法と捕 獲方法別の留意点等 を学ぶ 被害状況に応じた防 除対策の事例とコスト 等を学ぶ	外部講師	外部講師	研修 担当
担当 講師等		外部講師	外部講師	内部講師	研修 担当	研修室	外部講師	外部講師	外部講師	研修 担当
3日目 (10/18)		【グループワーク】 ②(発表、ディスカッション)	【講義】 講評及び 総括講義	【ふりかえり】 及び 【閉講式】						
研修の ねらい		各グループ毎に取りまとめた今後の対策 計画等を発表し、疑問点や気づきかっ た点等をディスカッションし、シカ被害対策 の全体構想の企画・立案に当たり重要な 技術的ポイント等を共有する。	各地の被害対策計画 事例及び研修を通して ポイントとなる部分をお さらいする。	研修担当						
担当 講師等		2日目午後と同じ	2日目午後と同じ							

実践研修の概要

関東ブロック

テーマ	主伐・再造林に向けた、ニホンジカ被害対策全体構想の作成と実行について				
研修場所	沼田市	実施日	10月16日～18日	該当する大目標	シカ被害対策における全体構想の作成と実現能力の習得
【研修のねらい・目標】					
現在、シカの生息数の増加及び生息域の拡大により、森林の被害は深刻な状況にあることから、地域の被害対策の取組を総合的かつ効果的に推進するための知識・技術をさらに向上させ、対策の中核となるリーダーやコーディネーターとして関係機関等周囲と連携しつつ、被害対策の全体構想を作成し、実現に向けた取組が出来る人材の育成を目標とするものである。					
【本研修の必要性】					
ニホンジカによる森林被害の増加が著しい昨今、全国各地で様々な被害対策等が試行錯誤しながら取り組まれているところであり、民有林・国有林共通した重要な課題である。 現在、それぞれの地域や団体等において、生息数調査、捕獲事業(狩猟・わな等)、侵入防止対策等(柵設置、忌避剤等)が研究開発され、成果を上げているところであるが、森林総合監理士にあっては、3本の大きな役割(構想の作成・合意形成・構想の実現)を果たすために必要なスキルを身につけ、今後の主伐・再造林の推進を見据えつつ、計画的な森林整備と一体的な獣害防止の取組を推進するため、これまでの最新の知見や各地の実行結果を踏まえた、地域に適合した被害対策の全体構想を計画・立案する技術の習得が必要であると考えられることから、当該テーマについての研修を実施することが必要と判断した。					
【講義のポイント】					
【講義】					
①森林被害の現状、シカの生態、生息状況の調査、密度管理手法、防除対策方法等(外部講師) →シカ被害対策に係る、最新の知見を踏まえて、被害把握から防除対策まで、幅広い知識を習得し、地域の被害対策全体構想を計画・立案できるためのスキルを身につける。 また、地域の関係者・団体、被害対策コーディネーター等と連携した取組事例等を学ぶ。					
②総括講義 →研修を通してポイントとなる部分をおさらいするとともに、今後の展望を学ぶ。					
【現地演習】					
①シカ被害の調査法と行動特性の観察手法の留意点等の実習					
②シカ捕獲作業(わな猟)現場の実例と、わな設置(場所選定方法、設置方法、わなの仕組み)の実習及びシカ柵設置の留意点等を学ぶ					
③主伐・再造林の時期を向かえた林分における、今後のシカ被害対策の全体構想の企画・立案検討のための調査検討					
【グループ演習】					
①シカ被害対策の全体構想の企画・立案 →実習対象エリアの伐採方法～植栽方法の検討から、生息調査、捕獲手法、防除対策までの全体構想を作成する。					
【研修講師】					
岡 輝樹((研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 野生動物研究領域 領域長) 永田純子((研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 野生動物研究領域 主任研究員) 飯島勇人((研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 野生動物研究領域 主任研究員) 八代田千鶴((研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 関西支所 生物多様性研究グループ 主任研究員) 竹之内政勝(林野庁 関東森林管理局 利根沼田森林管理署 森林技術普及専門官)					

④中部ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーママ:伐採・造林一貫作業システム(架線+路網)と木材流通】

場所:岐阜県中津川市(中津川市にぎわいプラザB-1ホール)、岐阜県中津川市(湯舟沢国有林2201ろ林小班)外

午 前		午 後	
1日目 9月18日 (水)		13:00~13:40 (40分)	13:40~17:10 (3時間30分)
		・開講式 ・オリエンテーション	講義・説明・演習
			・伐採・造林一貫作業システムについて ・採材・仕分けについて ・伐採計画の演習について
		研修担当	林野庁講師
		研修担当	研修担当

午 前		午 後	
2日目 9月19日 (木)	8:00~12:45 (4時間45分)	12:45~13:30 (45分)	13:30~15:00 (1時間30分)
	・搬出の要施状況 ・地帯え、シカ防除対策等の確認 ・伐採・造林一貫作業システムによる主伐計画の検討 ・コンテナ苗生産地で講義、意見交換	屋食	市場視察・意見交換 ・流通・販売等の講義、意見交換
			発表準備 ・伐採一貫作業による主伐及び低コスト造林について図面、シート等作成
	林野庁講師・外部講師	外部講師	林野庁講師
		研修担当	研修担当

午 前		午 後	
3日目 9月20日 (金)	9:05 ~ 9:15 (10分)	11:35~ 12:10 (35分)	12:10 ~ 12:30 (20分)
	・日程説明 ・発表方法等説明	・講師講評	・集合写真 ・アンケート ・閉講式
	・発表、ディスカッション		
	研修担当	林野庁講師	研修担当

中津川市にぎわいプラザが9:00開館のため、3日目は9:05開始

実践研修の概要

中部ブロック

テーマ	伐採・造林一貫作業システム(架線+路網)と木材流通				
研修場所	中津川市	実施日	9月18日～20日	該当する大目標	循環的な木材生産の戦略を描ける能力の習得
【研修のねらい・目標】					
林業の成長産業化に向け、伐採・造林一貫作業システムについて現地検討・意見交換を行うことにより、課題解決力の向上、実践的な指導・助言ができる技術者の育成を図る					
【本研修の必要性】					
主伐・再造林を進めるためには、地拵え等の造林コストの縮減や作業効率化を図るために、林地残材の活用、コンテナ苗の利用推進が重要 そのためには、伐採・造林一貫作業システムを導入することにより作業効率・コスト面及び木材流通等の課題に対応できる技術者の育成が必要					
【講義のポイント】					
【講義等】					
①伐採・造林一貫作業システムについて(内部講師) →搬出計画(架線+路網)の作成について講義、実習 →採材・仕分けについて講義 →造林コストの低減に向けた作業システムについて講義					
②コンテナ苗の利用(外部講師) →コンテナ苗生産における取組状況等について講義					
③流通・販売について(外部講師) →市場での有利販売に向けた取組、木材流通等に関する最新の情報について講義					
【現地実習・視察・意見交換】					
①1日目に作成した主伐計画の机上案により、伐採・造林一貫作業システム実施箇所の現地確認、および集材方法・搬出系統等について検討し、効率的な搬出・造林作業ができるよう現地実習、意見交換					
②コンテナ苗生産箇所の視察、意見交換					
③市場、木材流通等について視察、意見交換					
【グループ演習・発表】					
①講義・現地実習及び視察を踏まえ、伐採・造林一貫作業システムによる搬出計画の検討を行い、主伐から植栽、流通までを班内で検討してとりまとめ、発表・全体討議・講評					
【研修講師】					
山本太一(中津樹苗 生産者) 鈴木隆志(木曾官材市売協同組合 常務理事)					

⑤近畿中国ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ：一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業】

日程：令和元年10月29日(火)～31日(木)(2泊3日)

会場：森林技術・支援センター

		午前					午後				
1日目	8:30～9:25	9:25～9:35	9:40～12:00	12:00～12:30	12:30～13:10	13:10～13:20	13:20～13:40	13:40～15:40(休憩10分含む)	15:40～16:10	16:10～17:00	
	車移動	現地検討の進め方説明(10分)	【現地検討】古谷国有林5271(140分) 一斉人工造林地における今後の森林施業(地位等の森林の状況の調査)	昼食	開講式(10分)	オリエンテーション(10分)	実践研修ガイダンス(20分)	【講義】 ①今後の森林づくりの考え方について(30分) ②多様な森林づくりの構想について(60分) 班内共有+質疑(20分)	グループ演習・現地検討の進め方、発表のとりまとめ方説明(30分)	【グループ演習1】(50分) 現地検討前の打合せ	
		進行役	外部講師 局講師			進行役	研修担当官	外部講師 局講師	進行役	外部講師 局講師	

2日目	8:30～9:25	9:25～9:35	9:40～12:00	12:00～12:30	12:30～13:10	13:10～13:20	13:20～13:40	13:40～15:40(休憩10分含む)	15:40～16:10	16:10～17:00
	車移動	現地検討の進め方説明(10分)	【現地検討】古谷国有林5271(140分) 一斉人工造林地における今後の森林施業(地位等の森林の状況の調査)	昼食	【現地検討】古谷国有林5271へ1(60分) 天然力を活用した森林づくり(天然生広葉樹の活用事例の調査)	オリエンテーション(10分)	実践研修ガイダンス(20分)	【講義】 ①今後の森林づくりの考え方について(30分) ②多様な森林づくりの構想について(60分) 班内共有+質疑(20分)	グループ演習・現地検討の進め方、発表のとりまとめ方説明(30分)	【グループ演習2】(130分) 現地検討結果を踏まえて、「一斉人工造林地における今後の森林施業」をテーマとして、目標林型等について検討(70分)し、発表をとりまとめ(60分)
		進行役	外部講師 局講師			進行役	研修担当官	外部講師 局講師	進行役	外部講師 局講師

3日目	8:30～9:25	9:25～9:35	9:40～12:00	12:00～12:30	12:30～13:10	13:10～13:20	13:20～13:40	13:40～15:40(休憩10分含む)	15:40～16:10	16:10～17:00
	本日の進め方説明(10分)	現地検討の進め方説明(10分)	【現地検討】古谷国有林5271(140分) 一斉人工造林地における今後の森林施業(地位等の森林の状況の調査)	昼食	【現地検討】古谷国有林5271へ1(60分) 天然力を活用した森林づくり(天然生広葉樹の活用事例の調査)	オリエンテーション(10分)	実践研修ガイダンス(20分)	【講義】 ①今後の森林づくりの考え方について(30分) ②多様な森林づくりの構想について(60分) 班内共有+質疑(20分)	グループ演習・現地検討の進め方、発表のとりまとめ方説明(30分)	【グループ演習3】(発表・意見交換)【発表準備:30分 休憩:間に10分(発表10分、班内共有5分、質問10分)×3班=75分 全体を通じた意見交換:20分
	進行役	外部講師 局講師	外部講師 局講師			進行役	研修担当官	外部講師 局講師	進行役	外部講師 局講師

実践研修の概要

近畿中国ブロック

講義等名	一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業				
研修場所	新見市	実施日	10月29日～31日	該当する大目標	森林を科学的に評価する能力の習得
【研修のねらい・目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・既存の人工林について、目的を再確認・再設定し、その目的を達成するために最適な目標林型を導き出す能力の習得。 ・天然力を活用した森林づくりに関する知見及び意識の向上。 					
【本研修の必要性】					
<p>森林の管理を正しく進め、適切な施業技術を適用するためには、森林の現況やそこで発揮が求められる機能（木材生産、生物多様性の保全など）に対応した森林の将来像を描き、森林施業を進めていくことが重要であり、森林総合監理士には、そのような将来像を描く力が求められている。</p> <p>人工林は、多くの場合、木材生産を目的として造成され、現存する人工林の多くは、短伐期施業による柱材生産を生産目標としてきた。しかしながら、木材需要動向の変化や森林の持つ多面的な機能への期待の高まりなどを受け、目的を再確認（場合によっては再設定）し、その目的を達成するために最適な目標林型を明確する必要があるが生じている。既存の人工林で生産目標を再設定する際には、地位や林木の形状からみて、達成可能なものでなければならない。</p> <p>平成28年5月に策定された「森林・林業基本計画」では、木材等生産機能の発揮が特に期待される育成単層林を整備するなど森林資源の循環利用を図るとともに、公益的機能の一層の発揮を図るため自然条件等を踏まえつつ育成複層林への誘導を推進するなど、多様で健全な森林へ誘導するとされている。</p> <p>また、今年度から運用が開始された森林経営管理制度では、森林所有者自らが森林の経営管理を実行できない場合に、市町村が森林の経営管理の委託等を受け、そのうち自然条件が悪く再委託ができない等の森林は市町村が管理を実施することとなる。その際には、公益的機能を発揮しつつ、管理コストが小さくなるよう、針広混交の育成複層林等へと誘導する必要がある。森林総合監理士には、この市町村による公的管理の取組への技術的支援が求められている。</p>					
【講義】					
<p>① 今後の森林づくりの考え方について【内部講師：計画課 流域管理指導官】今後の森林づくりに関する政府方針</p> <p>② 多様な森林づくりの構想について【外部講師：森林総合研究所 植物生態研究領域 チーム長（造林技術担当）】目標林型や地位について</p>					
【現地検討】					
<p>① 一斉人工造林地における今後の森林施業 45haの一斉人工造林地をフィールドとして、図面、衛星画像、森林調査簿等を用いて机上調査するとともに、地位等の森林の状況を現地調査</p> <p>② 天然力を活用した森林づくり 天然生広葉樹を活用して針広混交林の造成を行っている林分を調査</p>					
【グループ演習】					
<p>班ごとに、45haの一斉人工造林地をフィールドとして、現地検討の結果を踏まえて、「一斉人工造林地における今後の森林施業」をテーマに、以下の手順で検討し、発表をとりまとめる。</p> <p>① 森林の現況（地位、森林被害状況等）と生産活動の可能性（路網、効率的な作業システム導入の可否等）の2つの視点から木材生産機能を評価するとともに、生物多様性などの他の公益的機能の発揮が重視される区域を検討。</p> <p>② ①の結果から、区域と区域毎の目的を設定し、それぞれの目的を達成するために最適な目標林型（木材生産を目的とする場合は、伐期齢、伐期における主林木の胸高直径と本数密度。それ以外を目的とする場合には、混交林等）を検討。</p> <p>③ 目標林型に導くための森林施業について検討するとともに、近い将来更新を行うことを想定した場合には更新方法等を検討。</p> <p>各班から検討結果の発表を行ったのち、全員でディスカッションすることにより、技術的ポイント等を共有する。</p>					
【研修講師】					
奥田史郎（（研）森林研究・整備機構 森林総合研究所 植物生態研究領域 チーム長（造林技術担当））					

⑥四国ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ：地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について】

実施期間：令和元年11月13日(水)～15日(金)

日程	午 前				午 後					
	11/13 (水)	13:00～ 13:30 (30分) 開講式 ・研修主旨、 意図、留意 点の説明 (会議室)	13:30～14:30 【講義】 (60分) 大型製材工場の現状と 課題 地域の特性に合った木 材流通等	(10分) 休憩	14:40～15:20 【講義】 (40分) 架線集材の必要性と架線系作業 システムの現状について	(10分) 休憩	15:30～17:00 【実習】 (90分) 架線集材の基本 (簡易な索張見学)	17:00～ 17:20 (20分) ふりかえり (四国森林 管理局会 議室)	研修担当	
11/14 (木)	8:15～9:15 【実習】 (60分) 各班、班上で1/5000 の図面に搬出系統図 (集材線)を記入。	9:25～11:00 (95分) 現地(トイレ休憩含 む) 【バスにて移動】	(10 分) 移動 準備	11:00～12:20 (80分) 架線集材作業現場見学及び各 班、事前に1/5000の図面に記 入した、搬出系統図(集材線)を 現地踏査確認	12:20～ 13:00 (40分) 屋食	13:00～14:00 (60分) 採材研修	14:10～15:45 (95分) 【バスで移動局へ】 (途中トイレ休憩含む)	15:55～17:00 (65分) 各班で現地踏査等を 踏まえた、集材架線シ ステムの資料作成 (コスト計算に必要な データを配布)	17:00～ 17:20 (20分) ふりかえり (四国森林 管理局会 議室)	研修担当
11/15 (金)	8:15～10:00 (105分) 各班で現地踏査等を踏まえた、集材架線シ ステムの資料作成 (コスト計算に必要なデータ を配布)	9:10～10:00 (50分) 休憩	10:10～11:40 (90分) 各班発表 ①12名(3班) ②各班20分(12分 発表、3分班内共 有、5分質疑応答) ×3班＝60分(70 分) ・講評・20分 (四国森林管理局 会議室)	11:40～12:05 (25分) ・ふりかえり(10分) ・アンケート(10分) ・閉講式(5分) ・終了/解散 (四国森林管理局会議室)	資源活用課 外部講師	資源活用課 外部講師	資源活用課 外部講師	資源活用課 外部講師	研修担当	

実践研修の概要

四国ブロック

講義等名	地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について				
研修場所	高知市、須崎市	実施日	11月13日～15日	該当する大目標	循環的な木材生産の戦略を描ける能力の習得
【研修のねらい・目標】					
急峻な地形に応じた効率的な架線系と作業路網を組み合わせた集材作業システムや大型製材工場の木材利用・流通事情について現地検討・意見交換を行い、地域における木材の安定供給について実践的な指導・助言ができる人材の育成を図る。					
【本研修の必要性】					
<p>四国においては、地形が急峻な箇所が多いなか地域の特性に応じた、効率的な架線集材システム、現地特性に応じた林業機械の組み合わせによる生産の効率化等が課題となっていることから、架線集材、高性能林業機械等を組み合わせた事業現場で現地検討等を行う。</p> <p>また、大型製材工場や木質バイオマス発電所が操業開始後、約7カ年が経過、その後他県においても大型工場やバイオマス発電プラント等が操業されていることから、最新の木材利用・流通事情及び今後の動向等について、情報を共有し、それぞれの地域における取組みに資する。</p>					
【カリキュラムのポイント】					
[1日目]					
【講義】					
①大型製材工場の現状と課題〔外部講師〕					
②架線系作業システムについて説明〔内部講師〕					
③架線集材の基本(簡易な策張見学)					
[2日目]					
【実習】					
①各班、机上で1/5000の図面に搬出系統図(集材線)を記入する					
【現地視察】					
①事業地の集材作業システムについて説明。〔外部講師(素材生産請負事業者)〕					
②各班、事前に1/5000の図面に記入した、搬出系統図(集材線)を現地踏査の上、再検討を行う。〔外部・内部講師〕					
③採材研修を実施(現地)〔外部・内部講師〕					
[3日目]					
【意見交換】					
①各班で現地視察等を踏まえた、集材架線システムの発表(コスト計算含む)の資料づくり。(コスト計算に必要なデータは、内部講師より提供)					
②発表・意見交換・講評					
【研修講師】					
砂田和之(株式会社サイプレス・スナダヤ 代表取締役社長)					
細木啓延(須崎地区森林組合 組合長)					
太郎田佑一(須崎地区森林組合 業務主任(造林・林産))					
大川容平(高知県森林組合連合会 高幡共販所 所長)					

Ⅱ. 各ブロックの研修実施状況

実践研修の実施状況を共有する資料として、各ブロックの研修毎の概要をまとめた「実施報告書」、研修運営を通じた問題点と改善策をまとめた「運営改善報告書」、受講生のアンケートを集計した「アンケート結果」を作成した。

なお、「実施報告書」は、受講生サイトに掲載した。

1. 北海道ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(北海道ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和元年10月16日(水)～10月18日(金)
研修会場 釧路市交流プラザさいわい 大ホール(北海道釧路市)
現地実習 標茶町雷別国有林295は林班(北海道標茶町)

- 2 研修受講者数:16名 [男性:15名 女性:1名]
(道職員10名、町村職員、1名、森林管理局職員5名)

北海道	10名	寿都町	1名	森林管理局	5名
途中欠席者数		0名			

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は開講式の後、班内の一体感を醸成するため「ペーパータワー」でアイスブレイクを行った。中鍵内部講師より「背景・現状に関する基礎」についての講義が行われ、石橋外部講師から「北海道における天然更新を活用した森林施業」についての講義が行われた。次に、森内部講師より、国有林での低コスト施業の事例の紹介があった。その後、各班ごとに机上で施業計画案の作成を行った。

・2日目は貸切バスを利用して、標茶町国有林へ移動し、根釧西部森林管理署より説明を受け、天然力を活用した試験地の視察を行った。次に、同林班内の演習地へ移動し、現地演習を行った。中鍵内部講師よりスケジュール等の説明が行われた後、班ごとに分かれ、前日に作成した施業計画案修正のため、現地確認を行った。現地演習後は会場へ戻り、最終案に向けての検討を行った。

・3日目は各班ごとに発表・質疑応答を行った。発表後、石橋外部講師らによる各班の施業計画案についての講評および今後の留意点等の補足が行われた。講評を受けて、受講生より最終的な意見等を交換・共有を行い、当研修は、正午に閉講した。

○今回の研修の工夫点

・森林施業を検討する際、「森林総合監理士として何をどう考えるのか？」との趣旨の研修であることを1日目のイントロと、実習の説明時に繰り返し説明し、受講生の思考の目合わせを行った。

・全天球カメラを受講生に使用させた(使用経験者がいなかったため関心が高かった)。

・施業案の考え方に唯一の正解は無いものの、講評時に3種類の低コスト施業案を提示した。

4 記録写真



石橋外部講師による講義:1日目



グループワークによる施業計画の机上案作成:1日目



天然林施業試験地の視察:2日目



現地演習での机上案の確認・修正:2日目



施業計画の修正と計画概要作成:2日目



検討結果の発表:3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	特記事項なし。	特記事項なし。
講義・演習	特記事項なし。	○演習においては、「補助金」を考えずに検討することへの戸惑いの声が毎年度聞かれるため、次年度以降も、「森林総合監理士」の視点での研修であることを講義の中に盛り込む。
現地実習	○特になし。(見学地と実習地が隣接していたため、移動時間が短く、実習に当てる時間を十分に取ることが出来た。)	○次年度以降も、移動時間を極力短縮し、現地確認や検討時間を確保する。また、トイレタイム(場所)の検討を忘れないようにする。
その他	特記事項なし。	○次年度以降も、受講生への負担を減らす工夫(会場の設定や、交通機関、駐車場、現場用品の準備、宿泊場所など)をしていく。

(3)アンケート結果

回収率:16名/16名(100%)

I 森林総合監理士関連の研修受講経験

(1)技術者育成研修(平成26~28年度)及び准フォレスター研修(平成23~25年度)受講の有無

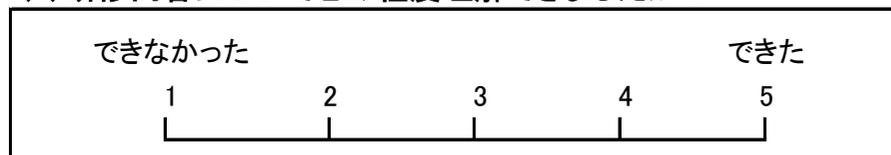
- 1:技術者育成研修 (3名)
- 2:准フォレスター研修 (8名)
- 3:受講経験なし (5名)

(2)平成29~31年度森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

- 1:受講経験あり (2名)
- 2:受講経験なし (14名)

II 本研修に対する理解度、活用度

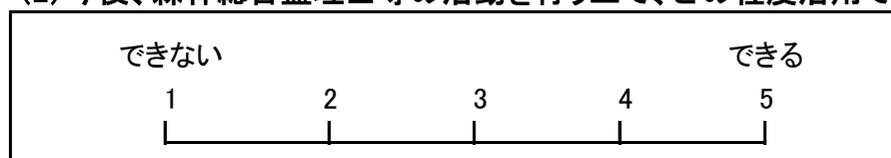
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか?



平均: 4.4

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (0名)
- 4 (9名) 光障害について考える契機となった/現地検討を行うことで理解できた
- 5 (7名) 天然力活用について知見を得ることができ、技術力向上につながった

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか?

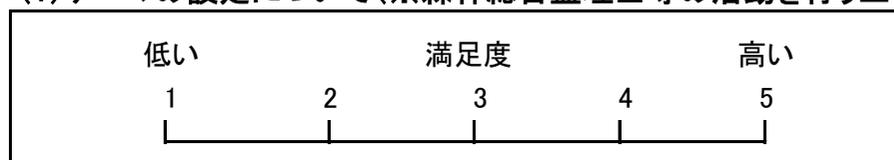


平均: 4.3

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (2名) 一般民有林での活用は限定的かもしれない
- 4 (8名) 同じようなトドマツ天然更新の現場があるので検討してみたい
- 5 (6名) 森林の構想を練る上で能力の向上につながった/合意形成を積極的にできそう

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.1

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 技術としては面白いと思う
- 4 (11 名) 現実的に直面する内容であったので良い/重要なテーマで具体的に検討できた
- 5 (3 名) タイムリーで良かった

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 4.4

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名)
- 4 (8 名) 室内・現地のバランスが良かった/詰め込みすぎでなく、じっくり考えられた
- 5 (7 名) 自分の考えを整理しながら進められた/KP法は合意形成の訓練に最適と感じた

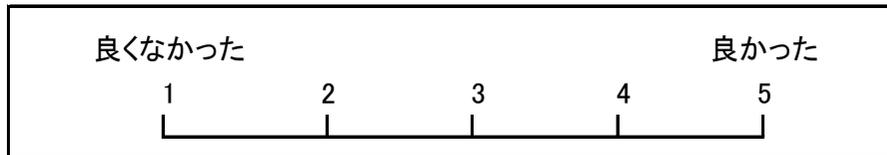
(3) カリキュラムの時間について



平均: 4.0

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (6 名) 班で検討する時間がもう少しほしかった
- 4 (4 名) 丁度良い時間であったが、ふりかえりの時間がもう少しほしい
- 5 (6 名) ベストであった/内容的に丁度良かった

(4) 研修の進行・運営の流れについて



平均：4.6

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名)
- 4 (4 名) 短い時間だったが、全体的にバランスが良かった
- 5 (11 名) スムーズだった／スタッフの対応が親切で非常に良かった

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・最後の局講師の講義が印象に残った。地域に何かできればと思う
- ・2班で構想した伐採・保育の同時作業は楽しかった
- ・熱い思いが伝わった研修だった。この熱が冷める前に今後について考えていきたいと思う
- ・大変勉強になった
- ・天然力と言えど、地域、現場のポテンシャルをよく確認することが必須と感じた
- ・皆伐一斉更新という施業の見直しの時期にきていると感じた
- ・国有林では長伐期施業を良しとしてきたが、誘導伐にしていくには、樹木や予算の関係でできない理由もある。民有林も市場を見て中小径木を目標とした短伐期施業が主流になっているが、時代のニーズに応じていくことも必要と感じた
- ・トドマツ人工林以外の天然更新技術について、違った現場で能力を磨いていきたい
- ・海外の林業の森林状況（樹種特性、植生、地形、マーケットなど）との違いを感じた
- ・コスト比較などもできるよう、標準単価や苗木代などが参考資料としてあれば、低コストの検討がよりしやすかったと思う
- ・実験林の図面やデータなどの資料が少々読みにくかった
- ・天然力を活かした更新で成功した現場を見たい
- ・農業・漁業・外国林業者などの全く違う視点からの意見が欲しい
- ・本研修のように現場に活用できるタイムリーなテーマの研修をお願いしたい
- ・市町村職員を対象とした研修も検討してほしい
- ・木材の販路開拓などについての研修を実施してほしい

2. 東北ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(東北ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和元年9月2日(月)～9月4日(水)
研修会場 アイーナ いわて県民情報交流センター会議室501(岩手県盛岡市)
現地実習 雫石町御明神荒沢山国有林外(岩手県雫石町)

- 2 研修受講者数:10名 [男性:9名 女性:1名]
(県職員3名、森林管理局職員4名、民間事業者3名)

岩手県	2名	山形県	1名	森林管理局	4名	民間事業者	3名
途中欠席者数 0名							

3 研修実施概要

○研修運営状況、受講生の様子など

・1日目は、東北森林管理局 中嶋企画官の司会のもと研修が始まった。開会式では冒頭に東北森林管理局 細川課長の挨拶があり、その後、事務局から研修中の注意点等についての説明を行った。その後、岩手大学 斎藤講師の講義を行った。「森林作業道とは」「森林作業道配置計画の基礎知識」の講義後、情報技術を用いた作業道配置図の作成演習を行った。

・2日目は、バスに乗り込み、まず御明神公民館へ移動した。斎藤講師の現地に係る資料や着眼点等の説明があった後、国有林へ移動した。現地ではタブレットやスマートフォンを利用したCS立体図を用いて現地の地形や地図との違いを確認し森林作業道配置の現地検討を行った。

・3日目は、2日目の森林作業道配置の現地検討の結果をもとに各班で検討・まとめ等を行い配置図を作成した。各班ごとに発表を行い、終了後に斎藤講師の講評を行ったのち、閉講式を行い研修の全日程を終了した。

・全体的に、時間の遅れもなく進行し予定通りに研修は終了した。受講生も講師の話に熱心に聞きながら真面目に取り組む姿勢がうかがえた。

○今回の研修の工夫点

・事前打ち合わせにおいて、当日の進行や現地踏査を行い、入念に確認をしていたため、研修が滞ることなく、順調に進行された。

4 記録写真



東北森林管理局 中嶋企画官による本研修の意義の説明:1日目



岩手大学 斎藤講師による講義:1日目



岩手大学 斎藤講師による現地に係る資料や着眼点等の説明:2日目



タブレット等を活用した現地確認:2日目



森林作業道配置計画の発表:3日目



研修生集合写真:3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	○アンケートにおいて研修全体の満足度は高く内容的にも充実した研修であった。	○今後は、より内容を充実させられるように講義内容及び時間設定の適正な配分を調整する。
講義・演習	○演習時には班内で議論されていたが、全般的に受講生の発言(質問)は少なかった。	○受講生の質問を促すよう、班での確認をするなど話しやすい場づくりや運営、問いかけができれば、より良いと考える。
現地実習	○演習地が遠方であったことから、移動に長時間要した。	○次年度の演習場所については、移動時間及び現地での実習時間の配分等を再度考慮する必要がある。
その他	○会場が昨年と異なったため、バスや関係者車両の駐車場確保に課題が残った。	○会場を選定する際に演習時の移動や関係車両の取り扱いを定める。

(3)アンケート結果

回収率:10名/10名(100%)

I 森林総合監理士関連の研修受講経験

(1)技術者育成研修(平成26~28年度)及び准フォレスター研修(平成23~25年度)受講の有無

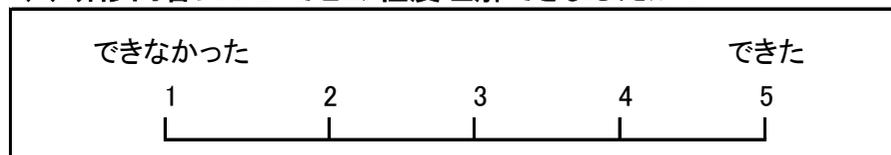
- 1:技術者育成研修 (0名)
- 2:准フォレスター研修 (2名)
- 3:受講経験なし (8名)

(2)平成29~31年度森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

- 1:受講経験あり (1名)
- 2:受講経験なし (9名)

II 本研修に対する理解度、活用度

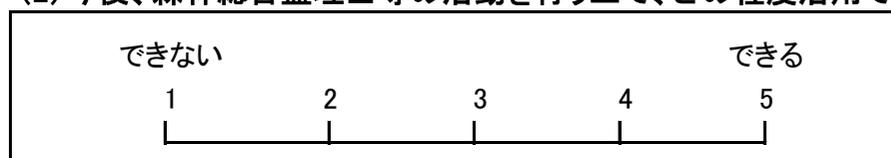
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか?



平均: 4.4

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (0名)
- 4 (6名) CS立体図と現地が比較できたので感覚的に図面と現地の差が理解できた
- 5 (4名) CS立体図使って計画することの有用性を実感することができた

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか?

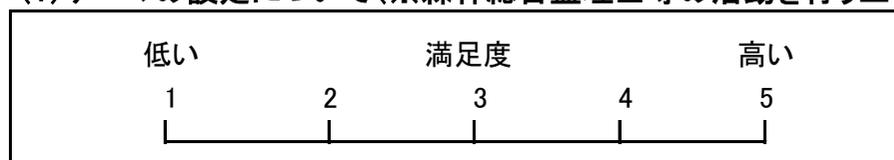


平均: 4.5

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (1名) CS立体図を実際を使って現場に入りたい
- 4 (3名) 施業に有利に活用できそう
- 5 (6名) 現場作業や計画をチェック・指導するうえで活用できると考える

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

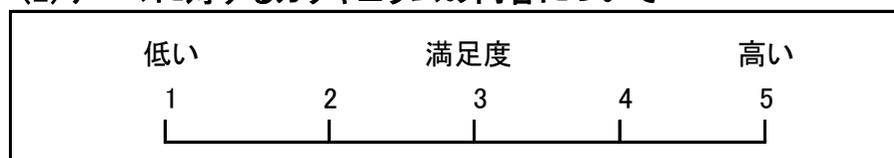
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.5

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) 路線設計の機会は少ないので、大変勉強になった
- 4 (3 名) 森林作業道の施策は大変重要なので良かった
- 5 (6 名) 森林作業道の作設にCS立体図を活用するテーマであり、大変良かった

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 4.5

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (5 名) CS立体図と現地との比較に焦点を当てたところが良かった
- 5 (5 名) 図面で路線設計して踏査するという手順を細かいところまで一通りできて良かった

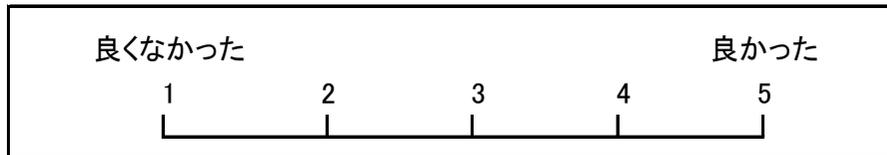
(3) カリキュラムの時間について



平均: 4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) できれば2日間の日程だとありがたい
- 4 (4 名) 踏査時間が少なかったと思う
- 5 (4 名) 余裕があり一つのテーマを深く学べて良かった

(4) 研修の進行・運営の流れについて



平均：4.5

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名)
- 4 (1 名)
- 5 (7 名) 全て予定通り、順調に進行しておりとても良かった

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 既存の図面と現地との差異による不便さは感じていたので、今回CS立体図を知ることができたのは大きな収穫だった。個人的な後悔として、現地踏査の際に業務で活用しているGPSを持ってきていればより勉強になったかと思う
- ・ CS立体図を活用して現地踏査を行ったが、精度の高さに驚いた。図面と現地が違うということが多々あるので、CS立体図を用いることで解消できることが分かり、とても有意義だった
- ・ CS立体図について、もっと学びたいと思った
- ・ CS立体図について理解を深めたので大変意義があった。提案として、リモートセンシングについての研修をお願いしたい
- ・ 沢渡りの施工方法の事例が知りたい
- ・ 路網設計以外のテーマ（造材など）の研修もやってもらいたい
- ・ 1日目の座学のみコースも受け付けてみてはどうか。参加者が増えるのではないかな
- ・ アベンザマップスの情報を事前に教えてもらっていると、なお良かったと思う

3. 関東ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(関東ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和元年10月16日(水)～10月18日(金)
研修会場 利根沼田森林管理署(群馬県沼田市)
現地実習 利根郡昭和村赤城山第2国有林159い4林小班外(群馬県利根郡)

- 2 研修受講者数:12名 [男性:10名 女性:2名]
(県府職員3名、森林管理局職員9名)

群馬県	1名	新潟県	1名	京都府	1名	森林管理局	9名
-----	----	-----	----	-----	----	-------	----

途中欠席者数 0名

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は、開講式・オリエンテーションの後、岡講師による「シカの生態と被害の現状」、並びに飯島講師より「捕獲と密度管理」・「防除対策事例とコスト」の講義が行われた。

・2日目は、貸切りバスで赤城山第2国有林へ移動し竹之内講師より「シカ被害の調査法と行動特性の観察」、「くくりわな設置方法の実習及びシカ柵設置の留意事項」の現地演習を行った。その後、4班に分かれ対象林分を踏査し「シカ被害対策全体構想」の検討を行った。

・午後は研修室へ戻り、飯島講師よりプレゼン資料作成に関する林分状況の解説・補足及び計画シュミレーション(各班にPC1台用意、Excel作成)についての説明が行われた。その後、現地演習の踏査結果を基に、班毎に現況とシカ捕獲、防除対策、モニタリングの実施の有無や方法を検討し、発表資料の作成を行った。

・3日目は、前日作成した「ニホンジカ被害対策全体構想」について班毎に発表とディスカッションを行った。最後には、各外部講師より講評があり、主伐再造林を実施するにあたり、シカ被害対策への知識・技術等の習得と科学的知見に基づき各関係機関と連携し効率的な森林管理を行っていく事が重要であると述べた。

・全体としては、現地演習やグループワークで班内受講生同士のコミュニケーションが良く取れスムーズに研修を進めることができた。

○今回の研修の工夫点

・現地演習地図等を模造紙サイズに拡大印刷し、講義及び現地演習で受講生に理解しやすいよう掲示した。

・2日目の現地演習時に複数の無線を要し、各班の踏査状況把握や緊急時対応に備えた。

4 記録写真



開講式関東森林管理局松本課長挨拶: 1日目



岡講師による「被害対策全体構想」に関する講義: 1日目



現地実習(班毎に踏査し林況等を検討): 2日目



発表準備のグループワークの様子: 2日目



現況の判断とシカ捕獲、防除対策、モニタリングの実施方法の検討についての発表風景: 3日目



発表に対する岡講師による講評: 3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	特記事項なし。	特記事項なし。
講義・演習	①2日目演習時の計画シュミレーション結果のプリントアウトがあった方が良いという意見があった。 ②講義内容が多いためポイントペーパーがあった方がより地域での活動に繋がるという意見があった。	①演習結果の共有の仕方、発表方法等検討する。 ②資料内容等検討する。
現地実習	○現地実習中、作業中の局関係者と遭遇し、止め刺し道具の使用方法等の説明を聞くことができたことから、初めから組み込んだほうが良かったのではないかという意見があった。	○次回からカリキュラムに組込むことを検討する。
その他	特記事項なし。	特記事項なし。

(3)アンケート結果

回収率:12名/12名(100%)

I 森林総合監理士関連の研修受講経験

(1)技術者育成研修(平成26~28年度)及び准フォレスター研修(平成23~25年度)受講の有無

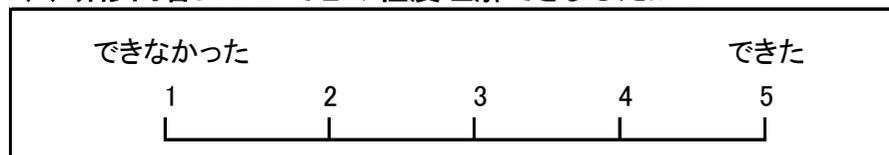
- 1:技術者育成研修 (1名)
- 2:准フォレスター研修 (2名)
- 3:受講経験なし (9名)

(2)平成29~31年度森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

- 1:受講経験あり (1名)
- 2:受講経験なし (11名)

II 本研修に対する理解度、活用度

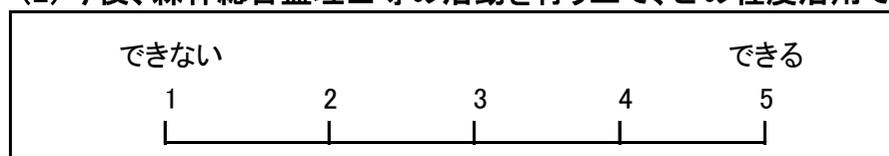
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか?



平均: 4.3

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (1名) 被害対策の実務経験がないため経験を持ったうえで臨めばより効果的だったと思う
- 4 (6名) 現地観察のポイントを学べた/課題となる情報源を得たので勉強していきたい
- 5 (5名) フィールドサインの見方、防除対策のコストと効果の関連について理解が深まった

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか?

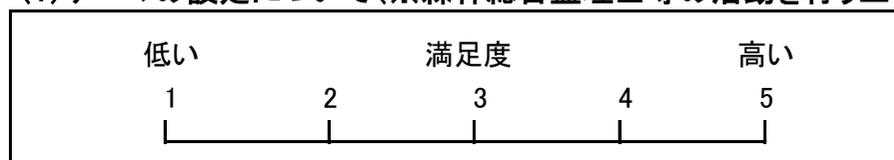


平均: 4.2

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (3名) 実践しながら自分で分からないことを調べる必要がある
- 4 (4名) 自県では事前対応ができる段階なので、関係者への働きかけにつとめたい
- 5 (5名) 合意形成と長期に渡るメンテナンスの体制づくりに取り組んでいきたい

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

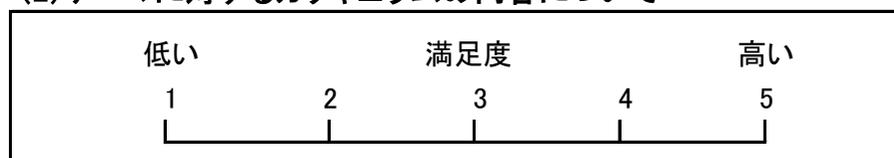
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.3

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) もう少しテーマを決めて掘り下げてほしい
- 4 (5 名) 獣害は広がってきているので必要なテーマだと思う／十分役立つと思った
- 5 (5 名) 今後多くの地域で避けられないので必須／とても実りのあるテーマだったと思う

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 3.9

- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 簡略化された条件下での演習はやや物足りなかった
- 3 (2 名) 初心者向けで技術のある者には物足りないかと思った
- 4 (6 名) 鹿の捕獲ができなかったので写真等で止め刺しまでの流れを出しても良いと思った
- 5 (3 名) 講師陣が素晴らしく一挙手一投足勉強になった

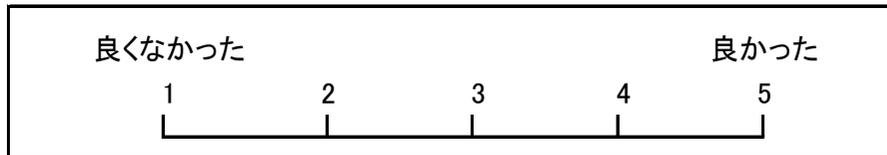
(3) カリキュラムの時間について



平均: 4.2

- 1 (0 名)
- 2 (2 名) 現地の状況を班でもう少し見て回る時間がほしかった
- 3 (0 名)
- 4 (4 名) 限られた時間に集中して作業することができた
- 5 (6 名) コンパクトで丁度良かった

(4) 研修の進行・運営の流れについて



平均：4.3

- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 延期も検討するべきだったのではないか
- 3 (2 名) 現地視察等タイムスケジュールにもう少し自由度が高いと良い
- 4 (1 名)
- 5 (8 名) 流れとしては問題ない／集中して研修が行え有意義だった

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 本当に充実した3日間だった
- ・ 外部講師の説明が分かりやすかった
- ・ 研修の流れと各講師の話が分かりやすくとても勉強になった
- ・ 他の受講生等と話ができ、面識ができて良かった
- ・ 進行役の話し方が参考になった
- ・ 「伝わる」伝え方の重要性を痛感した。その面を留意して業務に生かしたい
- ・ グループ討議だけでなく、班ごとでの討議なども面白そうだった
- ・ 思った以上にKP形式は良いと思った
- ・ 久しぶりに管外の森林を見ると鹿の有無以外にそもそもの植生の違いが目につく。鹿被害地の中でも様々なタイプの森林を見比べたい
- ・ 鹿がまだ定着していない箇所の有効な対策も紹介してもらいたい

4. 中部ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(中部ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和元年9月18日(水)～9月20日(金)
研修会場 中津川市にぎわいプラザ(岐阜県中津川市)
現地実習 湯舟沢国有林2201ろ林小班外(岐阜県中津川市)

- 2 研修受講者数:18名 [男性:15名 女性:3名]

(県職員13名、森林管理局職員5名)

富山県	1名	石川県	2名	山梨県	1名	岐阜県	1名	静岡県	1名
愛知県	1名	三重県	1名	滋賀県	1名	兵庫県	1名	奈良県	1名
鳥取県	2名	森林管理局	5名						

途中欠席者数 0名

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

- ・1日目は、会場準備を速やかに完了。開講式も滞りなく行われた。ガイダンスに先立ち、榎木の葉を配っての意表を突くアイスブレイクに惹きつけられた参加者が少なかった。
 - ・2日目は、3日間を通して専属で班に講師を付けたことから、伐採計画演習地での踏査・検討する上で受講生に好評だった。また、木曽官材土場での市場視察では、丸太の管理方法やブランド化、市況についての判断と対応等について活発な質問がなされ、充実した実習となった。天気にも恵まれ移動もスムーズであったため、予定通り発表準備が行えた。
 - ・3日目は、前日の準備がしっかりとなされていたため各班ともに内容の充実した発表がなされた。質問も活発に行われディスカッションも充実していた。講師陣からも高評価が得られた。
- ・全体としては、限られた研修時間の中で効率よく演習が進められていた。また参加者同士の交流も図られ研修内容についてコミュニケーションもしっかりととられていた。

○今回の研修の工夫点

- ・事前に撮影したドローン映像や360度カメラデータの活用によって、受講生の実習イメージを高めることができた。
- ・講師が講義・説明するときの立ち位置やアイスブレイクなど事前に調整を行って、講義を飽きさせない工夫に配慮した。
- ・配布した資料に見出しを付けたため、ファイルを開いたときに見やすくすることができた。
- ・受講生への成果物・写真・フィードバックシート・路網支援ツール等について、クラウド上に共有フォルダを設置して任意でダウンロードできる環境(セキュリティ確保のため関係者及び2週間限定)を設置した。
- ・2日目の現地実習では、豚コレラ対策のため全員の靴、全車両に対して消毒を実施した。

4 記録写真



開講式: 1日目



現地検討(一貫作業システム): 2日目



現地検討(市場視察): 2日目



発表準備: 2日目



発表の様子: 3日目



発表と講評の様子: 3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	特記事項なし。	特記事項なし。
講義・演習	①計画図面策定用の図面(伐採区域検討図)を1人1枚ずつ必要となったため急遽コンビニで印刷を行った。 ②専門用語がわからない受講生がいた。	①次回以降、演習をイメージして必要と考えられる資料を事前に準備することも必要。 ②特殊な専門用語については注釈を加えるなどの配慮も必要と思われる。
現地実習	特記事項なし。	特記事項なし。
その他	○研修会場に掲げる横断幕の文字の一部に抜けがあった。	○横断幕を発送する前に、再度の確認をするようにした。

(3)アンケート結果

回収率:18名/18名(100%)

I 森林総合監理士関連の研修受講経験

(1)技術者育成研修(平成26~28年度)及び准フォレスター研修(平成23~25年度)受講の有無

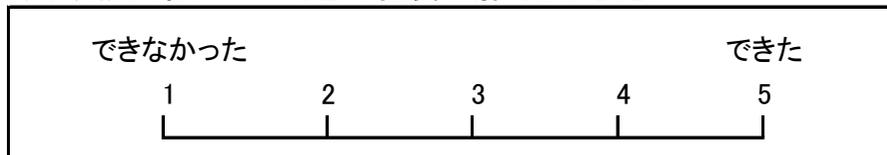
- 1 : 技術者育成研修 (1名)
- 2 : 准フォレスター研修 (3名)
- 3 : 受講経験なし (13名)

(2)平成29~31年度森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

- 1 : 受講経験あり (8名)
- 2 : 受講経験なし (10名)

II 本研修に対する理解度、活用度

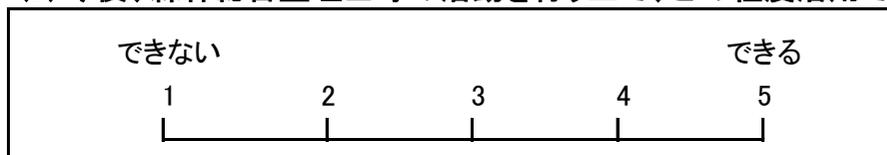
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか?



平均: 4.2

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (3名) 知識、経験不足でただ聞くだけになってしまった
- 4 (8名) 多様なツールを活用し良く理解できた/他の受講生、講師の方の話が参考になった
- 5 (7名) 架線システムに特化した研修で良かった/各班に講師がついて細部も相談できた

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか?

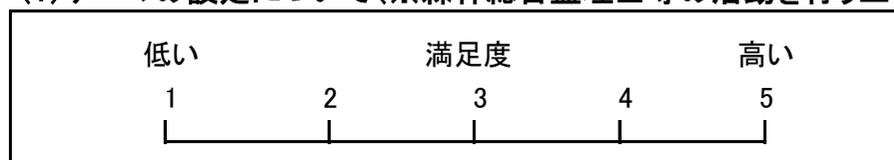


平均: 4.0

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (5名) 指導レベルになるのに時間がかかりそう/補助金も含めた経費算出ができるの良い
- 4 (8名) 主伐・再造林予定地での検討視点を学べた/検討段階での各手法は様々に応用可能
- 5 (5名) プランナーと話をする上で有用/十分活用できる

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

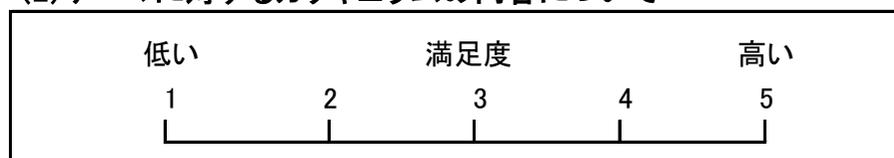
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (4 名) 妥当な設定だと思う／架線を利用すること自体あまりない
- 4 (6 名) 架線の設計を行えてとても有意義／トータルコスト試算があればもっと良かった
- 5 (8 名) 民有林は伐造一貫施業の意識が低いので参考になった／実践的研修で良かった

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 4.2

- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 市場や苗木生産見学より机上の検討をもっと深く行いたかった
- 3 (3 名) 妥当な設定だと思う
- 4 (6 名) 講義と現地実習の時間バランスが良かった
- 5 (8 名) 机上→現地→見学→検討→発表の流れで満足できた／ポイントが絞り込まれていた

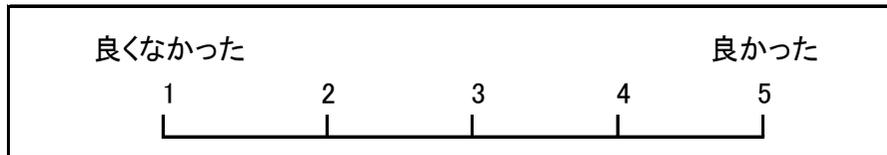
(3) カリキュラムの時間について



平均: 4.2

- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 現地検討時間が少し足りない気がした
- 3 (3 名) コストについて盛り込んでほしかった
- 4 (5 名) ちょうど良いと思う／3日程度が最適
- 5 (8 名) 短い時間の中で充実度が高い／コンパクトで良い／短すぎることなく必要十分

(4) 研修の進行・運営の流れについて



- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (2名) 運営等とても大変なことと思う
- 4 (3名) 指導をていねいにしてもらった
- 5 (12名) 資料が充実、わかりやすかった／移動距離が短く負担が少なくて良かった

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 架線集材の実務経験がある方々にご指導いただき、勉強になった
- ・ 主伐・再造林で国や他県の状況を聞くことができ、良かった
- ・ 国有林の取り組みが理解できて良かった
- ・ 各分野からの講師に満足
- ・ 1事例で具体的な検討を行えたので、わかりやすかった
- ・ 伐区全体を踏査できる時間がほしかった
- ・ 架線作業のトータルコスト試算も入れていただき良かった
- ・ バイオ発電なども見たかった
- ・ シカの防護対策についてももう少し説明してほしかった
- ・ シカ対策の検討は別の機会を作るべき
- ・ 国有林以外の方の話も入れてほしかった
- ・ 全員の自己紹介が最初にあっても良かった

5. 近畿中国ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(近畿中国ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和元年10月29日(火)～10月31日(木)
 研修会場 近畿中国森林管理局 森林技術・支援センター(岡山県新見市)
 現地実習 古谷国有林527林班(岡山県新見市大佐上刑部)

- 2 研修受講者数:15名 [男性:15名 女性:0名]
 (県職員7名、森林管理局職員6名、民間事業者2名)

兵庫県	2名	奈良県	1名	和歌山県	1名	島根県	1名	広島県	1名
大分県	1名	森林管理局	6名	民間事業者	2名				

途中欠席者数 0名

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

- ・1日目、定刻どおり近畿中国森林管理局技術普及課長の挨拶により開講式が行われた。続いてオリエンテーション、実践研修ガイダンスの後、内部講師による「今後の森林づくりの考え方」、外部講師による「多様な森林づくりの構想」についての講義が行われた。その後、現地検討の進め方、発表のとりまとめ方、現地検討前の打合せ等各3班でグループ演習を行い1日目の研修を終えた。
- ・2日目、古谷国有林へバス移動。ドローンでの現地映像撮影の様子を確認しながら、現地検討の説明後、班毎に「一斉人工造林地における今後の森林施業」(地位等の森林の状況の調査)、昼食をはさみ「天然力を活用した森林づくり」(天然広葉樹の活用事例の調査)を行った。各班には班付き講師が同行し現地検討を行った。予定時間より早く研修会場へ帰りグループ演習を行い、目標林型等についての検討、翌日の発表のとりまとめを行い2日目の研修を終えた。
- ・3日目、発表の進め方の説明を行い、「一斉人工林地における今後の森林施業」をテーマに各班より発表を行った。各班への質問と外部講師、内部講師を含め全体を通した活発な意見交換が行われた。その後、林野庁森林保全専門官、内部講師、外部講師による講評後、閉講式が行われ、全研修の日程を終えた。

- ・全体としてはタイムスケジュールに沿った運営ができ、円滑に進行することができた。

○今回の研修の工夫点

- ・現地検討時にドローンで撮影した映像により、演習地全体を俯瞰することで、本研修におけるねらいの一つである目標林型を導き出す森林施業について検討することに役立たせた。

4 記録写真



外部講師による講義(多様な森づくりの構想について):1日目



グループ演習:1日目



現地検討:2日目



現地検討:2日目(現地検討を踏まえたグループ演習前にドローン映像の説明)



各班による発表:3日目



講師による講評:3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	○「ふりかえり」の時間がなく、受講生自身の整理、班内共有が必要ではないかという意見があった。	○タイムスケジュールを精査し、「ふりかえり」の実施を検討する。
講義・演習	○議論を深めるには検討時間が短いとの意見があった。	○タイムスケジュールを精査し、検討時間をできる限り長く確保する。 ○誰に向けたプレゼンテーションであるかを明確に定義することで、議論しやすいようにする。
現地実習	①現地検討時間が短いという意見が多く出た（特に午後からの「天然力を活用した森林づくり」(天然広葉樹の活用事例の調査)は調査地を通り抜けた様になってしまった)。 ②運営側で現地での説明の場所やタイミングの共有がはかられていない部分があった。	①タイムスケジュールを精査し、割愛できる箇所を検討する。あるいは、現地確認できない分をドローン映像でしっかりと確認させる等工夫する。また、「天然力を活用した森林づくり」は、事前打合せ時にルート検討を行い、講師等がポイントを簡潔に説明するようにする。 ②現地での詳細な段取りや動線等を図示化し、全員で共有する。
その他	特記事項なし。	特記事項なし。

(3)アンケート結果

回収率:15名/15名(100%)

I 森林総合監理士関連の研修受講経験

(1)技術者育成研修(平成26~28年度)及び准フォレスター研修(平成23~25年度)受講の有無

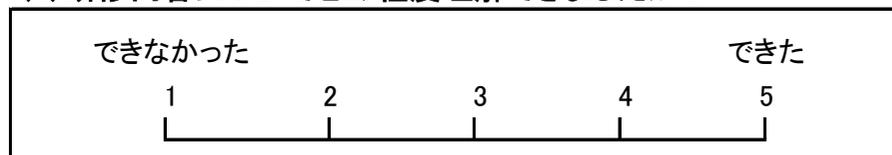
- 1 : 技術者育成研修 (2名)
- 2 : 准フォレスター研修 (4名)
- 3 : 受講経験なし (9名)

(2)平成29~31年度森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

- 1 : 受講経験あり (1名)
- 2 : 受講経験なし (13名)

II 本研修に対する理解度、活用度

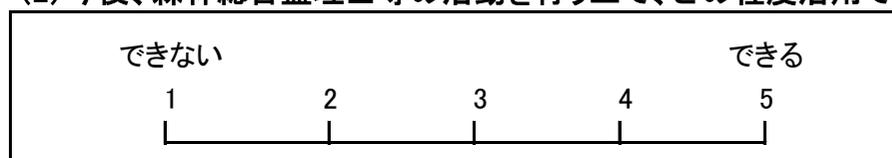
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 4.1

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (1名) 目標林型についてなんとなく考え方を知ることができた
- 4 (11名) 高木性広葉樹の活用可能性について理解を深めるきっかけとすることができた
- 5 (3名) ねらいがシンプルで分かりやすかった

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？

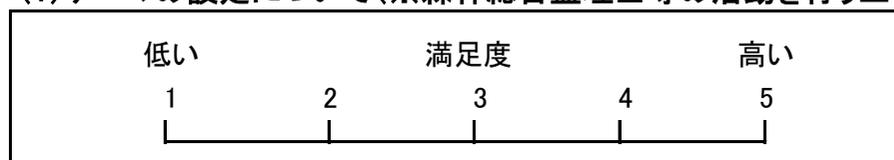


平均: 3.7

- 1 (0名)
- 2 (1名) 実際の森づくりは様々な因子を検討する必要があり内容的に現場で生かせるか疑問
- 3 (6名) 市町村への多様な森林づくりへの指導で活用/まだ知識や経験不足だと思った
- 4 (4名) 林業経営に適さない森林を施業していく上で活用できそう
- 5 (4名) 経営計画策定時に活用

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

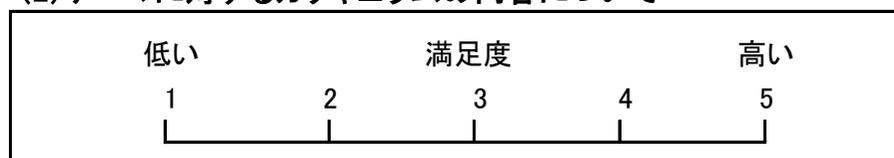
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (3 名) 「地位区分に応じた森林施業」は少しテーマが広すぎるように感じた
- 4 (6 名) 再認識する機会となり、良いテーマと感じた
- 5 (6 名) 森林経営管理制度がこれから進む中でこういったテーマでの研修は助かる

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 3.9

- 1 (0 名)
- 2 (1 名)
- 3 (4 名) 研修に参加するにあたり一定の経験上の考え方が必要になってくると思った
- 4 (5 名) 理論と現地のバランスがちょうど良い
- 5 (5 名) 少しタイトなスケジュールではあったが充実した内容であった

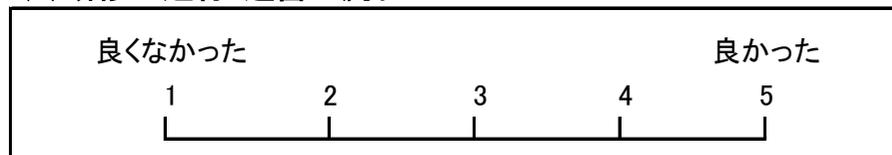
(3) カリキュラムの時間について



平均: 3.3

- 1 (0 名)
- 2 (3 名) 限られた時間で結論を出すことは重要だがもう少し検討できる時間がほしかった
- 3 (7 名) 丁度よい時間配分だった／現地把握には少々時間が少なかった
- 4 (2 名) 内容を精査する余裕がなかったが、具体的な取組を学べた
- 5 (3 名) コンパクトにまとまっている

(4) 研修の進行・運営の流れについて



平均：4.5

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 妥当だったと思う
- 4 (4 名) 班付き担当からアドバイスが色々もらえて良かった
- 5 (9 名) 分かりやすくスムーズだった／必要なサポートが十分にあった

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 内容や進行が分かりやすく充実した内容だった
- ・ 人や所属等によって、計画が違いとても勉強になった
- ・ 施業を行っていくうえで、早生樹の考え方はあまりなかったが、班内検討で、民有林での関心の高さを感じた。また早生樹も地位によって適した箇所等あるなど勉強になった
- ・ 今後業務に生かしていきたい
- ・ 広葉樹化等は、条件など色々と揃わないとできないと思うが、伐期を考えるうえで、隣接地の状況も考慮することを学び、大変参考になった
- ・ 現地踏査の際、外部講師等から、樹種、天然林化の実情や考え方を聞いたことが勉強になった
- ・ 班員が仲良く、一緒に森づくりを考えるのは楽しく、有意義だった
- ・ 今回の研修では、現地在国有林と施業されている一斉人工林を対象としていたが、次回がもしあれば、手入れされていない人工林、作業道のない人工林を対象に研修できたら良いと思った。また広葉樹の特性等について学べる機会があれば良いと思う
- ・ 班別研修でいつも感じるが、班を超えた交流が図れるカリキュラムも入れていただくと、今後の業務等に有用と思う
- ・ 発表に主眼を置いたが、提案という部分を掘り下げる時間がほしかった。考えることの多い、楽しい研修だった
- ・ 現地調査、検討時間をもう少し多くとるなど、テーマに応じたスケジュール的な改善があったほうが良い
- ・ 現地踏査の時間が少なかった。天然生広葉樹の活用事例、林内での具体的な説明があると良かった
- ・ 2日目午後の天然力活用の現地検討では、講師等が先頭し検討箇所を説明したほうが良かった。自分が先頭を歩いたため、ただ林道まで下山しただけになってしまった
- ・ 2日目午後の天然力活用の現地検討において、検討ポイントが分かりにくく感じた。細かい議論をするならば、検討区域はもう少し狭い区域(10~20ha)でよかったと感じた

6. 四国ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(四国ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和元年11月13日(水)～11月15日(金)
研修会場 四国森林管理局会議室(高知県高知市)
現地実習 朴ノ川山国有林3208林班外(高知県須崎市)

- 2 研修受講者数:12名 [男性:9名 女性:3名]
(県職員8名、森林管理局職員4名)

山口県	1名	徳島県	1名	香川県	1名	愛媛県	1名	高知県	1名
福岡県	1名	熊本県	2名	森林管理局	4名				

途中欠席者数 0名

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は開講式後に班内で自己紹介をした後に、砂田講師から動画によるヒノキ・スギ材のCLT製造状況、B材が主原料のCLT製造への経緯とヨーロッパにおけるCLT生産状況等の木材流通の講義により始まり、続いて局講師による架線系集材システムの講義と、局庁舎駐車場内に設備されたエンドレスタイラー方式の簡易集材装置を使って基本的な架線及び集材装置の実習を行った(受講生も操作体験)。

・2日目は班ごとに現地研修に行く前に、空中写真等を使い、机上等による搬出系統図を作成後、現地実習地へ移動。各班で作成した図面と現地の状況を確認するとともに、現地で作業に当たっている須崎森林組合による搬出系統等の説明に基づき、再度、搬出系統図の検討を行った。

午後から、現地の土場において高知県森林組合連合会高幡共販所の職員による、効率的・適正な採材について、講義・実習に取り組んだ。

・3日目は各班は前日の現地実習地の確認等を踏まえた集材架線システムの取りまとめを発表し、発表に対する質疑応答・講評で本研修を終了した。

・全体としては①川上から川下に至る木材製品の流れにおけるCLTの位置づけ②急傾斜地における架線系による集材システムといった地域特性を持った搬出技術の知見拡充が図れた研修であった。

○今回の研修の工夫点

・架線集材システムを仕組み等を短期研修で理解し易くするため、局庁舎駐車場内に設備された簡易集材装置(電動)による操作実習を研修生が体験できたことにより理解力の向上を図ることができた。また、森林GISと架線設計計算(エクセル)による安全率、垂下比等の算出により、架線設計が効率的に行うことができた。

4 記録写真



砂田社長の講義:1日目



集材模型による操作実習:1日目



集材システムの現地説明:2日目



机上で検討した搬出系統の現地検証:2日目



現地にて採材研修:2日目



集材架線システムの検討結果の発表:3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	特記事項なし。	○本研修内容、カリキュラム共に構成が良かったため受講生にとって習得しやすかったことが、ふりかえりシート等に反映されていた。 本研修個別課題が木材生産過程のどの位置にあるか、どう関連しているかを理解することを今後の研修のベースに置くこととしたい。
講義・演習	①現地実習地において、現地の搬出系統図を受講生に提示・説明したため、受講生が独自に考える検討の幅を狭くしてしまった。 ②架線設計安全率等計算(エクセル)ソフトが投影用パソコンにしか入っていなかったため、各班に都度説明していた。 ③統一した発表項目を説明していなかったため、各班の発表内容が分かりづらい面が見られた。	①自由な幅のある検討ができるよう、事前の情報(既設路網、現地の地形の特徴(=研修では現地林内踏査は不可能なため))を示すこととするが、現地の搬出系統図は見せないような工夫をする。 ②事前に各班のパソコンにセットすると共に説明時間を設ける。 ③発表方法・項目(内容)を事前に説明することで各班の発表内容が理解しやすく、かつ、比較しやすくなるのではないかと。 また、発表時間に限りがあるため、検討が必要だが、KP法も検討する。
現地実習	①架線説明を車両に積んだモニターに投影して行ったが、画面が光って見えにくかった。 ②採材研修では、予め採材既定(JAS等)や留意点の説明が必要だったのではないかと。また、「クサレ」確認のために実際に造材が必要ではないかと(意見)。	①モニター設置方法やモニターの大きさ等を検討する。 ②採材用語、道具、JAS既定に基づく留意点等を実習の前に説明する。また、造材についても検討する。
その他	①林道が狭いため、ジャンボタクシーを利用したが、通行に問題はなく、結果的に移動時間の短縮につながった。 ②宿泊場所を事務局で手配できないかと。(アンケート意見)	①今後の研修においても、移動手段・時間に配慮していく。 ②事前に、研修期間中のイベント状況を把握し、事務局で仮押さえをしてはどうか。

(3)アンケート結果

回収率:12名/12名(100%)

I 森林総合監理士関連の研修受講経験

(1)技術者育成研修(平成26~28年度)及び准フォレスター研修(平成23~25年度)受講の有無

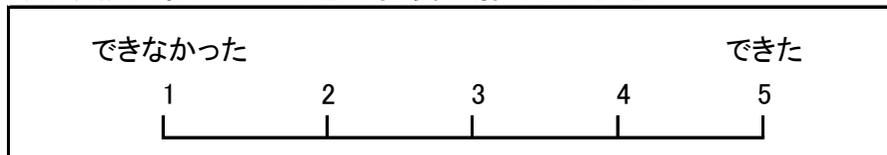
- 1:技術者育成研修 (0名)
- 2:准フォレスター研修 (3名)
- 3:受講経験なし (9名)

(2)平成29~31年度森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

- 1:受講経験あり (7名)
- 2:受講経験なし (5名)

II 本研修に対する理解度、活用度

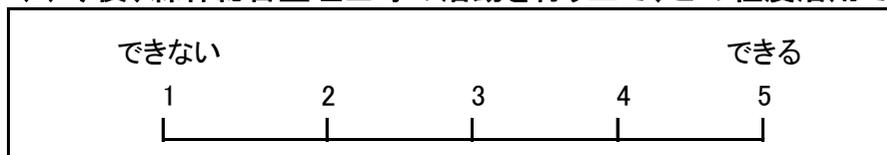
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか?



平均: 3.7

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (5名) 講義自体は分かりやすかったが、経験を積まないといけないと感じた
- 4 (6名) 架線の理屈が分かっていないので良かった/架線は内容が難しく今後も勉強が必要
- 5 (1名) H型集材関係を詳しく知ることができた

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか?

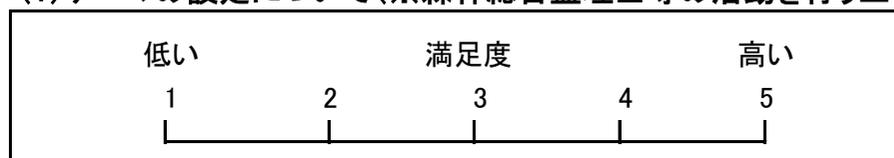


平均: 3.7

- 1 (0名)
- 2 (1名) 架線搬出にかかるコスト計算など、まだまだ多くの知識が必要と感じた
- 3 (4名) 県内で架線集材される業者が少ないため、活用は難しいが知識として得られた
- 4 (3名) コアな内容ではあったが架線集材を必要とする現場があるため学ぶべき内容だった
- 5 (3名) 森林作業道と架線の併用での作業システムも選択肢として増えるので良いと思う

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

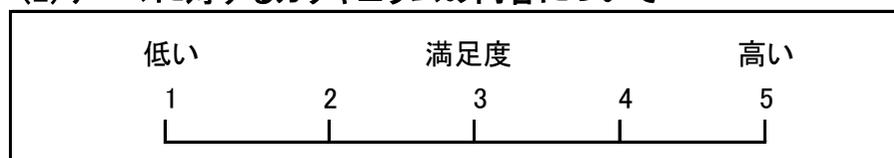
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.3

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) 森林整備の手法の一つとして選択の幅が増えて良いと感じた
- 4 (7 名) 架線集材は今後また重要になると思う／架線知識を得られる機会は少ないため貴重
- 5 (4 名) 架線、集材ともに実践的だったので非常に有意義な研修だった

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 基礎的な内容が中心で初心者としては良かったが、実践に移すには知識が必要
- 4 (6 名) 座学・現地があり良かった／タワーヤーダ等大型の新技术と比較して学びたかった
- 5 (4 名) 実習が多いのがとても良かった／ミニ集材機を動かせるというのは非常に良かった

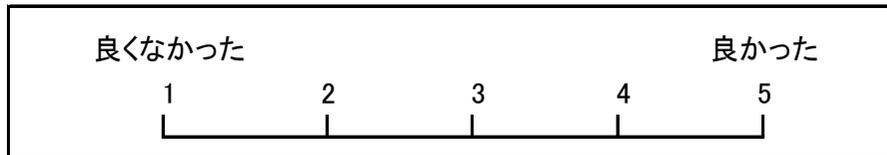
(3) カリキュラムの時間について



平均: 4.1

- 1 (0 名)
- 2 (2 名) 架線の知識の習得にはもう少し時間がほしかった
- 3 (1 名)
- 4 (3 名) 時間があればコスト、補助金、木材単価等で仮定の収支計算ができると思った
- 5 (6 名) ちょうど良い時間だった／3日間は集中して受講できるので良い

(4) 研修の進行・運営の流れについて



平均：4.3

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (3 名) 発表の際にややもたつきがあったが、概ね滞りなく進行していた
- 4 (3 名) 良かった
- 5 (6 名) ほぼ時間通りの進行で、ダレることなく受講できて良かった

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ とても良い研修だった
- ・ 架線の長所、短所などを初めて学ぶことができた
- ・ 物事を進めていく上で選択の幅が広がることは有益と感じた
- ・ 架線の仕組み・構造がミニチュア等を用いられており、分かりやすく、理解できた
- ・ 採材研修が特に印象に残った
- ・ 架線の模型はとてもインパクトがあった。できればそれぞれのラインの役割について解説があるともっと良かった
- ・ 集材機に全員が乗れるような時間配分をしてはどうか
- ・ 架線安全係数の計算式なども印刷したものがもらえたら良いと思った
- ・ 架線設計をする際に基本的な前提(皆伐か間伐かや面積など)について1枚の用紙にまとめたもので説明があれば良いと思った
- ・ 専門用語が多く理解するまで時間を要した
- ・ 現地でのパソコンの投影が見えにくかった
- ・ 宿泊場所が確保しづらかった／今回は特殊だったが、同時期に学会があり、ホテルが遠い等の受講生がいたため、事務局でまとめて取っても良いのではないか

Ⅲ. 主な意見と課題の整理及び総括

1. 外部講師の主な意見

今年度の研修内容、時間等に関し、外部講師から寄せられた主な意見を整理したものである。

1. 研修目標に見合った研修内容となっていましたか(受講生の印象、講師を担当しての感想を含む。)
意見等
<p>研修目標に見合った研修になっていたと思う。受講生も熱心で、質問も多く、講師としてもやりがいがあった。ただ、現地について条件を絞ったため、やや施業計画のバリエーションが少なくなってしまうと思っている。例えば、シカは少ない、ある部分は全面にトドマツ稚樹がある、などとすればバリエーションが多くなったかもしれない。</p>
<p>内容を設定したのが講師であるため、内容との整合が取れているのは当たり前のことである。本来、行いたい研修に合わせて講師を検討したほうが良い。また、路網の研修を行ったがほかの研修でも同様の内容を求められることがあり全体としての整理をしてほしい。</p> <p>受講生の属性が幅広く、興味を持つところが異なるのは仕方ないが、民・国で路網計画の組み立てかたが違いすぎるのでどちらにも合わせるのは非常に難しい。たぶん行政側の参加者には序盤の路網の基礎概念などは退屈であったと思うが、素材生産業者からは非常に好評であった。参加者の基礎レベルをそろえれば、より効果的な研修が可能。</p>
<p>地域の関係機関と連携し、リーダーやコーディネーターとして被害対策の全体構想を作成することについては、その意義や考え方について十分に伝えることができたと思う。構想の実現に向けた取組をどのように進めるかについては、地域ごとに事情が異なるため、必要に応じてフォローするつもりである。</p>
<p>見合っていたと思う。</p>
<p>初めての研修だったため、講師陣も手探りで準備をした。どのような完成度になるか、心配をしていたが、講義・現地実習・グループワークとも、非常に質の高いものとなったと感じている。受講生は、意識がとても高く、研修中にさまざまな質問が寄せられた。</p> <p>グループワークのシミュレーションでは、最初に設定された予算が潤沢だったために、すべてのグループが鋼鉄柵で林分を囲むという計画に収束してしまった。ある程度予算に縛りがあるほうが、グループ間の計画に違いが現れるのではと思う。この点は改善の余地があると感じている。</p>
<p>研修目標を達成するための内容になっていたと思う。</p> <p>受講生も熱心に取り組んでいたように感じ、発表の際も積極的に発言されていて良かったと思う。</p> <p>台風の影響で人数が減ってしまったのが原因ではあるが、1グループ3～4人でグループワークの時も全員参加で意見交換ができていたように思う。</p>
<p>質問がよくあった。一般的なことは分かっているようで、実践的なことについて多く質問が来た。</p>

今後施業すべき森林と天然に任せる森林の峻別がますます必要となる情勢を考慮すると、テーマの方向性は合致していると考え。現状の林分を前にして(想定して)、これからの施業の選択肢を相互に比較しながら目標を決めていくのは林業技術者に必要な技術と思うが、種々の制約から多様な森林を想定できる素材(現実林分)や資料が少ない気がしている。せめて、地位区分というなら多少のバリエーションを見られるようにした方がイメージが付きやすいと思った。また、立地区分から今後施業から撤退する森林、ローコストの森林造成も選択肢に必要と考えるが、今回はそこまで行き着けなかった印象。研修の構成、内容的には良いのではないかと思った。

研修としては、非常に良かったように思う。私どもも勉強になった。受講生各々のレベルが違っていたように思う。搬出計画等も非常に大事だが、前提として搬出区域内の立木材積、間伐率、搬出予想材積等の計画数量の算出及び予想売上収入、路網系架線系搬出方法別による搬出経費予想などを行い、材積的、面積的な損益分岐点の学習をすることも必要かと思う。また、採材研修についても、曲、キズなど切り捨てるところがあるので、メジャー、コンベックス等ではなく3m、4mの竿を使った木取りを推奨。また、実際に造材して曲等を検証するのも必要と思う。

受講生自体は県職員など、架線など計画をする立場なので、コストの計算などをもっと盛り込んだ方が良かったと感じた。
H型架線集材は架線集材の中でもノーマルな方ではないので、もっとシンプルな索張りの場所の方が良かったかもしれないと感じた。簡易な架線の索張見学がとてもわかりやすくて良かった。
現地実習について、もっと森林管理局と説明する場所や内容を打ち合わせする必要があった。

個々の意識が高く、班内で意見を出し合い、その中から最良と思われる採材方法を導き出されていたので良い研修になったのではないかと思う。
選出されていた材が“大曲”“キズ”があったため苦勞されたと思うが、その分多くの意見が出され検討する要素が多くあり、その後の私の講習に熱心に聞かれていた事に繋がったのではないかと感じた。
採材方法については、(材質が悪かったため)今までの概念が変わる要素が多々あったのではないかと思うので、今後それぞれが現場に帰られてからの指導に役立てていただければと思う。

2. 講義時間、実習現地等の設定は適切でしたか

意見等

適切だったと思う。

講義・実習とも予定通り行え、時間は問題なかったと思うが、対象とした踏査範囲が広すぎたので、同じ場所で行うことがあれば、対象範囲を絞ったほうが良い。
事前に確実に見せるポイントを絞っておけば、より良いかもしれないが、受講生の気づきの機会を失わせることにもなりかねないので、検討が必要。

講義の時間割、コマ数については適切であったと思う。実習については、シカ密度がもう少し高く、被害が多く発生しているところも経験できるとなお良いだろう。

研修実施地からの距離という点で仕方ないのかも知れないが、現地のシカ密度がまだ低い状態だったので受講生に対策の必要性を感じてもらえたかは疑問。

事前打ち合わせ時は、現地実習予定地にてシカによる被害がそれほど見られず、心配だったが、秋に研修を実施したことで、ある程度シカによる被害を目視できる。その他、講義時間や現地実習の設定は適切だったと思う。

シカ対策を考慮した初めての研修プログラムとのことだったが、うまく構成された内容だったと思う。シカ対策を念頭においた森林づくりを進めていただくためにも、今後もこのような研修を実施していただければと思う。

まだ質問が出ていたので、時間的には少し短かったように思う。

全体としては、最終のプレゼンに向けてどのように十分な時間を確保してしっかりディスカッションしてもらえるかに注力した結果として、その分の時間工程は良かったと思う。ただ、一方で、時間的な制約があるとは言え、現地実習の時間配分はもう少し多くても良いのではないかと思った。林分全体とは言わないまでも、林分の広がりや立地的なバリエーションをイメージできる位の踏査時間は欲しい。また、今回は「天然力を活用した森林づくり」として広葉樹の多い林分も演習に加えたが、現地での説明が不足していたのか受講生の印象にはあまり残っていない感じで、せつかくの現地が少し無駄になった感じを持った。ゾーニングの発想には必要な森林タイプできちんと意義等も説明しておけば良かったと反省した。

時間については、できれば2時間(2コマ)ぐらいいただければ、もう少し詳しく突っ込んだお話が出来るのではないかと思う。

講義時間としては、どの程度踏み込んで学習するか、カリキュラムによるかと思う。現地演習等の設定としては、講師としては、大変ありがたいことではあるが、距離的に遠く、移動時間がもったいないように思う。研修会場拠点に近い現場があれば良いのですが。

今回の研修はスケジュール的に特に遅滞もなく適切な設定だったと思う。

場所、材質共に良かったと思う。

できれば、時間がもう少しあれば採材に関してもっと深いところまで演習できたのではないかと思う。

今回は、採材という基礎知識が無く『(ほぼ)自由に採材した』という印象を受けた(おそらく事前に講習を受けていると思うが)。ですので、できれば採材の基礎の部分から知識として入っていればもっと面白い研修になったのではないかと感じた。ただし、そこまで深く演習しようとするれば実地+座学で2~3時間かかってしまうので難しいとは思いますが。

<p>3. その他、お気づきの点や改善点等がありましたらご記入下さい</p>
<p>意見等</p>
<p>グループワークへの参加の様子を見ると人数が適正だったようで、1グループあたりの人数は増やしてもあと一人。参加人数が多くなった際はグループを増やすしかないだろう。今回各グループでPCによるシミュレーションをおこなったが、今後もこのような実習は成果が期待できることから改良しつつ継続するべきだろう。 現地の状況から開催日はもう少し早い(9月頃)ほうが良かったかもしれない。</p>
<p>事前の打ち合わせについては、できるだけ1回で終わるようにしてほしい。</p>
<p>現地実習の際、ちょうど他のエリアでシカの捕獲があった。できれば、受講生に捕獲個体をお見せできる機会があれば良かったと思っている。例えば、歯の摩滅や生え変わりによる年齢査定、足の形状(足跡)、毛の様子、角の様子などについても説明できたと思う。</p>
<p>最近の受講生は皆さん熱心で知識も豊富で感心することが多いが、山づくりのポリシーを熱く語る感じの情熱、将来の森林に対する夢を想起する、と言った感情的なものが少なくなっている気がした。</p>
<p>研修は、今後動画やパワーポイント、画像などを使うケースが多いと思う。動画等をデータで送ると重くなってしまうため、当日USBにて持参するので、今後は外部USBが使用できるPCをご用意いただければと思う。</p>
<p>模型による架線集材については、構造、動きが学習でき初心者には理解しやすく非常に良かったと思う。</p>
<p>索張をしている現場よりも、してない現場の方がもっと自由に考えやすいのではないかと感じた。計画から、それについての期間やコスト計算を盛り込んだ方が受講生には向いていると感じた。</p>
<p>採材研修を行った現場から少し奥へ入った場所で本当の現場が動いたので、時間があれば研修を受けた上で現場を見学できればもっと面白かったのではないかと感じた。 それぞれが普段から現場作業を見られているとは思いますが、自らが実際に採材を体験して、講習を受けた上で本当の現場作業を見ればまた違った視点で感じられる事があったのではないかと思います。ただ、それをするためには、森林組合長及び現場管理者の了承が必要になるが。</p>

2. アンケート結果の概要(ブロック別)

アンケートは受講生全員を対象とし、研修成果の確認と今後の研修運営に役立てることを目的に実施した。本研修に対する理解度、役立ち度、全体の満足度、運営評価について、ブロック別の集計結果をグラフ化し、そのうち、「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」、「研修内容の理解度」、「業務への活用度」、「テーマ設定の満足度」についてはブロックごとに詳細結果を取りまとめた。

なお、ブロックごとにテーマ、カリキュラムなどが多様であるため、ブロック別の結果を示しているが、ブロック間の単純な比較ではなく、ブロックごとの傾向や課題の明確化を意図している。また、今後さらに良い研修にしていくためには、各ブロックで評価の高かった点、改善すべき点について、全ブロックで共有することが非常に重要だと考える。

アンケートの回収総数は、修了者 83 人中 83 人(回答率 100%)であった。

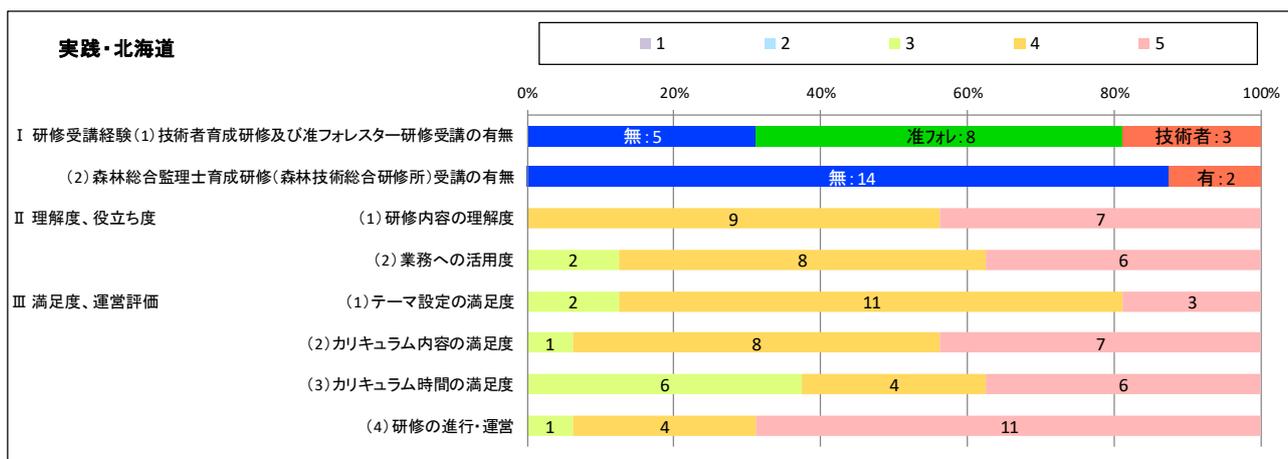
アンケートは、「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は 1 (技術者育成研修)、2 (准フォレスター研修)、3 (受講経験なし)、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は 1 (受講経験あり)、2 (受講経験なし)とし、その他の各項目は 5 段階評価で「研修内容の理解度」は 1 (理解できなかった)から 5 (理解できた)まで、「業務への活用度」は 1 (活用できない)から 5 (活用できる)まで、「テーマ設定の満足度」と「カリキュラム内容の満足度」、「カリキュラム時間の満足度」は 1 (満足度が低い)から 5 (満足度が高い)まで、「研修の進行・運営」は 1 (良くなかった)から 5 (良かった)までの評価で実施した。

「受講生の技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」の状況は、各ブロックで異なっており(以下、(1)～(6)のブロック毎を参照)、各受講生の評価を判断する上でも参考にした。

昨年度は西日本豪雨の影響で近畿中国ブロックの実施が中止となったが、今年度は全ブロックとも 2泊3日 で実施した。また、関東ブロックでは、台風の災害対応等による影響により、受講者数の減が生じた。

(1)北海道ブロック

テーマ: 成熟した高齢級人工林における森林づくり～天然力の活用等の手法を考える～



①技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は受講経験者が 69%、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は受講経験者が 13%と、約 8 割が森林総合監理士関連

研修の受講経験者だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答で100%を占め、昨年度(H30:86%)を上回り、全ブロックのなかで東北ブロックと並んで最も高かった。「天然力活用について知見を得ることができ、技術力向上につながった」、「光阻害について考える契機となった」、「現地検討を行うことで理解できた」などのコメントが寄せられ、おおむね研修内容が理解されたことがうかがえる。

③業務への活用度

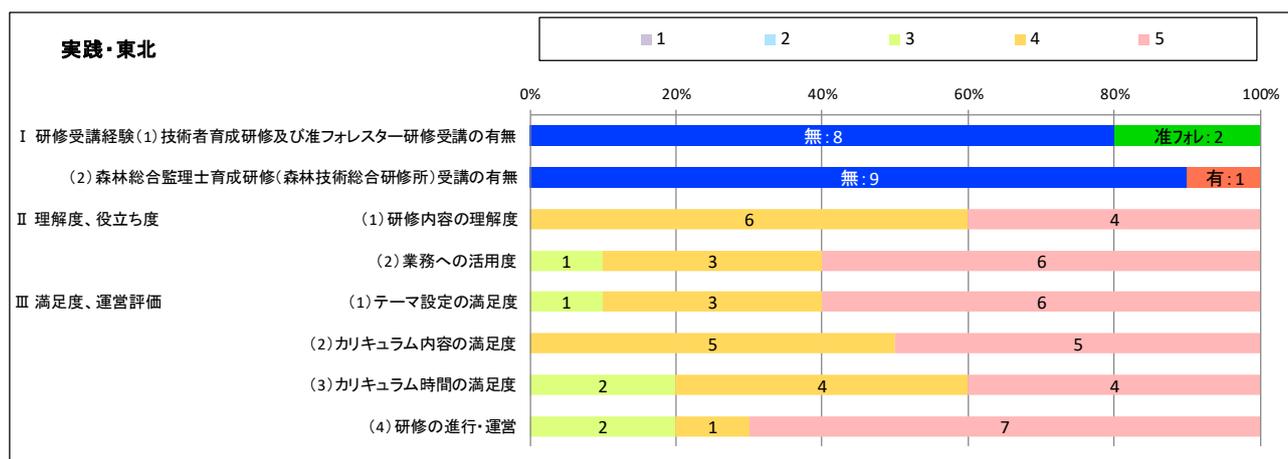
「業務への活用度」は5と4の回答が88%と、昨年度(H30:45%)より割合が増加した。「森林の構想を練る上で能力の向上につながった」、「合意形成を積極的にできそう」、「同じようなトマツ天然更新の現場があるので検討してみたい」といった、業務への活用に前向きなコメントが多く寄せられた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が88%と昨年度(H30:68%)より割合が増加した。「タイムリーで良かった」、「現実的に直面する内容であったので良い」、「重要なテーマで具体的に検討できた」等のコメントが多く寄せられ、受講生の要望に応えるテーマだったと考えられる。

(2)東北ブロック

テーマ:路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査



①技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は受講経験者が20%、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は受講経験者が10%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答で100%を占め、非常に高い理解度を得た。「CS立体図を使用した路網計画と現地を比べることができたので感覚的に図面と現地との差が理解できた」、「CS立体図の活用方法を知り、実務で取り入れたいと思った」等の意見が寄せられ、実践的な研修内容で理解が深まったことがうかがえる。

③業務への活用度

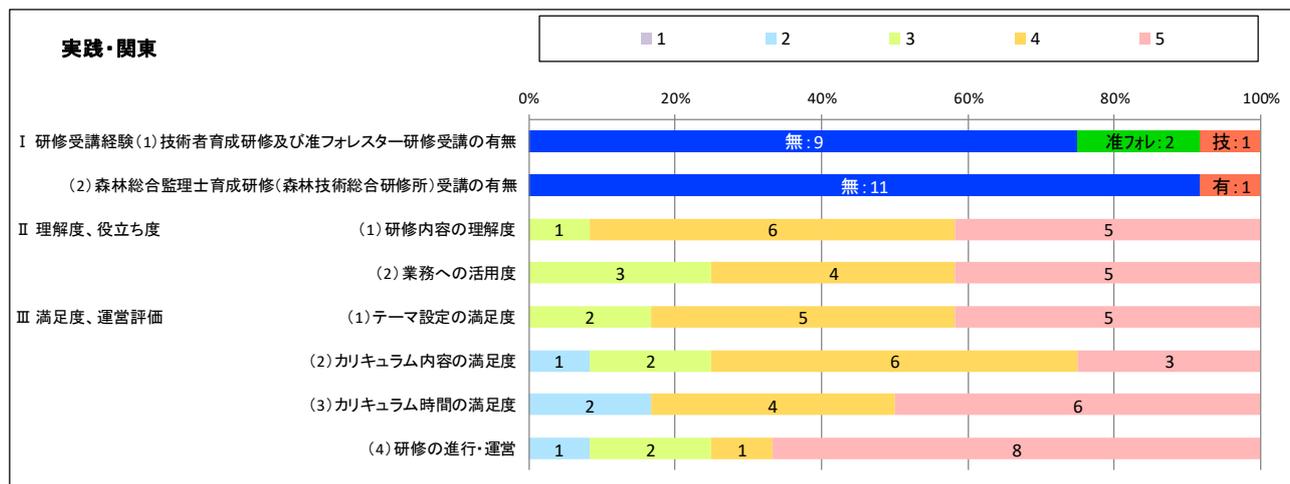
「業務への活用度」は5と4の回答で90%と高い評価を得た。昨年度(H30:58%)から大幅に上昇しており、「森林組合等とCS立体図の活用を検討していきたい」、「現場作業や計画をチェック・指導するうえで活用できる」等、研修で扱ったCS立体図の活用に積極的な意見が多数寄せられた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」も5と4の回答で90%と高い満足度となった。「森林作業道の作設にCS立体図を活用するテーマであり、大変良かった」、「作業道の施策は大変重要であり、勉強になった」等の意見が寄せられた。受講生の関心が高く、また自身の業務に生かせるテーマ設定と研修内容だったことが高い評価を得たと考えられる。

(3)関東ブロック

テーマ:主伐・再造林に向けた、ニホンジカ被害対策全体構想の作成と実行について



①技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は受講経験者が25%、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は受講経験者が8%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が92%を占め、昨年度(H30:73%)より高くなった。「フィールドサインの見方、防除対策のコストと効果の関連について理解が深まった」、「現地観察のポイントを学べた」といったコメントが多く寄せられ、おおむね研修内容が理解されたことがうかがえる。

③業務への活用度

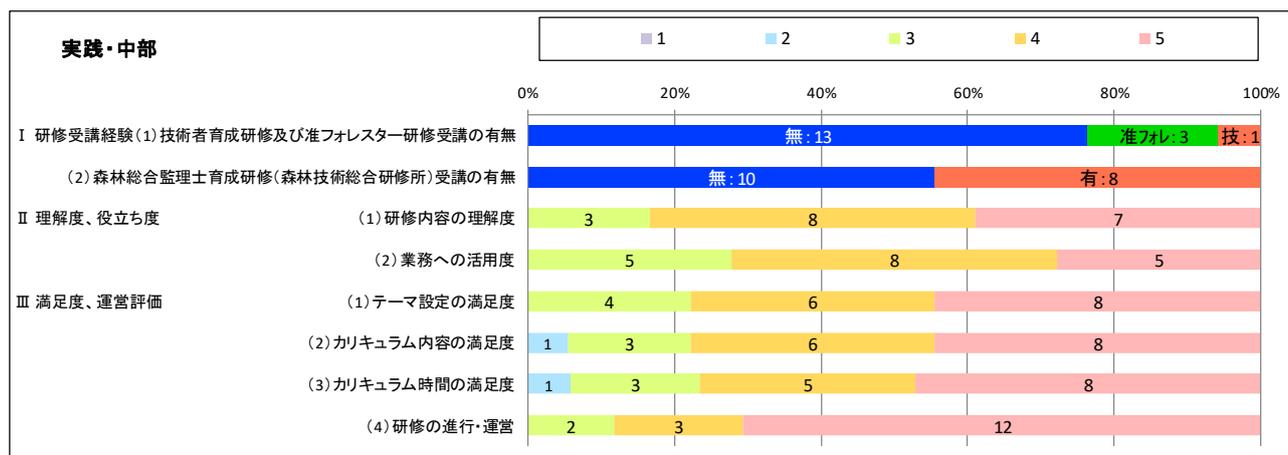
「業務への活用度」は、昨年度は5の回答がなかったが、今年度は5と4の回答が75%を占め、評価が高くなった。「合意形成と長期に渡るメンテナンスの体制づくりに取り組んでいきたい」、「事前対応ができる段階なので、関係者への働きかけにつとめたい」といった前向きな意見が寄せられた。

④テーマ設定の満足度

研修テーマが昨年度から変更したが、「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が83%で、昨年度(H30:80%)と同程度であった。「今後多くの地域で避けられないので必須」、「獣害は広がってきているので必要なテーマだと思う」などのコメントが寄せられ、受講生にとってタイムリーなテーマであったことがうかがえる。

(4)中部ブロック

テーマ：伐採・造林一貫作業システム(架線+路網)と木材流通



①技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は受講経験者が24%、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は受講経験者が44%で、約6割が森林総合監理士関連研修の受講経験者だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が83%を占め、昨年度(H30:85%)と同程度だった。「架線システムに特化した研修で良かった」、「各班に講師がついて細部も相談できた」といったコメントもあり、サポート体制も理解度向上への一助となったことがうかがえる。

③業務への活用度

「業務への活用度」は5と4の回答が72%を占め、こちらも昨年度(H30:70%)とほぼ同様であった。「主伐・再造林予定地での検討視点を学べた」、「検討段階での各手法は様々に応用可能」、「プランナーと話をする上で有用」といった、前向きな意見が多数寄せられた。

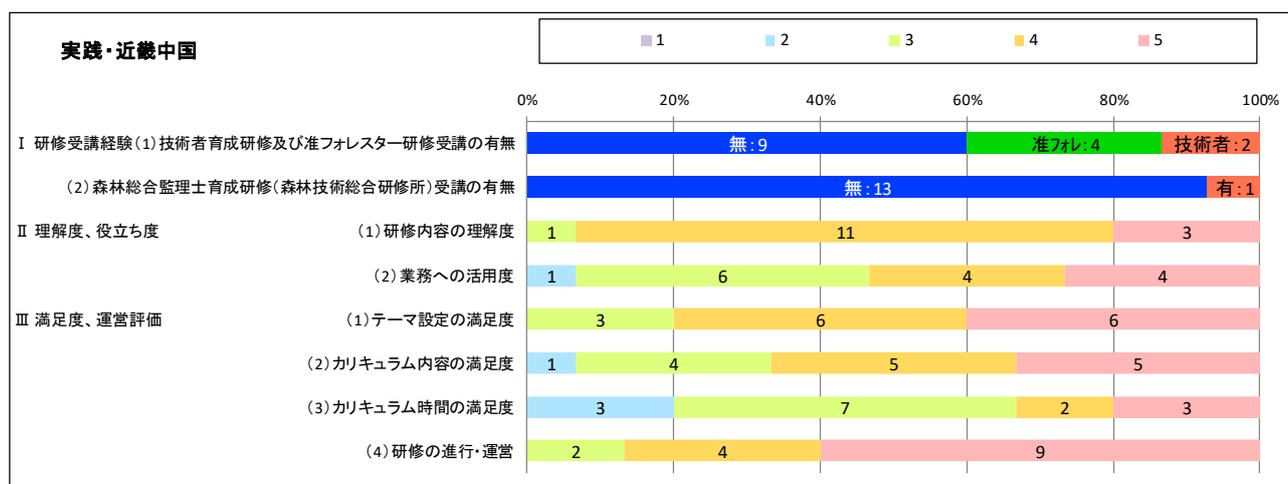
④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が77%と昨年度(H30:84%)より若干下がったが、「民有林は伐造一貫施業の意識が低いので参考になった」、「実践的研修で良かった」、「架線の設計を行ってとても有意義」などのコメントが寄せられた。

なお、受講生18名のうち4名は他ブロックからの参加であり、テーマ(伐採・造林一貫作業システム(架線+路網)と木材流通)に惹かれた受講生も多かったものと思われる。

(5)近畿中国ブロック

テーマ：一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業



①技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は受講経験者が40%、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は受講経験者が7%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が93%で、前回(H29:76%)より上昇し、「ねらいがシンプルで分かりやすかった」、「高木性広葉樹の活用可能性について理解を深めるきっかけとすることができた」などのコメントが寄せられた。前回(H29)はグループ演習で二つ設定した検討テーマを、「一斉人工造林地における今後の森林施業」の一つに絞ったことも、分かりやすさにつながったと考えられる。

③業務への活用度

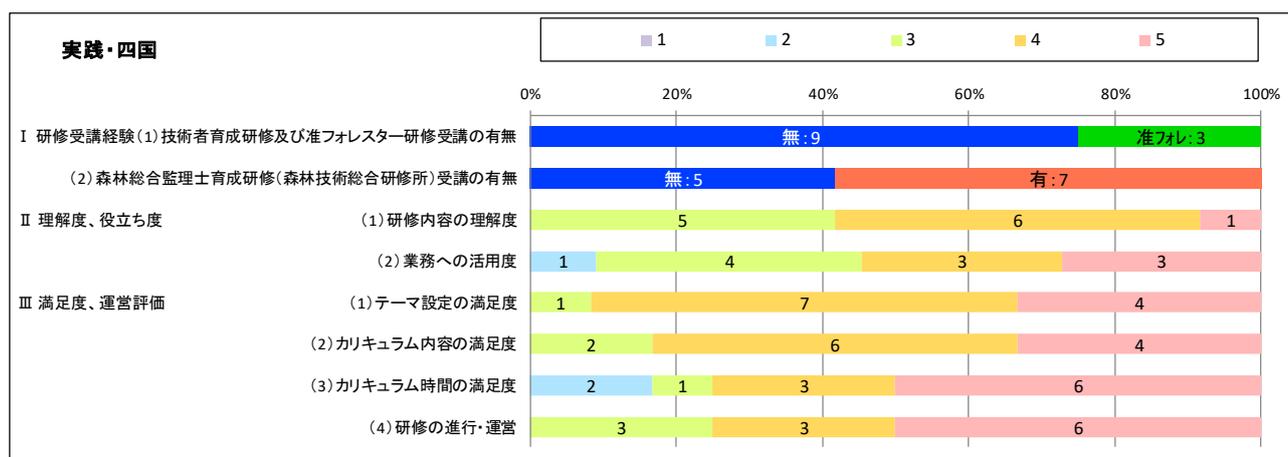
「業務への活用度」は5と4の回答が53%で、前回(H29:71%)より下がったものの、「市町村への多様な森林づくりへの指導で活用」など前向きな意見も多く寄せられ、本研修のねらいに沿った成果がみられた。一方、活用度が2・3の回答者には「実際の森づくりは様々な因子を検討する必要があり内容的に現場で生かせるか疑問」などの指摘もあった。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が80%で、前回(H29:71%)よりやや上昇し、「森林経営管理制度がこれから進む中でこういったテーマでの研修は助かる」、「地位で判断するのは実践的」、「今後、ゾーニングをすることが多くなると思うので良かった」など、今まさに必要とされているテーマと評価された意見が多く寄せられた。

(6)四国ブロック

テーマ：地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について



①技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は受講経験者が25%、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」の受講経験者が58%と、約8割が森林総合監理士関連研修の受講経験者だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が58%と昨年度(H30:58%)と同様の割合で、他ブロックと比較し若干評価が低かったが、4以上の回答からは、「架線の理屈が分かっていないので良かった」、「H型集材関係を詳しく知ることができた」といったコメントが寄せられ、詳細な内容・知識を現地実習等で得られたことにより、研修前より更に理解が深まったことがうかがえた。

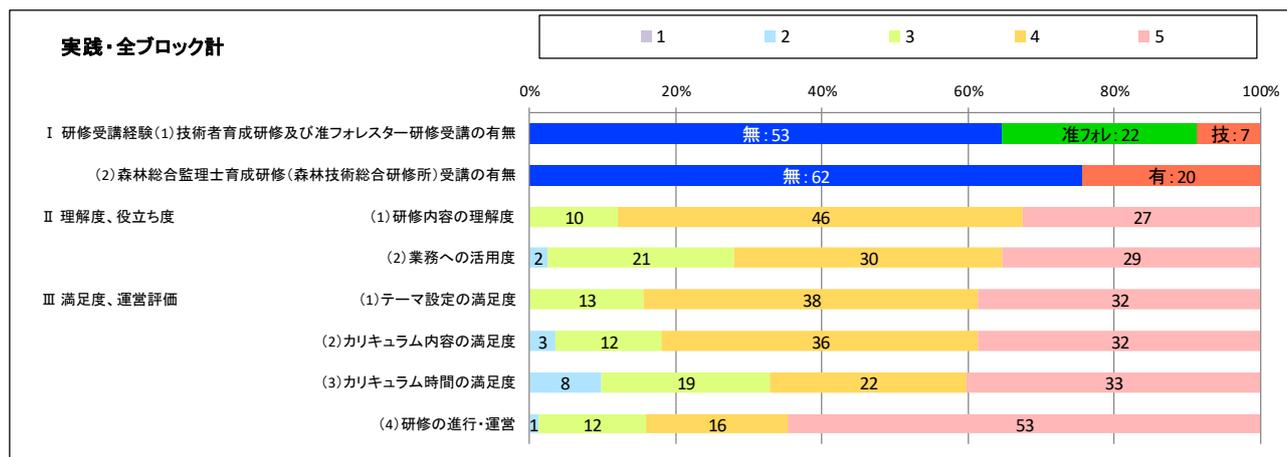
③業務への活用度

「業務への活用度」は5と4の回答が55%で、昨年度(H30:83%)より割合が低くなったが、3以下からのコメントでは「架線搬出にかかるコスト計算など、まだまだ多くの知識が必要と感じた」、「県内で架線集材される業者が少ないため、活用は難しいが知識として得られた」といった自身の知識不足や現状自県内で架線を取り扱っている業者が少ないことからであり、4以上からのコメントでは「コアな内容ではあったが架線集材を必要とする現場があるため学ぶべき内容だった」、「森林作業道と架線の併用での作業システムも選択肢として増えるので良いと思う」と寄せられ、今後業務を行う上で選択肢が増えたことがうかがえた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が92%と昨年度(H30:100%)と同様に高かった。「架線知識を得られる機会は少ないため貴重」、「架線、集材ともに実践的だったので非常に有意義な研修だった」といったコメントが寄せられ、受講生にとって有意義なテーマであったことが高評価につながったと推察される。

3. アンケート結果の概要(全体)



(1)技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は各ブロックさまざま、北海道と四国は森林総合監理士関連の研修受講経験者が多く約8割を占めたが、東北と関東は未受講者が約7割を占めた。全体として、准フォレスター22名(R1:27%、H30:29%)、技術者育成研修修了者7名(R1:9%、H30:8%)、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)20名(R1:24%、H30:17%)で、約6割が森林総合監理士関連の研修受講経験者だった。

(2)研修内容の理解度、業務への活用度、テーマ設定の満足度

実践研修全体の評価として、全ブロックの計をみると、5と4の回答は、「研修内容の理解度」88%(H30:71%)、「業務への活用度」72%(H30:58%)、「テーマ設定の満足度」84%(H30:76%)と昨年度より評価の高い結果となった。他方、ブロックごとでは、「研修内容の理解度」58~100%(H30:33~86%)、「業務への活用度」53~90%(H30:45~83%)、「テーマ設定の満足度」78~92%(H30:65~100%)(※2.アンケート結果の概要(ブロック別)参照)と、昨年度と同様ブロックによってバラつきがあった。

①研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は、3以下の回答からは「講義自体は分かりやすかったが、経験を積まないといけないと感じた」といった自身の経験不足や自県での取り組み状況から理解度が低い受講生もいたが、他方、「現地検討を行うことで理解できた」、「実務で取り入れたいと思った」というコメントも寄せられ、現地実習と講義による実践的なカリキュラム構成により理解が深められたことがうかがえる。特に北海道と東北が高い評価であった。

②業務への活用度

「業務への活用度」は各ブロックで研修テーマが異なっていることからブロックによって評価にバラつきが出たが(※2.アンケート結果の概要(ブロック別)参照)、「現場作業や計画をチェック・指導するうえで活用できる」、「合意形成を積極的にできそう」など、今後の業務活用に前向きな意見が寄せられた。また、3以下の回答からも「県内で架線集材される業者が少ないため、活用は難しいが知識として得られた」といった意見もあり、新しい知識を得る機会になった一面もあったことがうかがえた。東北は高い評価であった。

③テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は全ブロックおおむね高評価で、「今後多くの地域で避けられないので必須」、「現実的に直面する内容であったので良い」、「森林経営管理制度がこれから進む中でこういったテーマでの研修は助かる」と満足度が高い意見が多く、受講生にとってタイムリー、または今後必要になってくるテーマであったことがうかがえる。東北と四国は高い評価であった。

(3)カリキュラム内容・時間の満足度

①カリキュラム内容の満足度

「カリキュラム内容の満足度」は、5と4の回答で82%(H30:70%)を占め、昨年度より評価が高くなったが、ブロックごとで見ると67~100%(※2.アンケート結果の概要(ブロック別)参照)でブロックによって若干バラつきがあった。特に北海道と東北の評価が高く、「室内・現地のバランスが良かった」、「自分の考えを整理しながら進められた」、「図面で路線設計して踏査するという手順を細かいところまで一通りできて良かった」といったコメントが寄せられ、詰め込み過ぎず、講義と演習内容のバランスが取れていたことが満足度につながったことが推察される。

②カリキュラム時間の満足度

「カリキュラム時間」に対する満足度は、5と4の回答が67%(H30:42%)で、昨年度より評価が高くなったものの、他の項目と比べ若干低い評価となった。ブロックごとで見ると33~83%(※2.アンケート結果の概要(ブロック別)参照)でブロックによってバラつきがあり、「限られた時間に集中して作業することができた」、「短い時間の中で充実度が高い」といった研修の限られた時間の中で前向きに捉えるコメントもあったが、他方、例年課題にあがっているが、「踏査時間が少なかったと思う」、「限られた時間で結論を出すことは重要だがもう少し検討できる時間がほしかった」といったコメントが見られた。全ブロックとも本研修は演習を中心に構成していることから、班内検討から検討結果を導く行程を進めるうえで、消化不良が残らないような内容にしていくことが重要と考えられる。

(4)研修の進行・運営

「研修の進行・運営」は、5と4の回答で84%(H30:80%)と昨年度と同じであったが、5の回答が65%(H30:40%)と昨年度より評価が高くなり、「短い時間だったが、全体的にバランスが良かった」、「集中して研修が行え有意義だった」、「ほぼ時間通りの進行で、ダレることなく受講できて良かった」などのコメントが寄せられた。また、ブロックごとで見ても5と4の回答は75~94%(※2.アンケート結果の概要(ブロック別)参照)と、全ブロックおおむね高評価であった。

(5)その他感想、来年に向けての提案など

本研修はブロックごとに取り扱う研修テーマが異なっていることから、カリキュラム内容について各ブロックさまざまな感想・意見が多く寄せられたが、共通して、今回の研修で得られた知識を業務に生かしたいといった前向きな意見が見られた。また他にも、「人や所属等によって、計画が違いとても勉強になった」、「他の受講生等と話ができ、面識ができて良かった」、「熱い思いが伝わった研修だった。この熱が冷める前に今後について考えていきたいと思う」といった研修全体に対する高評価のコメントも寄せられ、都道府県職員、国有林職員、民間等が集まった本研修が、講師からだけでなく、受講生からも刺激や学びがあったことがうかがえた。

4. 運営改善報告書の概要

当日運営補助者から研修ごとに作成された運営改善報告書の概要は、以下のとおり。

ブロック	研修テーマ・カリキュラム	講義・演習・現地実習	その他
北海道	特記事項なし。	・演習において「補助金」を考えずに検討することへの戸惑いの声が毎年度聞かれるため、次年度以降も「森林総合監理士」の視点での研修であることを講義の中に盛り込む。	特記事項なし。
東北	・アンケートにおいて研修全体の満足度は高く、内容的にも充実した研修であったが、より内容を充実させられるように講義内容及び時間設定の適正な配分を調整する。	・演習地が遠方であったことから移動に長時間要したため、移動時間及び現地での実習時間の配分等を再度検討する必要がある。	・会場が昨年度と異なったため、バスや関係者車両の駐車場確保に課題が残った。
関東	特記事項なし。	・現地実習中に作業中の森林管理局関係者と遭遇し、止め刺し道具の使用方法等の説明を聞くことができたことから、初めからカリキュラムに組み込んだほうが良かったのではないかという意見があった。	特記事項なし。
中部	特記事項なし。	・計画図面策定用の図面(伐採区域検討図)が1人1枚ずつ必要となったため急遽印刷を行ったが、演習をイメージして必要と考えられる資料を事前に準備することも必要。	特記事項なし。
近畿 中国	・「ふりかえり」の時間がなく、受講生自身の整理、班内共有が必要ではないかという意見があり、今後検討をする。	・現地検討時間が短いという意見が多くあり、割愛できる箇所はあるか等タイムスケジュールを検討、あるいは、現地確認できない部分はドローン映像で確認させる等工夫が必要。	特記事項なし。
四国	特記事項なし。	・現地実習地において、現地の	・林道が狭いためジャンボ

		搬出系統図を提示・説明したため、受講生が独自に考える検討の幅を狭くしてしまったことから、自由な検討ができるよう工夫をする。	タクシーを利用したが、今後の研修においても、移動手段・時間に配慮していく。
--	--	---	---------------------------------------

5. 実践研修の課題の整理

本研修は森林管理局が大きな役割を果たす中で、各ブロックともほぼカリキュラムどおりに研修を実施することができた。

受講生の研修履歴は、准フォレスター研修修了者 22 名 (27%)、技術者育成研修修了者 7 名 (9%)、森林総合監理士育成研修修了者 20 名 (24%)、森林総合監理士関連の研修未受講者 34 名 (40%) だった。

本研修は、市町村への指導・助言の役割を担うべき森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的とし、森林総合監理士、都道府県職員、森林管理局署職員、民間職員等を対象に、全ブロック 2 泊 3 日で実施した。

受講生の平均年齢は昨年とほぼ同じであった (H30 : 43.5 歳 → R 1 : 43.0 歳)。

以下、受講生アンケート、各ブロックの運営改善報告書から、主な課題を抽出・整理した。

(1) ブロック別の課題

ブロック	アンケート結果を通じての課題	運営改善報告書を通じての課題
北海道	・全体的に評価が高かったが、班内での検討時間やふりかえりの時間が短かったという意見が寄せられた。	・毎年度あがる課題だが、演習において「補助金」を考えずに検討することへの戸惑いの声が聞かれるため、次年度以降も「森林総合監理士」の視点での研修であることを講義の中に盛り込む。
東北	・総じてアンケートの評価は高く、特に、CS 立体図を使用したことで、今後の業務への活用等において積極的に取り入れたいといった高評価のコメントが多く寄せられた。	・演習地が遠方で移動に長時間要したため、移動時間及び現地での実習時間の配分等の改善を図る。
関東	・各地域で獣害が広がっているためテーマ設定は高評価だったが、「シカの捕獲ができなかったので写真等で止め刺しまでの流れを出しても良いと思った」、「簡略化された条件下での演習はやや物足りなかった」といった現地実習や演習内容に更なる充実を求める声が寄せられた。	・アンケートでも受講生から要望があがった、止め刺し道具の使用方法等の説明をカリキュラムに組み込むことを検討する。
中部	・昨年度のアンケートで寄せられた「内容の濃さに対し、時間が短かった」といったカリキュラム内容と時間に対する要望の意見は減り、今年度の「架線システムに特化した研修で良かった」といったコメントに代表されるように、限られた時間の中でバランスが取れた内容であったことが伺えた。	・急遽、計画図面策定用の図面(伐採区域検討図)を用意したが、こういった資料が演習に必要なか、演習の流れをイメージして事前に用意することが必要である。
近畿中国	・「カリキュラム時間の満足度」の評価	・ふりかえりの時間がないことや、受講生

	が若干低く、「現地把握には少々時間が少なかった」、「限られた時間で結論を出すことは重要だがもう少し検討できる時間がほしかった」といったコメントが寄せられた。	のアンケートからも要望があがった検討時間が短かった点について、タイムスケジュールの見直しが必要。
四国	・架線集材というコアな内容で、地域で架線を取り扱っている業者が少ないことから、「研修内容の理解度」・「業務への活用度」の評価が若干低かったが、テーマ設定の満足度の評価は高かった。	・現地実習地で現地の搬出系統図を提示・説明したため、受講生の検討の幅が狭くなってしまったことから、自由な検討ができるよう、前提条件の示し方等の工夫が必要。

(2)全体を通しての課題の整理(アンケート結果を通じて)

アンケートの評価は、「技術者育成研修及び准フォレストラー研修受講の有無」、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」以外は、全項目5段階評価で実施した。その結果、各ブロックで、「研修内容の理解度」、「業務への活用度」、「テーマ設定の満足度」は、5と4の割合がブロックによってバラつきはあるものの53～100%を占め、「実務で取り入れたいと思った」、「森林経営管理制度がこれから進む中でこういったテーマでの研修は助かる」など肯定的なコメントが多く、おおむね高い評価となった。都道府県のニーズ・意見を踏まえ、各森林管理局が工夫を凝らして研修テーマを設定し、昨年度からテーマを変更したブロックもあったが、今後も森林総合監理士等として指導・助言などを行っていく上で、実践的なテーマ・内容で実施することが重要である。

「カリキュラム内容」に対する満足度は5と4の割合が67～100%とブロックによってバラつきがあった。また、「カリキュラム時間」に対する満足度は5と4の割合が33～83%と、時間に対する満足度もブロックによってバラつきがあり、かつ、他項目に比べ若干低い評価であった。例年あがる意見だが、ブロックによって「現地踏査・検討時間が短い」などのコメントが見られ、テーマとカリキュラム内容に見合った時間配分は引き続き考えていく課題と言える。

「研修の進行・運営」は5と4の割合が75～94%でおおむね高評価であった。ブロックによって、現地実習や演習の時間不足を指摘する声は寄せられていることから、限られた時間の中でカリキュラムや講義・演習の中で盛り込むべき内容を検討していくとともに、受講生が集中して受講できる進行や環境を整えて実施することも重要である。

(3)全体を通しての課題の整理(運営改善報告書を通じて)

全体的にスムーズに進行された。各ブロックでカリキュラムが異なるため今年度の課題にそれぞれ違いはあるが、受講生が地域に戻って市町村への指導や助言を行う際のヒントになるよう、各ブロックのテーマに合った講義・演習とし、資料内容や伝え方の工夫をしていくことが重要である。

6. 総括

(1)全体設計・テーマ・カリキュラム

本研修は、市町村への指導・助言の役割を担うべき森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的としていることから、今年度も森林総合監理士を受講対象としたが、昨年度同様、森林総合監理士の受講者数はブロックによってバラつきがあった(各ブロックの森林総合監理士の参加率：20～94%(2～15名))。また、研修受講者数については、台風の災害対応等の影響で急な欠席者が多かったブロックがあったものの、各ブロックの受講者数が10～18名と参加者が若干少ないブロックもあった。本研修の立ち位置の周知の時期、受講生の選定、受講者数の確保について検討が必要であると考えます。

テーマ設定については、ブロックごとに地域の特性や現状及び都道府県のニーズ・意見を踏まえて設定したことで、全ブロックおおむね高い評価を得ていることがアンケート結果からもうかがえた。今後も地域の実情や課題に即し、森林総合監理士等として市町村へ指導・助言などを行っていく上で、実践的かつ業務で活用できるテーマを選定することが重要である。

毎年度課題にあがっていたカリキュラム内容に対しての時間不足についてだが、現地実習や演習内容のなかで、どこが重要で伝えたいことか焦点を絞る等したことにより改善されてきているが、今年度も演習・検討、ふりかえりの時間不足の指摘は若干あるため、カリキュラム内容と時間配分については引き続き検討の必要がある。

(2)研修運営

統括事務局の重要な役割は、全体進行役や講師、関係者等が安心して研修を実施できるようにすること、そして何よりも受講生が研修に集中できるような環境をつくることである。そのために、受講生、講師、関係者等が必要としていることを事前に想定し、準備を行った。

本研修では、テーマやカリキュラムは森林管理局が作成した。統括事務局ではブロック研修ごとに担当者を配置してブロック事務局の担当者とチームをつくり、研修実施に向けた森林管理局の研修担当官と連絡・調整に即応できる体制とした。また統括事務局は、受講生・外部講師への連絡・調整、安全管理マニュアルの作成、タイムスケジュールの確認、資料印刷等のほか過年度にない対応を行うことで、受講生が研修に集中できる環境を整えた。

研修当日は、森林管理局が進行役を務め、ブロック事務局スタッフと連携して運営した。過年度の実践研修の経験や知識が蓄積されていることから、おおむねスムーズに運営できたが、研修担当者の経験等により差異が生じることもあることから、後継者育成、引継ぎ等の工夫は引き続き重要な課題である。各ブロックでの良い点や工夫点を全ブロックで共有し、良い点は取り入れていくことも円滑な研修運営につながるのではないかと考えられる。

運営経費等を考慮し、今年度も森林管理局・署の会議室、市の施設を使用した。特に狭いという感じはなく実施することができた。今後も、会場の大きさと参加人数に合った会場を選択し、受講生が集中できる環境を整えることが重要である。また、今年度は雨天等による現地実習や行程変更が生じたブロックはなかったが、雨天の場合のスケジュールを事前に立てる等、今後もさまざまなことを想定した運営準備をしていくことは、全ブロック共通して意識する事項である。

(3)おわりに

現地検討及び討議を通じて現場レベルでの課題解決策を共有する研修を実施したが、外部講師・森林管理局講師からだけでなく、受講生同士が意見交換し、お互いからも学びのあるカリキュラム構成となっていることから、ねらい通りの研修成果が得られたと言える。今後も、森林総合監理

士等の技術者が、各地域で活動をしていく上で必要な知識・技術力を習得できる研修を実施していくことが必要であり、受講生が本研修で得たことを各地域で実践していくことを期待したい。

情報共有ネットワーク化の実施

情報共有ネットワーク化の実施

I. サイトの開設状況

1. 市町村支援技術者養成事業ポータルサイト

(1)目的

実践研修の実施概要・カリキュラム(年度当初は計画)、森林総合監理士のPR等を掲載し、広く一般への本事業の理解促進に資する。

(2)対象者

一般国民、森林・林業関係者、実践研修の対象者等

(3)構成・イメージ

○コンテンツ

- ・事業概要：本事業実施の目的、本事業の概要
- ・実践研修：研修の目的、対象者、研修概要、研修実施時期等
- ・森林総合監理士PR：サイトの概要
- ・森林総合監理士ネットワークサイト：サイトの概要

市町村支援技術者養成事業ポータルサイト

ネットワークサイトログイン

事業概要 実践研修 森林総合監理士PR ネットワーク サイトマップ

新着情報

2019.7.12 参考情報：森林総合監理士(フォレスター)基本テキスト【令和元年度PDF版(林野庁HPにてダウンロード)】
【平成29年度冊子版(全林協HPにて購入・申込み)】
・販売冊子は平成29年度版になりますのでご注意ください。
・令和元年度版は内容が一部改定されています(令和元年度の冊子販売はありません)。

2019.7.12 平成31年度市町村支援技術者養成事業ポータルサイトを開設しました。

↑ PAGE TOP

関連リンク

- 林野庁
- 「森林総合監理士(フォレスター)の育成」(林野庁)
- ▼ 森林総合監理士育成研修各森林管理局のページ
- 北海道森林管理局
- 東北森林管理局
- 関東森林管理局
- 中部森林管理局
- 近畿中国森林管理局
- 四国森林管理局
- 九州森林管理局
- 全国林業改良普及協会

ホーム プライバシーポリシー サイトマップ

▲トップページ

事業概要
平成31年度 市町村支援技術者養成事業
→ 事業の目的及び概要
1 目的 森林経営管理法の施工に伴う新たな森林管理システムの円滑な運営をはじめとした市町村による森林・林業行政の円滑な実施を図るため、市町村の森林・林業担当職員に対し適切な指導・助言等の支援ができる都道府県等の技術者の育成・確保を目的とした人材育成事業です。
2 概要 市町村に対し適切な指導・助言等の支援ができる都道府県等の技術者を育成・確保するため、新たな森林管理システムに対応した研修カリキュラムの検討及び技術者養成のための研修の運営並びに技術者（森林総合監理士を含む）の技術力の維持・向上を図るための実践的な継続教育の実施等を行います。
<ul style="list-style-type: none"> ● 実践研修 ● 森林総合監理士P.R.サイト ● 森林総合監理士ネットワークサイト

▲ 事業概要 (部分表示)

実践研修
概要
主に森林総合監理士等の継続教育を目的として、地域の森林・林業の再生・成長産業化に向けた課題をテーマに、現地検討及び討議を通じて現場レベルでの課題解決策を共有する研修とし、地域特性等を踏まえた課題等をテーマに設定して行う実践研修を全国6ブロックにおいて実施します。
→ 対象者
森林総合監理士、都道府県職員、市町村職員、森林管理局職員、民間職員 等
→ 研修内容
森づくりや木材生産のコスト低減に向けた先進的な取組をテーマに、外部の専門家にも参加して頂き、地域のフィールドを活用した現地検討、課題の背景と解決策を共有するための地域の取組事例発表、現地検討後の意見交換等を行うカリキュラムにより実施します。
→ 研修実施場所等
全国6ブロック（北海道、東北、関東、中部、近中、四国の各森林管理局管内）において9月から11月に実施します。

▲ 実践研修 (部分表示)

2. 実践研修受講生向けサイト

(1) 目的

実践研修受講生への情報提供・共有の場を提供することにより、受講生のフォローアップに資する。

(2) 対象者

令和元年度実践研修受講生、研修運営に関わる者（林野庁・森林管理局の研修講師および研修運営関係者）

※対象者のみのログイン制

(3) 構成・イメージ

○ コンテンツ

- ・ ブロック研修回ごとの配布資料 P D F
- ・ ブロック研修回ごとの実施報告書 P D F
- ・ 森林総合監理士(フォレスター)基本テキスト(令和元年度版) P D F

【参考：平成 30 年度実践研修】

- ・ ブロック研修回ごとの配布資料 P D F
- ・ ブロック研修回ごとの実施報告書 P D F

市町村支援技術者養成事業 技術力維持・向上対策研修（実践研修） 受講生サイト

新着情報

- 2020.1.24 [近畿中国ブロック](#) 研修資料をアップしました。
- 2019.12.13 [北海道ブロック](#)・[関東ブロック](#)・[中部ブロック](#)・[四国ブロック](#) 研修資料をアップしました。
- 2019.12.11 [関東ブロック](#)・[近畿中国ブロック](#)・[四国ブロック](#) 実施報告書をアップしました。
- 2019.11.12 [北海道ブロック](#)・[中部ブロック](#) 実施報告書をアップしました。
- 2019.9.26 [東北ブロック](#) 実施報告書・研修資料をアップしました。
- 2019.7.12 [北海道ブロック](#)・[東北ブロック](#)・[関東ブロック](#)・[中部ブロック](#)・[近畿中国ブロック](#)・[四国ブロック](#) 実施予告をアップしました。
- 2019.7.12 [研修基本テキスト](#)を更新しました。
- 2019.7.12 研修実施後に実施報告書を掲載します。
参考までに昨年度の研修実施報告書・研修資料を掲載しています。
- 2019.7.12 令和元年度 技術力維持・向上対策研修（実践研修） 受講生サイトをオープンしました。

↑ PAGE TOP

令和元年度

- [北海道](#)
- [東北](#)
- [関東](#)
- [中部](#)
- [近畿中国](#)
- [四国](#)
- [九州](#)
- [研修基本テキスト](#)

平成30年度

- [北海道](#)
- [東北](#)
- [関東](#)
- [中部](#)
- [近畿中国](#)
- [四国](#)
- [九州](#)

▲ トップページ

四国ブロック		
研修資料		
日程	講義等の内容	資料名
1日目	【講義】 大型製材工場の現状と課題地域の特性に合った木材流通等	「人工林の大径木をどう使うか？」集材材・CLTの可能性 ▶ ●講師：砂田 和之（株式会社サイプレス・スナダヤ）
	【講義】 架線集材の必要性と架線系作業システムの現状について 【実習】 架線集材の基本（簡易な架線見学）	架線系集材方法を活用した効率の高い作業システムを確立するために ▶ 模型架線作業の操作方法 ▶
2日目	【実習】 各班、机上で1/5000の図面に搬出系統図（集材線）を記入	図面 ▶
	【実習】 架線集材作業現場見学及び各班、事前に1/5000の図面に記入した、搬出系統図（集材線）を現地踏査確認	●講師：太郎田 佑一（須崎地区森林組合）
	【現地実習】 採材研修	採材野帳 ▶ ●講師：大川 容平（高知県森林組合連合会高幡共販所） 受講生発表資料 採材 1 ▶ / 2 ▶ / 3 ▶
3日目	【発表】 集材架線システムの発表	受講生発表資料 図面 1 ▶ / 2 ▶ / 3 ▶

模型架線作業の操作方法



▲ 研修資料>四国ブロック

3日目	【発表】 集材架線システムの発表	受講生発表資料 図面 1 / 2 / 3
-----	------------------	-------------------------

実施結果

→開催日時：令和元年11月13日（水）～15日（金）

研修会場：四国森林管理局（高知県高知市）
現地実習地：四万十署管内
テーマ：地形に応じた効率的な架線と作業設備を組み合わせた集材作業システムと木材流通について

(1) 報告書PDF

▲実施報告書>四国ブロック

実践研修 実施報告書(四国ブロック)

1 日程・研修場所 令和元年11月13日（水）～11月15日（金）
研修会場 四国森林管理局会議室（高知県高知市）
現地実習 杵ノ川山園有林3208林班ほか（高知県須崎市）

2 研修受講者数：12名【男性：9名 女性：3名】
(県職員8名、森林管理局職員4名)

山口県	1名	徳島県	1名	香川県	1名	愛媛県	1名	高知県	1名
福岡県	1名	熊本県	2名	森林管理局	4名				

途中欠席者数 0 名

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

- ・1日目は閉講式後に班内で自己紹介をした後に、砂田講師から動画によるヒノキ・スギ材のCLT製造状況、木材が生原料のCLT製造への経緯とヨーロッパにおけるCLT生産状況等の木材流通の講義により始まり、続いて高講師による架線集材システムの講義と、局庁舎駐車場内に設置されたエンドレスタイラー方式の簡易集材装置を使って基本的な架線及び集材装置の実習を行った(受講生も操作体験)。
- ・2日目は班ごとに現地研修に行く前に、空中写真等を使い、机上等による搬出系統図を作成後、現地実習地へ移動。各班で作成した図面と現地の状況を確認するとともに、現地で作業に当たっている須崎森林組合による搬出系統等の説明に基づき、再度、搬出系統図の検討を行った。午後から、現地の土場において高知県森林組合連合会高橋共販所の職員による、効率的・適正な採材について、講義・実習に取り組んだ。
- ・3日目は各班は前日の現地実習地の確認等を踏まえた集材架線システムの取りまとめを発表し、発表に対する質疑応答・講評で本研修を終了した。
- ・全体としては①川上から川下に至る木材製品の流れにおけるCLTの位置づけ②急傾斜地における架線系による集材システムといった地域特性を持った搬出技術の知見拡充が図れた研修であった。

○今回の研修の工夫点

- ・架線集材システムを仕組み等を短期研修で理解し易くするため、局庁舎駐車場内に設置された簡易集材装置(電動)による操作実習を研修生が体験できたことにより理解力の向上を図ることができた。また、森林GISと架線設計計算(エクセル)による安全率、垂下比等の算出により、架線設計が効率的に行うことができた。

4 記録写真

砂田社長の講義：1日目
集材装置による操作実習：1日目
集材システムの現地説明：2日目
机上で検討した搬出系統の現地検証：2日目
現地で採材研修：2日目
集材架線システムの検討結果の発表：3日目

3. 森林総合監理士PRサイト

(1)目的

森林総合監理士活動への需要者(市町村、事業者、森林所有者等)に向けた、森林総合監理士活動の需要拡大を支援(P R)することを資する。

森林総合監理士の役割、機能、「依頼できること」、「森林総合監理士とともに実現できること」などをわかりやすく紹介し、森林総合監理士の登場で地域森林経営をどのように向上できるのか、森林総合監理士の活動モデル(実践モデル)を描く内容とした。活動モデルでは、地域レベル、個別レベルでの経営への助言・アドバイス、計画作成、監理、実行など、さまざまな場面の具体的な事例を掲載した。

(2)対象者

山林所有者、素材生産業者、木材流通・加工業者、市町村担当者、消費者、教育機関担当者等

(3)構成・イメージ

○コンテンツ

- ・山林所有者、素材生産業者、木材流通・加工業者、市町村担当者、消費者、教育機関担当者等へ向けた森林総合監理士の活用方法
- ・森林総合監理士(フォレスター)とは?：森林の整備・保全と林業の成長産業化に向けた政策の基本方向、森林総合監理士(フォレスター)の役割・活動内容、森林総合監理士(フォレスター)の制度的位置づけ、必要な施業の勧告等を掲載
- ・あなたの地域の森林総合監理士：各県ごとの森林総合監理士登録者一覧PDF(林野庁ホームページをリンク掲載)
- ・森林総合監理士の活動モデル(実践モデル)：森林総合監理士の活動の立場、森林総合監理士

(フォレスター)の活動モデルを掲載

- ・用語辞典：森林総合監理士関係用語の説明
- ・森林・林業情報源：森林林業の技術・普及(出版)関係、林業就業関係、木材関係、森林ボランティア、森林・環境教育関係の事業体等を掲載
- ・関連情報リンク

森林総合監理士PRサイト

市町村支援技術者養成事業

森林総合監理士(フォレスター)は、地域全体の視点に立ち、森林経営と林業技術両面に関する専門知識をもち、求められる役割を担ってまいります。
森林総合監理士が、どのような形で地域の皆様のお役に立てるかということ、イメージし、実際に活用していただけるような情報を提供いたします。

山林所有者のみなさま

素材生産業のみなさま
(森林組合・林業事業体)

木材流通・加工業のみなさま

市町村担当者のみなさま

消費者のみなさま

教育機関のみなさま

[森林総合監理士とは？](#)

[あなたの地域の森林総合監理士](#)

森林総合監理士の活動モデル(実践モデル)

[用語辞典](#)

[森林・林業情報源](#)

[関連情報リンク](#)

森林総合監理士(フォレスター)
林野庁
Forestry Agency

全林協 一般社団法人
全国林業改良普及協会

▲トップページ

山林所有者のみなさま素材生産業のみなさま木材流通・加工業のみなさま市町村担当者のみなさま消費者のみなさま

山林所有者のみなさま

「地域のまとまり、将来へのそなえ」を確実に

林業で期待できる経済効果は、一人一人で行うより、まとまることでより高めることができます。

例えば、

- 森林所有者の山林をまとめて間伐できるなら、作業効率が上がります。
- 伐採・生産した木材をまとめることで、有利な販売が可能になります。
- 森林所有者の意見をまとめることで、作業道を作り、効率の良い林業作業ができ、結果として林業の生産コストを下げるすることができます。

こうしたまとまりを地域に作り、経済効果を高めるためには、全体を取りまとめる計画が必要ですし、地域の森から、将来のように木材(量・質)を産出し、市場へ売却していくのが、といった経営方針や実行方法を定める計画も必要です。

みなさんがお住まいの市町村では、そのような林業の計画(※1)を作成していますし、山林所有者のみなさん自身の計画づくり(※2)のお手伝いも行っています。

森林総合監理士(フォレスター)は、森林経営と林業技術の両面に関する専門的知識を持

▲山林所有者へ向けた森林総合監理士の活用方法(部分表示)

森林総合監理士(フォレスター)の活動モデル

活動モデル1 計画作成支援

モデル事例① 市町村森林整備計画の策定支援(市町村支援)

- 支援チームを設置

出先事務所の森林総合監理士がリーダーシップを取り、市町村、道、林業事業体、森林施業プランナー、指導林家、森林管理署等で構成する作業チームを市町村に設置し、計画策定のための情報共有を行った事例があります。

森林総合監理士は、地域のさまざまな機関、団体等の協力、情報提供を受け、市町村は計画の策定、地域住民との合意形成等を進めるなど、支援チームのコーディネートを行いつつ、技術的な指導・支援の役割を担いました。

モデル事例② 市町村森林整備計画策定、森林経営計画認定作業に向けた研修

市町村によっては林業に関する知識・経験を有する職員が不足しており、計画策定の中身やゾーニングなどをどう進めていいのかが、とまどうなどの事例も出ています。また、森林経営計画の認定についても同様です。

そこで市町村担当者を対象に、森林総合監理士が計画策定や認定業務に必要な知識、技術に関する研修を実施することで、市町村の計画策定を支援した事例があります。

活動モデル2 経営支援

モデル事例① 新規分野の事業開拓に向けて

自治体等から受注する公共事業中心の経営から地域の森林管理(経営計画作成を軸とした管理委託、生産事業等)主体へ転換を図りたい森林組合等へ、アドバイス・支援を森林総合監理士が行った例があります。森林組合経営幹部、職員が参加した研究会開催、地域の森林資源状況の把握、生産体制整備の方針策定など、具体的な経営案づくりへの支援などを森林総合監理士の指導で行いました。

▲森林総合監理士の活動モデル(部分表示)

4. 森林総合監理士ネットワークサイト

(1)目的

森林総合監理士の活動を公表・共有するなど、活動の「見える化」を促進することで、地域の優れた取り組みを波及し、森林総合監理士のモチベーション向上に資する。森林総合監理士活動を広げるヒント、アイデア集として活用できる、継続的なスキルアップを目指したサイトコンテンツを構築した。

(2)対象者

森林総合監理士(サイトを閲覧するために、事前に登録フォームから申請が必要)

※登録者のみのログイン制

(3)構成・イメージ

○コンテンツ

- ・全国の活動からのヒント：森林総合監理士活動発表、進行形の取り組み、計画作成支援、経営支援、技術・集約化支援、需給調整・木材活用支援、特用林産物利活用支援、鳥獣害対策支援、安全衛生向上、研究開発支援(実証事業)、人材育成、インフォーマルな教育活動支援、意志決定支援等、活動事例を掲載
- ・森林管理局の取り組み：各森林管理局の森林総合監理士に関連した事業内容を掲載
- ・研修関係の蓄積情報：平成 23～25 年度准フォレスター研修・平成 26～28 年度森林総合監理士育成研修の講師一覧、研修フィールド一覧、講義資料等を掲載
- ・全国のネットワーク、連絡先：協議会・ネットワーク、都道府県の普及担当課、森林管理局担当課の問い合わせ先等を掲載
- ・その他のお役立ち情報：森林総合監理士に役立つ情報を掲載
- ・各ブロックのコンテンツ：7つのブロックごとに自由に情報を発信、コメント投稿できるように設定

全国の活動からのヒント 森林管理局の取り組み こんなときどうする? 研修関係の蓄積情報 全国のネットワーク、連絡先 その他のお役立ち情報



森林総合監理士(フォレスター)活動を見える化し、みなさんにお役立ていただける『みんなの引き出し』的サイトを目指します。

北海道ブロック 東北ブロック 関東ブロック 中部ブロック

近畿中国ブロック 四国ブロック 九州ブロック

更新情報 RSS

- 登録内容変更申請フォーム
- 森林総合監理士ポータルサイト
- 森林総合監理士PRサイト
- 「森林総合監理士(フォレスター)の育成」(林野庁)
- 全国林業改良普及協会
- お問い合わせ

鳥獣被害対策コーディネーター等育成研修の開催のお知らせ(令和元年度鳥獣被害対策基盤支援事業【農林水産省補助事業】)

▲トップページ

更新情報

HOME > 更新情報 > **更新情報** > 鳥獣被害対策コーディネーター等育成研修の開催のお知らせ(令和元年度鳥獣被害対策基盤支援事業【農林水産省補助事業】)

鳥獣被害対策コーディネーター等育成研修の開催のお知らせ(令和元年度鳥獣被害対策基盤支援事業【農林水産省補助事業】)

投稿日: 2019年9月19日 | 最終更新日時: 2019年9月19日 | カテゴリ: 更新情報

鳥獣被害対策コーディネーター育成研修及び地域リーダー(森林)育成研修の開催案内です。
 全国9カ所で開催を予定しています。
 主な対象者として森林総合監理士の方も対象としております。

参加申込みについては、主催の(株)野生鳥獣対策連携センターのwebサイトからとなります。

<https://www.cho-iyu.jp/kensyu2019/index.html>

R01コーディネーター育成研修等開催リーフレット

▲更新情報ページ(部分表示)



▲全国の活動からのヒント(部分表示)
)計画作成支援



※外部データベースにリンク



▲森林管理局の取り組み)北海道森林管理局(部分表示)



※外部ホームページをリンク

全国の活動からのお知らせ 森林管理士の取り組み こんねとくどうする? 研修関係の蓄積情報 全国のネットワーク、連絡先 その他のお役立ち情報

講師一覧

平成23~25年度進フォレスター研修
平成26~28年度森林総合監理士育成研修 講師リスト

各地域での研修等の開催の際に、参考してください。
各ファイルの使用は、森林総合監理士(フォレスター) 限りとなりますので、取り扱いには十分ご注意ください。

森林管理局講師 [PDF]
外部講師 [PDF]
本庁講師 [PDF]

研修関係の蓄積情報
講師一覧 研修フィールド一覧 講義資料 各種分析・評価データ

【取り扱い注意】フォレスター限り

氏名	所属	年度	ブロック	講義名
川島 裕	林野庁研究指導課	H25	関東	【演習】資源管理利用機型演習(現地実習を踏まえた演習の整備計画と木材供給ビジョンの検討、発表準備)
			近畿中部	【演習】資源管理利用機型演習(発表・ディスカッション)【講義】資源管理利用機型演習(発表・ディスカッション)【講義】資源管理利用機型演習(発表・ディスカッション)【演習】資源管理利用機型演習(現地実習を踏まえた演習の整備計画と木材供給ビジョンの検討)
			近畿中部	【演習】資源管理利用機型演習(机上演習の検討結果を踏まえた地形、地質、林況等現地条件の確認)【演習】資源管理利用機型演習(現地実習を踏まえた演習の整備計画と木材供給ビジョンの検討)
			近畿中部	【演習】資源管理利用機型演習(机上演習の検討結果を踏まえた地形、地質、林況等現地条件の確認)【講義】資源管理利用機型演習(林業専用道の調査、1000m程度の団地を対象に間伐計画と林業専用道整備計画の検討(表・土演習))
川村 竜哉	林野庁研究指導課	H24	関東	【演習】資源管理利用機型演習(机上演習の検討結果を踏まえた地形、地質、林況等現地条件の確認)【講義】資源管理利用機型演習(発表・ディスカッション)【演習】資源管理利用機型演習(現地実習を踏まえた演習の整備計画と木材供給ビジョンの検討)【講義】資源管理利用機型演習(発表・ディスカッション)【演習】資源管理利用機型演習(机上演習の検討結果を踏まえた地形、地質、林況等現地条件の確認)【講義】資源管理利用機型演習(発表・ディスカッション)【演習】資源管理利用機型演習(現地実習を踏まえた演習の整備計画と木材供給ビジョンの検討)
			近畿中部	【演習】資源管理利用機型演習(机上演習の検討結果を踏まえた地形、地質、林況等現地条件の確認)【講義】資源管理利用機型演習(発表・ディスカッション)【演習】資源管理利用機型演習(現地実習を踏まえた演習の整備計画と木材供給ビジョンの検討)【講義】資源管理利用機型演習(発表・ディスカッション)【演習】資源管理利用機型演習(机上演習の検討結果を踏まえた地形、地質、林況等現地条件の確認)【講義】資源管理利用機型演習(発表・ディスカッション)【演習】資源管理利用機型演習(現地実習を踏まえた演習の整備計画と木材供給ビジョンの検討)
			近畿中部	【演習】資源管理利用機型演習(机上演習の検討結果を踏まえた地形、地質、林況等現地条件の確認)【講義】資源管理利用機型演習(発表・ディスカッション)【演習】資源管理利用機型演習(現地実習を踏まえた演習の整備計画と木材供給ビジョンの検討)【講義】資源管理利用機型演習(発表・ディスカッション)【演習】資源管理利用機型演習(机上演習の検討結果を踏まえた地形、地質、林況等現地条件の確認)【講義】資源管理利用機型演習(発表・ディスカッション)【演習】資源管理利用機型演習(現地実習を踏まえた演習の整備計画と木材供給ビジョンの検討)
			九州	【演習】資源管理利用機型演習(机上演習の検討結果を踏まえた地形、地質、林況等現地条件の確認)【講義】資源管理利用機型演習(発表・ディスカッション)【演習】資源管理利用機型演習(現地実習を踏まえた演習の整備計画と木材供給ビジョンの検討)【講義】資源管理利用機型演習(発表・ディスカッション)【演習】資源管理利用機型演習(机上演習の検討結果を踏まえた地形、地質、林況等現地条件の確認)【講義】資源管理利用機型演習(発表・ディスカッション)【演習】資源管理利用機型演習(現地実習を踏まえた演習の整備計画と木材供給ビジョンの検討)
小坂 香太夫	林野庁研究指導課	H24	近畿中部	【演習】資源管理利用機型演習(机上演習の検討結果を踏まえた地形、地質、林況等現地条件の確認)【講義】資源管理利用機型演習(発表・ディスカッション)【演習】資源管理利用機型演習(現地実習を踏まえた演習の整備計画と木材供給ビジョンの検討)【講義】資源管理利用機型演習(発表・ディスカッション)【演習】資源管理利用機型演習(机上演習の検討結果を踏まえた地形、地質、林況等現地条件の確認)【講義】資源管理利用機型演習(発表・ディスカッション)【演習】資源管理利用機型演習(現地実習を踏まえた演習の整備計画と木材供給ビジョンの検討)
			中部	【講義】森林・林業再生プランの概要(フォレストの役割、アフォーとの連携)【講義】森づくりの概要

▲研修関係の蓄積情報>講師一覧>本庁講師

全国の活動からのお知らせ 森林管理士の取り組み こんねとくどうする? 研修関係の蓄積情報 全国のネットワーク、連絡先 その他のお役立ち情報

協議会・ネットワーク

全国	地域	名称	連絡先(担当)	備考
		フォレスター・ギャザリング		利用のネットワーク、連絡先
近畿中部	兵庫県	フォレスター・ネットワーク	兵庫県林業振興課 林業推進課 林業推進課長 佐藤 浩二 (079-721-4112) 兵庫県林業振興課 林業推進課 林業推進課長 佐藤 浩二 (079-721-4112)	利用のネットワーク、連絡先
		ササキフォレスター・ネットワーク	ササキフォレスター・ネットワーク	Facebook
	秋田	秋田県フォレスター協議会	秋田県林業振興課 林業推進課 林業推進課長 佐藤 浩二 (0182-841-4112)	Facebook
	高松	高松県フォレスター協議会	高松県林業振興課 林業推進課 林業推進課長 佐藤 浩二 (087-821-4112)	Facebook
	徳島	徳島県フォレスター協議会	徳島県林業振興課 林業推進課 林業推進課長 佐藤 浩二 (087-821-4112)	Facebook
	岐阜	岐阜県フォレスター協議会	岐阜県林業振興課 林業推進課 林業推進課長 佐藤 浩二 (057-241-4112)	Facebook
	茨城	茨城県林業振興協議会	茨城県林業振興協議会 林業推進課 林業推進課長 佐藤 浩二 (029-241-4112)	LINE, Facebook

FGathering Forester

フォレスター・ギャザリング
@forester_gathering

フォレスター・ギャザリング2019@長野
日時: 2019年8月3日(土) 13:00-15:00
場所: 若里市民文化ホール 会議室1&2(ビッグハット隣)
(次世代森林産業展会場 FOREST RISEにて)

投稿
写真
ページ情報
コミュニティ
イベント

フォレスター・ギャザリング 8月3日
講師会費のご報告。
事務局の田村です。ギャザリングお疲れ様でした。今回は懇親会会員に「講師会費」という区分を設けましたが、結果として2名の方にこの区分を適用したため、5,200円を超過することができました。この金額は、主に、今回の企画立案実行に多大なるご貢献をいただいた長野チーム担当の方の懇親会費(4,300円)として利用させていただきました。

写真: 懇親会の様子

▲全国のネットワーク、連絡先

Ⅱ. 総括

森林総合監理士の技術水準の維持・向上、新たな森林管理システムを運営していく上での課題への対応や先進的な地域活動の支援を目的とした、森林総合監理士活動の見える化をねらいとし、森林総合監理士を活用する者対象の『森林総合監理士PRサイト』と、森林総合監理士の登録者限定の『森林総合監理士ネットワークサイト』を作成した。

『森林総合監理士PRサイト』は、森林総合監理士活動をPRし、地域での森林総合監理士の需要を喚起する目的として作成した。活動モデルの紹介や対象者(山林所有者、素材生産業者、木材流通・加工業、市町村担当者、消費者、教育機関等)ごとに森林総合監理士の活用の呼びかけをまとめたサイトであり、より広い層に森林総合監理士活動を普及・啓発できる意義は大きい。今後も、インターネットや各媒体を活用し、継続的に森林総合監理士活動をPRしていく必要がある。

『森林総合監理士ネットワークサイト』は、情報共有の役割を主として、森林管理局での地域課題への取組や全国林業普及指導職員活動約240事例等の全国の先進的・優良事例、平成23～28年度に実施された森林総合監理士に関わる研修関係の蓄積情報(約290名の講師、フィールド)など、森林総合監理士活動に活用できる情報を掲載している。登録者数は1月27日時点で351名となった。7ブロックごとにコンテンツを設置し、自由に情報を発信、コメント投稿が可能だが、投稿の利用度が低い状況となっている。ログイン制となっていることでセキュリティー等の問題があったり(利用者が職場のパソコンからアクセスしづらい)、気軽に閲覧・利用できるサイトとなっていないことから、森林総合監理士同士の情報交換の場として使用してもらえるよう、情報・発信の工夫が必要である。

技術力維持・向上対策研修(実践研修)・
参考資料

実践研修講師リスト(外部講師、林野庁講師)

令和元年度

北海道ブロック

※所属は研修担当時

講義・演習名	講師	所属
オリエンテーション・研修の目的等の説明・アイスブレイク	井上 純	北海道森林管理局技術普及課
【講義・机上案作成】 ・基本講義 (北海道における天然力を活用した施業について) ・グループ演習①	石橋 聡	(研)森林総合研究所北海道支所
	森 陽介	北海道森林管理局森林整備第一課
	井上 純	北海道森林管理局技術普及課
	中鍵貴之	北海道森林管理局技術普及課
【現地視察・演習】 ・天然力を活用した森林施業を実施した箇所の視察 ・グループ演習② 【演習・発表】 ・グループ演習③ ・グループ演習④ ・発表 ・質疑応答	石橋 聡	(研)森林総合研究所北海道支所
	鈴木勝之	北海道森林管理局根釧西部森林管理署
	柏村浩司	北海道森林管理局根釧西部森林管理署
	井上 純	北海道森林管理局技術普及課
【講評】 ・検討結果に対する講評と意見交換 ・まとめ	中鍵貴之	北海道森林管理局技術普及課
	石橋 聡	(研)森林総合研究所北海道支所
	中西 誠	北海道森林管理局
	森 陽介	北海道森林管理局森林整備第一課
	井上 純	北海道森林管理局技術普及課

東北ブロック

講義・演習名	講師	所属
【講義】森林作業道とは	斎藤仁志	岩手大学農学部
【講義】森林作業道配置計画の基礎知識	斎藤仁志	岩手大学農学部
【演習】情報技術を用いた森林路網計画の手順と方法	斎藤仁志	岩手大学農学部
【グループワーク】森林作業道配置図の作成	斎藤仁志	岩手大学農学部
	成田 敏	東北森林管理局森林整備部
	盛 一樹	東北森林管理局森林整備部
	中嶋 一	東北森林管理局森林整備部
【演習】森林作業道作設事例の研究	斎藤仁志	岩手大学農学部
	成田 敏	東北森林管理局森林整備部
	盛 一樹	東北森林管理局森林整備部
	中嶋 一	東北森林管理局森林整備部
【グループワーク】森林作業配置の現地検討 ～情報化技術を用いた現地踏査(演習)～	斎藤仁志	岩手大学農学部
	成田 敏	東北森林管理局森林整備部
	盛 一樹	東北森林管理局森林整備部
	中嶋 一	東北森林管理局森林整備部
【グループワーク】森林作業配置図の作成 路網配置の決定とその評価	斎藤仁志	岩手大学農学部
	成田 敏	東北森林管理局森林整備部
	盛 一樹	東北森林管理局森林整備部
	中嶋 一	東北森林管理局森林整備部
【発表・講評】	斎藤仁志	岩手大学農学部
	成田 敏	東北森林管理局森林整備部
	盛 一樹	東北森林管理局森林整備部
	中嶋 一	東北森林管理局森林整備部

関東ブロック

講義・演習名	講師	所属
研修の趣旨等を説明	三枝英二	関東森林管理局森林整備部
【講義】シカの生態と被害の現状	岡 輝樹	(研)森林総合研究所
【講義】捕獲と密度管理	飯島勇人	(研)森林総合研究所
【講義】防除対策事例とコスト	飯島勇人	(研)森林総合研究所
日程説明等	三枝英二	関東森林管理局森林整備部
【現地実習】シカ被害の調査法と行動特性の観察	八代田千鶴	(研)森林総合研究所
	永田純子	(研)森林総合研究所
	竹之内政勝	関東森林管理局利根沼田森林管理署
【現地実習】 くりわな設置方法の実習及びシカ柵設置の留意事項	八代田千鶴	(研)森林総合研究所
	永田純子	(研)森林総合研究所
	竹之内政勝	関東森林管理局利根沼田森林管理署
【グループワーク】シカ被害対策全体構想の検討	八代田千鶴	(研)森林総合研究所
	永田純子	(研)森林総合研究所
	竹之内政勝	関東森林管理局利根沼田森林管理署
【グループワーク】(発表準備)	岡 輝樹	(研)森林総合研究所
	飯島勇人	(研)森林総合研究所
	八代田千鶴	(研)森林総合研究所
	永田純子	(研)森林総合研究所
【グループワーク】(発表、ディスカッション)	岡 輝樹	(研)森林総合研究所
	飯島勇人	(研)森林総合研究所
	八代田千鶴	(研)森林総合研究所
	永田純子	(研)森林総合研究所
【講義】講評及び総括講義	岡 輝樹	(研)森林総合研究所
	飯島勇人	(研)森林総合研究所
	八代田千鶴	(研)森林総合研究所
	永田純子	(研)森林総合研究所

中部ブロック

講義・演習名	講師	所属
オリエンテーション(ガイダンス)	西田 敦	中部森林管理局森林技術・支援センター
【講義・説明】 ・伐採・造林一貫作業システムについて ・採材・仕分けについて ・伐採計画の演習について	佐々木伸也	中部森林管理局資源活用課
	大坪幸治	中部森林管理局資源活用課
	村木英徳	中部森林管理局資源活用課
	加藤 孝	中部森林管理局森林整備課
	大森裕司	中部森林管理局名古屋事務所
【演習】 ・搬出方法の検討 ・現地検討シートの作成等	佐々木伸也	中部森林管理局資源活用課
	大坪幸治	中部森林管理局資源活用課
	村木英徳	中部森林管理局資源活用課
	加藤 孝	中部森林管理局森林整備課
	大森裕司	中部森林管理局名古屋事務所
2日目の現地検討について	西田 敦	中部森林管理局森林技術・支援センター
【現地実習】伐採・造林一貫作業システムの現地検討・意見交換	佐々木伸也	中部森林管理局資源活用課
	村木英徳	中部森林管理局資源活用課
	加藤 孝	中部森林管理局森林整備課
	相澤義継	中部森林管理局森林技術・支援センター
	大森裕司	中部森林管理局名古屋事務所
	稲垣正紀	中部森林管理局東濃森林管理署

講義・演習名	講師	所属
【現地実習】苗畑視察・意見交換	山本太一	中津樹苗
【現地実習】市場視察・意見交換	鈴木隆志	木曾官材市売協同組合
【演習】発表準備 伐採・造林一貫作業による主伐及び低コスト造林について 図面、シート等作成	佐々木伸也	中部森林管理局資源活用課
	村木英徳	中部森林管理局資源活用課
	加藤 孝	中部森林管理局森林整備課
	相澤義継	中部森林管理局森林技術・支援センター
	大森裕司	中部森林管理局名古屋事務所
3日目の発表について	西田 敦	中部森林管理局森林技術・支援センター
【演習】発表(発表準備、発表、ディスカッション)・講師講評	佐々木伸也	中部森林管理局資源活用課
	村木英徳	中部森林管理局資源活用課
	加藤 孝	中部森林管理局森林整備課
	相澤義継	中部森林管理局森林技術・支援センター
	西田 敦	中部森林管理局森林技術・支援センター
	大森裕司	中部森林管理局名古屋事務所

近畿中国ブロック

講義・演習名	講師	所属
実践研修ガイダンス	櫻井 知	近畿中国森林管理局技術普及課
【講義】今後の森林づくりの考え方について	元山英樹	近畿中国森林管理局計画課
【講義】多様な森林づくりの構想について	奥田史郎	(研)森林総合研究所
現地検討の進め方及び発表のとりまとめ方説明	平井信彰	近畿中国森林管理局技術普及課
【演習】現地検討前の打合せ(GW)	奥田史郎	(研)森林総合研究所
	元山英樹	近畿中国森林管理局計画課
	高見尚志	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	高山伸昌	近畿中国森林管理局技術普及課
	櫻井 知	近畿中国森林管理局技術普及課
	平井信彰	近畿中国森林管理局技術普及課
現地検討の進め方説明	平井信彰	近畿中国森林管理局技術普及課
【現地検討】 ・一斉人工造林地における今後の森林施業 (地位等の森林の状況の調査) ・天然力を活用した森林づくり (天然生広葉樹の活用事例の調査)	奥田史郎	(研)森林総合研究所
	元山英樹	近畿中国森林管理局計画課
	坪倉 真	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	高見尚志	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	高山伸昌	近畿中国森林管理局技術普及課
	平井信彰	近畿中国森林管理局技術普及課
	櫻井 知	近畿中国森林管理局技術普及課
	奥田史郎	(研)森林総合研究所
【演習】発表とりまとめ(GW) 現地検討結果を踏まえて、「一斉人工造林地における 今後の森林施業」をテーマとして、目標林型等について 検討し、発表をとりまとめ	元山英樹	近畿中国森林管理局計画課
	高見尚志	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	高山伸昌	近畿中国森林管理局技術普及課
	櫻井 知	近畿中国森林管理局技術普及課
本日の進め方説明	平井信彰	近畿中国森林管理局技術普及課
【演習】発表・意見交換・講評	奥田史郎	(研)森林総合研究所
	元山英樹	近畿中国森林管理局計画課
	篠原庄次	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	高見尚志	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	高山伸昌	近畿中国森林管理局技術普及課
	平井信彰	近畿中国森林管理局技術普及課
	櫻井 知	近畿中国森林管理局技術普及課
	西山靖之	林野庁研究指導課

四国ブロック

講義・演習名	講師	所属
研修主旨、意図、留意点の説明	古味敏光	四国森林管理局森林整備部(森林技術・支援センター)
【講義】 大型製材工場の現状と課題・地域の特性に合った木材流通等	砂田和之	株式会社サイプレス・スナダヤ
【講義】 架線集材の必要性和架線系作業システムの現状について	吉良 康	四国森林管理局森林整備部(資源活用課)
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部(資源活用課)
【実習】 架線集材の基本(簡易な索張見学)	細木啓延	須崎地区森林組合
	太郎田佑一	須崎地区森林組合
	吉良 康	四国森林管理局森林整備部(資源活用課)
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部(資源活用課)
	森 孝幸	四国森林管理局森林整備部(森林技術・支援センター)
	細木啓延	須崎地区森林組合
【実習】 各班、机上で1/5000の図面に搬出系統図(集材線)を記入	太郎田佑一	須崎地区森林組合
	吉良 康	四国森林管理局森林整備部(資源活用課)
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部(資源活用課)
	細木啓延	須崎地区森林組合
【実習】 架線集材作業現場見学及び各班、事前に1/5000の図面に記入した、搬出系統図(集材線)を現地踏査確認	太郎田佑一	須崎地区森林組合
	吉良 康	四国森林管理局森林整備部
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部
	大川容平	高知県森林組合連合会高幡共販所
【実習】採材研修	吉良 康	四国森林管理局森林整備部(資源活用課)
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部(資源活用課)
	江入力男	四国森林管理局森林整備部(森林技術・支援センター)
	細木啓延	須崎地区森林組合
【実習】 各班で現地踏査等を踏まえた、集材架線システムの資料作成(コスト計算に必要なデータを配布)	太郎田佑一	須崎地区森林組合
	吉良 康	四国森林管理局森林整備部(資源活用課)
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部(資源活用課)
	江入力男	四国森林管理局森林整備部(森林技術・支援センター)
	細木啓延	須崎地区森林組合
【発表・講評】 各班発表、講評	太郎田佑一	須崎地区森林組合
	西山靖之	林野庁研究指導課
	松本寛喜	四国森林管理局森林整備部
	吉良 康	四国森林管理局森林整備部(資源活用課)
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部(資源活用課)
	原田 康弘	四国森林管理局森林整備部(資源活用課)
	鷹野孝司	四国森林管理局森林整備部(森林技術・支援センター)
	那須 悟	四国森林管理局森林整備部(森林技術・支援センター)
	江入力男	四国森林管理局森林整備部(森林技術・支援センター)

実践研修修了者名簿

令和元年度

北海道ブロック

※所属は修了日現在

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	北海道	伊藤 裕子	上川総合振興局 北部森林室 普及課	030
都道府県職員	北海道	大庭 聖	オホーツク総合振興局 東部森林室 普及課	033
都道府県職員	北海道	尾崎 浩司	オホーツク総合振興局 西部森林室	034
都道府県職員	北海道	小林 隆雄	宗谷総合振興局 森林室	032
都道府県職員	北海道	佐藤 祥太	留萌振興局 森林室 天塩事務所	031
都道府県職員	北海道	田中 泰介	渡島総合振興局 東部森林室 普及課	029
都道府県職員	北海道	新野 一春	十勝総合振興局 森林室 普及課	035
都道府県職員	北海道	法島 直人	釧路総合振興局 森林室	036
都道府県職員	北海道	牧野 忍	根室振興局 森林室	037
都道府県職員	北海道	水間 幸弘	水産林務部 森林環境局 森林活用課	038
市町村職員	北海道	土開 直樹	寿都町 産業振興課	039
国有林職員	北海道	海野 勝也	北海道森林管理局 上川北部森林管理署	041
国有林職員	北海道	柏村 智明	北海道森林管理局 上川南部森林管理署 治山グループ	042
国有林職員	北海道	小林 和史	北海道森林管理局 網走西部森林管理署西紋別支署 業務グループ	043
国有林職員	北海道	妻鳥 洋年	北海道森林管理局 檜山森林管理署 上磯森林事務所	044
国有林職員	北海道	森 毅一郎	北海道森林管理局 空知森林管理 業務グループ	040

東北ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	岩手県	村田 智史	県南広域振興局 農政部 遠野農林振興センター 林務課	001
都道府県職員	岩手県	上部 明広	沿岸広域振興局 農林部 農林調整課	002
都道府県職員	山形県	上野 満	庄内総合支庁 森林整備課	003
国有林職員	岩手県	岩井 國彦	東北森林管理局 三陸北部森林管理署	005
国有林職員	岩手県	梶本 愛	東北森林管理局 盛岡森林管理署 紫波森林事務所	007
国有林職員	岩手県	吉川 秀平	東北森林管理局 岩手北部森林管理署 業務グループ	004
国有林職員	山形県	藤井 裕樹	東北森林管理局 庄内森林管理署 業務グループ	006
民間	宮城県	大沼 好則	坂元植林(資)	008
民間	宮城県	佐藤 太一	(株)佐久	009
民間	宮城県	鈴木 裕之	(株)佐久	010

関東ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	群馬県	本間 諭	鳥獣被害対策支援センター	045
都道府県職員	新潟県	小柳 正彦	南魚沼地域振興局 農林振興部 林業振興課	046
都道府県職員	京都府	今井 正憲	農林水産技術センター 農林センター 森林技術センター	047
国有林職員	群馬県	小澤 一輝	関東森林管理局 群馬森林管理署	048
国有林職員	群馬県	櫻田 明穂	関東森林管理局 計画課	055
国有林職員	群馬県	田畑 真澄	関東森林管理局 利根沼田森林管理署	049
国有林職員	群馬県	松坂 勝士	関東森林管理局 保全課	056
国有林職員	神奈川県	竹森 千恵	関東森林管理局 東京神奈川県森林管理署 業務グループ	050
国有林職員	新潟県	山名 一得	関東森林管理局 下越森林管理署 業務グループ	051
国有林職員	静岡県	塩谷 智也	関東森林管理局 伊豆森林管理署 松崎森林事務所	053

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
国有林職員	静岡県	瀬川 元気	関東森林管理局 天竜森林管理署 瀬尻森林事務所	052
国有林職員	静岡県	中村 信平	関東森林管理局 伊豆森林管理署 狩野森林事務所	054

中部ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	富山県	湯浅 慎吾	砺波農林振興センター 森林整備課	011
都道府県職員	石川県	北口 由実	農林水産部 石川農林総合事務所 森林部 林業振興課	013
都道府県職員	石川県	中島 健太郎	南加賀農林総合事務所 森林部 森林保全課	012
都道府県職員	山梨県	依田 勇二	峡南林務環境事務所	014
都道府県職員	岐阜県	正村 慎也	可茂農林事務所 林業課	015
都道府県職員	静岡県	渡邊 直樹	経済産業部 富士農林事務所 森林整備課	016
都道府県職員	愛知県	菊地 恭平	豊田加茂農林水産事務所 森林整備課	017
都道府県職員	三重県	野村 久子	尾鷲農林水産事務所 森林・林業室 林業振興課	018
都道府県職員	滋賀県	福田 公二	琵琶湖環境部 湖北森林整備事務所	019
都道府県職員	兵庫県	倉橋 路枝	兵庫県立農林水産技術総合センター 森林林業技術センター	020
都道府県職員	奈良県	荒木 宏之	農林部 南部農林振興事務所 林業振興第一課	021
都道府県職員	鳥取県	安藤 優	中部総合事務所 農林局 林業振興課	022
都道府県職員	鳥取県	衣笠 尚義	西部総合事務所 日野振興センター 農林業振興課	023
国有林職員	長野県	有賀 茂	中部森林管理局 南信森林管理署 下諏訪森林事務所	024
国有林職員	長野県	山岡 直樹	中部森林管理局 治山課	028
国有林職員	岐阜県	小竹 尚久	中部森林管理局 岐阜森林管理署 業務グループ	025
国有林職員	愛知県	野口 和幸	中部森林管理局 総務企画部 企画調整課(愛知森林管理事務所)	027
国有林職員	愛知県	日置 順昭	中部森林管理局 愛知森林管理事務所	026

近畿中国ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	兵庫県	紙本 雅弘	兵庫県立農林水産総合センター 森林林業技術センター	059
都道府県職員	兵庫県	中川 湧太	但馬県民局 豊岡農林水産振興事務所	058
都道府県職員	奈良県	中西 和生	農林部 中部農林振興事務所 農林普及課	057
都道府県職員	和歌山県	津井 哲司	西牟婁振興局 農林水産振興部 林務課	060
都道府県職員	島根県	福原 直樹	西部農林振興センター 益田事務所 林業普及第一課	061
都道府県職員	広島県	三河 敦	農林水産局 林業課	062
都道府県職員	大分県	石田 陽一	北部振興局 農山漁村振興部	063
国有林職員	福井県	江島 裕一	近畿中国森林管理局 福井森林管理署 業務グループ	065
国有林職員	滋賀県	北本 秀一	近畿中国森林管理局 滋賀森林管理署	067
国有林職員	京都府	岡林 正人	近畿中国森林管理局 京都大阪森林管理事務所 上賀茂・綾部森林事務所	069
国有林職員	大阪府	柴田 章治	近畿中国森林管理局 資源活用課	064
国有林職員	兵庫県	中岸 大起	近畿中国森林管理局 兵庫森林管理署 業務グループ	068
国有林職員	奈良県	春名 誠	近畿中国森林管理局 奈良森林管理事務所 十津川・野迫川森林事務所	066
民間	岡山県	春名 伸亮	公益社団法人おかやまの森整備公社 企画総務課	070
民間	岡山県	水田 圭亮	公益社団法人おかやまの森整備公社 新見駐在所	071

四国ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	山口県	栗本 誠一	岩国農林水産事務所 森林部 森林づくり推進課	072
都道府県職員	徳島県	野口 智子	東部農林水産局 吉野川庁舎	073
都道府県職員	香川県	譜久里 泉	香川東部林業事務所	074
都道府県職員	愛媛県	中川 弘久	南予地方局 八幡浜支局森林林業課	075
都道府県職員	高知県	藤田 一郎	林業振興・環境部 幡多林業事務所	076

区分	都道府県	名前	所属	修了者 番号
都道府県職員	福岡県	加藤 ちづる	福岡農林事務所 林業振興課	077
都道府県職員	熊本県	今村 高広	天草広域本部 農林水産部 林務課	078
都道府県職員	熊本県	溝口 敦	県南広域本部 芦北地域振興局 農林部 林務課	079
国有林職員	愛媛県	藤川 優太	四国森林管理局 愛媛森林管理署 業務グループ	080
国有林職員	高知県	野村 祐樹	四国森林管理局 企画調整課	083
国有林職員	高知県	水田 英司	四国森林管理局 資源活用課	082
国有林職員	高知県	山内 勇樹	四国森林管理局 嶺北森林管理署 業務グループ	081

実践研修

●●ブロック 1日目 ふりかえりシート

班: _____

所属組織名: _____

氏名: _____

受講生No.: _____

<p>講義や演習で学んだことのポイントやキーワード 印象に残った講師や他の受講者の言葉を記録・整理</p>	
<p>研修後、職場(現場)でさっそく調べたいこと、 確認したいこと・取り組みたいことを記録・整理</p>	
<p>自分の知見を高めるために、 もっと詳しく知りたい・学びたいこと、 難しかったこと・わからなかったこと</p>	

実践研修

●●ブロック 最終日ふりかえりシート

班: _____

所属組織名: _____ 氏名: _____ 受講生No.: _____

3日間の実践研修を終えて、新たに見えてきた自分自身の課題、
新たに獲得したこと、得た知識・情報、ポイント等を整理・記録しましょう

実践研修アンケート調査票

参考資料1-4

平成31年度 市町村支援技術者養成事業委託事業

〇〇ブロック 技術力維持・向上対策研修(実践研修)評価アンケート調査票

今後の研修を効果的に実施するための参考資料としますので、率直なご意見・ご要望等をご記入下さい。
ボールペン等で濃くご記入くださいますようお願いいたします。

所属組織名: _____ 氏名: _____ 受講生No: _____

I 森林総合監理士関連の研修受講経験

該当欄の数字に○を付けて下さい。

(1) 技術者育成研修(平成26~28年度)及び准フォレスター研修(平成23~25年度)受講の有無

技術者育成研修	准フォレスター研修	受講経験なし
1	2	3

(2) 平成29~31年度森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

受講経験あり	受講経験なし
1	2

II 本研修に対する理解度、活用度

該当欄の数字に○を付け、理由等を【コメント】欄にご記入下さい。

(1) 研修内容についてどの程度理解できましたか？

【コメント】

できなかった	できた
1	5
2	4
3	3
4	2

(2) 今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？

【コメント】

できない	できる
1	5
2	4
3	3
4	2

III 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

該当欄の数字に○を付け、理由等を【コメント】欄にご記入下さい。

(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)

【コメント】

低い	満足度	高い
1	3	5
2	4	4

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について

【コメント】

低い	満足度	高い
1	3	5
2	4	4

(3) カリキュラムの時間について

【コメント】

低い	満足度	高い
1	3	5
2	4	4

(4) 研修の進行・運営の流れについて

【コメント】

良くなかった	良かった
1	5
2	4
3	3

※裏面に続きます。

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

ご協力ありがとうございました。

実践研修タイムスケジュールの事例

日程	予定		実績		講義等の名称	内容等	形態	担当	
	開始時間	所要時間	開始時間	所要時間					
11月13日 (水)	11:00	1:00	11:05	0:35	スタッフミーティング	各班にホワイトボードを構える	その他		
	13:00	0:30	13:00	0:35	開講式 自己紹介の時間は、開講式の残り時間とする	・開講あいさつ ・講師 ・スタッフ等の紹介 ・研修の目標・進め方・確認 ・スケジュール紹介 ・事務連絡(受講の手引きと研修運営事務局か) ・班内での自己紹介など ・アンケート調査票を配布	その他	森林管理局	
	13:30	1:00	13:35	1:07	大型製材工場の現状と課題・地域の特性に合った木材流通について		講義	外部講師	
	14:30	0:10	14:42	0:08	休憩		その他		
	14:40	0:40	14:50	0:35	架線系作業システム		講義	森林管理局	
	15:20	0:10	15:25	0:10	休憩		その他		
	15:30	1:30	15:35	1:25	電動集材機を使って策張り(見学・作業) (裏の駐車場)	研修生等にヘルメット・手袋を持っていくようにアナウンスすること。 簡易な策張りを研修生も含めて実施。 各班に分かれて見学・実習。	実習	森林管理局 外部講師	
	17:00	0:20	17:00	0:20	ふりかえり	1日目のふりかえりシート配布 回収 ※明日の現地実習の説明(簡潔に) 明日の現地説明と夜の意見交換会を実施について アナウンスすること。	その他		
	17:20		17:20		1日目終了				
	17:20		17:25	0:15	スタッフミーティング	18時までに切り上げる。			

日程	予定		実績		講義等の名称	内容等	形態	担当
	開始時間	所要時間	開始時間	所要時間				
2日目 11月14日 (木)	8:15	1:00	8:15	0:58	各班にA1図面を2枚配布 透明ファイル1枚 ホワイトボード用のペン 黒板消し 定規(線を引くため)	可能な限り、時間節約(タイムアップ)を図る。	説明	森林管理局 外部講師
	9:15	0:10	9:13	0:11	移動準備	準備物は、前日にバネットに積み込む 緊急車両は、11-90とする 研修生の履物を積む 乗らない場合は、ハイエースに積む	その他	
	9:25	1:35	9:24	1:26	移動	・須崎道の駅でトイレ休憩(10分以内) ・11:00までに着予定 研修生はジャンボタクシーで移動 (6人、6人) 各ジャンボタクシーに森林管理局乗車	その他	
	11:00	1:20	10:50	1:30	架線集材作業現場見学及び 搬出系統図(集材線)を現地確認 現地説明等を60分 架線図面修正を20分	・タクシー下車(集材機の手前まで行く) 事業地の説明(15分)須崎地区森林組合 ここで集材作業が見ればOK その後、集材機まで歩きそこで集材機の説明。 終わったら、盤台までタクシーに乗る。 盤台付近で玉切等を見ながら説明をする。 それがおわったら ※各班で作成した、架線図面の修正。	説明 演習	森林管理局 外部講師
	12:20	0:40	12:20	0:40	昼食	現地昼食 ※昼休みにドローンをあげるかも 午後からの採材研修前に履物を変える	その他	
	13:00	1:10	13:00	1:10	採材研修 採材木は、ヒノキ等で各班に1本用意し(全 部で3本) 各班で1本毎に採材し、その結果を発表し てもらう その結果を、外部講師に講評(結果)をして もらう	全体:外部講師 各班への担当講師 1班:森林管理局 2班:森林管理局 3班:森林管 理局 準備物(電卓、輪尺、メジャー、単価表、野帳、野帳 板)(丸太材積表・立木材積表) パソコン、机、椅子 拡声器	説明 演習	森林管理局 外部講師

日程	予定		実績		講義等の名称	内容等	形態	担当
	開始時間	所要時間	開始時間	所要時間				
2日目	14:10	0:10	-	-	休憩		その他	
	14:20	1:30	14:10	1:30	四国森林管理局へ移動	須崎市道の駅でトイレ休憩		
	15:50	0:10	15:40	0:10	休憩		その他	
	16:00	1:00	15:50	1:13	集材架線システムの資料作成	資料作成について、再度、説明。		森林管理局 外部講師
11月14日 (木)	17:00	0:20	17:03	0:17	ふりかえり	2日目のふりかえりシート配布 回収	その他	
	17:20		17:20		2日目終了			
			17:00	0:40	スタッフミーティング			
			17:40		終了			
3日目	8:15	1:45	8:15	1:35	集材架線システムの、発表資料作成	全体：外部講師 事前に撮影した、ドローン映像を流す。	グループ ワーク	森林管理局 外部講師
	10:00	0:10	9:50	0:10	図面で発表		その他	
	10:10	1:30	10:00	1:52	発表	発表順番は、 各班20分(60分) 12分発表 8分質疑応答 30分 講評：外部講師 資源活用課長	説明	森林管理局 外部講師
	11:40	0:25	11:52	0:28	ふりかえり(記入と共有) アンケート記入 閉講式 解散	集合写真を閉講式後に撮影	その他	
12:05	0:30	11:55	0:20	スタッフの3日間の反省会 全日程終了				

技術力維持・向上対策研修（実践研修）

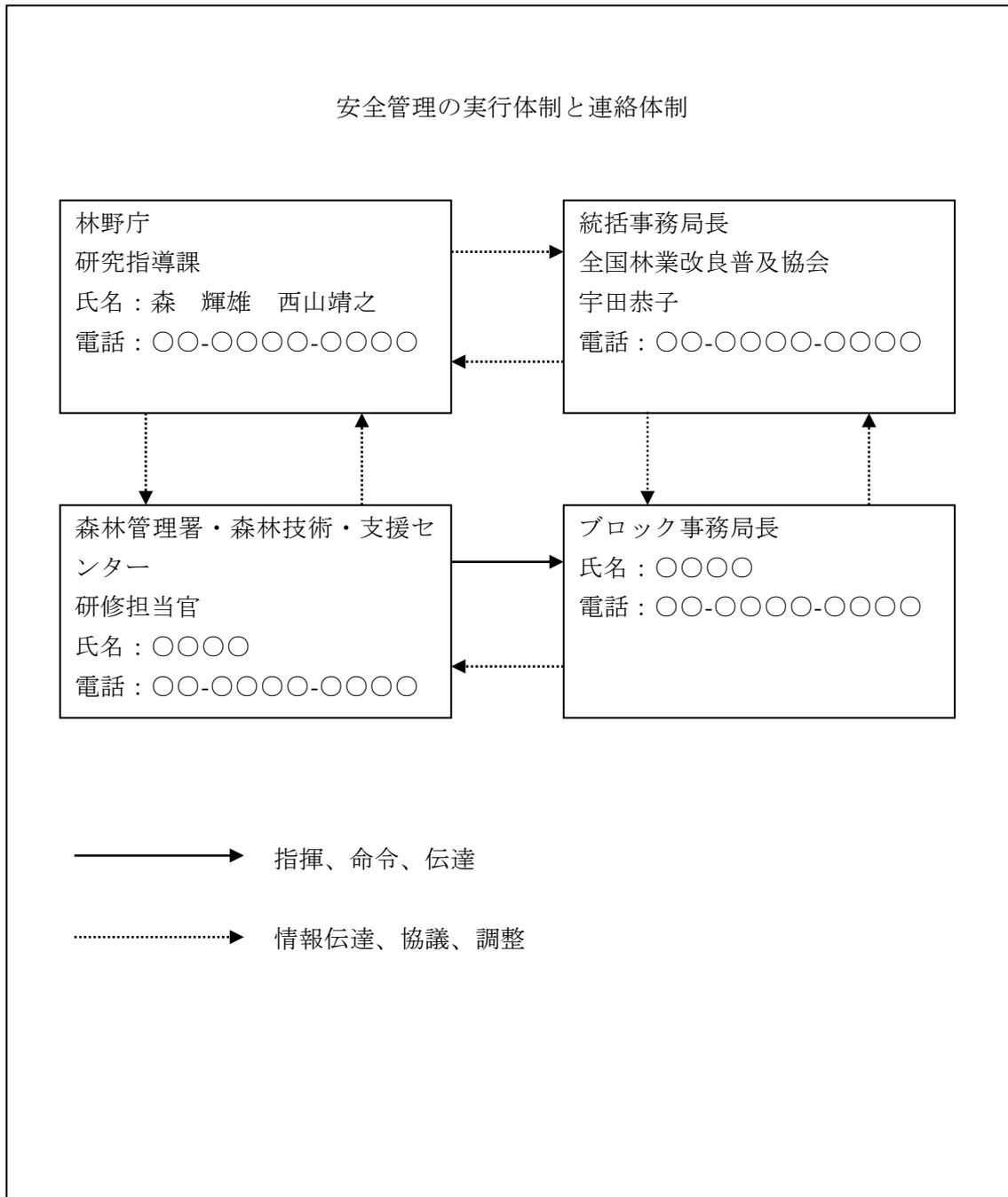
安全管理計画書

安全管理マニュアル

〇〇ブロック

1 安全管理の実行体制と連絡体制

現地においては森林管理局研修担当官の指示のもと、指揮・確認・情報伝達の体制は下記のとおりとする。



2 安全管理の事前確認

(1) 受講者情報の事前確認

下記①、②、③については、統括事務局が事前に照会並びに案内を行うので、①、②については一覧(名簿)にて、③については研修開始時に確認する。

① 受講者及び研修派遣元の情報

【受講者】 氏名、住所、電話番号、救急時連絡先電話番号、年齢、血液型、蜂アレルギーの有無及び蜂アレルギーの程度、研修参加にあたり健康上での留意事項等

【派遣元】 名称、住所、電話番号、緊急時連絡先(担当者氏名、電話番号)

② 受講者の派遣元における保険の加入情報

③ 服装、保安帽の準備

受講者へあらかじめ、袖、裾締まりのよい服装での参加、及び山歩きに適した靴(長靴等)、保安帽等安全具の用意を伝えること。蜂の活動期については、現地実習等で着用する衣服は、黒っぽいものを避けること。

(2) 研修場所、研修機械器具、救急薬品等の整備

① 研修は安全に実施できる場所を選定すること。

② 研修場所及び周辺を研修内容に即して事前に確認し、危険箇所(急傾斜、浮き石、蜂の巣等)を把握し、危険箇所にはテープ等で表示すると共に、現地実習実施前に必ず注意を促し、近づかないよう回避する。

③ 事故時に受講者が退避できる安全場所を確認しておくこと。

④ 救急車との合流場所を確認しておくこと。(救急車は林道等の悪路走行が困難なことがあるので、合流地点は人家近くが望ましい。)

⑤ 現地実習の現場も含め携帯電話の使用の可否を確認し、研修中の連絡体制が確保されていることを確認すること。(図面を作成し、会社によって使用可能なものや不可能なものがあるので複数の会社で試験してみる。)

なお、(特に現地実習現場において)受信範囲が極端に狭い、圏外のエリアがほとんど、というような場合は、統括事務局へ相談する。

⑥ 研修会場まで車で移動する場合は、事前に安全な経路を確認すること。

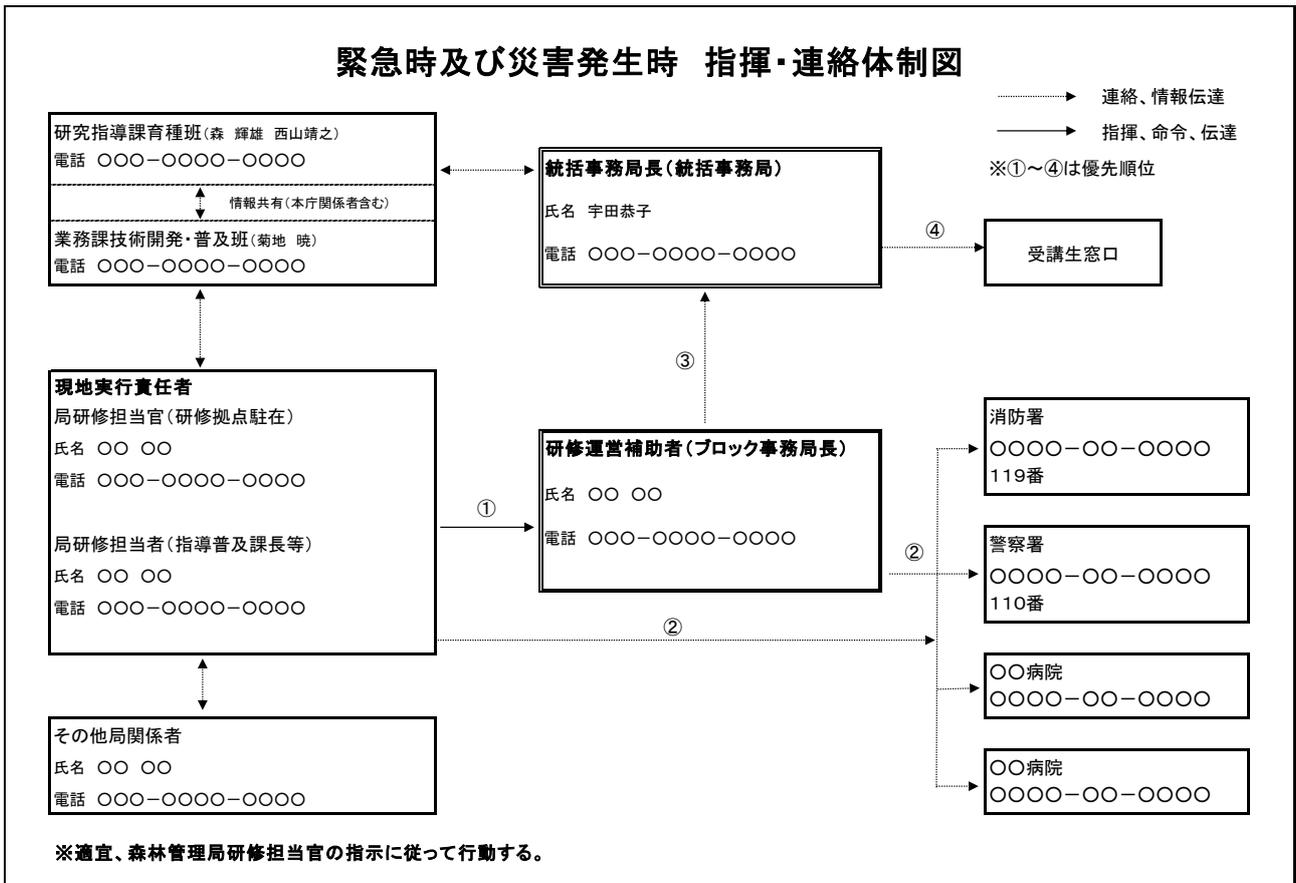
⑦ けが人、急病人等の搬送手段、搬送医療機関を確認しておくこと。

⑧ 研修で使用する器具等の点検を行い、整備不良等に伴う危険因子の排除に努めること。

⑨ 携帯用救急薬品等の点検を行い、不足・不良や期限切れの無いようにすること。

(3) 緊急時及び災害発生時 指揮・連絡体制の整備

緊急時の指揮・連絡体制は、下図のとおりとする。

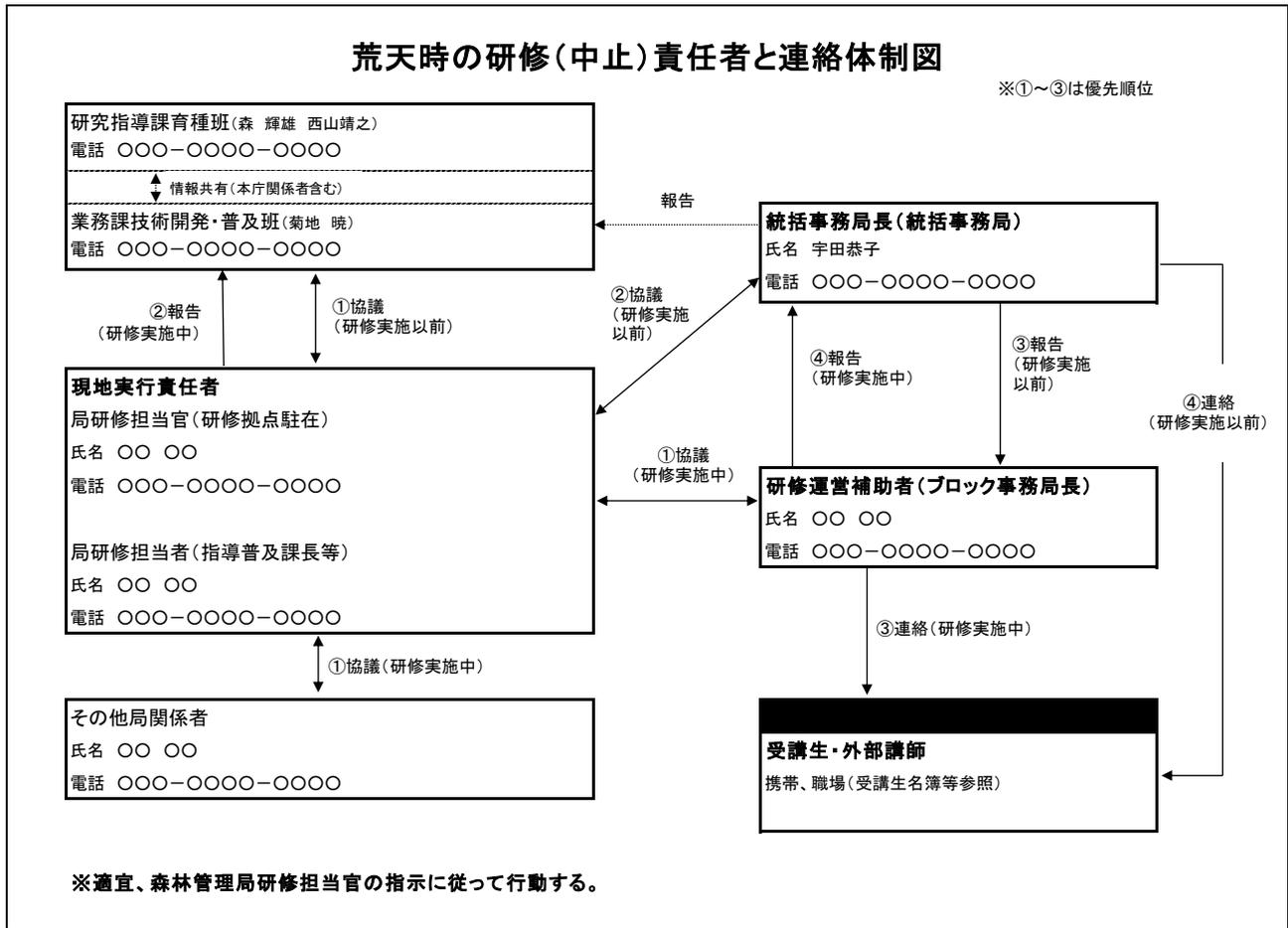


(4) 荒天時の対応(研修開催前)

荒天時の研修の実施について、気象情報等の収集整理を行う者、研修の変更、中止の決定方法、決定の日時、研修参加者への周知方法については下記のとおりとする。

荒天時の研修実行(中止)決定責任者は実行責任者(局研修担当官)とするが、研修運営補助者と協議のうえ決定する。

- ①気象情報の収集整理担当者(ブロック事務局員〇〇〇〇)
- ②決定の日時(研修開催前：令和元年〇月〇日〇時、研修中：令和元年〇月〇日〇時〇分)
- ③受講者・講師・その他研修参加者への周知方法



3 研修実行時の安全管理

(1) 研修の実行

1) スタッフミーティング

研修開始前には、研修スタッフの他、講師、局研修担当官等を交えて、研修の内容、各スタッフの役割、研修の手順、実習内容、人員配置、受講者の出欠状況等の確認を行う。また、研修内容、天候、危険要因等の認識の一致を図る。

さらに、現地実習日の前日に開催される反省会において安全管理について再確認を行う。

2) 研修参加者の安全確保

①研修会場へ車を使用して移動する場合は、交通事故に注意するよう注意喚起を促すこと。現地実習会場へ移動する場合は、当日の工事車両等の有無を確認する。

②研修参加者に対し、安全に関する基本的事項を説明し、身体保護のための被服、防護具は正しく装着するよう指導・確認する。

・保護帽は正しく装着し、あご紐は正しく締めること。

・作業服は袖、裾締まりの良いものを着用すること。

③研修参加者に対し、ヒヤリ・ハット事例があった場合の報告を徹底させること。

④現地実習などでは、次の安全活動を徹底する。

○KYT(危険予知訓練)

危険個所に対する感受性を高めるとともに、問題解決能力の向上を図る。

○リスクアセスメント

現場における災害原因を分析し、事前排除に努める。

○指差呼称による確認

作業行動の要所で対象物を確認し、発声により意識を覚醒させ、うっかり災害を防止する。

○相互注意運動

お互いに不安全行動を指摘し合い、その改善を図る。

○4S運動

整理・整頓・清潔・清掃を行う。研修後の後始末を確実にを行う。

○生産・工事現場の確認

機械が動いている生産・工事現場などをあらかじめ確認しておき、近づいたりしないこと。

○研修中の怪我に際しての対応

研修中の怪我により医療機関での処置が発生した場合、その怪我の状況、病院・診療所名、その後の経過を所属機関担当者に報告し対応を引き継ぐ。

3) 救急薬品等の携帯

現地実習の場合は、携帯用救急薬品等を必ず携帯すること。

4) 荒天時の対応(研修中)

研修中の天候急変等異常時には、次によることとする。

①中断、中止の判断は、現地実行責任者が決定し、ブロック事務局長が結果を統括事務局に報告する。

②一時的に避難する箇所を確保するとともに、下山については、集中豪雨、強風等による道路

事情を十分検討し、現地実行責任者等の慎重な判断指揮のもとに、余裕をもった行動をとること。

③退避場所(休憩所を含む)は異常出水、転落石、崩土等の危険を十分点検して選定すること。

④林道等道路上の待機、退避、または駐停車については、谷筋、岩石地、路肩法面の高い所、橋梁上等危険な箇所を避けること。

(2)研修終了後の確認

1)スタッフミーティング

研修終了後は、必要に応じ、局研修担当官等の参加を得て、研修に係る安全管理についての内容等について、事前打ち合わせどおり実施できたか確認を行うとともに、研修全体を振り返り、今後に向け安全で効果的な研修方法についての改善策をまとめる。

さらに、研修中に発生した「ヒヤリ・ハット」事例を報告し合い、発生原因、再発防止対策をまとめる。

【ヒヤリ・ハット事例報告項目】

①日時	
②場所	
③内容	
④状況	
⑤発生原因	
⑥再発防止策	

2)ヒヤリ・ハット事例報告

ヒヤリ・ハット事例と再発防止策を局研修担当官と統括事務局に報告する。

■付表1 チェックリスト

1. 事前確認

- 連絡体制図を(通常時、緊急時)を作成しているか
- 参加者は労災保険又は傷害保険に加入しているか
- 受講者にあらかじめ、袖、裾縮まりのよい服装での参加、保安帽等安全具の用意を伝えたか
- 参加者に蜂アレルギー者がいないかを確認したか
- 現地実習箇所について、事前に蜂等の危険因子を回避したか
- 現地の事前確認を行ったか
 - 安全面で研修開催可能な場所か
 - 安全に研修できる地山勾配か
 - 浮き石が無い
 - 蜂の巣(有・無)有の対策：研修箇所から外し、周知を徹底する
 - 危険箇所がないか(崖、水量の多い谷等)
 - 怪我人の搬送方法を確認したか
 - 安全に研修出来るスペースは確保できるか
 - 携帯電話の使用の可否を確認し連絡体制確保を確認出来たか
- 最寄りの病院の位置図、経路を確認したか
- 研修で使用する器具等の点検を行ったか
- 現地の天候(予報)を確認したか
- 携帯電話が繋がらない箇所の場合の対応策はとられているか

2. 持ち物

- マニュアル(緊急連絡網)
- 救急箱
 - バンドエイド
 - 薬(消毒薬、湿布等)
 - 包帯
 - 三角巾(グループ分けした場合は各班毎)
 - タオル
 - ポイズンリムーバー
 - 蜂スプレー(季節による)
 - ガーゼ
 - 抗ヒスタミン軟膏(蜂刺され用)(使用期限を確認すること)

3. 研修中

- 受講者が危険な行為をしていないか
- 怪我または気分の悪くなった受講者はいないか
- 上下作業になっていないか
- 受講者が作業危険区域内に立ち入っていないか(伐採区域等)

付表2 災害発生現場からの連絡事項(チーフ(現地責任者)連絡用)

災害発生現場からの連絡事項

- 1 連絡者の氏名 私は〇〇です。
- 2 災害の概要
 - (いつ) 〇〇時△△分に
 - (どこで) 〇〇研修の現場で 〇〇市〇〇町〇〇 付近には〇〇があります
 - (だれが) 〇〇(氏名)が
 - (何を) 〇〇作業中に
 - (どうして) 〇〇したところ
 - (何により)
 - (どうなった) 〇〇(部位)を〇〇した。
- 3 傷病者の容態
 - (意識) ある・ない
 - (呼吸) している・弱い・ない
 - (出血) ある(多い・少ない/部位:)・ない
 - (骨折) 骨折はある(部位:)・ない・不明
 - (手当等) 止血、薬を服用・塗る 等
 - (その他)
- 4 救急車の要否
 - ・救急車は必要・不要
 - ・救急車との合流は〇〇地点(合流点までの距離、歩道の距離)
 - ・輸血は必要・不要
 - ・血液型はR h (プラス・マイナス)(A・B・O・AB)型
 - ・搬送等の手段 〇〇で下山、合流地点まで〇〇分くらい
- 5 搬送先の医療機関

※連絡は、救急隊への引き継ぎ後、または、医療機関への搬送後に速やかに行うこと。

事故発生確認事項

連絡者の氏名確認		
災害の概要	いつ	月 日 時 分
	どこで	研修の現場・ (市・郡) (町・村) で
	だれが	(年齢)
	どんな	作業中 でケガをしました。
発生原因		
傷病者の様態		ケガの状況は (意識) ある ・ ない (呼吸) ある ・ ない (出血) ある ・ ない (骨折) ある ・ ない ・ 不明
救急車の要否		必要 ・ 不要
(※)必要に応じて		・救急車の合流地点 ・傷病者の住所 ・傷病者の電話番号 ・輸血 必要・不要 ・血液型 A・B・O・AB型 (Rh プラス・マイナス) ・搬送医療機関
現場概況		天候 : 晴れ、曇り、雨、雪 樹種 : スギ、ヒノキ、その他針(), 広葉樹 樹高 : m 太さ : cm 地山 : 勾配、土質(砂質、粘性、礫混じり、岩、その他()) その他 :

緊急時の現場行動マニュアル



通報 研修中断指示・現場安全確保
(発見者) (チーフ、サブ)

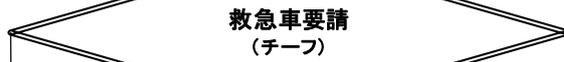
- ①発見者はチーフ(〇〇〇〇)、サブ(〇〇〇〇)に通報、直ちに研修を中断
- ②チーフ、サブは現場確認・安全確保(落石、蜂等)
- ③受講生は予め決めた安全場所で待機
- ④チーフは救急車要請、サブは森林管理局・統括事務局へ第1報

現場携帯用

チーフ: 局研修担当官
(担当者 氏名、電話番号)

サブ: 研修運営補助者
(ブロック事務局)
(担当者 氏名、電話番号)

情報の流れ



必要なし

必要

- ・頭をぶつけた
- ・マムシに噛まれた
- ・ハチに刺された
- ・出血が激しくとまらない
- ・骨が折れているようだ
- ・呼吸・脈拍が感じられない

助務者確保 (チーフ)
受講生に助務を依頼

消防通報・研修中止・助務者確保(チーフ)

- ①消防(119番)へ通報、サブへ救護指示
- ②研修を中止し、受講生に助務を依頼
- ③チーフは森林管理局・統括事務局へ第2報、サブは被災者救護等

第1報

サブ

第2報

チーフ

被災者救護・応急対応(サブ)

- ①助務者と協力して被災者を安全場所へ誘導
- ②助務者と協力して被災者の応急対応(統括事務局用意の緊急対応マニュアル等を参考にできる範囲で手当て)
- ③チーフは被災者の負傷程度を林野庁・管理局に、サブは統括事務局へ報告(第3報)

第3報

チーフ

現場安全確認後
研修再開・中止
(チーフ)

被災者搬出(サブ)

- ①サブは被災者を人家近くの救急車合流地点まで搬送
- ②助務者は救急車誘導指示

チーフ

救急車で搬送(サブ)

- ①サブが救急車に同乗、助務者は救急車に随行
- ②救急車が到着したらチーフは森林管理局・統括事務局へ報告(第4報)、サブは救急車で搬送(搬送後の状況についてはチーフに報告)

第4報

チーフ

公用車等で搬送
(研修関係者)

搬送後の現場対応(チーフ)
チーフは現場に残り、

- ①救急車が出発したら報告(第5報)
- ②受講生に研修会場の後片付け、帰宅指示
- ③警察の現場検証に協力・立会
または、現場記録(写真・見取り図)作成

第5報

チーフ

医療施設での対応(サブ)

- ①サブは医療施設に到着後チーフへ報告、所属関係機関にチーフは報告(第6報)
- ②サブは処置後チーフへ状況報告

第6報

チーフ

管理局・統括事務局

林野庁

本事業で使用している研修関係用語の説明

実践研修では、より研修効果を上げるため様々な工夫をしながら実施している。それらの取り組みに関係する用語を中心として説明する。

○アイスブレイク

「アイスブレイク」とは、参加者の心や、初対面の参加者同士、スタッフ間との間に張った緊張の氷(アイス)を壊す(ブレイキング)時間である。研修の初日のオリエンテーション等で取り入れている。一般的には自己紹介の時間などを兼ねて簡単なゲームを行う。班内の受講生同士の自己紹介や課題等を決められた時間で話したり、誕生日でグループになり文等を交えた自己紹介などその場の雰囲気に合わせて多様なアイスブレイクを行っている。

○アイランド形式

演習(グループワーク)が多いことから、班(4～6人)ごとに机を配置する「アイランド形式」を取り入れている(ブロックによっては、開講式からこの形式で行っている)。アイランド形式は、講師やホワイトボード(スクリーン)が見えにくい場所もあるが、班の受講生同士のコミュニケーションを促し、気軽に意見交換し、意識を共有しやすい環境づくりに役立つ。

その他の配置としては、教室型、シアター型、半円型、円型がある。

○OKP法

演習においてプレゼンテーションなどを行う際に使用している。

ポイントが書かれたA4版の紙(紙芝居)を黒板やホワイトボードに貼り付けながら話を進める手法をKP(紙芝居プレゼンテーション)法といい、発表者がポイントを分かりやすく整理、見える化し、伝える手法である。

○スタッフミーティング

研修を円滑に実施していくため、カリキュラムの進行や参加者についての情報をすべてのスタッフで共有するため、研修実施前、研修期間中、研修終了後に全スタッフ、外部講師も参加してミーティングを行っている。

特に研修終了後のミーティングでは、最後に書いたふりかえり用紙やアンケートを全参加者が読み、そこから気がついたことや自分が思ったことを発表していく(このミーティングでは、建設的な意見が出やすい雰囲気づくりを心掛けることが大事である)。

なお、この場に出された改善点やアイデアなどは、運営補助者が作成する実施報告書等で共有するようにしている。

○ふりかえり

学んだことを自分のこととして考えてもらうため、カリキュラムの中に「ふりかえり」の時間を設けている。

自身でふりかえりの時間で考えたことや新たな気づき、帰ってからすぐに活用できそうな点、自

分なりにもう一度整理、確認しなければならない点等を具体的に書き、言葉化することである。また、グループで読み合い、共有する。そして、なによりも重要なことは、研修の成果として、言葉にしたことを受講生に持ち帰ってもらうことを目的としている。

なお、ふりかえりの際に使用する用紙を「ふりかえりシート」という。

○ペチャクチャタイム(PKT)

講義の合間や演習での発表後に、講義や発表を受けての感想や疑問点、助言等を班ごとに話し合う時間を適宜設けている。この時間を「ペチャクチャタイム」と呼んでいる。この時間を設けることにより、他の受講生の考えを聞くことで、自分の立ち位置や別の視点からの気づきを促し、より理解を深め、質問や意見を出しやすい雰囲気を作ることができる。

○ワークショップ

「ワークショップ」は一方通行的な知識や技術の伝達でなく、参加者が自ら参加・体験し、グループの相互作用の中で何かを学び合ったり創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルとして定義されている。ワークショップの実施に当たっては、ファシリテーターと呼ばれる司会進行役の人が、参加者が自発的に作業する環境を整える重要な役割を担っている。このことにより、参加者全員が体験・運営することによりグループの合意形成が図られる。

参考資料2-3

事務担当、事務局名簿(統括事務局、ブロック事務局)

*運営スタッフは主な者である。

統括事務局名簿

名称	一般社団法人 全国林業改良普及協会				
所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル2階				
電話番号	03-3584-6625				
運営スタッフ	事務局長	宇田恭子			
	スタッフ	中山 聡	本永剛士	石井麻美	三石 麗
		森本 唯	岩淵光則	吉田憲恵	斉藤恵巳

北海道ブロック事務局

名称	株式会社 森林環境リアライズ	
所在地	〒064-0821 北海道札幌市中央区北一条西21丁目3番35号	
電話番号	011-699-6830	
運営スタッフ	事務局長	池ノ谷重男
	スタッフ	朝野英昭 森 彩

東北ブロック事務局

名称	岩手県森林組合連合会	
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通り3丁目15-17	
電話番号	019-654-4411	
運営スタッフ	事務局長	横屋正実
	スタッフ	石塚勇太 藤沢実那

関東ブロック事務局

名称	群馬県森林組合連合会	
所在地	〒379-2153 群馬県前橋市上大島町182-20	
電話番号	027-261-0615	
運営スタッフ	事務局長	高橋伸幸
	スタッフ	山田 剛 須藤智亮

中部ブロック事務局

名称	株式会社 益建リバーズ	
所在地	〒509-2503 岐阜県下呂市萩原町西上田2641-1	
電話番号	0576-52-3280	
運営スタッフ	事務局長	大森政朗
	スタッフ	阪本敏男

近畿中国ブロック事務局

名称	新見市森林組合		
所在地	〒718-0002 岡山県新見市下熊谷407-2		
電話番号	0867-72-2179		
運営スタッフ	事務局長	小山正明	
	スタッフ	黒田里美	木下 滋

四国ブロック事務局

名称	一般社団法人 高知県山林協会		
所在地	〒780-0046 高知県高知市伊勢崎町8-24		
電話番号	088-822-5331		
運営スタッフ	事務局長	長澤佳暁	
	スタッフ	永野俊彦	

平成31年度市町村支援技術者養成事業委託事業
報告書

発行日：令和2年2月28日

発行：平成31年度市町村支援技術者養成事業委託事業統括事務局
一般社団法人 全国林業改良普及協会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル2階

TEL 03-3584-6625